伊那市文化財保存活用地域計画

令和６年(2024 年) ７月

伊那市教育委員会

例　言

1　本計画は、長野県伊那市（いなし）の文化財の保存・活用に関する総合的な法定計画です。

2　本計画は、令和２年度(2020 年度)から５年度(2023 年度)に国庫補助「文化庁地域文化財総合活用推進事業補助金(文化財保存活用地域計画作成事業)」を活用して４か年で作成しました。
令和６年(2024 年)３月に作成した本計画は、文化庁協議など申請に必要な業務を行い、同年７月 19 日に文化庁長官の認定を受けました。

3　本計画は令和元年度(2019 年度)に作成した「伊那市歴史文化基本構想」を基に、地域計画に必要な事項を追加修正して作成しました。

4　本計画の作成にあたっては、令和４年度(2022 年度)から令和５年度(2023 年度)まで「伊那市文化財保存活用地域計画作成協議会」を設置して内容検討を行いました。

表　伊那市文化財保存活用地域計画作成協議会委員

職 名	氏 名	所 属	専門分野・選出区分
委員長	北原　紀孝	伊那市文化財審議委員会	学識経験者(歴史学)
副委員長	江橋　秀久	長野伊那谷観光局	観光関係団体
委　員	中村　國義	伊那部宿を考える会	文化財に関係する団体 伊那地区
委　員	井上　一雄	老松場の丘・古墳公園整備委員会	文化財に関係する団体 東春近地区
委　員	熊谷　友幸	一般社団法人高遠石工研究センター	文化財に関係する団体 高遠町地区
委　員	中村　徳彦	中尾歌舞伎保存会	文化財に関係する団体 長谷地区
委　員	中山　　昭	伊那市区長会(令和４年度(2022 年度))	行政区の代表
委　員	原　　安司	伊那市区長会(令和５年度(2023 年度))	行政区の代表
委　員	宮原　晴美	伊那市社会教育委員会議	社会教育委員
委　員	伊藤　　正	伊那商工会議所(令和５年(2023 年)６月まで)	商工関係団体
委　員	平澤きよ美	伊那商工会議所(令和５年(2023 年)７月から)	商工関係団体
委　員	北山ひろみ	伊那市文化財審議委員会	学識経験者(地域文化)

5　本計画は、文化庁文化資源活用課の指導・助言及び、長野県教育委員会の助言を受け、伊那市教育委員会生涯学習課が作成しました。

目　次

序　章　伊那市文化財保存活用地域計画作成にあたって……1
1　計画作成の背景と目的……1
2　計画期間……2
3　地域計画の位置付け……3
4　本計画での文化財と歴史文化資源の定義……14

第１章　伊那市の概要……16
1　位置・地勢……16
2　自然的環境……18
3　社会的環境……21
4　伊那市の歴史……26

第２章　伊那市の歴史文化資源の概要……46
1　文化財の指定・登録などの状況……46
2　指定等文化財の特徴……51
3　未指定の歴史文化資源の状況……59
4　未指定の歴史文化資源の特徴……60
5　指定等文化財の管理方法……62
6　埋蔵文化財包蔵地の状況……63
7　南アルプスユネスコエコパークの状況……71
8　南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの状況……73

第３章　伊那市の歴史文化の特性……77
1　歴史文化資源の分布状況……77
2　地域別の歴史文化の特性……78
3　伊那市の歴史文化の特性……100

第４章　歴史文化資源に関するこれまでの取組……103
1　伊那市の歴史文化資源の把握……103
2　歴史文化資源の保存・活用の現状……114

第５章　歴史文化資源の保存・活用に関する基本理念……120

第６章　歴史文化資源の保存・活用に関する基本目標と課題……121
1　歴史文化資源の保存・活用に関する基本目標……121
2　基本目標に基づく課題……123
3　基本目標に基づく方針……125
4　地域ごとの保存・活用の考え方……130

第７章　歴史文化資源の保存・活用に関する措置……133

第８章　関連文化財群……141
1　関連文化財群に関する事項……141
2　関連文化財群１……143

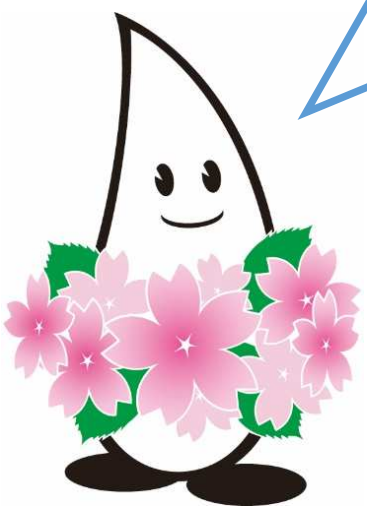
３　関連文化財群２……150
４　関連文化財群３……156
５　関連文化財群４……165
６　関連文化財群５……175

第９章　地域区分と保存活用重点区域の設定と方針……182
１　保存活用重点区域の設定と保存・活用の方針……182
２　伊那地域の保存活用重点区域……183
３　高遠町地域の保存活用重点区域……189
４　長谷地域の保存活用重点区域……195

第１０章　歴史文化資源の保存・活用の推進体制……198
１　保存・活用に関わる主体とその役割……198
２　計画の推進体制……200
３　歴史文化資源の防犯・防災に関する方針……204

わたしは水の妖精『イーナちゃん』！
みんなを元気にすることが特技なんだ。
伊那市のことはわたしに任せてね。
わたしがこの計画のことをやさしく説明するね！

「文化財」とは、私たちの祖先によって守り、
伝えられてきた宝物のことだよ。



序　章　伊那市文化財保存活用地域計画作成にあたって

この計画には、伊那市にある全ての文化財(昔から伝わる宝物)を守り、伝えていくための考え方や、守り伝えていくために、これから取り組もうとすることを書いています。ここでは、なぜ今、この計画を作ることになったのか、まとめました。

1　計画作成の背景と目的

文化財は、一度なくなってしまうと二度と元に戻りません。
何が大切かを知り、上手に利用しながら、失わずに守り、未来に伝えていくために、この計画を作りました。

平成 18 年(2006 年) 3 月 31 日、伊那市・高遠町・長谷村の 3 市町村が合併し、新「伊那市」として歩み始めた伊那市は、「旧宿場で商工業の盛んな伊那」、「旧城下で史跡とタカトオコヒガンザクラの高遠」、「南アルプスの自然と豊かな民話伝承の長谷」という、それぞれの地域の特色を活かしたまちづくりを進めてきました。

長野県の南部に位置する伊那市は、南アルプス(赤石山脈)と中央アルプス(木曽山脈)の 2 つのアルプスに抱かれ、市内には天竜川や三峰川など幾筋もの河川が流れています。自然豊かで歴史と文化を育んできた市域には、古くは旧石器時代の遺跡をはじめとする各時代の遺跡があるほか、歴史的な建造物、古文書、石造物、寺社祭礼に伴う風俗慣習や民俗芸能、当地特有の地形、地質、動植物など、有形・無形、指定・未指定を問わず様々な文化財があります。これらは地域の住民が中心となり代々受け継いできたもので、伊那市の大切な財産です。

図. 伊那市の位置

しかし、文化財の存在やその価値を多くの市民が共有できているとは言えませんし、文化財自体の活用が十分に図られてもいません。さらに、社会環境の変化や少子高齢化の進行、人口減少に伴う地域コミュニティの衰退などにより、文化財を未来に伝えていくことが困難になってきています。

こうした状況を踏まえ、伊那市では、市民一人ひとりが文化財を「大切な財産」として受け止めた上で、行政と地域が一体となって文化財を保存・活用・継承に取り組もうと考え、令和 2 年(2020 年) 3 月に「伊那市歴史文化基本構想」を策定し、その方向性をまとめました。

一方で、平成 31 年(2019 年)に「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正する法律(改正文化財保護法)」が施行され、文化財の保存・活用に関する総合的な計画、「文化財保存活用地域計画」が、法律に基づく認定計画として制度化されました。今回伊那市では、市の様々な施策と連携しながら、より計画的に文化財保護施策を推進するために、「伊那市歴史文化基本構想」を見直し、具体的な措置を新たに加えた「伊那市文化財保存活用地域計画」(以下、「本計画」と略す)を文化財保護法第 183 条の 3 に基づき作成しました。

２　計画期間

この計画の期間は、令和７年度（2025 年度）から令和 16 年度（2034 年度）までです。10 年間を３つに分けて、それぞれの期間の終わりには、それまでに行ってきたことを振り返ります。

本計画の計画期間は、令和 7 年度（2025 年度）から令和 16 年度（2034 年度）までの 10 年間とします。

計画期間内に実施する事業は、実施時期を明確にするため、計画期間内を前期、中期、後期の３期に区切り、それぞれの時期に位置づけます。

前期、中期、後期の具体的な期間設定は、上位計画である「第２次伊那市総合計画」が令和 10 年度（2028 年度）で終了することから、これに合わせて令和７年度（2025 年度）から令和 10 年度（2028 年度）までを「前期」とし、その後、令和 11 年度（2029 年度）から令和 13 年度（2031 年度）までを「中期」、令和 14 年度（2032 年度）から令和 16 年度（2034 年度）までを「後期」とします。それぞれの期間の最終年度には、実施状況の検証を行い、必要に応じて事業内容の見直しを行います。

また、「後期」には次期計画に反映するため、事業の成果と課題を整理します。

計画期間中に本計画を変更する場合は、軽微な変更を除き、文化庁長官に変更の認定申請を行います。認定申請が必要となる変更は、次に掲げるものです。

・計画期間の変更
・市町村の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
・本計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

上記以外の軽微な変更は、長野県と文化庁に報告するものとします。

３　地域計画の位置付け

伊那市には、市の目標を決めた「第２次伊那市総合計画」をはじめ、色々な分野に関わる計画があります。
これらの計画と食い違わないようにするためにも、他の計画では歴史文化のことをどのように書いているのか確認します。

本計画は、「第２次伊那市総合計画」（計画期間：令和元～10 年度(2019～2028 年度)）を上位計画とし、伊那市の歴史文化資源の保存・活用・継承のためのマスタープランとして位置付けます。

また、すでに策定済みの市内の指定等文化財に関わる個別計画の内容を反映するほか、関連する７つの計画から歴史文化に関わる共通の目標や方針を把握し、連携・整合を図るとともに、資源と密接に関わる様々な歴史資料を活用して、本計画を作成しました。

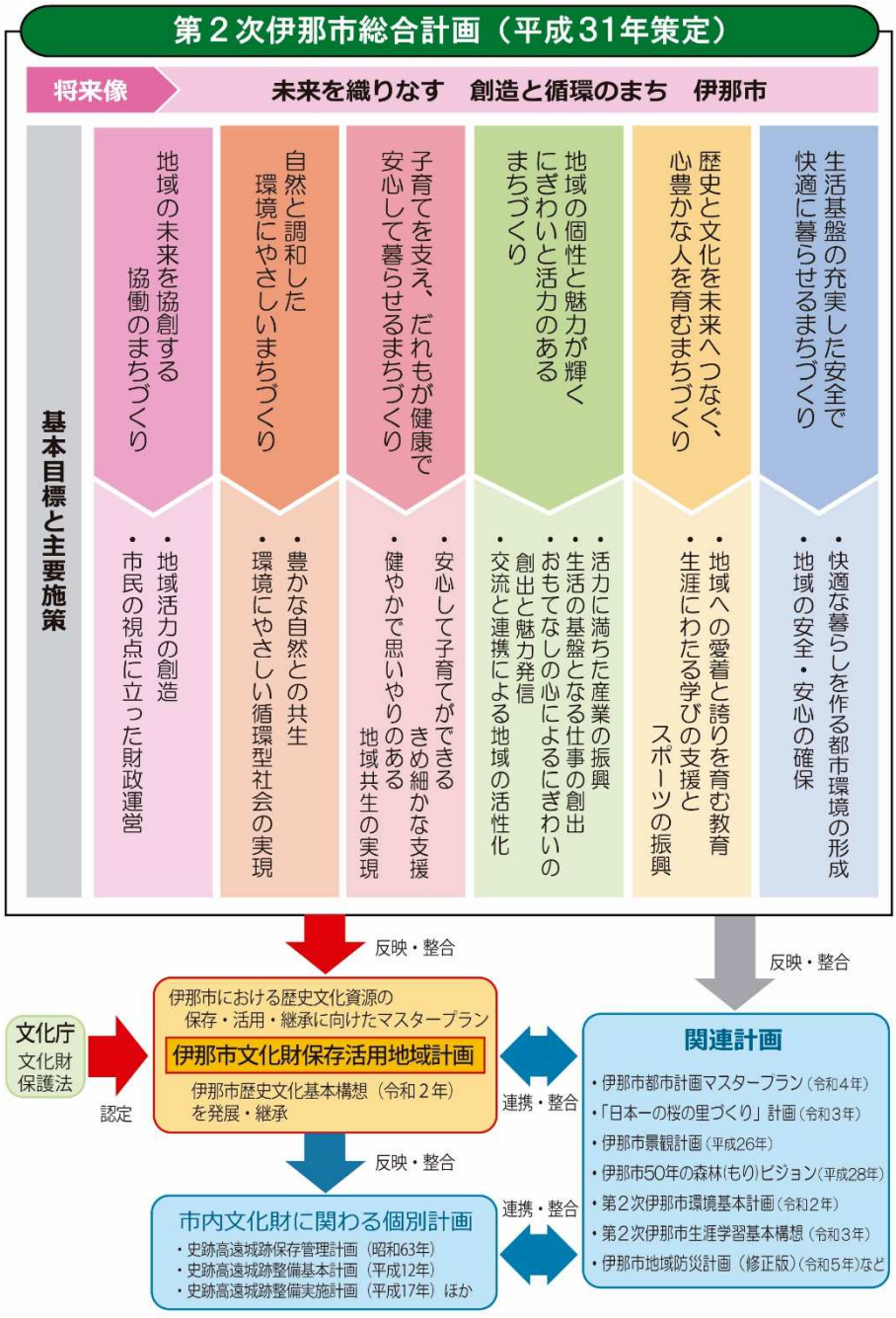


図. 地域計画の位置付け　（参考：『第２次伊那市総合計画　基本構想・前期基本計画・前期土地利用計画』平成 31 年(2019 年)）

３－１　第２次伊那市総合計画

平成 31 年(2019 年) ３月策定の「第２次伊那市総合計画」(計画期間:令和元～10 年度(2019～2028 年度))は、継続的な発展に向けた総合的かつ計画的な行政運営の指針となる計画で、将来にわたり持続可能で輝かしい伊那市の未来を築くため「未来を織りなす　創造と循環のまち　伊那市」を将来像としています。この計画では、この将来像を実現するため、前期、後期の各５年間に分けて基本計画を立案し、施策を展開することとしています。本計画はこの「第２次伊那市総合計画」の前期基本計画(計画期間：令和元～５年度(2019～2023 年度)に沿って作成するものとします。

前期基本計画では、基本目標「歴史と文化を未来へつなぐ、心豊かな人を育むまちづくり」を達成するための主要施策と展開方針を次のように定めています。

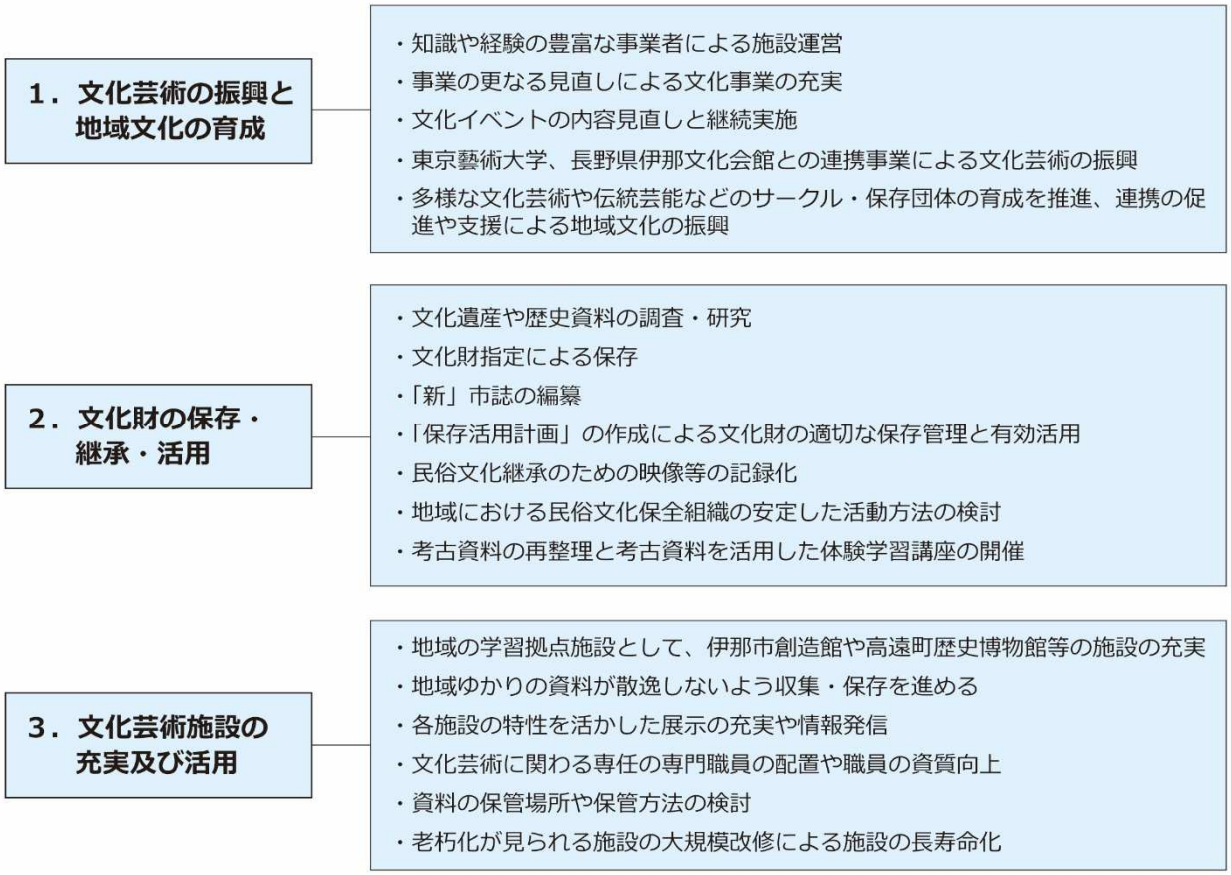


図. 文化・芸術の施策と展開方針　（参考：『第２次伊那市総合計画　基本構想・前期基本計画・前期土地利用計画』平成 31 年(2019 年)）

３－２　伊那市都市計画マスタープラン

平成 21 年(2009 年)に策定し、令和４年(2022 年)に改定した伊那市都市計画マスタープランは、伊那市がまちづくりを進めていくための基本的な方針を示したものです。

このプランが謳(うた)う将来都市像は「歴史と文化を大切にし、人と自然にやさしく環境と調和する活力に満ちた、創造と循環のまち」です。将来像を実現するための都市づくりの目標の１つに「地域の特性を活かした個性豊かなまちづくり」があり、その基本的な考え方として「市内の各地域が有する個性的な自然、歴史的・文化的資源については、保全するとともに、観光産業を含む産業及び地域や市の活力に繋がるものとして最大限に活かし、人の流れと活力を生み出す、地域の特性を活かした個性豊かなまちづくりを進める」としています。

また、分野別の基本方針の「景観形成の基本方針」では、景観を構成する重要な要素として「南アルプス、中央アルプスの緑豊かな山岳、両アルプスからの清流を集める数多くの支流、シンボル的な景観を形成している森林や段丘緑地、広大な農地等」を挙げ、さらに「かつての宿場町や城下町の面影を残す街並みや、市内に点在する城跡、寺社などの歴史的建造物もまた、周辺の植栽や桜などとともに景観を構成する重要な要素」としています。そして、「これらの自然的要素や、歴史的・文化的資源により形成される景観をかけがえのない市民共通の財産として守り育て、豊かな自然環境と調和した都市景観を形成することにより、ゆとりや潤いのある豊かで快適な環境の実現と、地域の活性化、地域の個性創出を図る」としています。

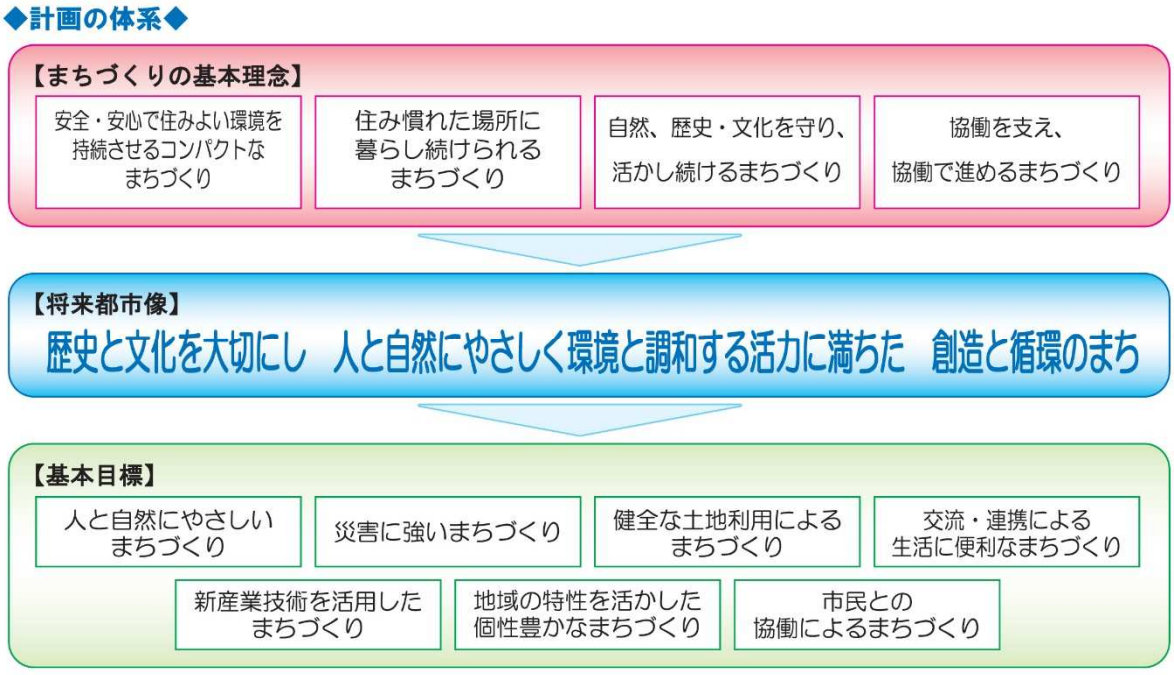


図. まちづくりの基本理念・将来都市像・基本目標　体系図

(参考：『伊那市都市計画マスタープラン』令和４年(2022 年))

３－３　「日本一の桜の里づくり」計画

平成 23 年(2011 年) ３月策定の「「日本一の桜の里づくり」計画」は、旧高遠町が進めてきた桜からのまちづくりを受け継いで、市内に数多くある桜をまちづくりに活用し、絶えることなくいつまでも多くの人々に愛される桜の里を目指すための計画です。

市内には高遠城址公園、春日公園、伊那公園、六道の堤、三峰川堤防などの桜の名所があるほか、地域の公民館、学校、堤防などにも多くの桜が植えられており、「さくら」を「伊那市の花」としています。

基本理念は「日本一の桜の里づくり」、将来像は「桜を愛し、育み、親しむ桜の里」であり、将来像を実現するために５つの基本目標を定めています。

基本目標

ア　「市民が主役」の桜の里づくり
イ　桜を知り、人を育む桜の里づくり
ウ　多くの人が訪れる賑わいの桜の里づくり
エ　広く親しまれる公共施設の桜の管理
オ　ネットワークの構築

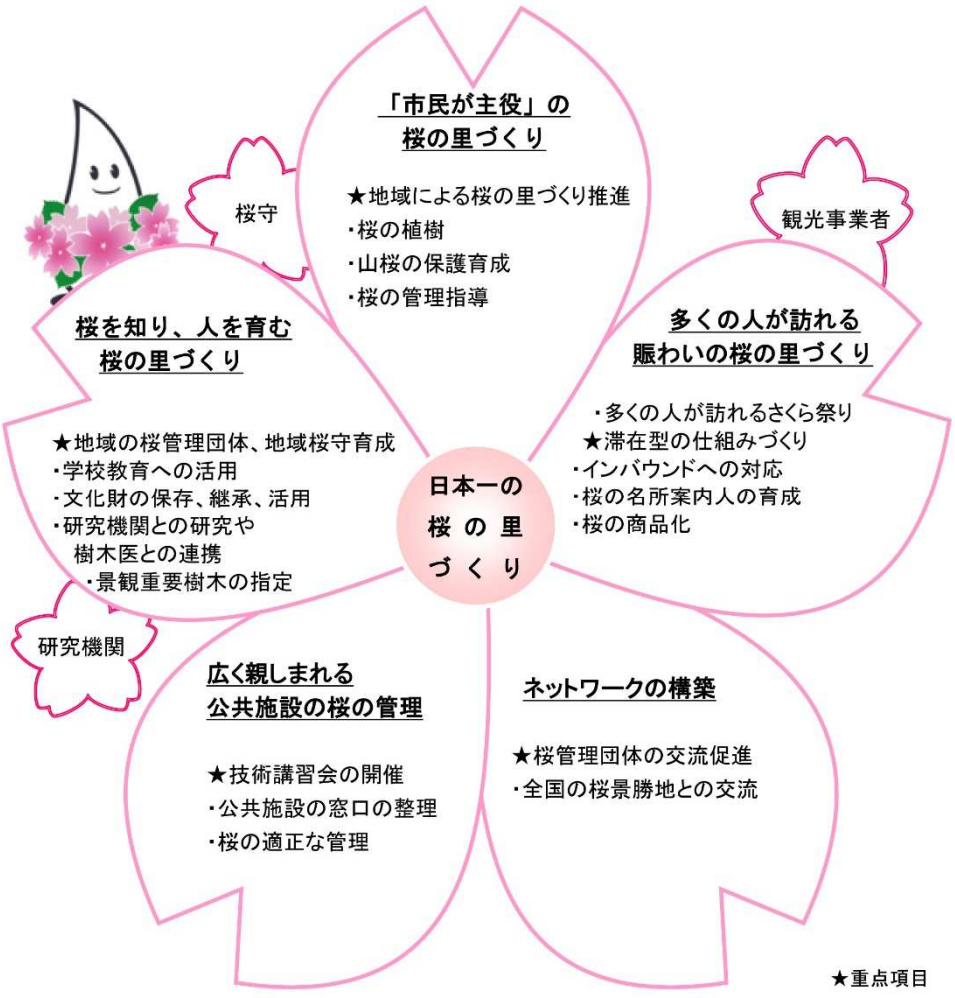


図.「日本一の桜の里づくり」計画　体系図

(参考：『「日本一の桜の里づくり」計画』令和３年(2021 年)改訂(2011 年)

３－４　伊那市景観計画

平成 26 年(2014 年) 2 月策定の「伊那市景観計画」は、景観法(平成 16 年(2004 年)法律第 110 号)に基づき、伊那市らしい良好な景観を守り育てるために必要な目標や、目指す方向を明らかにしたものです。伊那市らしい景観とは「東西の雄大なアルプスに抱かれ、天竜川、三峰川をはじめとする多くの清流の恵みを受けて広がる田園と集落、まち並みや城下町、宿場町、古の街道、美しき四季の移ろい」とし、それらを守り育てるための「良好な景観の形成に関する方針」として４つの面(市街地、田園、山林・森林、山岳・自然公園)と３つの軸(沿道、河川、河岸段丘)に分け、それぞれに景観形成の方針を示しています。良好な景観の形成に向けて、市民・事業者・行政の協働による景観形成の実現を目指しています。

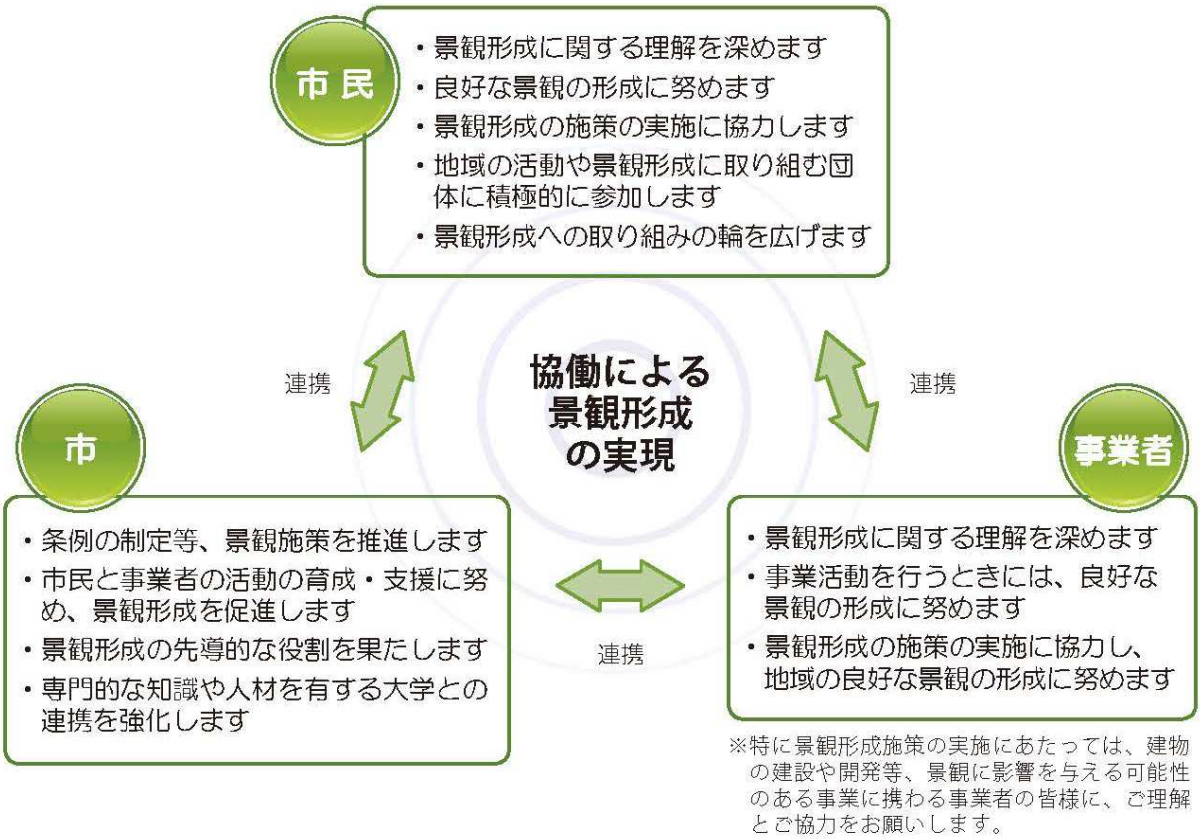


図. 協働による景観形成の実現　(出典：『伊那市景観計画』平成 26 年(2014 年))

３－５　伊那市 50 年の森林(もり)ビジョン

平成 28 年(2016 年) 3 月策定の「伊那市 50 年の森林(もり)ビジョン」は、「自然共生都市」を発展させるためのビジョンです。近年の集中豪雨などによる山地災害の発生やニホンジカなどによる食害、松くい虫による病虫害など、取り巻く環境に課題が多くなっている森林・林業を改めて考えて、森林を次世代に、健全で豊かに発展的に引き継ぐことを目的としています。

この中で、伊那市の森林・林業を取り巻く課題に対するビジョン目標の１つとして、「生物多様性についての教育の推進とエコパーク・ジオパークエリア等でのレクリエーションの活発化」を挙げています。

- 資源構成(森林資源・環境資源・人材資源)
- 林業活動エリアと保全エリア(環境・防災)の区分
- 人材育成
- 木材の活用(他産業との連携)
- 産業(農業と林業複合体)　⇔　木材産業　⇔　市民(地域発信)　⇔　産業への循環

図. 森林・林業を取り巻く課題　(参考：『伊那市 50 年の森林(もり)ビジョン』平成 28 年(2016 年))

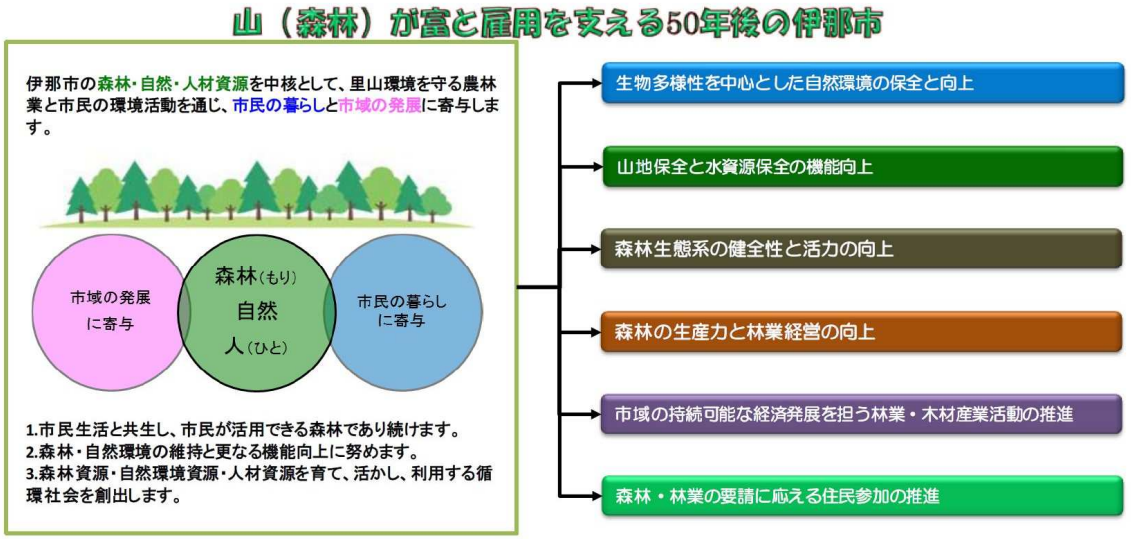


図. 理念と目標　(出典：『伊那市 50 年の森林(もり)ビジョン』平成 28 年(2016 年))

３－６　第２次伊那市環境基本計画

令和２年(2020 年)３月策定の「第２次伊那市環境基本計画」(計画期間：令和２～12 年度(2020～2030 年度))は、「第２次伊那市総合計画」に掲げる将来像の実現に向けた、自然環境、生活環境分野の個別計画です。

アルプスを源とする清らかな水と澄み切った空気、広大で多様な森林といった豊かな自然を次の世代に引き継ぐため、市民、事業者、行政が連携し、知恵を出し合う中で、自然との調和と環境の保全を図り、暮らしやすい環境の実現を目指すものです。

広大な森林が生み出す木材や豊富な水といった地域資源が、新たなエネルギーを生み、地域内で消費されることにより再び森林などの整備保全につながるという、自立的な地域内循環の実現に向けての取組を挙げています。

目指すべき姿

「未来を織りなす 創造と循環のまち 伊那市」

推進主体と個別目標

３つの主体(市民、事業者、行政)が４つの基本目標に向かって取り組みます。

基本目標

【豊かな自然との共生】
伊那市のシンボルである河川や山岳、森林環境の保全に取り組むことで、生物多様性をはじめとする、豊かな自然環境を次代に引き継ぎます。

【環境にやさしい循環型社会の実現】
地球環境を意識した取組により、温室効果ガスの排出を減らし、再生可能エネルギーの導入をすすめ、環境にやさしい循環型社会の構築を目指します。

【快適な暮らしを創る都市環境の形成】
限りある資源を有効に活用するために、ごみの減量化や資源化、脱プラや食品ロスの削減などに努め、快適な住環境を保つ取組を推進していきます。

【持続的な環境保全に向けて】
環境教育の機会を設けることで、一人一人が生活環境や地球環境を考え、環境問題の解決に向け、行動していく社会の構築を目指します。

重点プロジェクトのポイント

第２次環境基本計画では、４つの基本目標に加えて、特に取り組むべき３つの重点プロジェクトを設定しています。

伊那から減らそうＣＯ$_2$!!～低炭素社会の実現に向けて～

地域資源(森林資源)である木質バイオマスを活用することで、森林環境の保全と有効活用からＣＯ$_2$削減を図り、あわせて省エネ・節エネに取り組みます。

すすめようプラごみの削減～使い捨てプラから代替製品へ～

世界的な海洋汚染などプラスチックごみが環境に及ぼす影響が、大きな問題となっています。より良い環境を維持するため、プラスチックごみの削減やリサイクルを推進します。

はじめよう食品ロスの削減～ムダのないライフスタイルの実践～

日本では、年間 2,759 万トン(H28)の食品廃棄物等が出されています。このうち、食べられるのに廃棄される食品ロスは 643 万トンで、その削減は喫急の課題であり、食品ロスがない社会を構築します。

(参考：『第２次伊那市環境基本計画』令和２年(2020 年))

この「第２次伊那市環境基本計画」では、基本目標の１つとして「豊かな自然との共生」が設定されています。その実現のための個別目標「山岳環境の保全」に対する課題として、山岳環境の保護と活用に向けた、ユネスコエコパーク・日本ジオパークの取組を今後も継続する必要があること、登山道や標識などの整備や登山者のマナー向上のための啓発活動が必要であることなどを挙げています。山岳域の希少な動植物が保護され、共存している姿を目指して、市民・事業者はジオパークの講座を受けるなど山岳の成り立ちを学ぶことに努めること、行政はユネスコエコパークに指定されている南アルプスの、核心地域・緩衝地域・移行地域の３つの役割を踏まえ、適切な管理や活用などに取り組むこととしています。

ユネスコエコパークの３つの機能

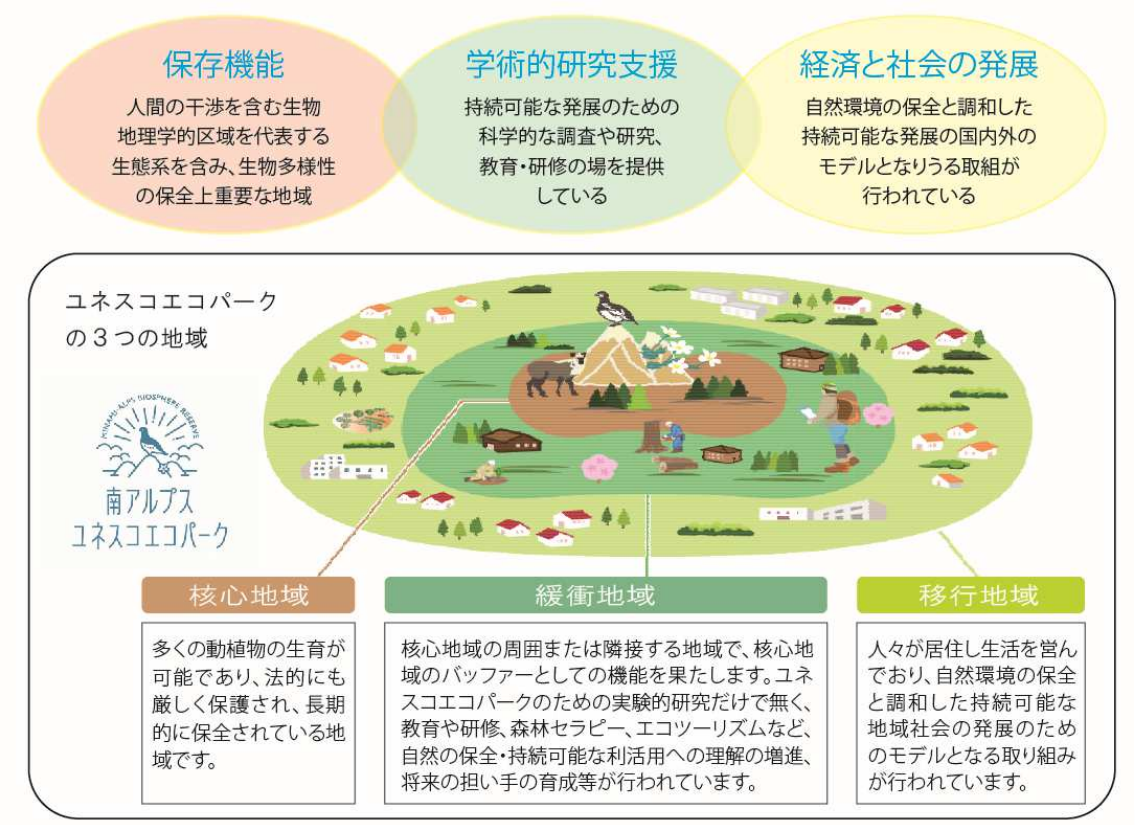


図. ユネスコエコパークの３つの機能と３つの地域

（参考：『伊那市環境基本計画（中間見直し版）』平成 27 年（2015 年））

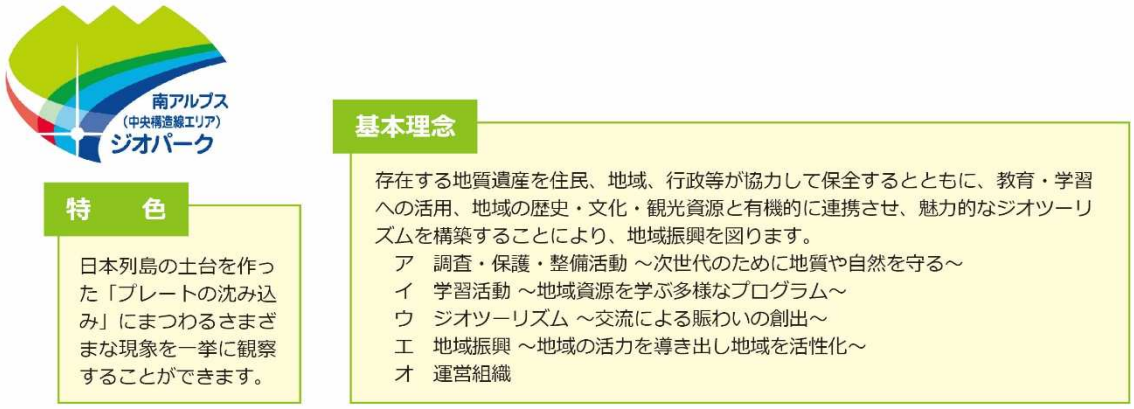


図. 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの特色と基本理念

（参考：『伊那市環境基本計画（中間見直し版）』平成 27 年（2015 年））

３－７　第２次伊那市生涯学習基本構想

令和３年(2021 年)３月策定の「第２次伊那市生涯学習基本構想」(計画期間：令和３～12 年度(2021～2030 年度))は、「第１次伊那市生涯学習基本構想」の成果を引き継ぐとともに、日々変化する社会情勢に対応するための、伊那市の生涯学習に関する総合的な指針です。

基本理念を「歴史と文化を未来へつなぎ、誰もが心を豊かに育んでいく」と設定し、心の豊かさや生きがいを見いだせる社会づくりのため、地域の自然や歴史、文化、伝統を学べるよう、地域を取り巻く様々な主体が一体となり、人間性に満ちた人づくり、互いに助け合い協力し合う人づくりを進めます。また、これまでに育まれてきた地域文化を将来に伝えるとともに、年齢や職業の枠を越えたあらゆる人々の生涯学習の充実を図ります。

特に本計画に関連する施策としては、「基本施策１　学習活動の推進」において、「①伝統文化の伝承」、「②文化財の保護・活用」が挙げられています。「①伝統文化の伝承」では、保護・活用を図る地域団体が開催する学習会への市民参加、子ども達を対象とした伝承活動を促進するなど、７つの施策の方向が示されています。「②文化財の保護・活用」では、文化財の保存・活用に対する市民・保存団体への支援や、文化施設を中心として市有文化財の保存・展示を行い次世代への活用を図ることとしています。

本計画は、この「第２次伊那市生涯学習基本構想」の取組と連携を進めます。

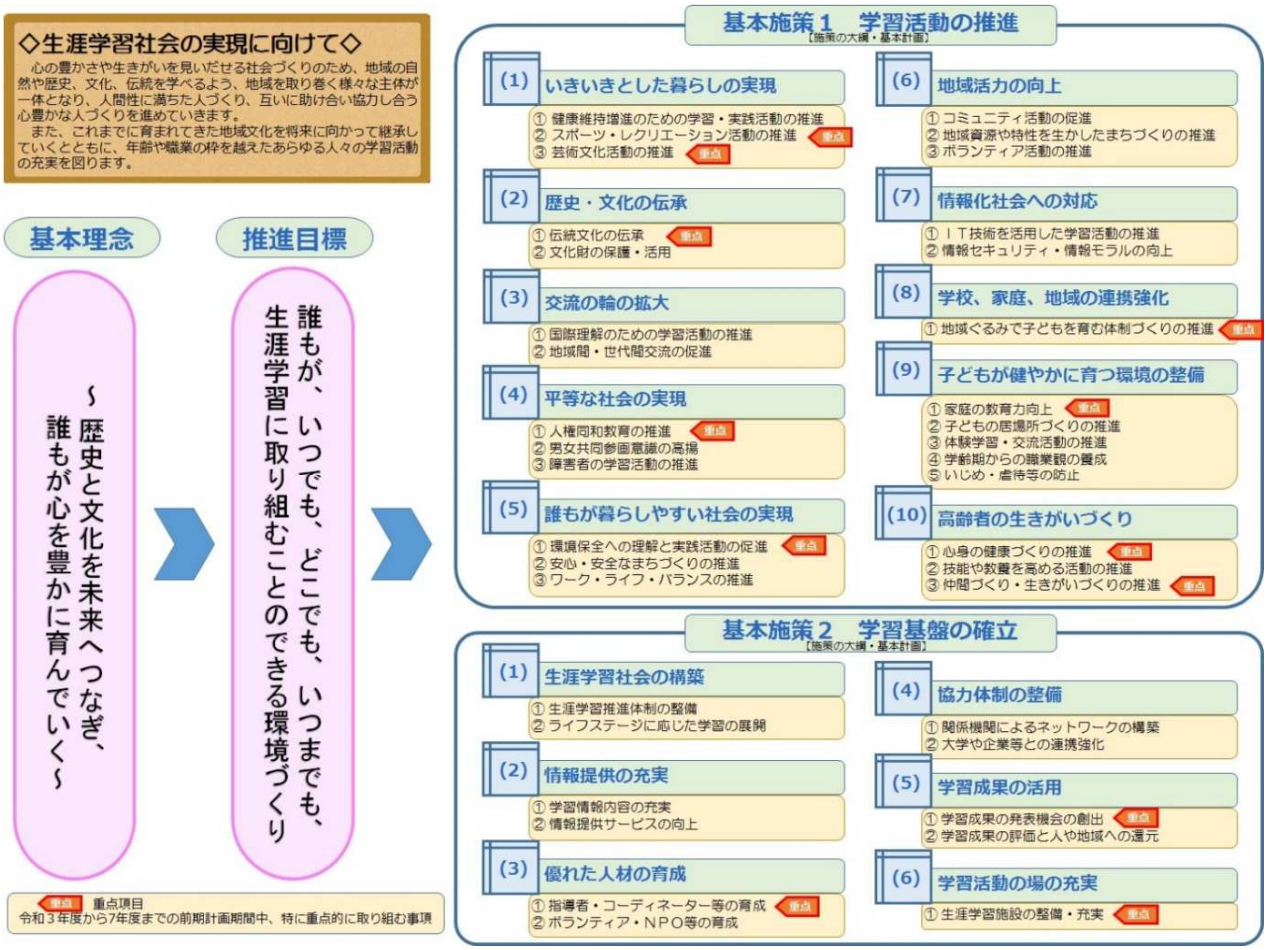


図. 生涯学習の基本理念・目標・各種施策　体系図

（参考：『第２次伊那市生涯学習基本構想』令和３年(2021 年)）

３－８　伊那市地域防災計画(修正版)

令和５年(2023 年)３月策定の「伊那市地域防災計画(修正版)」は、災害対策基本法に基づき伊那市防災会議が作成した計画です。市町村や防災関係機関、住民・事業者などがそれぞれの責務を認識し、災害予防や災害応急対策と災害復旧を実施することによる土地の保全と住民の生命、財産などを災害から保護することを目的としています。

この中で、災害発生時の文化財に関する項目としては、「文化財が被災した場合は見学者の生命・身体の安全を確保し、文化財の被害状況を把握し被害の拡大防止等の応急処置を行うこと」や「市教育委員会は、災害が発生した場合の所有者または管理者が実施すべき対策について万全を期すよう指導し、国・県指定文化財に災害が発生した場合は、その災害の原因、被害の概況及び応急処置、その他必要事項について県教育委員会に報告すること」を挙げています。

また、文化財の災害予防計画は以下のとおりです。

文化財災害予防計画　（第２章　災害予防計画　第 23 節　建築物災害予防計画による）

１　文化財の管理保護は、所有者又は管理責任者が行う。国指定の文化財は文化庁が、県指定の文化財は長野県教育委員会が、市指定の文化財は教育委員会が、必要な指示又は命令を行う。

２　有形文化財への被害は、地震災害、風水害、落雷等の災害が予想され、文化財の性質、形態に応じた保全を図る。

３　各種文化財の防火を重点に保護対策を推進するため、次の事項を実施する。

（１）文化財に対する住民の防災思想と愛護精神の普及及び防災力の強化を図るための広報活動の実施

（２）所有者に対する管理保護の指導と助言

（３）防災施設設置事業の推進、助成措置

（４）区域内の文化財の所在把握に努める。

４　文化財の所有者に対して、次の事項について、防災対策の徹底を図る。

（１）火災予防体制の確立

ア 防火管理の整備

イ 環境の整理整頓

ウ 火災の早期発見と火災警戒の実施

エ 火気の使用制限

オ 自衛消防組織の確立、訓練の実施

カ 火災時の初期消火の徹底

（２）消防・防火施設の整備

ア 消火施設：消火器、簡易消火用具、消火栓、放水銃、スプリンクラー設備、ドレンチャー設備、動力消火ポンプ等

イ 警報設備：自動火災報知設備、漏電警報器、非常警報設備、消防機関への通報設備等

ウ その他の設備：避雷装置、消防用水、消防進入通路、防火壁、防火戸等

図. 文化財災害予防計画　（参考：『伊那市地域防災計画』令和５年(2023 年)３月修正版）

３－９　市内の指定等文化財に関わる個別計画(史跡高遠城跡に関わる諸計画)

旧高遠町では昭和 63 年(1988 年) 3 月に「史跡高遠城跡保存管理計画」、平成 12 年(2000 年) 3 月に「史跡高遠城跡整備基本計画」を策定し、歴史的遺産である高遠城跡の将来的なあり方をまとめ、史跡の保存・活用を図ってきました。平成 18 年度(2006 年度)以降は「史跡高遠城跡整備実施計画」(平成 17 年(2005 年) 3 月策定)に基づいて、伊那市が旧高遠町の計画を引き継ぎ保存管理、各種調査、遺構の保存整備、公開活用などを行っています。整備の基本認識や事業方針は次のとおりです。

高遠城跡整備の基本認識

1．遺構の保存、修理
2．縄張の復元
3．人々に親しまれてきた景観の保全
4．史跡の公有地化

図. 史跡高遠城跡整備の基本認識

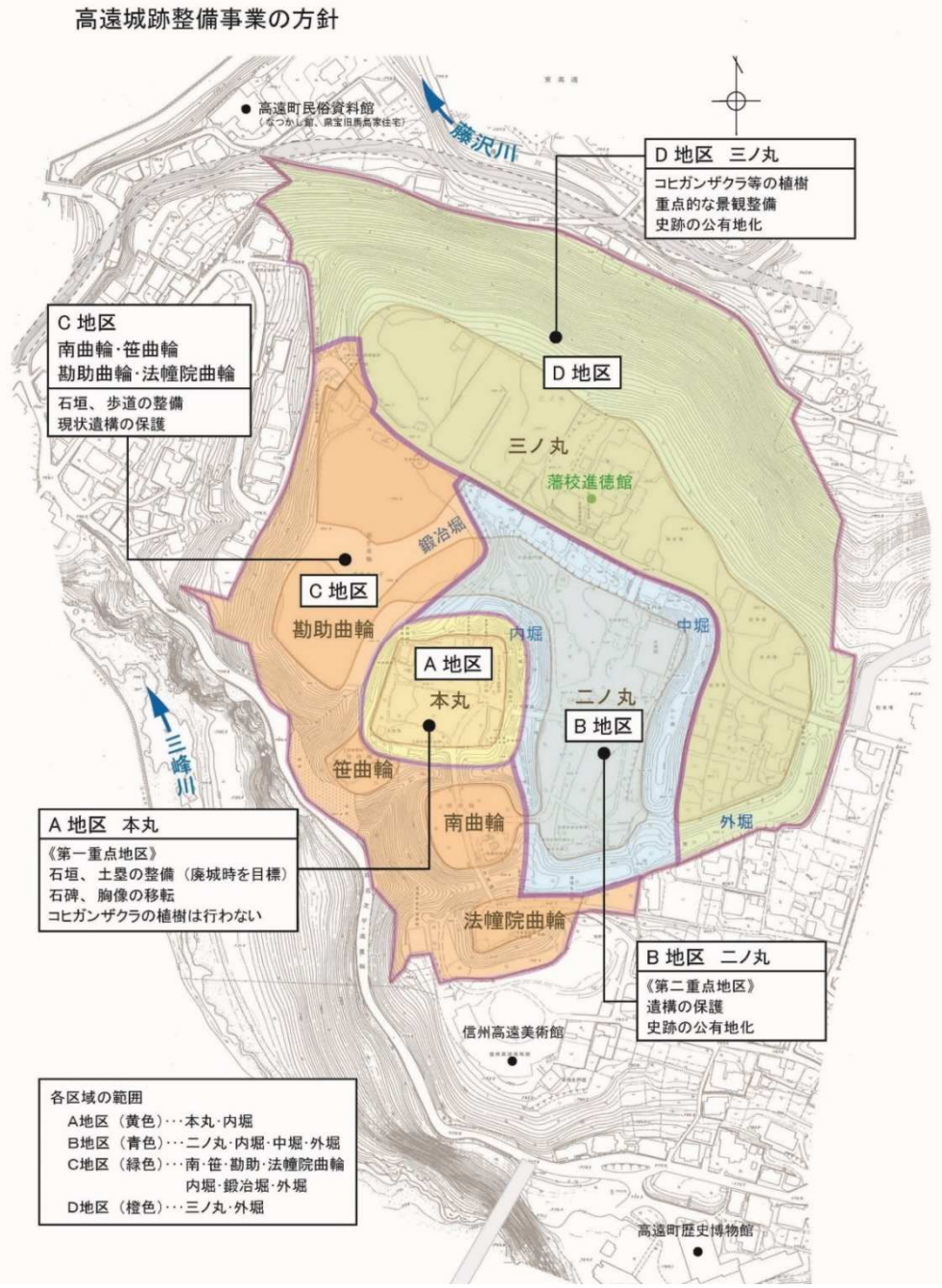


図. 高遠城跡整備事業の方針　(参考：『史跡高遠城跡整備基本計画』平成 12 年(2000 年)
『史跡高遠城跡整備実施計画　第二次短期整備計画書』平成 25 年(2013 年))

４　本計画での文化財と歴史文化資源の定義

法律上の文化財は、建物や絵のように形のあるものや、音楽や踊りのように形のないもの、動植物など、形や中身によって６つに分けられます。この計画では、文化財とされていない、地形や地名なども含めて「歴史文化資源」と呼び、伊那市のことを知る手がかりとします。

文化財は、我が国の長い歴史のなかで生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民の財産です。文化財保護法によると、「文化財」とは、社寺や民家などの建造物、仏像、絵画、書画、遺跡、名勝地、動植物のほか、芸能や工芸技術のような「技術(わざ)」、伝統的行事や祭り、あるいは人々の生活や風土と結びついて形成された景観、歴史的な集落・町並みなどのことをいい、右の体系図のようにまとめられます。国や県、市による指定、登録、選定、選択を受けていない、いわゆる未指定のものも「文化財」に含まれ、文化財の保存技術や土地に埋蔵されている「埋蔵文化財」も保護の対象です。

本計画では、より広い視点で地域の歴史文化を捉えるため、上記の文化財などに限らず、伊那市の歴史・文化・風土・特性を今に伝える「人」、「もの」、「こと」（例えば雪形などの自然景観や地名など）を総称して「歴史文化資源」という用語を用い、保存・活用の対象とします。さらには、歴史文化資源の置かれている自然環境や、歴史文化資源を支える人々といった周辺環境を合わせて伊那市の歴史文化が成り立っていると捉え、一体的な保存・活用を目指します。

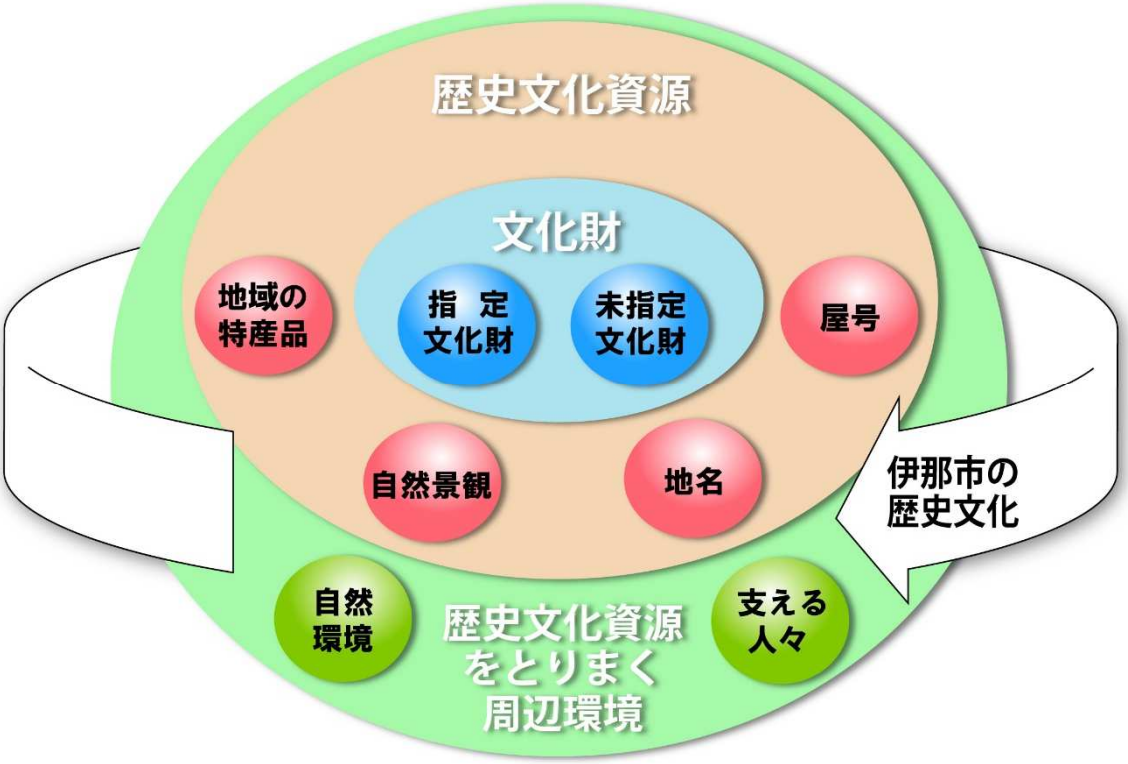


図. 歴史文化資源の対象範囲

文化財の体系図

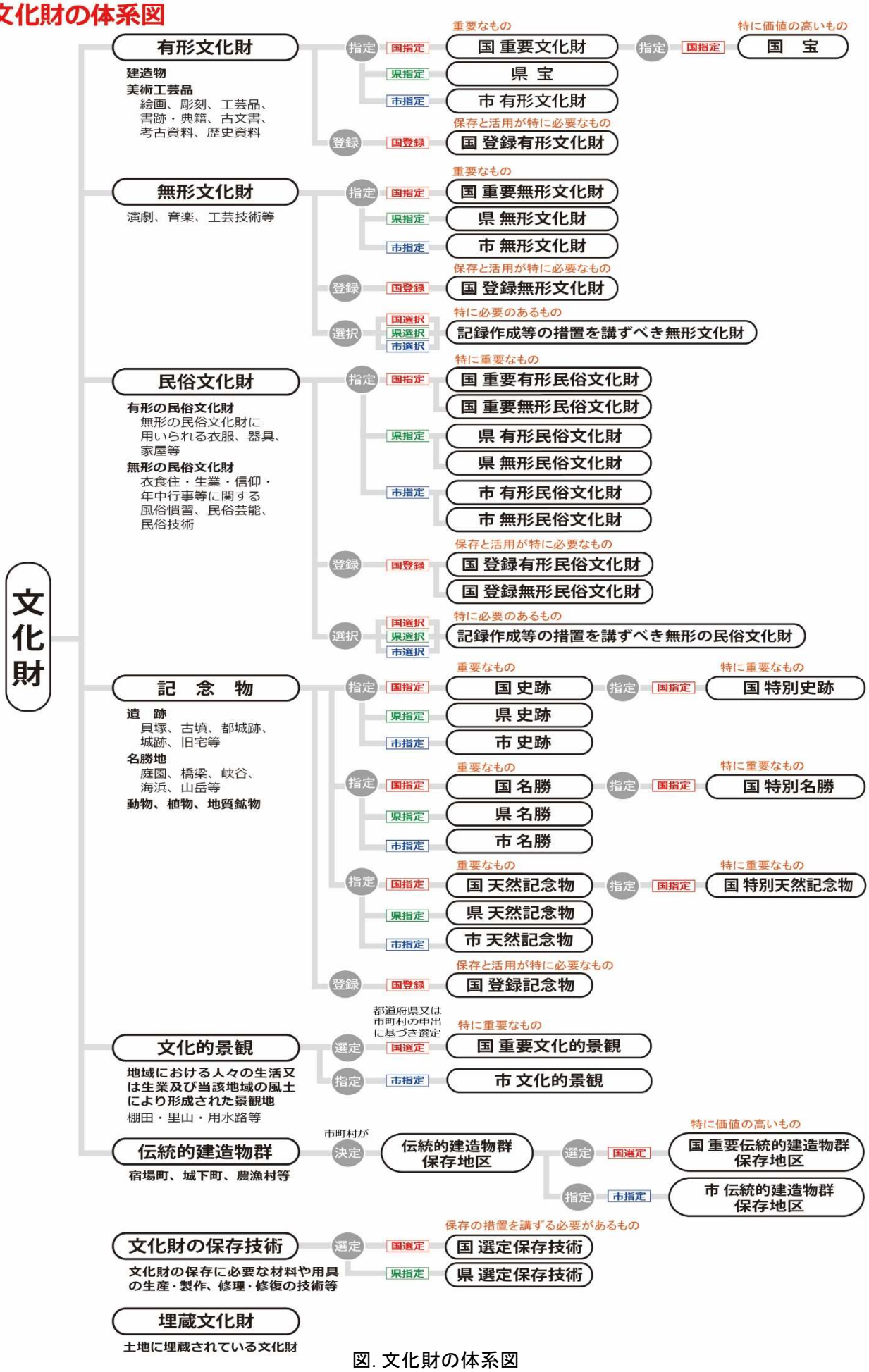
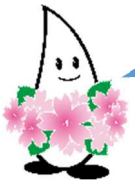


図. 文化財の体系図

第１章　伊那市の概要

まずは、伊那市がどのような場所にあり、どのような特徴を持った土地なのか、様々な図やグラフで説明します。現在の様子を知ることで、これからどうすればよいのかを考えることができるでしょう。

１　位置・地勢



伊那市は長野県内で３番目に広く、２つのアルプスに囲まれた盆地の中央には天竜川が流れています。
市内は、10 地域(伊那(竜西)、伊那(竜東)、富県、美篶、手良、東春近、西箕輪、西春近、高遠町、長谷)に分けられます。

伊那市は長野県の南部に位置し、南東側は南アルプス(赤石山脈)を境に山梨県と静岡県に接し、西側は中央アルプス(木曽山脈)を境に木曽地域に接しています。東西の長さは 37.2 ㎞、南北の長さは 44.7 ㎞に及び、市域の面積は 667.93 ㎢で、松本市、長野市に次いで県下３番目に広く、長野県の総面積の５％を占めます。市内東部に南アルプス国立公園と三峰川水系県立公園、西部に中央アルプス国定公園を有し、南アルプス、中央アルプスという２つのアルプスに挟まれた中央部には、標高約 600ｍの伊那盆地が開けています。市内の標高の最高地点は、南アルプス塩見岳東方山頂の標高 3,052ｍで、最低地点である東春近田原天竜川河畔の標高 590ｍと比較すると、2,500ｍ近い標高差があります。伊那盆地の中央を流れる天竜川は、三峰川などの支流を合わせて南下し、天竜川に向かう形で山麓には扇状地、河川沿いには河岸段丘が形成されています。

伊那地域の中央部を南北にＪＲ飯田線が走り、中央本線・東海道本線へ連絡しているほか、中央自動車道や一般国道 153 号をはじめ、同 361 号、同 152 号や県道が縦横に走り、東西・南北が結ばれています。

市域は伊那(竜西)、伊那(竜東)、富県、美篶、手良、東春近、西箕輪、西春近、高遠町、長谷の 10 地域に区分されます。

西春近から伊那市街地を望む

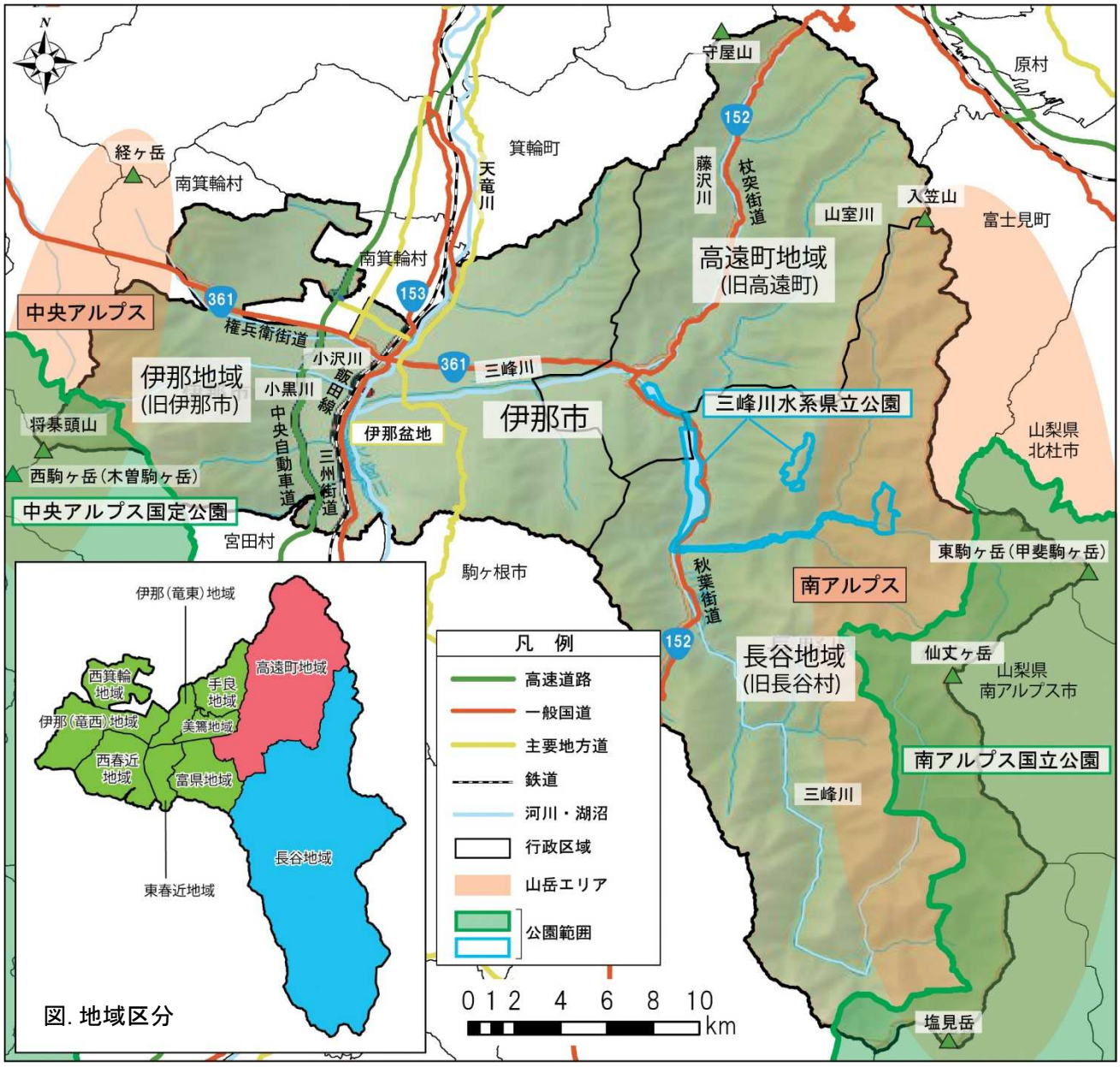


図. 伊那市の概況

（資料：国土交通省　国土数値情報）

２　自然的環境

市の中心には南北にのびる日本最大の断層（地面のずれ）があります。最も低い所と最も高い所の標高差が約 2,500ｍもあるので、たくさんの種類の植物が見られます。ここでは、伊那市の歴史文化が生まれた背景にある、自然環境を確認します。

２－１　地質

伊那市高遠町北端の杖突峠から長谷南端の分杭峠まで中央構造線が貫いています。中央構造線とは、関東地方から九州地方まで 1,000km 以上に渡り延びる我が国最大級の断層です。

中央構造線を境として、東側は主に変成岩で形成されており、南アルプス周辺部は固結堆積物が広がっています。西側は主に深成岩で形成されており、三峰川や天竜川といった河川の周辺では未固結堆積物が広がっています。

また、杖突峠と守屋山の周辺部では火山性岩石が確認できます。

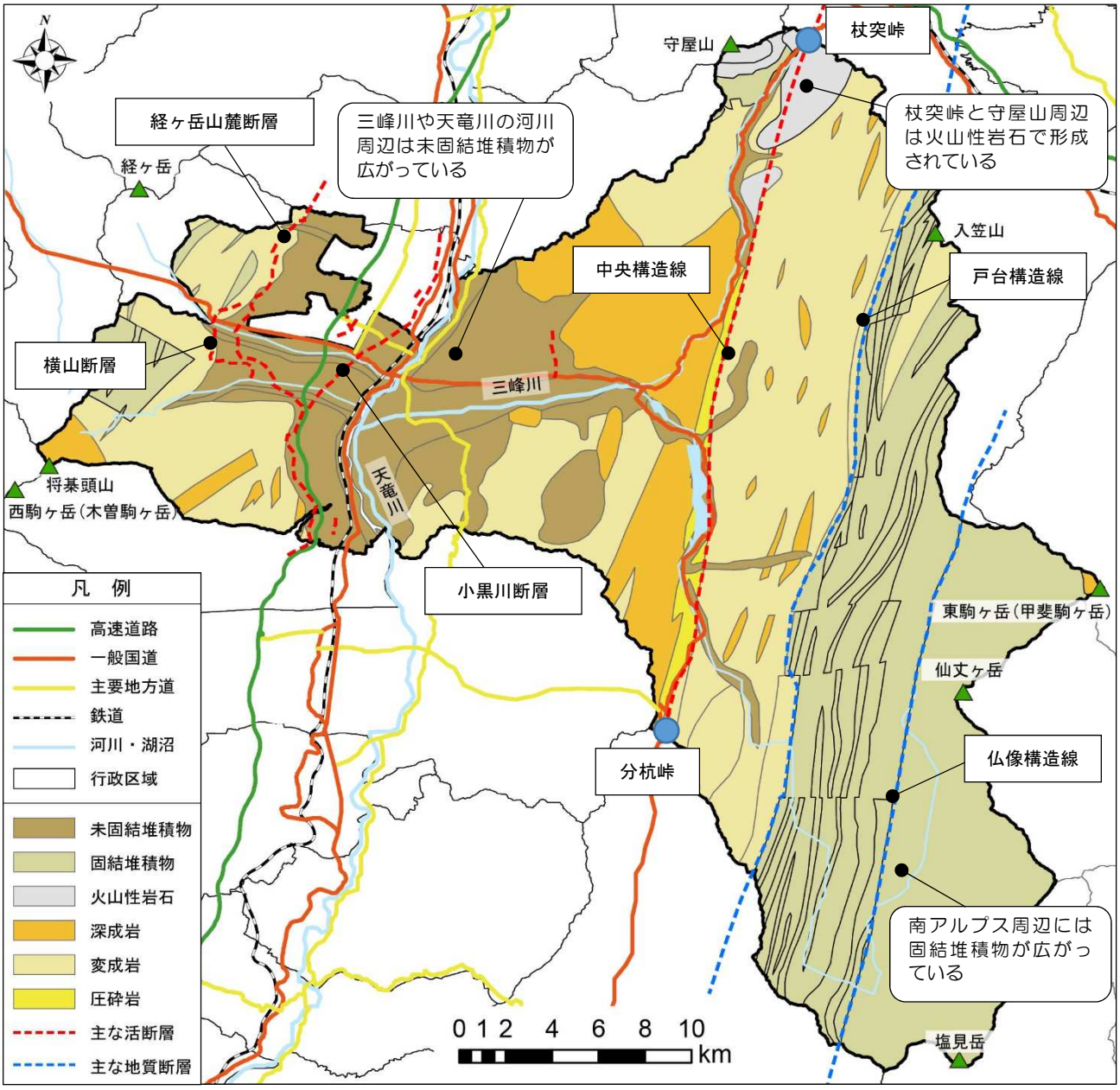


図. 伊那市の地質　　（資料：国土交通省「20 万分の１土地分類基本調査」、「伊那市防災マップ」）

２－２　植生

約 2,500ｍもの標高差がある伊那市には、多種多様な植物が生育しています。植生図によると、最も広範囲に広がるのは、人が暮らす平野部や人里近い山に見られる「植林地・耕作地植生」で、農作物や生活利用が可能なカラマツやヒノキなどの植林が多いことが分かります。植林地や耕作地に隣接して、コナラやミズナラなどの落葉広葉樹が多く見られる「ブナクラス域」と呼ばれる林域があちこちで見られますが、これはいわゆる里山に見られる植生で、自然植生ではなく人間活動の影響によって生まれた二次林などの植生(代償植生)です。また落葉広葉樹ばかりでなく、アラカシやシラカシ、サカキといった常緑広葉樹が多く見られる林域「ヤブツバキクラス域」も中央アルプス山麓にわずかに見られますが、ここもまた人間活動の影響を受けた代償植生です。標高 1,700～1,800ｍを超えると常緑針葉樹林域である「コケモモートウヒクラス域」が広がっており、特に南アルプス一帯では、標高 2,600ｍ付近の高所にまでシラビソやコメツガの天然林が広がり、森林限界が高く、懐深い森が南アルプスらしさだと言われています。

また、伊那市を特徴づける植生として、河岸段丘沿いに発達した段丘林が挙げられます。農地や市街地として開発が進んだ平野部には自然植生が少なく、平地林や山地から平地にかけて連続する段丘林は緑のベルトとして、多くの動植物の生息・生育環境になっています。

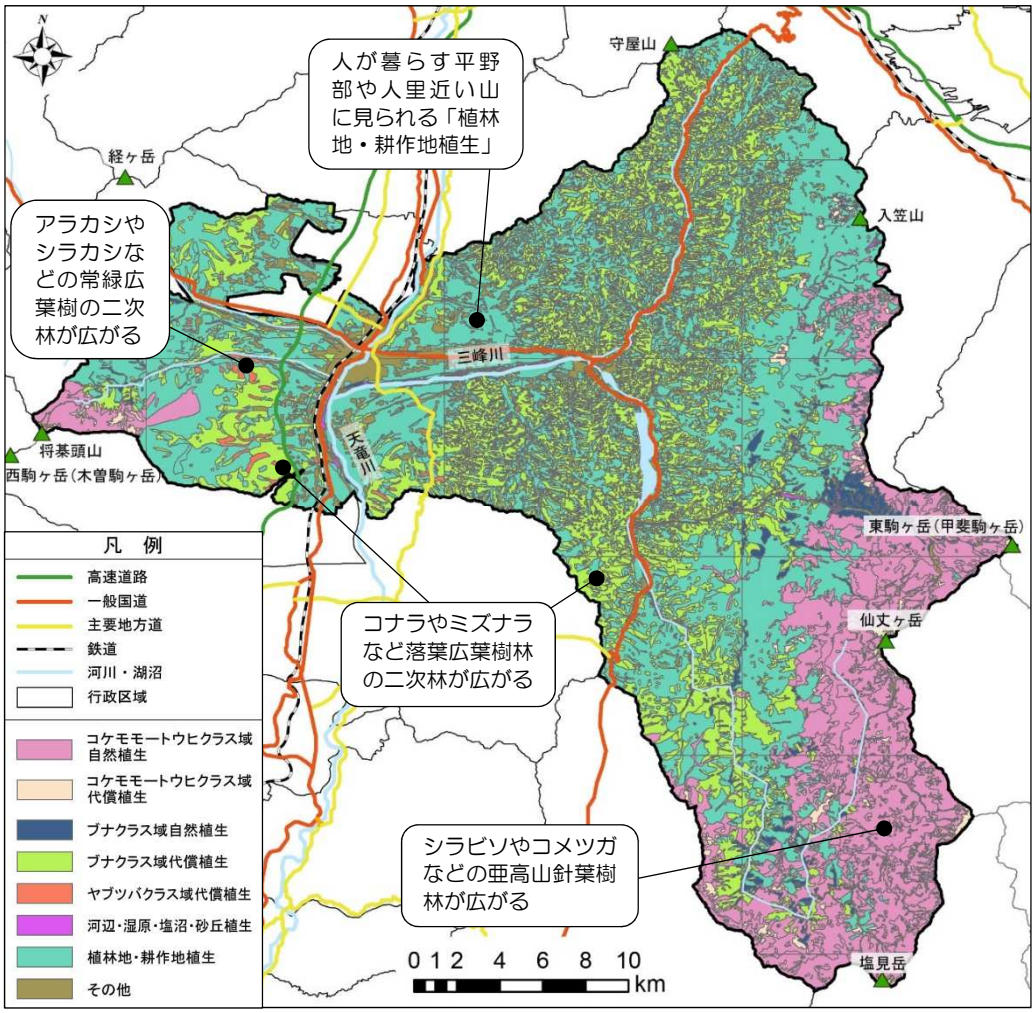


図. 伊那市の植生

（資料：「第７－８回自然環境保全基礎調査植生調査報告書」（環境省生物多様性センター））
(http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-006.html)

※1/25,000 植生図「木曽駒ヶ岳」、「伊那宮田」、「伊那」、「鹿塩」、「間ノ岳」、「市野瀬」、「仙丈ケ岳」、「信濃溝口」、「甲斐駒ヶ岳」、「高遠」、「信濃富士見」、「辰野」、「茅野」 GIS データ（環境省生物多様性センター）を使用し、（株）地域総合計画が作成・加工したものである。
(http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-006.html)

２－３　気候

伊那市は長野県の南部に位置しており、海岸線からも離れていることから内陸特有の気候です。

気象観測所伊那地点の過去 10 年間の気象データを見ると、最高気温は 34～37℃台、最低気温は－14～－９℃台で推移しており、海岸地方と比べて、年間の寒暖差が大きいのが特徴です。

年度別の降水量は 1,140～1,780 ㎜の間で推移しており、年間降水量の平均値は 1,514.9 ㎜です。

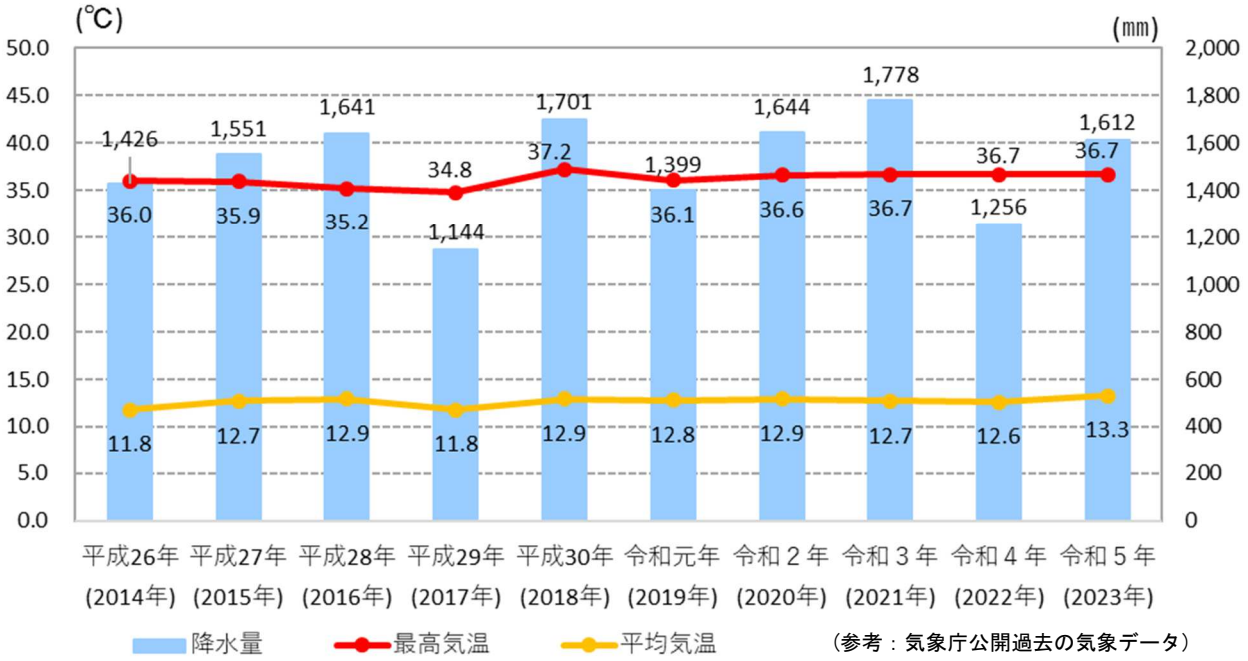
長野県内では、北部や中部と比較して、南部の降水量が多い傾向がありますが、南部の他地点の年間降水量と比較した場合、伊那市の降水量は少ないといえます。

また、平成 26 年(2014 年)から令和５年(2023 年)の気象庁データによると、平均年間日照時間は 2,132.7 時間であり、長野県内でも日照時間の長い地域といえます。

表 伊那地点の過去 10 年間
（平成 26～令和５年(2014～2023 年)） の気象データ

年	気温			降水量 (㎜)	日照時間 (h)
	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	平均気温 (℃)		
平成26年(2014年)	36.0	−11.2	11.8	1425.5	2124.3
平成27年(2015年)	35.9	−11.0	12.7	1550.5	2106.7
平成28年(2016年)	35.2	−14.5	12.9	1641.0	2119.1
平成29年(2017年)	34.8	−10.9	11.8	1143.5	2134.3
平成30年(2018年)	37.2	−10.7	12.9	1701.0	2302.6
令和元年(2019年)	36.1	−9.6	12.8	1398.5	2098.5
令和２年(2020年)	36.6	−9.0	12.9	1644.0	2127.3
令和３年(2021年)	36.7	−9.2	12.7	1777.5	1816.9
令和４年(2022年)	36.7	−10.9	12.6	1255.5	2145.2
令和５年(2023年)	36.7	−12.0	13.3	1611.5	2351.7

（参考：気象庁公開過去の気象データ）



（参考：気象庁公開過去の気象データ）

図. 伊那地点の過去 10 年間(平成 26 年～令和５年(2014～2023 年))の気象データ

表　長野県内他地点の過去 10 年間(平成 26 年～令和５年(2014～2023 年))の降水量と日照時間の平均値

北部			中部			南部		
地点	年間降水量 (㎜)	年間日照時間 (h)	地点	年間降水量 (㎜)	年間日照時間 (h)	地点	年間降水量 (㎜)	年間日照時間 (h)
野沢温泉	1598.5	1609.1	上田	944.0	2284.5	伊那	1514.9	2132.7
飯山	1382.2	1755.1	佐久	930.8	2247.4	木曽福島	2022.4	1872.9
長野	992.6	2037.9	松本	1048.6	2227.9	飯田	1807.6	2152.7
信州新町	1070.0	1869.6	諏訪	1370.4	2246.6	浪合	2824.9	1685.6

（参考：気象庁公開過去の気象データ）

3　社会的環境

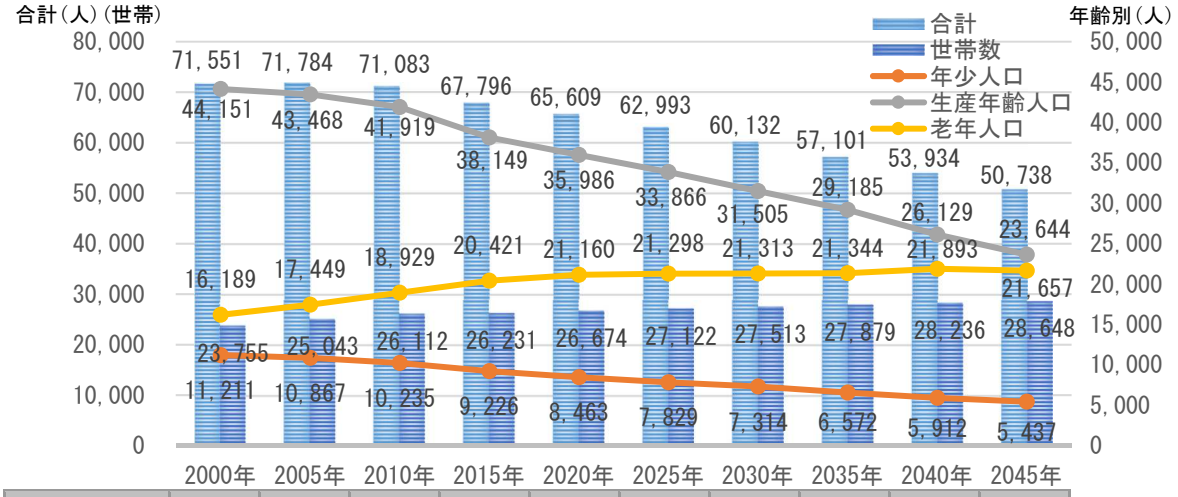
人間の生活によって作り出された環境を社会的環境といいます。
市内にはどのくらいの人がいて、どのような仕事をして、どのような土地利用をしているのか、また市外から訪れる人がどのくらいいるのかを見ていきます。

3－1　人口

(1)市全体の人口

伊那市の人口は、令和６年(2024 年)４月１日現在 65,119 人です。平成 17 年(2005 年)までは横這い傾向でしたが、自然動態での出生数の減少と、社会動態での転出者超過により、それ以降は徐々に減少しています。「第２期伊那市地方創生人口ビジョン」では、令和 27 年(2045 年)の将来人口は 50,738 人で、現在よりも約 15,000 人減少すると予測しています。

年齢３区分別人口で見ると、令和 27 年(2045 年)では年少人口、生産年齢人口は減少するとともに、老年人口も増加後、減少すると見込まれており、各地区においても同様の傾向が見られます。



	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和２年	令和７年	令和 12 年	令和 17 年	令和 22 年	令和 27 年
年少人口割合	15.7%	15.1%	14.4%	13.6%	12.9%	12.4%	12.2%	11.5%	11.0%	10.7%
生産年齢人口割合	61.7%	60.6%	59.0%	56.3%	54.8%	53.8%	52.4%	51.1%	48.4%	46.6%
老年人口割合	22.6%	24.3%	26.6%	30.1%	32.3%	33.8%	35.4%	37.4%	40.6%	42.7%
平均世帯人員	3.01	2.87	2.72	2.58	2.46	2.32	2.19	2.05	1.91	1.77

※ここには、所在地区不明の人数は含まれていません。　(資料：『第２期伊那市地方創生人口ビジョン』令和２年(2020 年))

図. 総人口・年齢区分別人口の推計

(2)地域別人口

地域別の人口(令和６年(2024 年)４月１日現在)は、伊那(竜東)地域が 16,943 人で最も多く、次いで伊那(竜西)地域の 12,783 人です。この２地域で、市全体の人口のほぼ半分を占めています。世帯数も伊那(竜東)地域が 7,634 世帯で人口と同様に最も多く、次いで伊那(竜西)地域が 5,930 世帯です。また、旧市町村単位で見ると、伊那地域(旧伊那市)が 58,483 人、高遠町地域(旧高遠町)が 5,079 人、長谷地域(旧長谷村)が 1,557 人です。

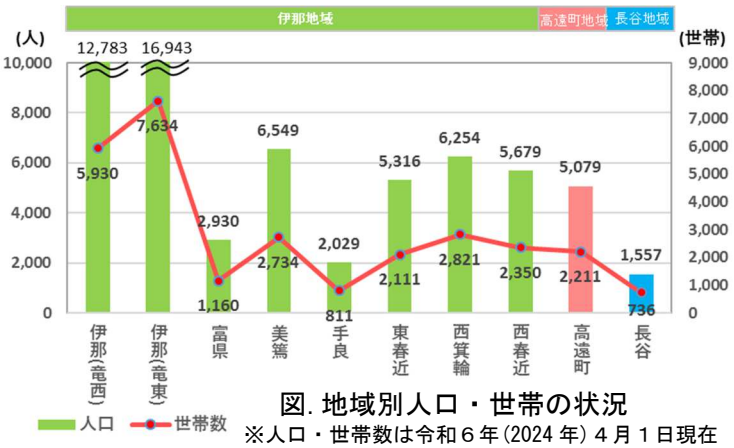


図. 地域別人口・世帯の状況
※人口・世帯数は令和６年(2024 年)４月１日現在
(住民基本台帳より)

(3)地域別人口の推移と将来推計

「第２期伊那市地方創生人口ビジョン」では、伊那市の人口は令和 27 年(2045 年)に 50,738 人になると見込んでいます。平成 12 年(2000 年)から令和 27 年(2045 年)までの地域別人口の推移を見ると、西箕輪地域では 6,500 人前後で横ばいですが、それ以外の９地域では減少します。特に伊那(竜西)地域は 6,209 人(41.2%)減の 8,851 人、美篶地域は 3,165 人(35.4%)減の 5,782 人、高遠町地域は 4,078 人(57.9%)減の 2,962 人となり、他の地域と比べて急激に減少します。

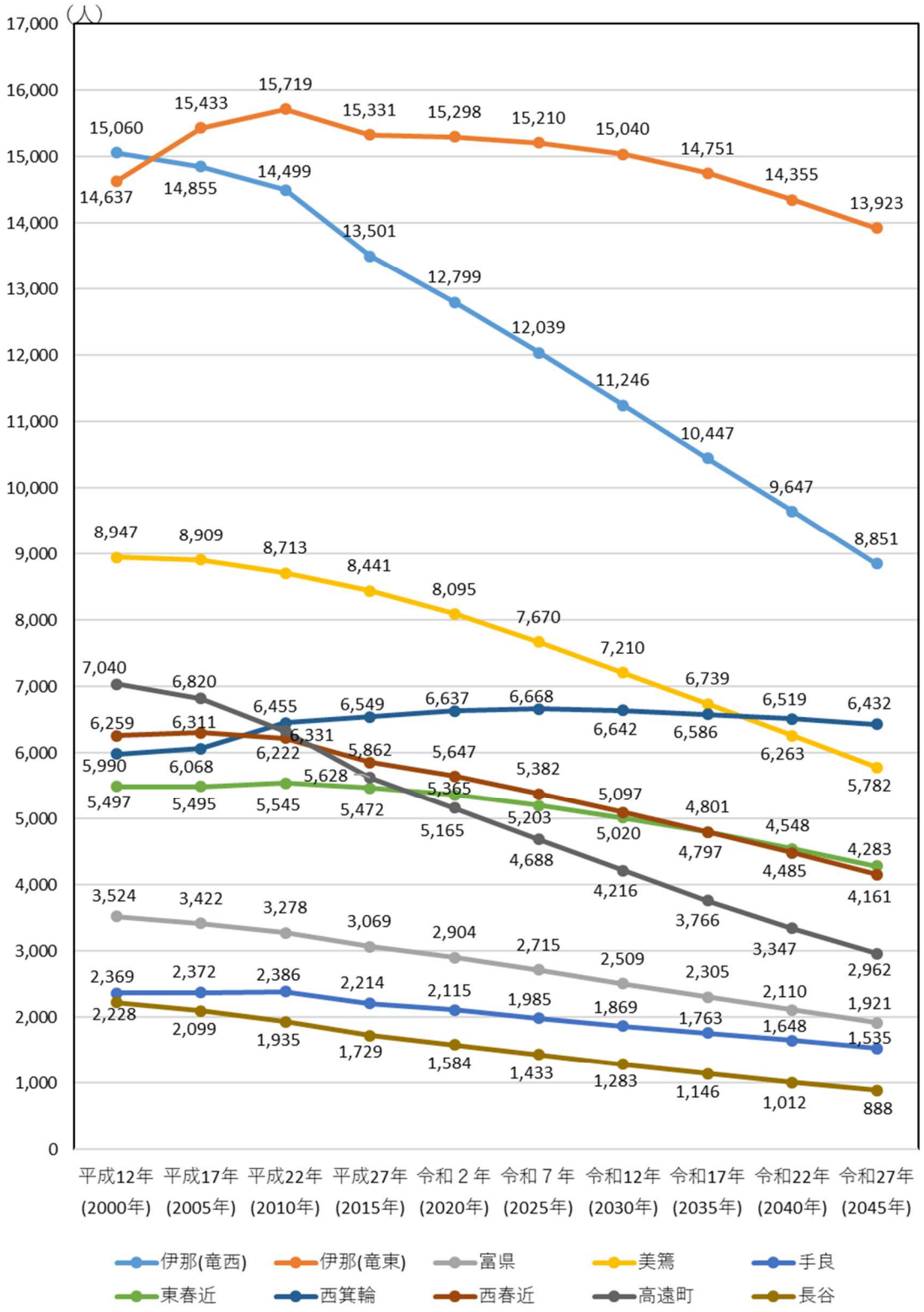


図. 地域別人口の推移　　(参考：『第２期伊那市地方創生人口ビジョン』(令和２年(2020 年)))

※平成 27 年(2015 年)までは国勢調査による実数値、令和２年(2020 年)以降は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値

３－２　産業

伊那市の就業者数は、平成 12 年(2000 年)には 38,000 人を超えていましたが、以降は徐々に減少傾向にあり、令和２年(2020 年)時点では 34,555 人でした。産業別に見ると、第１次産業と第２次産業従事者は減少し続けており、特に第２次産業従事者は平成 12 年(2000 年)より 10%程度減少しています。一方で、第３次産業従事者は増加傾向で、平成 12 年(2000 年)より 10%程度増加し、20,390 人でした。長野県内他市町村と比較した場合、全体に占める第２次産業の割合が多いのが伊那市の特徴です。

産業大分類別に見ると、製造業が最も多く 9,284 人、次いで卸・小売業が 4,381 人、医療・福祉が 4,412 人の順です。農業も 2,500 人を超えており、４番目に多くなっています。

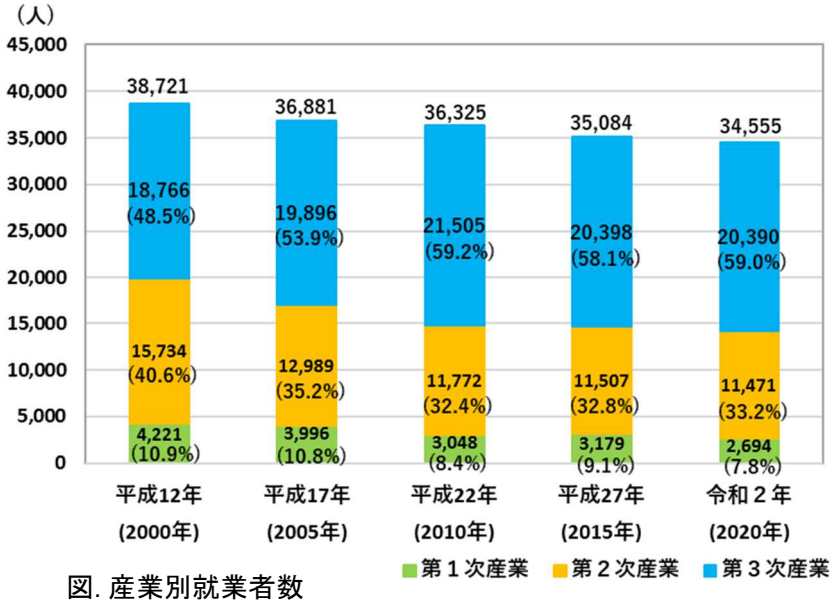


図. 産業別就業者数

（参考：令和５年(2023 年)伊那市統計書）

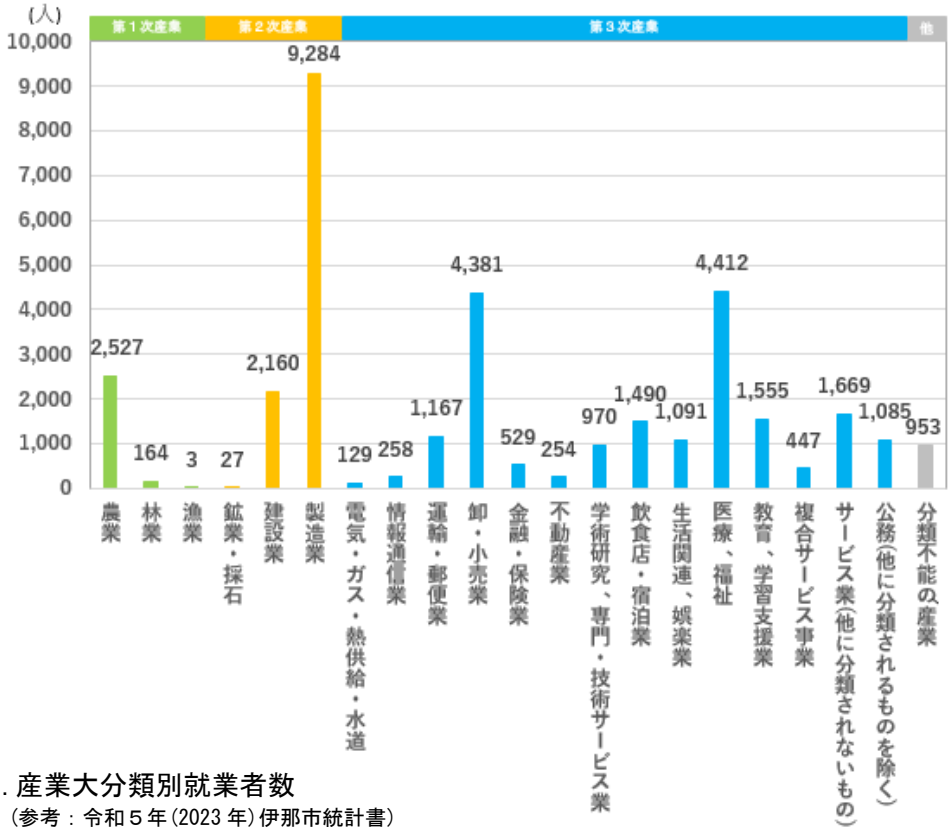


図. 産業大分類別就業者数

（参考：令和５年(2023 年)伊那市統計書）

３－３　観光客数

平成 30 年(2018 年)から令和４年(2022 年)までの観光客数の推移を見ると、平成 30 年(2018 年)から令和元年(2019 年)までは増加していましたが、令和２年(2020 年)は、新型コロナウイルスの影響でかなり減少しました。令和２年(2020 年)からは、令和４年(2022 年)まで年々増加しています。地域別の構成比を見ると、伊那地域が半数以上を占めており、高遠町地域が３割、長谷地域が１割です。

観光地点別に見ると、伊那スキーリゾートや伊那食品工業(かんてんぱぱガーデン)がある伊那西部高原が最も多く、次いで羽広(はびろ)、高遠城址公園(たかとおじょうしこうえん)の順です。

令和４年(2022 年)の月別の観光客数の推移を見ると、最も多いのは４月です。これは高遠城址公園の桜を見に訪れる観光客が多いためです。伊那地域では５月、長谷地域では８月の観光客数が最も多くなっています。

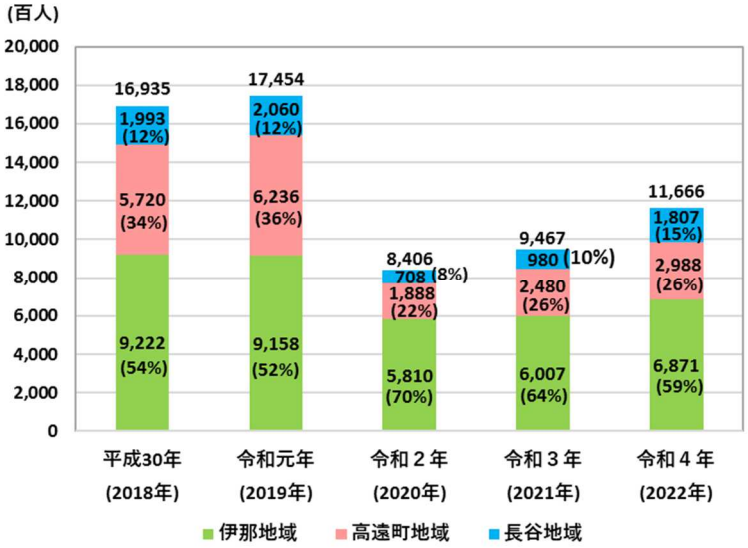


図. 地域別年間観光客数の推移

(参考：令和５年(2023 年)伊那市統計書)

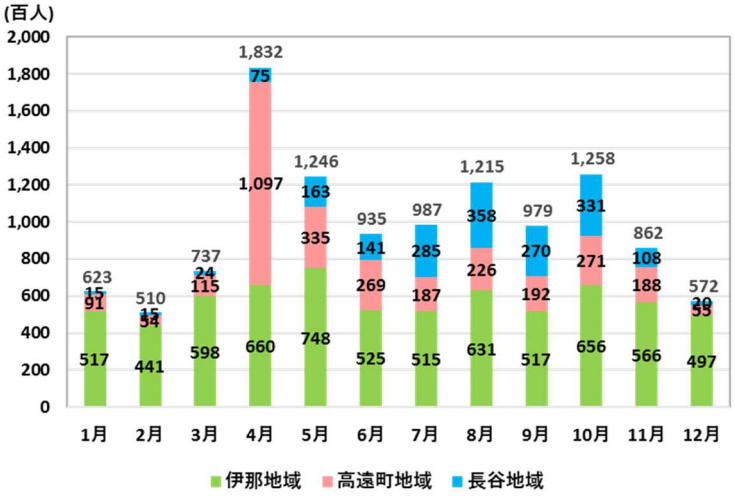


図. 月別観光客数の推移

(参考：令和４年(2022 年)長野県観光地利用者統計調査)

表　伊那市の主な観光地

	観光地名	主な施設等
伊那地域	羽広	みはらしファーム
		羽広荘(令和4年閉館)
		みはらしの湯
	伊那西部高原	伊那スキーリゾート
		伊那食品工業
高遠町地域	高遠城址公園	城址公園
		高遠町歴史博物館
		信州高遠美術館
		さくらホテル
	高遠温泉さくらの湯	さくらの湯
	入笠山	山小屋入笠農協ハウス
	遠照寺・山室渓谷	遠照寺
	千代田湖、晴ヶ峰、青少年自然の家	国立信州高遠
		青少年自然の家
長谷地域	鹿嶺高原	雷鳥荘・バンガロー
	南アルプスむら長谷・美和湖	南アルプスむら
	南アルプス北部・分杭峠	林道バス
		北沢峠こもれび山荘
		仙丈小屋
		分杭峠

(参考：令和５年(2023 年)伊那市統計書、
令和４年(2022 年)長野県観光地利用者統計調査)

図. 伊那市の主な観光地の位置

３－４　土地利用

伊那市の土地利用は大きく分けて、農地、住宅地、商業地、工業地、森林で構成されます。

高遠町地域や長谷地域からなる市域の東側は、南アルプス国立公園と三峰川水系県立公園、西側は中央アルプス国定公園に指定されており、3,000ｍ級の山々を有する山岳地や森林地域が広がっています。

伊那(竜西)地域の天竜川右岸に市街地が発達し、古くからの住宅地や商業地が集中するほか、国道 153 号沿いや天竜川左岸の都市計画道路環状南線(ナイスロード)沿いには郊外型の店舗や企業が多数立地し、商業地帯が形成されています。こうした市街地の外周部には広大な優良農地が広がるほか、広い段丘面を利用した工業団地が整備されています。

また、高遠町地域、長谷地域においては、古くからの城下町であった西高遠地区にも商業地が形成されているほか、中央構造線に沿って南北に流れる三峰川やその支流である藤沢川、山室川(河川の位置は 17 ページの図. 伊那市の概況を参照)を中心に、南北方向の谷筋に集落や農地が見られます。

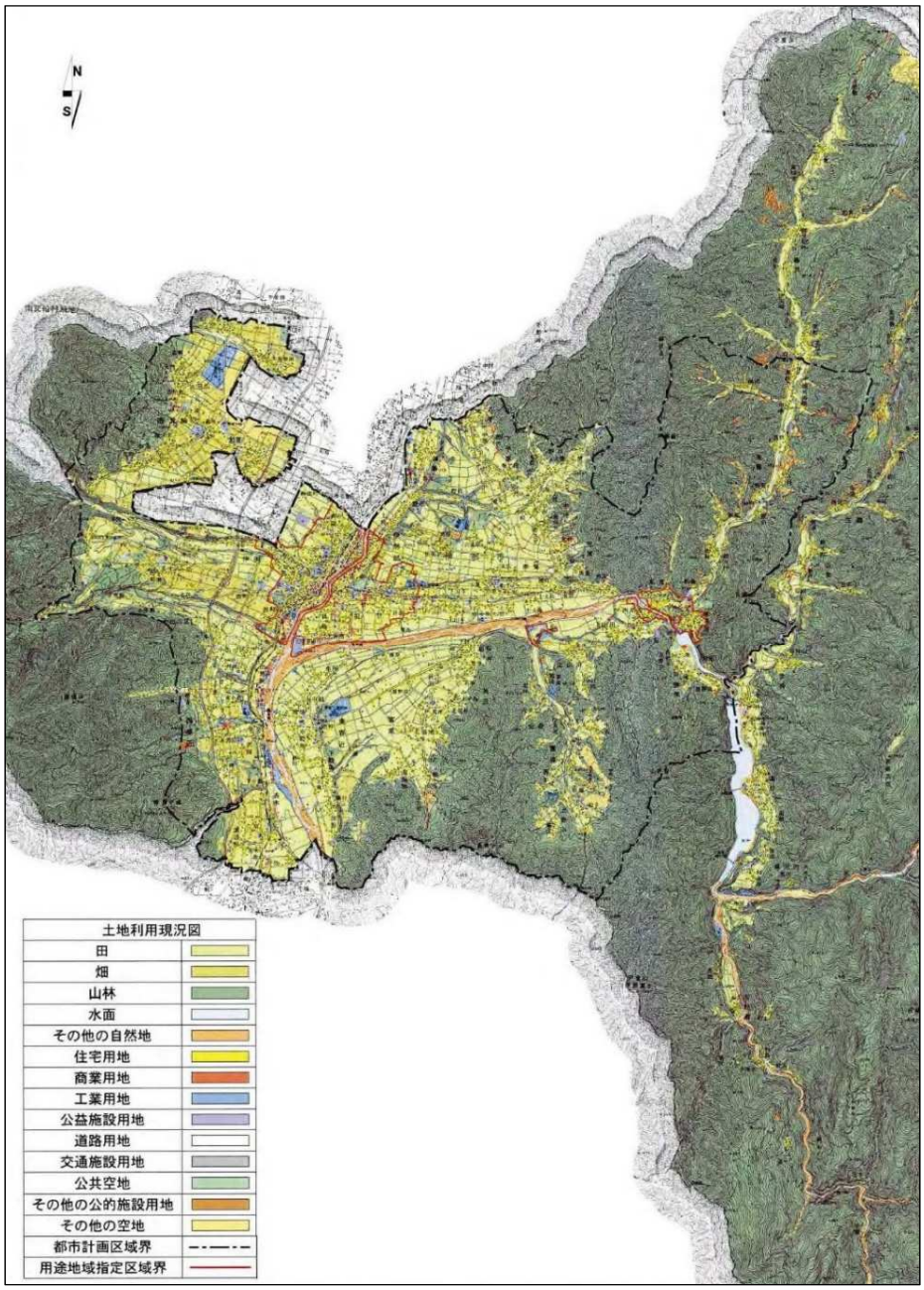


図. 土地利用の状況　(参考:『第２次伊那市総合計画　基本構想・前期土地利用計画』平成 31 年(2019 年)
『伊那市都市計画マスタープラン』　平成 21 年(2009 年))

４　伊那市の歴史

４万年前から現在までの長い間、伊那市周辺の人々はどのような暮らしを送ってきたのでしょうか。私たちのご先祖様が暮らした環境や、暮らしの中で生み出したもの、使ってきた物が、私たちの宝物になっています。

４－１　旧石器時代

今から約３万５千年前の後期旧石器時代、日本列島に初めて人類が住み始めます。伊那谷でもその頃から人が暮らし始め、食料となる動物を求めて移動する生活を送っていました。戸台秋葉洞窟［長谷地域］では、化石化した大型哺乳動物の長さ 20 ㎝、太さ３㎝の趾骨（かかとの骨）が炭化物とともに出土しています。しかもこれらの骨は、人工的に縦に割られ、髄が食べられた形跡も遺っていました。このステップバイソン（野牛）と考えられる骨の欠片は全部で５点出土しています。骨のほかに石器などの人工物はありませんでしたが、洞窟で肉を焼いて食べていた、当時の人々の暮らしが思い浮かぶような遺跡です。

化石骨　戸台秋葉洞窟出土

また、牧ヶ原遺跡［伊那（竜西）地域］からは、尖頭器（槍先）22 点、ナイフ形刃器３点、原石８点、尖頭器の削片（石器作りの石クズ）257 点など、計 488 点が出土しました。この遺跡は、旧石器時代末から縄文時代草創期の主に尖頭器を作る石器製作跡と考えられています。

石器と削片　牧ヶ原遺跡出土

神子柴遺跡は、伊那市に隣接する南箕輪村にあり、旧石器時代から縄文時代に遷り変わる１万５千年前の遺跡で、石器が 87 点発見されています。この中の大型の石槍と磨製石斧は、国内初の発見で、遺跡の名前をとって「神子柴型尖頭器」、「神子柴型石斧」と呼ばれています。この石器文化は、中部高地を中心に全国に拡がっていたことがわかっています。

市内には全部で 12 か所に旧石器時代の遺跡があり、その大半が天竜川の西側にあります。美篶・東春近・高遠町地域や長谷地域となる入笠山の南側でも旧石器時代の石器が見つかっており、市のほぼ全域で旧石器時代の人々が活動していたことになります。

神子柴遺跡発掘の様子

コラム
日本で最も美しい石器「神子柴遺跡出土品」

「日本で最も美しい石器」と称される、国指定重要文化財「神子柴遺跡出土品」は、伊那市創造館で常設展示しています。尖頭器には岐阜県の下呂石や新潟県の玉髄、長野県内和田峠の黒曜石が石材として使われており、石斧には神子柴遺跡近辺で採取できる緑色岩や黒雲母片岩などが使われています。神子柴型の尖頭器と石斧が、このようにたくさん一緒に出土した事例はほかになく、今も研究の対象となっています。

伊那市創造館　常設展示室

４－２　縄文時代

今から約１万５千年前から約２千３百年前が縄文時代です。縄文時代になると、人々は移動生活をやめ、ムラを作り定住するようになりました。シカやイノシシを狩り、ドングリやクリなどの木の実、その他の植物を採集して暮らしていました。

約１万２千年もの間続いた縄文時代は、古い順に草創期・早期・前期・中期(前葉、中葉、後葉)・後期・晩期と６つに分けられています。伊那市には 280 か所の縄文時代の遺跡があり、縄文時代草創期から晩期まで全ての時期の遺跡が見られます。これら市内の縄文時代の遺跡の立地を見ると、段丘面の端部や山の麓に多く分布しており、ともに狩猟・採集・漁猟に都合が良く、また水を得やすい場所にあったと言えます。

縄文時代草創期(約１万５千年前～１万年前)は、旧石器時代と縄文時代の過渡期にあたり、最終氷期が終わり、次第に気候が暖かくなり始める時期です。市内ではこの時期の遺構は見つかっていませんが、旧石器時代の項で挙げた、牧ヶ原遺跡［伊那(竜西)地域］があり、表面に文様のない無文の土器片が１点出土しています。伊勢並遺跡［伊那(竜西)地域］からも数点の土器片が出土しており、人々はこの地に住み続けていたことがわかります。

縄文時代早期(約１万年前～６千年前)になると、平均気温は現在よりも２、３度低いものの、落葉広葉樹林帯が出現し、市内の遺跡数も増加します。この時期の伊那谷を含む中部高地を代表する土器として、棒につけた刻み目を回転させて押し付け、山形や楕円形の文様をつける押型文土器があります。三ツ木遺跡［富県地域］からは、底部が尖ったほぼ完形の押型文土器が出土しています。縄文時代の古い時期の土器が完形で出土することはとても珍しく、全国的に注目されました。また、宮の原遺跡［高遠町地域］からは長野県内でも数少ない早期末の住居址２軒が見つかっています。東海地方の特徴が見られる土器も出土していることから、縄文時代早期から前期へと気候の温暖化に伴い、東海地方から中部高地へ人々の移動があったことを物語ります。

押型文土器　三ツ木遺跡

縄文時代前期(約６千年前～５千年前)には、さらに温暖化が進み、狩猟採集の生活が安定し、全国的に大集落が作られるようになります。伊那市に隣接する宮田村の中越遺跡では、前期前半の住居址が 200 軒以上も見つかり非常に有名です。市内にはこのような大規模集落は見つかっていませんが、多くの土器片を伴う住居址がいくつも見られます。

縄文時代中期(約５千年前～４千年前)の平均気温は現在よりも２度ほど高く、自然が豊かな伊那谷や八ヶ岳周辺など今の中部高地一帯は、当時の日本でも人口が多い場所でした。日本全体の人口が 26 万人だった頃、４分の１以上の７万人がこの一帯に暮らしていました。そのため、複雑な文様が付く立派な土器がたくさん作られる縄文文化が花開いた場所となりました。

市の史跡に指定されている月見松遺跡［伊那(竜西)地域］では、縄文時代中期初頭から後葉にかけての住居址が 107 軒も見つかり、長い間続いた大きな集落として重要な遺跡です。また、縄文時代中期中葉の 28 号住居址からは県宝に指定されている「顔面把手付大深鉢」も出土しており、その他の月見松遺跡独特の文様や形の土器とともに注目されています。

顔面把手付大深鉢の出土状況
月見松遺跡

御殿場遺跡［富県地域］は県指定の史跡です。縄文時代中期の住居址が 22 軒見つかり、そのうちの６軒の住居について詳細な発掘調査が行われました。縄文時代中期後葉の 12 号住居址の床面からは、国指定重要文化財「顔面付釣手形土器」が完全な状態で出土しました。女神の顔がついた土器は長野県の中南部や山梨県を中心に、祀りに使うものとして作られました。また、釣手土器はアーチ状の飾りが付いた鉢形の土器で、集落遺跡から稀にしか出土しない火の祀りに使われた土器と考えられています。「顔」と「釣手土器」という特別な２つの要素を持つ「顔面付釣手形土器」は、火を女神が司るという、当時の人々の世界観や信仰を表している土器なのです。

御殿場遺跡　復元住居

出土したばかりの
顔面付釣手形土器

平成 30 年(2018 年)には、縄文時代中期中葉から後期にかけての土器 10 点が「信州の特色ある縄文土器」として新たに長野県宝に指定されました。指定された土器の多くは、上伊那・松本・諏訪地方に分布する「唐草文系土器」と呼ばれる、土器中央に大きく美しい唐草模様を装飾するものです。当時の社会の繁栄を示す縄文文化の集大成ともいえる土器が、この時期に作られました。

しかし、縄文時代中期後葉の終わり頃から、調査によって見つかる集落遺跡数、住居址の軒数がともに減っているため、この辺り一帯の人口が激減したと考えられています。これには当時の気候が関係しており、草創期から中期後葉にかけて、次第に暖かくなった気候が、中期後葉の終わり頃、再び寒冷化に向かったためです。それまで、美しく力強い唐草模様が付けられていた「唐草文系土器」も、この頃にはほとんど装飾されず、ヘラで無造作に付けられた線などが文様となっています。すでにこの時期には、土器製作に生活の力を注ぐ余裕がなかったと考えられます。

唐草文系土器
島崎遺跡出土
（長野県宝）

縄文時代後期(約４千年前～３千年前)、晩期(約３千年前～２千３百年前)には、さらに寒冷化が進み、人口が日本全体で７万５千人ほどに激減してしまいます。市内でも、後期・晩期の遺跡はほとんど見られません。

縄文時代後期の百駄刈遺跡［西春近地域］では、人頭大から拳大の石が集められ、その中に６本の石棒が立てられている配石遺構が見つかりました。この配石遺構は、何年もかけて少しずつ広げられていった形跡が見られます。配石遺構を真ん中に囲むように５軒の住居が建てられているため、この遺構が集落に住む人々の大切な祈りの場であったことがわかります。住居址などからは大量の土器片のほか、仮面土偶の顔の部分や石棒など祀りに使う道具が何点も出土しています。縄文時代後期、寒冷化とともに全国的に祈りの場や道具が多く作られるようになってきます。百駄刈遺跡からは、当時の人々が環境の悪化と戦った苦しい生活が伝わってくるようです。

文様がほとんどなくなった
唐草文系土器

縄文時代晩期の遺跡が少ない中部高地において、野口遺跡［手良地域］からは、非常に珍しい石槨状墳墓（石積みで部屋を作った墓）が見つかっています。東西 4.2m、南北 2.5m、深さ 60 ㎝の長方形の墓の中には、7 か所に人骨の集められた場所があり、全部で 31 個体が葬られていました。全ての人骨に焼かれた痕跡があり、一度土葬した遺体を掘り出し、骨を洗い、さらに焼いたうえで何体かのグループに分けて埋葬した様子が分かりました。また副葬品とみられる土器片や石器・骨製品も大量に出土しています。そして顎の骨の分析からは、成人儀礼としての風習と考えられる「抜歯」が行われていたことも分かりました。

配石遺構　百駄刈遺跡

人骨　野口遺跡出土

縄文時代晩期の遺跡としては、ほかに末広六道原遺跡［美篶地域］があり、ここからは東海地方からもたらされた条痕文をもつ土器片が多く出土しています。伊那市の縄文時代は、気候の温暖化とともに隆盛し、寒冷化とともに衰退していきますが、土器に見られるような東海地方の人々との継続的な関係があり、次の弥生時代へと向かっていったと考えられます。

４－３　弥生時代

遠賀川系土器の壺
荒神遺跡出土

中国大陸から伝わった稲作を行い、金属器を使用する弥生文化は、まず北九州で定着した後、次第に日本中に広がっていきました。しかし、この最初に伝わった弥生文化は、土地によっては全く定着せず、長野県内でもこの時期の遺跡数は十数か所ほどしかありません。

その内の１つに、荒神遺跡［伊那(竜東)地域］が挙げられます。弥生時代前期末～中期初頭と考えられる大型の袋状土坑３基が見つかり、その１つから、弥生文化が始まり、稲作とともに九州地方から広がった「遠賀川系土器」の壺が出土しました。また、東海地方で作られた「水神平系土器」も他の土坑から見つかっています。弥生文化が九州から東海地方を経由して、天竜川沿いに北上し、伊那谷から諏訪盆地・松本平へ伝わった事がわかります。

弥生時代中期には、東日本でも広い範囲で弥生文化が浸透し、本格的に水田耕作が始まります。上伊那では天竜川右岸、自然堤防の後背湿地に広がる箕輪遺跡［箕輪町、南箕輪村］で、水路や田の畔、通路を構築するための柵とした、総延長約４㎞の木杭の列が見つかっています。水田跡はまだ見つかっていませんが、当時の水田耕作はこのような河川に隣接する低湿地帯で営まれていたことが分かる貴重な発見となりました。市内ではこの頃の様子が分かる遺跡がありませんが、段丘の突端部にある中村遺跡［西春近地域］では、中期初頭から後半にかけての土器片が多く出土しています。段丘端部に集落を営み、そのすぐ下の低湿地で水田耕作を行っていた当時の生活がうかがえます。

弥生時代後期になると、市内でも集落遺跡が見られるようになります。市内に 82 か所ある弥生時代の遺跡ですが、これまで弥生時代の遺跡の発掘事例も少ない事もあり、遺構も出土品もこの時期のものが大半を占めます。宮の平遺跡［手良地域］は、山麓の最も奥まった位置にありますが、６軒の住居址が見つかりました。遺跡のすぐ北には天竜川支流の棚沢川が流れており、近辺で水田の遺跡が見つかる可能性が高く、弥生時代後期ならではの新しく開かれた小規模集落の在り方が分かります。しかし、このような小河川に沿ってできた小規模集落は長く継続せずにすぐに断絶してしまうのが特徴です。氾濫しやすい河川のそばで暮らすため、水田や居住地が水害を受けると別の土地に移動して、新しく集落を作っていったためです。

竪穴住居 鳥井田遺跡

一方、それとは対照的に、恵まれた自然条件のもと、西春近地域の鳥井田、横吹、城の腰のように３つの遺跡にまたがる、規模の大きな集落遺跡も形成されました。ここでは、500m四方の中に、弥生時代後期の住居址 24 軒が発見されました。この３遺跡はそれぞれ一部分が調査されたのみで、全面的に調査されれば１つの大集落になると考えられています。この集落遺跡のすぐ南側は段丘崖となっており、そこからの湧水により広大な湿地帯が形成され、弥生時代後期を通して、安定した生産基盤

弥生土器 鳥井田遺跡出土

が築けたと考えられています。住居址の１つからは鉄片が出土しており、弥生時代後期には伊那市域で鉄器が確実に用いられていたことが分かります。

この他にも、中村遺跡［西春近地域］では、６軒の住居址とそれを丸く囲むように幅２ｍ、深さ 1.5ｍの環濠（かんごう）がある集落が見つかっています。一番大きな住居址からは、最も多くの土器や石器が出土したほか、ヒスイ製の勾玉（まがたま）が１点出土しています。水田耕作により人々の暮らしは豊かになる一方で、財産などをめぐり争いが起こるようになったため、集落や財産をこのような環濠で守る必要が出てきたと考えられます。

ヒスイ製勾玉（まがたま）　中村遺跡（なかむらいせき）出土

コラム
伊那の地に初めて稲作を伝えた人達の足跡、「荒神遺跡（あらがみいせき）」

平成 30 年(2018 年)、国道 153 号伊那バイパス建設工事に伴う調査で、荒神遺跡［伊那(竜東)地域］から、弥生時代前期末～中期初頭と考えられる大型の袋状土坑３基が見つかり、その土坑の１つから、「遠賀川系土器」の壺が見つかりました。

大陸から北九州の遠賀川流域に稲作文化が伝わり、そこで作られていた土器の形とともに、稲作は日本中に拡がっていきました。胴部が丸く大きく突き出した壺は、弥生文化の始まりと広がりを示す土器なのです。袋状土坑は西日本では貯蔵庫として使われるものですが、ここではおそらく墓として掘られたもので、「遠賀川系土器」の壺も完形ではないため、割れた物を副葬品として納めたものと考えられます。「遠賀川系土器」は長野県内でも 13 遺跡でしか出土しておらず、しかも小片が多いので、壺全体の形が分かる今回の出土品は、非常に貴重な資料となります。また、「遠賀川系土器」と一緒に出土する東海地方の「水神平系土器」も土坑から出土しており、稲作文化が天竜川を遡（さかのぼ）ってこの地に入り、さらに北へと伝播（でんぱ）していったことが明確となりました。

荒神遺跡の調査の様子

袋状土坑（ふくろじょうどこう）より出土した
遠賀川系土器の壺

４－４　古墳時代

３世紀後半から８世紀初頭にかけて、土を高く盛り上げて造った墳丘をもつ墓、古墳が造られた時代が古墳時代です。

伊那市域には、昭和 36 年(1961 年)の時点では 243 基もの古墳があったとされています。上伊那郡全体で当時 407 基の古墳があったとされるので、６割の古墳が伊那市域に集中していました。しかしその後、開発などで古墳の破壊が進んでしまい、現在伊那市には 87 基の古墳(前方後円墳１基、円墳84 基、方墳２基)が、上伊那郡では 176 基の古墳が残されているのみです。『伊那市史』(昭和 58 年(1983 年))では、市内の古墳は全て古墳時代後期(６世紀代)後半以降の築造と推定されていましたが、実際の築造時期は不明でした。

東春近地域にある老松場古墳群では、平成 29 年(2017 年)から６回、発掘調査が行われました。前方後円墳である老松場１号墳は、墳丘の形と粘土槨(棺を粘土で覆った埋葬施設)が見つかったことから、築造年代が古墳時代中期前半頃(５世紀前半頃)とわかりました。

老松場１号墳の隣にある円墳、２号墳の発掘調査では、出土した土器から古墳時代中期中葉から後葉(５世紀中葉～後葉)であることがわかりました。古墳時代後期(６世紀代)以降、古墳の埋葬施設として横穴式石室が用いられるようになります。しかし、天竜川左岸の段丘上にある古墳のほとんどは墳丘の高さが２ｍ未満で、横穴式石室を造るには高さが足りません。老松場古墳群が古墳時代中期前半から造られ始めたことから、天竜川左岸の古墳群も古墳時代中期前半以降に造られたものが多いと考えられます。

昭和 47 年(1972 年)に
発掘調査された名廻東古墳

伊那市には、古墳時代の集落遺跡が 14 か所あります。最も多く古墳が集中する旧伊那市域で、天竜川左岸で８か所、天竜川右岸で１か所が集落遺跡とされているのみで、住居址もわずか４遺跡で６軒しか見つかっていません。しかし、古墳群の立地から集落遺跡があったと考えられる場所が、他にも分かってきました。円墳はある一定の地域を束ねる力を持った首長(今で言えば町長、村長クラス)の墓であり、自らが治めていた集落や生産域がよく見える場所に築造します。伊那市域の古墳の立地を見ると、老松場古墳群がある東春近地域では、低位段丘上の端部に北から南へと 41 基の古墳が並んでおり、段丘直下のやや高い平坦面に現在の集落が、少し離れた場所に天竜川の湿地帯が望めます。三峰川以北、伊那(竜東)地域の上牧や福島も同様で、段丘端部の南北に 32 基の古墳が並び古墳群の直下に現在の集落があります。市の遺跡地図では古墳時代の集落遺跡とされていない段丘直下のやや高い平坦面ですが、ここに古墳群を築造した人々の集落遺跡がある可能性が高いのです。現在の住宅地と古墳時代の集落の範囲が重なっているために、遺跡が発見できていないのかもしれません。そして、天竜川の氾濫原であ

上牧古墳群の古墳
天竜川左岸には低墳丘墳が多い

老松場古墳群上空から
天竜川西側の段丘を望む

る湿地帯には、現在と同じように水田が広がっていたことでしょう。

次に前方後円墳である老松場１号墳の立地を見てみます。前方後円墳は、今の県知事クラスの人物のお墓にあたり、埋葬されたのは現在の市域よりさらに広い範囲を治めていた首長です。古墳から望める天竜川右岸の段丘上には、ヤマト王権が整備した交通路である古東山道がありました。主要道路であった古東山道や集落があった天竜川右岸の段丘からも良く見えるように意識して造られました。老松場１号墳の造られた時期は、長野県内の前方後円墳の造営地が、長野盆地から伊那谷南部に移った時期です。その時期に、長野盆地と伊那谷南部のちょうど真ん中に位置する伊那市に、前方後円墳が造られたということになり、長野県の古墳時代を考える上で鍵となる古墳となっています。

コラム

老松場古墳群、小学生が発見した前方後円墳
―最近の調査成果でわかってきた伊那市の古墳時代―

平成 27 年(2015 年)、地元有志と東春近小学校の児童によって木々や藪に覆われていた老松場古墳群が公園として整備されました。古墳について学んでいた東春近小学校の児童から、円墳または双円墳とされている老松場古墳群の１号墳は、前方後円墳なのではないかとの疑問が出されました。児童らが学芸員の指導を受けながら行った測量の結果、前方後円墳とわかり、全国の古墳研究者を驚かせました。その後始まった市教育委員会と関西大学文学部考古学研究室による測量・発掘調査により前方後円墳であることが確認され、築造時期は古墳時代中期前半頃(５世紀前半頃)の可能性が高まりました。また、築造当初は葺石で装飾されていたことも分かりました。上伊那地域の前方後円墳は、箕輪町松島に所在する松島王墓古墳のみでしたが、２例目の発見となり、南信地方では最も古い前方後円墳となりました。

また、令和３年(2021 年)、令和５年(2023 年)には、老松場１号墳の隣にある円墳、老松場２号墳を発掘調査しました。その結果、出土した土器から築造年代が５世紀半ばから５世紀末である事がわかりました。これまで市内の古墳は全て６世紀後半(古墳時代後期)以降の築造とされていましたが、全ての古墳について築造時期の見直しが必要となってきています。

また、令和元年(2019 年)、令和４年(2022 年)に行った、西春近南小学校遺跡［西春近地域］の発掘調査では、老松場１号墳とほぼ同時期、４世紀末から５世紀半ばの住居址３軒が見つかりました。実はこれまで古墳時代の集落遺跡があるとされていなかった天竜川右岸にも、人々が暮らしていたのです。

測量をする児童

老松場１号墳発掘の様子

西春近南小学校遺跡の古墳時代の住居址

４－５　奈良・平安時代

奈良時代は和銅３年(710 年)から平城京（現在の奈良市）に都が置かれた時代、平安時代は延暦 13 年(794 年)から平安京（現在の京都市）に都が置かれた時代です。しかし、それ以前の７世紀後半より、当時の日本は中国で成立した律令を取り入れ、都を中心とする中央集権的な国家体制となっていきました。

奈良県の藤原京（持統８年(694 年)～和銅３年(710 年)）から発掘された木簡の中には、「科野国伊奈評　大贄」と書かれたものがあります。この頃には全国 60 あまりの国の１つとして「科野国」が成立し、天竜川流域には現在の上伊那と下伊那を合わせた「伊奈評」があって、ここから都へ税の貢納がされていました。

大宝元年(701 年)制定の大宝律令では、「国評里制」が改められ、「国郡里制」となります。全国は五畿七道に区分され、その下に国・郡・里(後に郷に改められる)が置かれ、信濃国には伊那郡、諏訪郡を始め 10 の郡が置かれました。平安時代中期に書かれた『和名類聚抄』には、伊那周辺とみられる３つの郷が載っています。

源　順　撰『倭名類聚鈔』
(寛文３年(1663 年)村上勘兵衛出版)
国立国会図書館
デジタルコレクションより

「伊那郡　福智郷」は富県地域の南福地・北福地・貝沼を中心とした天竜川の東側、北は三峰川、南は小渋川までの範囲とされ、「伊那郡　小村郷」は天竜川西側の小沢川以南、西春近、宮田村一帯と考えられています。小村郷から都へは布が納められており、「信濃国伊那郡小村郷交易布一段、天平十年十月」と書かれた布袋が正倉院に現存しています。「諏訪郡　弖良郷」は現在の手良地域を中心とする郷で、天竜川の東側、三峰川以北の地で、東は藤沢川までの範囲といわれています。

各郷、どの中心地にも弥生時代の遺跡や古墳時代の古墳があり、その頃から続く集落や生産基盤が奈良･平安時代に受け継がれ、豊かな地域が広がっていたと考えられます。

都と各国を結んだ東山道は官道で、近江の勢多駅(現在の滋賀県大津市)を起点とし、美濃(現在の岐阜県南部)から信濃へ入り、上野(現在の群馬県)を抜けて最終的に陸奥の国府(現在の宮城県多賀城市)へつながる道でした。東山道には一定の距離ごとに「駅」が置かれ、公用に使う馬が配備されていました。平安時代初期の宮中行事や制度などを記した『延喜式』には、信濃国に置かれた 15 の駅名が見え、上伊那を通る各駅もおおよその位置が分かっています。伊那市域に駅はありませんが、南北にある駅の場所から、天竜川の西側を通っていたと考えられます。東山道以前には、「古東山道」と呼ばれる古墳時代のヤマト王権が東北地方の支配を目的として整備した道がありましたが、こうした古くからの重要な道を一部利用して、東山道が整備されたと考えられています。

この時代、交通・運輸や軍事の点から馬は非常に重要であり、その飼育が全国各地で積極的に行われました。『延喜式』には、朝廷用の馬を飼育する「御牧」が長野県内に 16 あったことが記されています。上伊那には平井弖牧(現在の辰野町平出)、笠原牧(現在の伊那市美篶笠原)、宮処牧(現在の辰野町伊那富、宮所)の３つが置かれていました。美篶地域の笠原には、現在でも「駒石」、「駒形」、「ませぐち」、「牧垣内」などの牧に関係あると思われる地名が残っています。

奈良時代以降、有力貴族や寺社の土地所有が全国に広がりましたが、平安時代後期には、伊那周辺にも諏訪上下社領の「藤沢黒河内」や近衛基道の所領(殿下渡領)「蕗原庄」、左馬御寮領の

「笠原御牧」、「春近領」といった荘園があったことが知られています。『古今著聞集』には９世紀の長谷にまつわる説話が収められています。鷹飼の依田豊平が京都で天皇秘蔵の鷹を飼いならし、名鷹に育て上げたことから、「ひちの郡」(長谷非持)に土地と屋敷を賜ったという話です。後に依田豊平は、荘園の役人(荘官)を意味する「検校」という言葉を冠して「ひちの検校豊平」と呼ばれています。当時の伊那も例外なく荘園制の下にあり、人々は依田豊平などそれぞれの領主や荘官の支配を受けながら暮らしていたのです。

検校塚(市指定文化財)

市内には奈良時代の遺跡が 32 か所、平安時代の遺跡が 150 か所あります。当時の遺跡から出土した考古資料を手掛かりに、人々の暮らしをみていくと、これらの遺跡の立地は、段丘端部や小河川沿い、山際にあり、弥生時代、古墳時代の集落と重なる所が多く、大河川流域の湿地帯や小河川沿いの山際で水田耕作を行っていたと考えられます。

菖蒲沢遺跡［西春近地域］は奈良・平安時代の集落遺跡です。中央自動車道建設の際には、奈良時代の竪穴住居が 10 軒見つかりました。その中の１つは、他より２倍近く大きなもので、その一番大きな住居を取り囲むように集落が営まれていました。

和同開珎
下手良中原遺跡出土
(市指定文化財)

勧前遺跡［伊那(竜西)地域］は、奈良時代末から平安時代前期(８世紀末～９世紀中頃)まで続く集落遺跡です。上伊那では珍しい掘立柱建物が多い遺跡で、これまでに調査された部分だけで竪穴建物８軒、掘立柱建物 34 棟が見つかっています。遺跡の南半分は、豪族の居住空間となっており、一般的な竪穴建物の４倍の面積がある鍛冶場であった大型の竪穴建物や、それをコの字型に囲む掘立柱建物群がありました。その北側には、地方官衙(出先の役所)の役割をもつ、大型の掘立柱建物が方向をそろえて一列に並ぶ建物群がありました。この遺跡から西へ１㎞の場所に東山道が南北に走り、その駅と駅の中間地点にも位置しています。この時期の地方の豪族が鉄製品や特産品である麻織物などを生産しながら、地方の役人を務めていた事が分かる重要な遺跡です。

大型の掘立柱建物群 勧前遺跡

福島遺跡［伊那(竜東)地域］は、平安時代の諏訪郡弓良郷の集落の１つとみられる遺跡です。天竜川の東、棚沢川の北にある段丘端部にあり、市内では他に類を見ない平安時代の大規模集落で、これまでの調査で住居址が約 30 軒見つかりました。１つの集落に大小の竪穴住居があり、大きな住居は下位の役人の家であったとみられ、大量の貯蔵用土器や官人が身に着ける革帯(ベルト)の銙(飾り金具)、石帯(ベルトの飾り)などが見つかっています。この頃には、農民の中から生まれた富裕な者が政治に関わり、人々の間に主従関係が生まれていたと考えられます。

緑釉陶器皿　金鋳場遺跡出土
(市指定文化財)

このほか市内の遺跡からは、市指定文化財の和同開珎(下手良中原遺跡［手良地域］)、緑釉陶器皿(金鋳場遺跡［西箕輪地域］)、経筒と和鏡(下牧経塚［西春近地域］)が出土しています。

緑釉陶器皿が出土した西箕輪地域の金鋳場遺跡では、平安時代の製鉄遺構が見つかっており、ここで鉄生産が行われていたこと、また鉄を背景とした経済力によって、当時希少であった緑釉陶器を所有できる裕福な人物がいたことがわかりました。

金鋳場遺跡のある西箕輪地域には、平安時代に開かれた天台宗の古刹仲仙寺があり、古くから仏教との関わりが深い地域ですが、この西箕輪地域と西春近地域には、仏教の経典や仏具などを埋めて供養した「経塚」という地名がいくつもあります。西春近地域の下牧経塚からは、複数の経筒や和鏡、刀子が出土しており、平安時代末期から鎌倉時代初頭にかけて、伊那においても仏教信仰が広がりをみせ、人々の間に浸透していったことがうかがえます。

経筒 下牧経塚出土
（市指定文化財）

コラム
平安時代前期の豪族の暮らしがわかった「勧前遺跡」

勧前遺跡は、平安時代前期の豪族居宅と地方官衙（役所）と考えられる建物群が発見された上伊那地域でも珍しい遺跡です。

南側の建物群の中心となっている竪穴建物は、一辺が 10ｍもある（一般の竪穴建物は一辺が４～５ｍ）大型の竪穴建物です。建物内で鍛冶を行っていた様子が見られ、鉄鏃や小刀、苧引き金具（麻皮剥ぎ器）など鉄製品がたくさん出土しました。また、「生」という字が書かれた土器や、集落の長を表す「家長」と書かれた土器など、墨書土器がたくさん出土しました。南側の建物群は、この集落と周辺一帯を治めていた豪族の鉄器生産拠点で、この建物を取り囲む建物群が居宅や倉庫だったのでしょう。

北側の建物群の中心にある掘立柱建物は、建物を支える柱の数が 16 本もある（一般的な掘立柱建物は６本）大型建物で、上伊那地域ではこれほどの規模の掘立柱建物が見つかるのは初めてです。この建物を中心に、南北に２棟ずつ掘立柱建物が一列に並んでいました。これらの掘立柱建物の柱の穴は長さ１ｍ、幅 70 ㎝の長方形の穴で、一般的な直径 50 ㎝の円形の柱の穴とは異なる形をしていました。この長方形の柱穴は、官衙（役所）や寺院など特別な建物に用いられる掘り方で、一列に並んだ掘立柱建物群は、地方の役所としての役割を果たしていたものと考えられます。

平安時代前期の地方の豪族が、居住空間に隣り合った場所に役所的な建物を持ち、地方の役人も務めていたことが分かる重要な遺跡となりました。

大型の竪穴建物

文字が書かれた土器

大型の掘立柱建物

長方形の柱穴
（手前半分を掘った様子）

４－６　鎌倉・室町時代

鎌倉時代に関わる西春近の伝承に、犬房丸伝説があります。富士の巻狩りで父の仇討を遂げた曽我兄弟の物語は有名ですが、この時曽我兄弟に殺された鎌倉幕府の有力御家人、工藤祐経の息子が犬房丸です。源頼朝の怒りを買い伊那に流罪となった犬房丸は、西春近地域の小出で生涯を終えたと伝えられています。犬房丸伝説の真偽は定かではありませんが、鎌倉時代初期の春近領では、鎌倉幕府の御家人で工藤氏一族の小井弖氏が勢力をもっており、犬房丸が小井弖氏の影響下で過ごしたとされるこの伝承は、幕府と伊那の氏族の関係を知る上で興味深い話です。

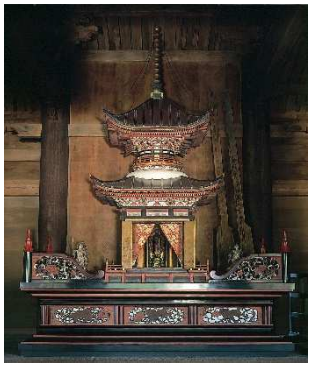
犬房丸の墓

また、伊那の鎌倉時代を語る上で、隣接する諏訪との関係は欠かせません。高遠、長谷一円にあたる２つの荘園「黒河内庄」と「藤沢庄」は、源頼朝によって社領として諏訪社上社(現在の諏訪大社上社)に寄進された地域ですが、この地域の領主には藤沢氏や高遠氏といった諏訪氏の一族が就いています。また、諏訪社の造営や神事の度に、黒河内庄や藤沢庄の村々ばかりでなく、周辺の村々にまで人足の負担が求められるなど、諏訪社の影響を大きく受けた土地でした。

南北朝時代の伊那は、南朝と関わりの深い地域でもありました。後醍醐天皇の第八皇子、宗良親王は、足利尊氏に敗れた南朝方の再興を図るため、大河原(現在の下伊那郡大鹿村)に拠点を置き、地域の有力者の力を借り、中央構造線の影響でできた谷筋(後の秋葉街道)を行き来しながら活発に活動しました。宗良親王に関わる伝承を持つ史跡が長谷地域、高遠町地域には多く遺されています。

宗良親王も利用していた、長谷から高遠町山室、荊口、芝平を抜けて諏訪盆地に至る道は、「法華道」と呼ばれ、平安時代に最澄が法華信仰(天台宗)を伝えた道です。室町時代には日蓮宗の布教にも使われました。街道沿いにある遠照寺の釈迦堂は、室町時代後期に建てられた建物で、内部の多宝小塔とともに国の重要文化財に指定されています。これらは、日蓮宗と深いつながりがあり、優れた技術を持った大工集団である池上一門の職人が建てたものです。彼らは高遠、長谷周辺を拠点に広域に活動していましたが、後に甲斐(現在の山梨県)の武田氏に抱えられ、技術面から戦国大名をサポートするようになっていきました。

遠照寺釈迦堂
(国指定重要文化財)



遠照寺釈迦堂内の多宝小塔
(国指定重要文化財)

伊那周辺は長野県内でも城館跡が多いことで知られています。早いものは鎌倉時代、大半は室町時代から戦国時代に築かれたものとみられ、地域の有力者の館跡から、戦に備えて築かれた山城や狼煙台に至るまで、様々な城館跡があります。

15 世紀から 16 世紀にかけて、伊那市域には比較的狭い地域ごとに領主が存在し、それぞれに上下関係や協力関係の秩序を保ちながら、時に大きな勢力に向かう際には、地域が一体となった行動をとっていました。応永７年(1400 年)の大塔合戦に参加した「藤沢」・「笠原」・「大島」・「春近の人々」・「山田」・「小

井弖」・「沢堂」や、永享12年(1440年)の結城合戦に参加した「藤沢殿」・「甲斐沼殿」・「小井弖殿」、武田信玄(晴信)が上伊那へ侵攻した際に最後まで抵抗した「溝口」・「黒河内」・「伊奈部」・「殿島」をはじめ、他にも「市瀬」・「浦野」・「御園」・「福島」といった多くの地侍が伊那周辺におり、それぞれに城や館を利用していたと考えられます。

市内では特に富県地域に城が多く、字名ごとに１つ程度、城跡と伝えられる場所がありますが、これらも戦に備えて築かれた城ではなく、地域の有力者の居館跡であるとみられています。

富県の城館跡群の１つ 竹松城

４－７　戦国・安土桃山時代

戦国時代、信濃へ攻め入った甲斐の武田信玄は、天文11 年(1542 年)に諏訪を手に入れると、続いて高遠氏を攻め、天文 14 年(1545 年)に高遠を手中に収めました。高遠は諏訪から伊那谷へ抜ける交通の要衝で、駿河(現在の静岡県東部)や遠江(現在の静岡県西部)に進出するための重要な地点であったことから、信玄は天文 16 年(1547 年)に高遠城を修築し、城主に武田(諏訪)勝頼や武田信廉など、自分に近しい人物を置いて伊那一帯を治めさせました。

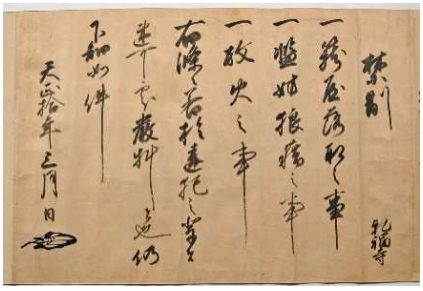
仁科五郎盛信肖像

信玄が死去した後、武田家を継いだのは武田勝頼でしたが、長篠の戦いで織田信長に敗れると、武田家は急速に勢力を失っていきました。天正 10 年(1582 年)、織田信長は武田家を滅ぼすため、嫡男の信忠を大将として、尾張(現在の愛知県西部)から信濃へ侵攻してきました。

当時の高遠城主は信玄の五男、仁科盛信(信盛ともいわれる)で、織田の大軍を相手に奮戦しましたが、高遠城は落城し、盛信も自害しました。この戦いは「高遠城の戦い」として後世まで語り継がれ、この時に織田軍が持ってきた梵鐘、鰐口、陣太鼓や織田信忠が陣を敷いたと伝えられる「一夜の城」、混乱から地域を守ろうとした村人たちが織田軍から入手した「禁制」などが今に伝えられています。

一夜の城

武田氏滅亡から３か月後、本能寺の変によって織田信長が命を落とすと、領主が不在となった信濃国は混乱に陥りました。伊那でも高遠城や周辺領地をめぐる争いが起こりましたが、最終的に高遠城を押さえ、伊那周辺を手に入れたのは、武田家の旧臣、保科正直でした。その後、正直は徳川家康の家臣となりましたが、豊臣秀吉の命により関東移封となった家康に従って、天正 18 年(1590 年)に下総国(現在の千葉県)へ移りました。



建福寺文書　織田信忠禁制
(市指定文化財)

秀吉政権の下、伊那周辺は毛利秀頼や京極高知の領地となりましたが、高遠城に城主は置かれず、代官が派遣される形で統治されました。秀吉が亡くなり、関ヶ原の戦いを経て徳川の世となると、再び保科氏が高遠城に戻ることとなり、かつて城主であった保科正直の子、正光が高遠城主に就きました。

地域が混乱に陥った安土桃山時代の末期、本能寺の変からわずか 20 年余りの間に、目まぐるしく領主が替わる中でも、人々は時勢を読みながらたくましく生き抜き、江戸時代を迎えたのです。

コラム　発掘調査で見つかった一夜の城の堀

平成 23 年度(2011 年度)に行われた一夜の城の発掘調査では、南側の土塁の外側に、深さ２ｍ、幅５ｍ以上もの空堀があることが確認されました。一般的に陣城には堀はありません。堀があったことや出土品の年代から、地元有力者の居館を織田軍が占拠し、陣城として利用した可能性が指摘されています。

４－８　江戸時代

戦乱の世が終わり、慶長８年(1603 年)に徳川家康が江戸幕府を開きましたが、徳川政権の下、伊那周辺は高遠城主が治める高遠領(高遠藩)と幕府領(天領)に分けられました。現在の手良、福島、西箕輪は幕府領で、一部が箕輪領に入った時期もありましたが、代官支配地、旗本知行所、預り地が様々に入り組み、隣村同士で支配者が異なるという状況も生まれていました。

高遠領を治めた大名は保科氏、鳥居氏、内藤氏の３家です。当初の領地は２万５千石でしたが、度々加増され、内藤氏が入封した元禄４年(1691 年)には、３万３千石となりました。その頃の高遠藩の領域を現在の市町村に置き換えると、前述の幕府領を除く伊那市域、宮田村、駒ヶ根市の一部(東伊那、中沢)、辰野町の一部、塩尻市洗馬、東筑摩郡朝日村の一部です。

江戸時代の高遠は、政治の中心地であるばかりでなく、多くの人や物が集まる経済・文化の中心地でもありました。もともと鉾持神社や建福寺の門前町であった西高遠は、江戸時代になると城下町として発展し、伊那谷と諏訪を結ぶ杖突街道(金沢街道)(※)の宿駅でもあったことから、非常に賑わいました。三峰川右岸の狭い範囲に 10 の町が区分けされ、様々な商家や職人が軒を連ねました。弘化２年(1845 年)の 10 町の人口は 3,003 人で、幕末の文久３年(1863 年)に三峰川左岸に２つの新町が建設された後は、さらに人口が増えました。

高遠城下の様子　『高藩探勝』(市指定文化財)より

江戸時代の伊那市域には遠隔地を結ぶいくつかの街道が通っていましたが、杖突街道(金沢街道)と直交する形で、伊那谷を南北に走っていたのが伊那街道です。

伊那街道は塩尻(現在の塩尻市)から三河(現在の愛知県東部)へ抜ける街道で、中山道の脇往還でした。荷物を輸送する民間業者「中馬」が盛んに往来したことから、別名「中馬街道」とも呼ばれました。目的地間を早く安く行き来する中馬は、地場産業の振興や商品経済の発展に一役買い、地域の流通経済を支えました。

伊那部宿酒屋旧井澤家住宅
(市指定文化財)

南北朝時代に宗良親王が盛んに利用していた中央構造線の谷を南北に通る道(現在の国道 152 号)は、江戸時代になると信仰の道「秋葉街道」として多くの人が行き来するようになりました。火災が多かった江戸時代、火伏の神を祀った秋葉神社(現在の静岡県浜松市)を参詣する「秋葉参り」が全国的に流行したためです。沿線には、当時の秋葉信仰を物語る石造物などが、現在も遺されています。

街道の発達は、文化の交流にもつながりましたが、秋葉街道を通って入ってきた文化の１つに歌舞伎芝居があります。娯楽が少なかった江戸時代、村人たちが旅芸人から歌舞伎を教わり、自分たちで演じるようになったのが農村歌舞伎で、長谷の中尾では「中尾歌舞伎」として現在も受け継がれています。

江戸時代以降、街道沿いや集落の入口には、道標や道祖神、馬頭観音、庚申塔といった石造物が

数多く造られました。これらの石造物を造ったのが、「高遠石工」とよばれる職人たちです。

高い技術が評判を呼んだ高遠石工は、伊那周辺だけでなく全国各地へ出かけ、石造物を刻みました。農閑期の副業として旅稼ぎをする者もいましたが、当時の石工はほかの職人と比べて給金がよく、仕事が豊富だったこともあり、専業の石工として旅稼ぎに出る者が多くいました。江戸時代末期、幕府が諸外国の脅威に備え、品川御台場を築いた際にも、多くの高遠石工が工事に関わっています。

集落入口に立つ道祖神や庚申塔

江戸時代、長谷地域の三峰川源流に近い山々は、「御立山」と呼ばれ、高遠藩によって厳しく管理された場所でした。隣接する５つの村は木地郷に指定され、村人たちは、山の監視や伐採、搬出といった仕事を担いました。長谷の山から切り出された材木は、質がよいと評判が高く、「筏下し」といって筏に組んで三峰川から天竜川、太平洋を経由して江戸まで送られ、江戸市中の橋の架け替えや江戸城天守閣の建築用材としても使われました。

守屋貞治作　准胝観世音
（市指定文化財）

天竜川や三峰川が形づくる河岸段丘の段丘面や、天竜川支流が形づくる扇状地は、江戸時代初期までは水が得にくく、荒れた原野が広がる土地でした。江戸時代後期、用水建設に尽力した伊東伝兵衛は、高遠、富県、東春近の広範囲を潤した「伝兵衛井筋（鞠ヶ鼻井筋）」を建設したことで知られています。他にも江戸時代後期から明治時代初頭にかけて、「六道の堤」や「月蔵井」、「木曽山用水」、「艶三郎の井」などが造られ、市内各所で新田開発が進みました。こうした用水の多くは現在まで受け継がれ、稲穂が豊かに実る伊那市の礎となりました。

江戸時代、地方の教育を担ったのは、武士が通った藩校と、武士以外の人々が通った学校（寺子屋や私塾）の２系統がありました。

高遠藩が開いた藩校は「進徳館」で、漢学（儒学）と筆道、武術を中心に教えられました。万延元年（1860 年）の開校からわずか 10 年余りで藩校の役目を終えましたが、通算 500 人ほどの生徒が通ったといわれています。伊澤修二や中村弥六など、日本の近代化を支えた人材を世に送り出したほか、教師になり長野県内各地で教壇に立った人もたくさんいました。

進徳館
（国指定史跡高遠城跡内）

上伊那地域は全国的にみても寺子屋や私塾が多い地域であったといわれ、伊那市域にも数多くの寺子屋や私塾がありました。寺子屋では、読み書きや算盤（算術）、四書などの素読や詩歌、俳諧、謡い、作法などが多岐にわたって教えられ、私塾ではより高度な漢学、国学などの学問も教えられていました。このように、江戸時代後期の伊那は学問が盛んな地域で、様々な学びを通して成長した人々が、地域を支えていました。

※伊那から高遠城下を経由して諏訪方面へ向かう場合、御堂垣外宿までは、杖突街道、金沢街道ともに同じ道筋であるため、両者の名称が混在して使われることがありますが、ここでは伊那方面から御堂垣外宿までを「杖突街道（金沢街道）」と表記します。
御堂垣外宿の分岐より北へ、杖突峠を越えて諏訪方面へ向かう道筋は「杖突街道」、御堂垣外宿の分岐から東へ、金沢峠を越えて金沢宿へ向かう道筋は「金沢街道」と分けて表記します。

４－９　明治・大正・昭和初期

江戸時代が終わり、明治政府の下で新たな時代が幕を開けると、社会の仕組も大きく変わりました。幕府領であった手良、福島、西箕輪は新たに成立した伊那県の管轄となり、高遠藩も明治４年(1871 年)の廃藩置県で、高遠県となりました。さらに同年の府県統合で伊那県と高遠県は筑摩県になりましたが、明治９年(1876 年)に筑摩県が長野県と合併したことから、伊那周辺も長野県の管下になりました。明治 12 年(1879 年)には、長野県の下に上伊那郡が誕生しています。

府県統合の影響を受けて、大きく様変わりした場所は高遠城です。高遠県がなくなると、城内の役所建物は不要になり、取り壊しが進んだ結果、明治６年(1873 年)には完全に更地となりました。その後、明治政府が進めていた公園づくりの方針を受け、明治８年(1875 年)に城跡に誕生したのが高遠公園です。全国でも早い時期に誕生した公園で、翌年には早速、公園の景観をつくるために桜が植えられました。その後も段階的に補植されていった桜は、全てタカトオコヒガンザクラという固有種で、大正時代には樹林となった満開の桜の下でお花見を楽しむ風景が生まれました。

満開のタカトオコヒガンザクラ
（大正時代）

江戸時代の町や村は、明治時代初期に再編成され、明治 21 年(1888 年)に町村制が敷かれると、大掛かりな町村合併(明治の大合併)が行われました。明治 22 年(1889 年)に現在の伊那市域には 14 の町村が生まれましたが(詳細は資料編に掲載)、上伊那郡役所が置かれた伊那村は、坂下(入舟)や山寺、荒井(通り町)を中心に大きく発展し、明治 30 年(1897 年)に「伊那町」が誕生しました。街道沿いには多くの商店が建ち並び、大衆文化施設である演芸場や映画館などが作られ、昭和５年(1930 年)には地域の教育・文化の向上に貢献した上伊那図書館が開館しています。

町の発展には、交通事情の変化も大きく影響していました。明治時代に入り、人や物資の移送手段が徒歩から馬車へと変わり、それに併せて道路整備も進みました。伊那街道は三州街道と名称を変え、明治 20 年代の大改修で新道に付け替えられると、市街地は新道沿いにも広がっていきました。

小沢川鉄橋を渡る伊那電気鉄道
（丸竹書店発行絵葉書より）

明治 40 年(1907 年)には、三州街道と並行する形で伊那谷を南北に結ぶ軌道「伊那電気鉄道」(現在のＪＲ飯田線)の建設が始まり、５年後に「伊那町駅」が開業しました。短時間で大量の物資を輸送できる鉄道は交通の主役となり、伊那町は旧城下町の高遠をしのぐほどに成長していきました。

伊那町の商店街に電灯がともったのもこの頃で、大正２年(1913 年)に運転を開始した小黒発電所で発電した電力が、伊那町周辺に供給されました。大正５年(1916 年)以降、この電力は電気鉄道へも供給されるようになり、地域の足を支えました。

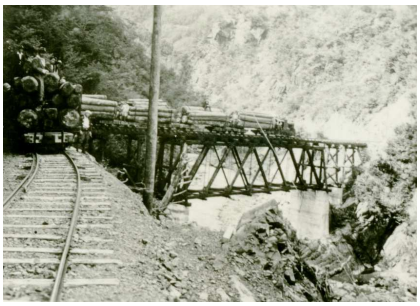
大正８年(1919 年)には伊那町と高遠を結ぶバスの運行が始まり、さらに藤澤御堂垣外や長谷市野瀬まで路線は延びました。

伊那・高遠間を走ったバス

近代の地域の産業を語る上で欠かせないのは、蚕糸業です。元々伊那谷は養蚕が盛んな地域で、多くの家庭で養蚕を営んで

いました。生糸の輸出増加に伴う繭の需要の高まりとは裏腹に、利益が少なかった養蚕家たちの生活を守るため、東春近の飯島国俊は全国初の試みとして、養蚕家が製糸まで行う、組合製糸の「上伊那合資会社」を立ち上げました。自分たちが育てた繭から生糸を生産し、販売することで、労力に見合った収益をあげることができるようになり、各地で同様の組合が立ち上がりました。蚕糸業の発展は伊那の経済を支え、あちこちに桑畑が広がる風景を作り出し、製糸の機械化が進むにつれ、大きな工場ができました。

江戸時代、高遠藩が管理していた三峰川源流域の山々は、近代になると国有林になりました。材木の運搬には川を利用していましたが、大正時代になると水力発電用のダム建設が始まり、材木を川に流すことが次第に困難になっていきました。そこで川流しに代わったのが森林鉄道で、昭和 14 年(1939 年)に三峰川沿いの浦地区と、三峰川支流の黒川沿いの黒河内地区に森林鉄道が建設されました。昭和 30 年代に廃止されるまで、材木ばかりでなく、山で生産した木炭や沿線の山域で暮らす人々の生活物資の運搬、子ども達の通学などに利用され、地域の足となりました。



瀬戸峡を走る森林鉄道
(昭和 17 年(1942 年))

近代は戦争の時代でもあります。日清戦争に始まり、日露戦争、第一次世界大戦、日中戦争からアジア太平洋戦争に至るまで次々と戦争が起こりました。伊那と戦争の関わりを語る上で象徴的な遺跡が、旧陸軍伊那飛行場(熊谷陸軍飛行学校伊那分教所)跡地です。上の原の広大な段丘面を利用して、昭和 18 年(1943 年)に建設が始まり、地域住民の動員や学生の勤労奉仕などによって造られました。格納庫や弾薬庫の遺構が現在も遺されています。

旧陸軍伊那飛行場跡地

世界恐慌を契機に衰退の一途を辿った蚕糸業でしたが、戦時中には空き工場となった製糸工場跡には、大都市圏から次々と工場疎開が行われました。当時は飛行機部品といった軍需品の生産が行われていましたが、終戦後もこれらの企業は伊那の地に残り、現在の製造業が多い状況につながっています。

４－１０　現代(太平洋戦争後)

近代以降、上伊那郡の政治・経済・流通の中心地として急速な発展を遂げた伊那町には、天竜川と並行して通る街道・鉄道沿いに南北 2.5 ㎞の中心市街地が形成されました。発展を続ける一方、軒を連ねた木造板葺きの建物は防火対策が不十分で、何度も火事にあってきました。昭和 24 年(1949 年)に通り町一丁目の商店街を焼き尽くした「通り町大火」をきっかけとして、火事に強いまちづくりが行われ、大通りを２倍に広げ、町内を横切る路地が設置されたほか、外壁をモルタルや銅板で覆った耐火構造の「看板建築」の建物が次々と建てられました。「洋風３階建」の看板建築が建ち並んだ通り町一丁目の商店街は「通り町銀座」と呼ばれ、昭和 30 年代には商店街も最盛期を迎えました。通り町と天竜川をはさんだ東側に位置する中央区本通り(古町)も、昭和 30 年(1955 年)から行われた都市計画事業により道路が広げられ、商店の多くが看板建築に建て替えられました。通り町や中央区本通りには、現在も多くの看板建築が遺されており、昭和レトロな町並みを味わうことができます。

通り町(昭和 41 年(1966 年))
(向山雅重氏撮影)

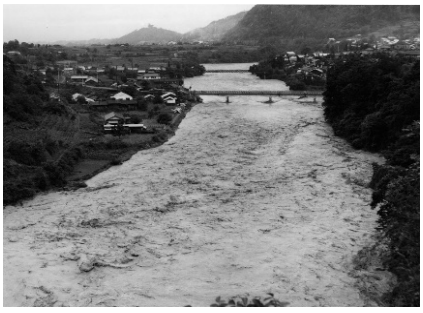
建設中の高遠ダム
(昭和 33 年(1958 年))

昭和 20 年代から 30 年代に進められた昭和の大合併では、伊那市域でも町村合併が繰り返され、昭和 40 年(1965 年)までに伊那市、高遠町、長谷村の３市町村が成立しました(市町村の変遷は資料編に掲載)。

戦後の伊那市域において、広範囲に影響があった大きな事業は、多目的ダムの建設を中心に進められた三峰川総合開発事業です。この事業は、アメリカで行われていたテネシー川流域の総合開発事業をモデルとし、国や県が総力を挙げて取り組んだ事業でした。「暴れ川」と呼ばれた三峰川の洪水被害を減らすため、明治時代以降「霞堤」という堤防がいくつも築かれ、川筋改修なども行われましたが、洪水対策として最も有効に機能したのは、戦後ほぼ同時期に築かれた美和ダム、高遠ダムという２つのダムでした。

美和ダム

昭和 36 年(1961 年)、大雨による未曽有の災害が起こり(三六災害)、上流域の長谷や高遠の山間部では、特に甚大な被害を受けました。しかし、２つのダムが大水と土砂、流木を食い止めたため、下流域の美篶や伊那(竜東)などで大きな被害は出ませんでした。



増水した三峰川 高遠付近
(昭和 36 年(1961 年)６月)

ダム建設のために移転を強いられた集落もあり、３集落の合計 105 戸が離村した長谷地域では、その後の過疎化に拍車がかかったと指摘される一方、高度経済成長期と相まって、工事期間中は工事関係者やその家族をはじめ、多くの人が伊那町や高遠町にあふれ、地域経済の活性化につながりました。三峰川総合開発事業により、常に豊富な水が流れる三

峰川の景色は一変しましたが、ダムは貯まった水を農地へ送る灌漑事業に加え、水力発電事業などにも使われ、私たちの生活を支えています。

高度経済成長期の社会構造の変化は、山と人との関わり方も大きく変えました。山林資源が地域を支えた時代に賑わった山間の集落では、土砂災害やダム建設計画の推進によって離村や集落移転が相次ぎ、多くの人が山村集落を離れました。その一方で、山岳エリアでは新たな取組が進められています。昭和39 年(1964 年)に長谷の山岳エリアが南アルプス国立公園に指定され、昭和 55 年(1980 年)に南アルプス林道が開通すると、山を観光資源として積極的に活用する動きが生まれ、長谷には南アルプスの登山基地として多くの人が訪れるようになりました。平成 20 年(2008 年)には南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークが日本ジオパークに認定され、さらに平成 26 年(2014 年)には、南アルプス地域が南アルプスユネスコエコパークに登録されました。南アルプスの自然環境を保全しながら、文化や人との関わりを、親しみながら学ぶ取組が進められています。

南アルプス林道を走る林道バス

交通面では、中央自動車道西宮線の建設が進み、昭和 51 年(1976 年)に伊那市域の区間(伊北ＩＣ～駒ヶ根ＩＣ)が開通すると、遠隔地への移動が一層便利になり、物流も活発化しました。平成 18 年(2006 年)には、国道 361 号の一部である伊那木曽連絡道路権兵衛トンネルが開通し、木曽地域との往来が非常に便利になりました。木曽地域や飛騨地域ばかりでなく、中京圏までも視野に入れた広域観光振興や、地域連携による産業活性化の動きがみられます。

平成 18 年(2006 年)３月に伊那市、高遠町、長谷村の３市町村が合併し、現在の伊那市となって 15 年以上が経過しました。合併後、伊那、富県、美篶、手良、東春近、西箕輪、西春近、高遠町、長谷の各地域には地域自治区が設けられ、新たに発足した地域協議会が中心となって、それぞれの地域資源や地域の課題、特色を活かした個性あるまちづくりが進められています。

第２章　伊那市の歴史文化資源の概要

市内にはたくさんの文化財や遺跡があり、南アルプス周辺はエコパーク、ジオパークになっています。ほかにもまだたくさんの、あまり知られていない歴史文化資源がありますが、どんなものがどれくらいあるのか、表や図で見てみましょう。

１　文化財の指定・登録などの状況

市内には国、県、市がそれぞれ貴重なものと決めた指定等文化財が 146 件あります。どこにどんな文化財があるのか、表にまとめました。
建物が一番多く、33 件指定されています。

伊那市の指定等文化財は 146 件あり、国指定文化財が６件、国登録文化財が２件、県指定文化財が８件、県選択文化財が２件、市指定文化財が 128 件です。国指定文化財の内訳は、有形文化財の考古資料が２件、建造物が２件、絵画が１件、記念物の遺跡が１件となっており、半数にあたる３件が高遠町地域にあります。

地域別に見ると、伊那地域が 58 件、高遠町地域が 54 件、長谷地域が 32 件、広域にわたるものが２件で、割合としては伊那地域が約 40%、高遠町地域が約 37%、長谷地域が約 22%です。

文化財の類型別に見ると、最も多いのが有形文化財で 88 件、次いで記念物が 43 件です。有形文化財の内訳では、最も多いのが建造物の 30 件、次いで彫刻の 17 件です。石造文化財が多いことも特徴として挙げられ、12 件が石造文化財に分類されていますが、彫刻の中にも石造彫刻が７件含まれます。記念物の内訳は、遺跡が 22 件と最も多く、植物が 17 件、名勝地が２件と続きます。 本市には文化財保存技術の選定はありません。

表　指定等文化財の類型別件数　　（単位：件）

文化財の種類			指定等の区分							合計
			国指定・選定	国選択	県指定	県選択	県選定	市指定	国登録	
有形文化財	建造物		2		1			25	2	30
	美術工芸品	絵画	1		0			4	0	5
		彫刻	0		1			16	0	17
		工芸品	0		1			4	0	5
		書跡・典籍	0		0			5	0	5
		古文書	0		0			4	0	4
		考古資料	2		1			6	0	9
		歴史資料	0		0			1	0	1
		石造文化財						12		12
無形文化財			0	0	0	0	0	1	0	1
民俗文化財	有形の民俗文化財		0		0	0		4	0	4
	無形の民俗文化財		0	0	0	2		8	0	10
記念物	遺跡		1		1			21	0	23
	名勝地		0		0			2	0	2
	動物、植物、地質鉱物		0		3			15	0	18
文化的景観			0					0		0
伝統的建造物群			0					0		0
合　計			6	0	8	2	0	128	2	146

表　国指定文化財（重要文化財・史跡）

種 別	名　　称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (建造物)	遠照寺釈迦堂　附　多宝小塔	高遠町山室(遠照寺)	昭和 25.8.29	遠照寺
	熱田神社本殿 附　天覆 棟札及び建立歳記札 造営文書	長谷溝口(熱田神社)	平成 5.12.9	熱田神社
有形文化財 (絵画)	紙本墨画中観音左右竜虎図	高遠町西高遠(建福寺)	昭和 25.8.29	建福寺
有形文化財 (考古資料)	顔面付釣手形土器	荒井(伊那市創造館)	平成元.6.12	伊那市
	神子柴遺跡出土品	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.6.6	個人
記 念 物 (遺跡)	高遠城跡	高遠町東高遠	昭和 48.5.26	伊那市　ほか

表　国登録文化財

種 別	名　　称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (建造物)	高遠閣	高遠町東高遠	平成 14.9.3	伊那市
	西駒山荘石室	伊那	平成 28.8.1	伊那市

表　県指定文化財

種 別	名　　称		所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (建造物)	旧馬島家住宅		高遠町東高遠	平成 15.9.16	伊那市
有形文化財 (彫　刻)	木像金剛力士立像 (阿形像及び吽形像)		西箕輪羽広(仲仙寺)	平成 17.9.26	仲仙寺
有形文化財 (工芸品)	梵鐘		高遠町東高遠(桂泉院)	昭和 45.4.13	桂泉院
有形文化財 (考古資料)	信州の特色ある縄文土器 (　)は出土した遺跡名		伊那市ほか県内 17 市町村	平成 30.9.27	伊那市、17 市町村
	内訳	顔面把手付深鉢形土器 (月見松遺跡)	荒井(伊那市創造館)	平成 30.9.27	伊那市
		顔面装飾付釣手土器 (石仏遺跡)	長谷溝口(長谷公民館)		
		香炉形土器 (坊垣外遺跡)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)		
		装飾絵画文土器 (金鋳場遺跡)	荒井(伊那市創造館)		
		蛇体把手付深鉢形土器 (堀遺跡)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)		
		大形把手付土器 (石仏遺跡)	長谷溝口(長谷公民館)		
		唐草文土器 (原遺跡)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)		
		唐草文土器 (原遺跡)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)		
		唐草文土器 (島崎遺跡)	荒井(伊那市創造館)		
		唐草文土器 (泉原遺跡)	長谷溝口(長谷公民館)		
記 念 物 (遺　跡)	御殿場遺跡		富県北福地	昭和 46.5.27	個人・伊那市
記 念 物 (植　物)	高遠のコヒガンザクラ樹林		高遠町東高遠	昭和 35.2.11	伊那市
	前平のサワラ		西箕輪吹上	昭和 37.7.12	吹上神社
	白沢のクリ		西春近白沢	昭和 40.7.29	個人

表　県選択文化財

種 別	名　　称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
民俗文化財 (無形の民俗文化財)	山寺のやきもち踊りの習俗	山寺	昭和 48.3.30	やきもち踊り保存会
	木曽の朴葉巻・下伊那南部の朴葉餅	木曽郡６町村、松本市奈川、 塩尻市楢川、飯田市上村、 伊那市西箕輪、下伊那郡平谷村 阿智村、売木村	平成 13.3.15	木曽郡６町村、 伊那市西箕輪 ほか

表　市指定文化財

種 別	名　　称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (建造物)	満光寺鐘楼門	高遠町西高遠(満光寺)	昭和 36.4.1	満光寺
	小出諏訪神社本殿	西春近山本	昭和 44.11.19	小出・小出島区
	宇津木の薬師堂	長谷杉島	昭和 47.8.25	杉島区
	金毘羅神社本殿	高遠町藤澤(金毘羅社)	昭和 51.3.1	水上区
	五郎姫神社本殿	高遠町長藤(五郎姫神社)	昭和 51.3.1	栗田区
	弘妙寺須弥壇	高遠町荊口(弘妙寺)	昭和 51.3.1	弘妙寺
	七面堂	長谷非持山	昭和 51.6.1	非持山区
	池上氏の位牌堂	長谷非持山	昭和 51.6.1	非持山区
	東高遠諏訪社	高遠町東高遠(諏訪社)	昭和 55.12.1	東高遠諏訪社
	芦沢妙儀社本殿	美篶芦沢	昭和 61.1.24	子安社
	芦沢天満宮本殿	美篶芦沢	昭和 61.1.24	子安社
	蓮華寺七面堂	高遠町長藤(蓮華寺)	昭和 62.7.14	蓮華寺
	遠照寺七面堂	高遠町山室(遠照寺)	昭和 62.7.14	遠照寺
	商家池上家	高遠町西高遠	昭和 62.7.14	個人
	熱田神社舞宮	長谷溝口	平成元.5.22	熱田神社
	伊那部宿酒屋旧井澤家住宅	西町伊那部	平成 11.5.21	伊那市
	宮ノ花八幡社本殿	富県貝沼	平成 11.8.24	八幡社
	鉾持神社　本殿・赤門・透かし塀	高遠町西高遠(鉾持神社)	平成 15.10.21	鉾持神社
	貴船社本殿	高遠町藤澤(貴船社)	平成 15.10.21	貴船社
	両大島諏訪神社本殿	美篶上大島	平成 15.10.23	諏訪神社
	春近社本殿	東春近中殿島	平成 15.10.23	春近社
	野口八幡神社舞台	手良野口	平成 15.10.23	野口区
	旧上伊那図書館	荒井(伊那市創造館)	平成 20.8.27	伊那市
	白山社本殿	西春近山本	平成 23.3.8	白山社
	八幡宮本殿	上牧	平成 23.3.8	八幡宮
有形文化財 (絵　画)	中村不折筆 「卞和璞を抱いて泣く」	高遠町東高遠 (信州高遠美術館)	昭和 39.3.1	伊那市
	池上秀畝 「薄暮落雁」・「古城の驟雨」	高遠町東高遠 (信州高遠美術館)	昭和 39.3.1	伊那市
	青緑楼閣山水画	山寺(常円寺)	昭和 63.7.26	常円寺
	十六羅漢図	山寺(常円寺)	昭和 63.7.26	常円寺
有形文化財 (彫　刻)	建福寺石仏群	高遠町西高遠(建福寺)	昭和 38.1.12	建福寺
	木造薬師如来坐像	美篶笠原(阿弥陀堂)	昭和 47.4.15	阿弥陀堂
	木造持国天・多聞天立像	西箕輪羽広(仲仙寺)	昭和 49.12.20	仲仙寺
	木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像	手良野口(無量寺)	昭和 49.12.20	耕雲寺
	大聖不動明王	高遠町勝間	昭和 51.3.1	勝間区
	准胝観世音　延命地蔵尊	高遠町東高遠(桂泉院)	昭和 51.3.1	桂泉院
	五輪塔　保科左源太の墓石	高遠町西高遠(満光寺)	昭和 51.3.1	満光寺
	木造地蔵菩薩坐像	富県北新(地蔵堂)	昭和 52.10.29	地蔵堂
	木造阿弥陀如来坐像	中央(阿弥陀寺)	昭和 55.9.26	阿弥陀寺
	満光寺阿弥陀如来立像	高遠町西高遠(満光寺)	平成元.3.28	満光寺
	樹林寺千手十一面夕顔観世音菩薩立像	高遠町東高遠(樹林寺)	平成 2.12.3	樹林寺
	宗良親王御尊像	長谷溝口(常福寺)	平成 3.9.20	常福寺
	建福寺仏足石	高遠町西高遠(建福寺)	平成 4.6.29	建福寺
	小原十王像	高遠町小原(十王堂)	平成 12.11.21	小原区
	五聖像	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成 14.12.20	伊那市
	六角観音供養塔	高遠町西高遠(相頓寺跡)	平成 18.1.23	満光寺

種　別	名　　称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
有形文化財 (工芸品)	陣太鼓・鰐口	高遠町山室(遠照寺)	昭和 36.4.1	遠照寺
	鰐口	西箕輪羽広(仲仙寺)	昭和 63.7.26	仲仙寺
	雲板	山寺(常円寺)	昭和 63.7.26	常円寺
有形文化財 (書　跡)	田山花袋筆屏風	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	昭和 38.11. 1	伊那市
	阪本天山筆跡	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	昭和 40.2.5	伊那市
有形文化財 (典　籍)	文献通考	高遠町西高遠 (伊那市立高遠町図書館)	平成 2.12.3	伊那市
	蕗原拾葉	高遠町西高遠 (伊那市立高遠町図書館)	平成 11.9.24	伊那市
	希月舎文庫	高遠町西高遠 (伊那市立高遠町図書館)	平成 11.9.24	伊那市
有形文化財 (古文書)	鉾持神社文書	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成　元.3.28	鉾持神社
	建福寺文書	高遠町西高遠(建福寺)	平成　元.3.28	建福寺
	龍勝寺文書	高遠町勝間(龍勝寺)	平成　元.3.28	龍勝寺
	芝平山絵図	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成 16.7.30	東山生産森林組合 ほか
有形文化財 (考古資料)	指圧薄手土器	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	昭和 55.12. 1	伊那市
	杏葉	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.7.26	伊那市
	経筒及び和鏡	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.7.26	伊那市
	緑釉陶器皿	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.7.26	伊那市
	古瀬戸灰釉把手付水注	荒井(伊那市創造館)	昭和 63.7.26	伊那市
	和同開珎	荒井(伊那市創造館)	平成 14.4.25	伊那市
有形文化財 (歴史資料)	高藩探勝	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成 20.1.30	伊那市
有形文化財 (石造文化財)	円通寺の石仏二体	長谷市野瀬(円通寺)	昭和 47.3.1	円通寺
	中尾辻の石仏群	長谷中尾	昭和 49.3.1	中尾区
	宝篋印塔(洞泉寺)	美篶下川手(洞泉寺)	昭和 61.1.24	洞泉寺
	石造双体道祖神	東春近下殿島土蔵	昭和 61.1.24	土蔵
	石造准胝観音菩薩	東春近田原(薬師庵)	昭和 61.1.24	薬師庵
	非持山馬頭観音	長谷非持山(七面堂)	平成元.5.22	非持山財産区
	熊の森城主一瀬越前守直忠の墓碑	長谷市野瀬	平成元.10.27	市野瀬区
	一瀬勘兵衛の母墓石	長谷市野瀬	平成元.10.27	円通寺
	非持領主上嶋氏の宝篋印塔	長谷非持	平成 4.12.25	非持区
	熊の森宝篋印塔	長谷市野瀬	平成元.5.22	熊野宮下氏子
	宇津木西国三十三観音	長谷杉島(薬師堂)	平成 11.7.21	杉島区
	宝篋印塔(黒河内)	長谷黒河内	平成 17.3.24	大揚寺
無形文化財 (音　楽)	高遠ばやし	高遠町西高遠	昭和 40.2.5	高遠ばやし保存会
民俗文化財 (有形の民俗文化財)	仲町屋台	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	昭和 55.12.1	伊那市
	貴船社屋台(お船)	高遠町東高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館)	平成 17.8.22	伊那市
	貴船社神輿	高遠町藤澤(貴船社)	平成 17.8.22	貴船社
	羽広の絵馬	西箕輪羽広(考古資料館)	平成 17.11.22	仲仙寺
民俗文化財 (無形の民俗文化財)	サンヨリコヨリ	美篶両川手(天伯社)・ 富県桜井(片倉天伯社)	平成 6.1.28	美篶上・下川手区、 富県桜井区・北新区 北林
	諏訪形の御柱祭と騎馬行列	西春近諏訪形	平成 9.1.27	諏訪形区
	貴船神社子供騎馬行列	高遠町藤澤	平成 10.4.22	荒町
	中尾歌舞伎	長谷中尾	平成 10.6.24	中尾歌舞伎保存会
	芝平山絵図虫干し行事	高遠町上山田芝平、 藤澤　御堂垣外、荒町、北原、 長藤　栗田、四日市場	平成 16.7.30	東山生産森林組合 ほか
	羽広の獅子舞	西箕輪羽広	平成 17.11.22	羽広区

種 別	名　　称	所在地	指定年月日	所有者(保持者)
民俗文化財 (無形の民俗文化財)	青島の千社参り	旧伊那市区域及び 旧高遠町区域の一部	平成 21.1.28	青島区
	孝行猿の民話	長谷市野瀬	昭和 47.8.25	–
記 念 物 (遺 跡)	藤沢城跡	高遠町藤澤	昭和 36.4.1	御堂垣外区
	絵嶋の墓	高遠町長藤(蓮華寺)	昭和 36.4.1	蓮華寺
	伊澤修二先生の生家	高遠町東高遠	昭和 43.5.30	伊那市
	月見松遺跡	小沢	昭和 45.11.21	個人
	検校塚	長谷非持	昭和 47.8.25	非持区
	小松氏先祖の墓	長谷浦	昭和 48.4.30	浦区
	経塚原の経塚と舞台	長谷杉島	昭和 48.4.30	杉島区
	御山の遺跡	長谷溝口	昭和 49.3.1	常福寺
	八人塚	長谷黒河内	昭和 49.4.30	黒河内区
	山田城跡	高遠町下山田	昭和 51.3.1	下山田区
	五郎山	高遠町勝間	昭和 55.12.1	勝間区
	高遠領分杭	小沢	昭和 59.6.17	小沢区
	蟻塚城跡	美篶笠原	平成 2.3.1	笠原区 ほか
	荒井富士塚	荒井	平成 2.3.1	荒井区・荒井神社
	小出城跡	西春近小出一区	平成 2.11.1	個人
	絵島囲み屋敷跡	長谷非持	平成 3.5.20	伊那市
	諏訪形の猪垣跡	西春近諏訪形	平成 6.1.28	個人
	坂下の辻	山寺	平成 8.6.26	常円寺・坂下区
	溝口村・非持村の梵天岩(境岩)	長谷非持・溝口	平成 9.6.25	伊那市
	大徳王寺城趾	長谷溝口	平成 18.3.9	個人
記 念 物 (名勝地)	遠照寺亀島庭園	高遠町山室(遠照寺)	平成元.3.28	遠照寺
	南郷峠の松並木	長谷溝口	平成 10.6.24	南郷組
記 念 物 (植 物)	伯先桜	西町伊那部	昭和 44.11.19	個人
	タマサキフジ	富県南福地	昭和 44.11.19	竹松・阿原部落
	ヤエヤマツツジ	富県北福地(富県小学校)	昭和 44.11.19	伊那市
	久保田のアカマツ	富県上新山	昭和 47.4.15	個人
	薬師堂のシダレザクラ	富県北新	昭和 47.4.15	今泉部落
	円座松	長谷非持	昭和 47.8.25	非持区
	トリアシカエデ	高遠町藤澤	昭和 51.3.1	個人
	仲仙寺周辺の植物群落	西箕輪羽広(仲仙寺)	平成 8.6.26	仲仙寺
	溝口のカラカサ松	長谷溝口	平成 9.6.25	溝口生産森林組合
	山寺の白山社八幡社合殿のケヤキ	山寺	平成 12.3.15	白山社八幡社合殿
	神明社荒神社合殿のケヤキ	狐島	平成 17.11.22	神明社荒神社合殿
	高烏谷のマツハダ	富県南福地	平成 17.11.22	南福地区
	上新山宮下のサワラ	富県上新山宮下	平成 17.11.22	北原氏子
記 念 物 (遺 跡) (植 物)	市野瀬古城址・城山の松	長谷市野瀬	昭和 47.8.25	市野瀬区
記 念 物 (植 物) 有形文化財 (工芸品)	桑田薬師堂の枝垂桜・香時計	長谷溝口(薬師堂)	昭和 47.8.25	溝口区

※地域を定めない天然記念物は、この一覧に含まれません。

２　指定等文化財の特徴

※本文では、指定等文化財を太字で表記しています。

（１）有形文化財

①　建造物

市内に 30 件(国指定２件、県指定１件、市指定 25 件、国登録２件)ある建造物は、類型別件数で最も多くを占めます。

国指定の重要文化財建造物は２件とも社寺建築です。高遠町山室にある**遠照寺釈迦堂**は、長野県内における日蓮宗最古の堂宇で、室町時代後期に建てられました。和様を主としていますが、天竺様と唐様を加えており、京都以東ではほとんど見られない様式です。来迎壁に天文 18 年(1549 年)の墨書があるほか、須弥壇の裏板に天文７年(1538 年)の墨書がみられます。また、内陣に安置された**多宝小塔**は、お堂の建築以降に造られたもので、県内の多宝塔の中では最も古く、文亀２年(1502 年)に造られたものです。この**多宝小塔**を手掛けたのは、高遠鉾持在住の番匠池上氏の一門で、彼らは長谷や高遠に居を構え、甲斐の武田氏に仕えたほか、身延山久遠寺や日蓮宗寺院の建築にも代々関わった有能な大工集団でした。

宝暦13 年(1763 年)に完成した長谷溝口の**熱田神社本殿**もまた、池上氏一門の流れを汲む棟梁の高見善八(池上善八)が造営した建物で、茅葺屋根の入母屋造りの覆屋(**天覆**)の中にあります。随所に唐獅子や龍などの架空の動物や、唐子遊び、七福神などの彫物を飾り、彩色豊かで華やかな意匠を見せます。

県指定の建造物は１件で、高遠城下にある武士住宅の**旧馬島家住宅**です。高遠藩に眼科医として抱えられた馬島家が、江戸時代の天保年間に自己資金で建てたものです。診察のための調薬室を備えているのが特徴で、藩医の住宅として貴重な建造物です。

市指定の建造物は 25 件あり、そのうちの 22 件が社寺建築です。社寺建築の指定文化財が多いのが伊那市の特徴です。

江戸時代後期に活躍した諏訪立川流の建築が多くあり、立川和四郎富昌が手掛けた西春近の**小出諏訪神社本殿**や、高遠町藤澤の**金毘羅神社本殿**、富昌の息子富重が手掛けた西春近山本の**白山社本殿**、小口直四郎による伊那(竜東)上牧の**八幡宮本殿**があります。

金毘羅神社本殿（高遠町藤澤）

また、市内には三河系の大工が手掛けたものもあり、三河国長篠(現在の愛知県新城市)の大工、菅沼半兵衛定次が手掛けた高遠町西高遠の**満光寺鐘楼門**や、有賀吉左衛門重栄が手掛けた高遠町藤澤の**貴船社本殿**、重栄の息子の重房が手掛けた長谷杉島の**宇津木の薬師堂**などがあります。

宇津木の薬師堂（長谷杉島）

このほか、江戸時代の宿場町の建物として、伊那(竜西)西町に遺る**伊那部宿酒屋旧井澤家住宅**や、高遠城下の町家**商家池上家**があり、昭和５年(1930 年)に伊那町に建てられた近代建築の**旧上伊那図書館**は、鉄筋コンクリート建築の先駆けとなった黒田好造設計の建物として知られています。

国の登録有形文化財は２件あり、**西駒山荘石室**、**高遠閣**のいずれも近代建築です。

② 絵画

市内にある５件のうち、１件が国指定の重要文化財で、４件が市の指定文化財です。

国の重要文化財に指定されている**紙本墨画中観音左右竜虎図**は、高遠町西高遠の建福寺が所蔵する三幅対の大幅で、桃山時代から江戸時代に活躍した狩野興以が描きました。中央に白衣観音、左右に竜と虎を配し、静動の調和が感じられる作品です。

市指定の４件は、いずれも近代の画壇を牽引した伊那市ゆかりの作家の手によるものです。洋画が１件、日本画が２件あります。

伊那（竜西）山寺の常円寺が所蔵する**十六羅漢図**と**青緑楼閣山水画**は、小沢村（現在の伊那市小沢）出身の南画家、小坂芝田が描いたものです。**池上秀畝「薄暮落雁」・「古城の驟雨」**は、日本画壇の新たな時代を築いた池上秀畝の作品で、「薄暮落雁」には、日が沈みゆく中、芦辺から雁が飛び立つ風景が墨画で描かれています。

池上秀畝「薄暮落雁」
（信州高遠美術館蔵）

③ 彫刻

市内にある 17 件のうち、１件が県宝で 16 件が市の指定文化財です。

西箕輪羽広の仲仙寺仁王門内にある県宝、**木造金剛力士立像(阿形像及び吽形像)**は、像高 255cm の檜材を用いた寄木造で、体は朱く彩色されています。室町時代の京都の仏師、七条大蔵康忠が当地に来て制作したもので、当時、主流仏師が地方で制作にあたることは珍しく、日本彫刻史における意義が極めて高い作品です。

木造薬師如来坐像
（美篶笠原 阿弥陀堂）

16 件ある市の指定文化財の彫刻は、９件が木造彫刻で７件が石造彫刻です。木造彫刻のうち、７件が仏像彫刻で、鎌倉時代から江戸時代まで各時代の特徴を示すものが文化財に指定されています。

鎌倉時代作の仏像としては、仲仙寺の**木造持国天・多聞天立像**、手良野口の無量寺にある**木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像**、高遠町西高遠の**満光寺阿弥陀如来立像**があり、満光寺阿弥陀如来立像は慶派の仏師の作とされています。

美篶笠原の阿弥陀堂にある**木造薬師如来坐像**は、南北朝時代の暦応３年（1340 年）に、京都の大仏師、法印性慶が作ったもので、下地にはこの時期に流行した截金文様や盛上彩色といった装飾の跡がみられます。

建福寺石仏群のうち
守屋貞治作 願王地蔵尊
（高遠町西高遠 建福寺）

五聖像は、江戸時代に高遠藩の藩校進徳館の聖廟内に祀られた木像で、儒教の祖である孔子やその弟子４人の姿を刻したものです。当時の最高学府であった江戸の昌平坂学問所にある聖像を模して造り、領民たちが藩主に献上したもので、藩校ならではの指定文化財です。

石造彫刻は７件中５件が高遠石工の優品で、全て高遠町地域にあります。中でも、名工と呼ばれた守屋貞治の作品が複数指定されており、高遠町勝間の**大聖不動明王**や高遠町東高遠桂泉院の**准胝観世音 延命地蔵尊**のほか、**建福寺石仏群**にも貞治の作品が 44 体含まれています。いずれ

も近隣から切り出した青石(輝緑岩)で造られており、顔の表情や衣文の線の流れは、石とは思えないほど緻密で柔らかな立体表現になっています。

④　工芸品

市内にある５件のうち、１件が県宝、４件が市の指定文化財です。５件中３件が戦国時代、天正10年(1582年)の高遠城の戦いに関わるものです。

桂泉院にある県宝の**梵鐘**は、織田信忠が行軍途中に開善寺(現在の飯田市)から奪い取り、高遠まで引きずってきた鐘です。鋳銅製で引きずった際の擦り傷が残ります。

市の指定文化財である遠照寺の**陣太鼓・鰐口**や常円寺の**雲板**も、桂泉院の梵鐘と同様に織田軍が各地の寺社から奪ってきたものです。これらの鳴り物を鳴らしながら高遠城に進軍してきた織田軍が、戦後に奉納したものだと言われています。

雲板
(伊那(竜西)山寺　常円寺)

⑤　書跡・典籍

書跡・典籍の５件全てが市の指定文化財で、いずれも高遠町地域にあります。

２件ある書跡のうち、**田山花袋筆屏風**に書かれた一首「たかとほは　山裾のまち古きまち　ゆきあふ子等のうつくしき町」は、地域で最も愛されている歌です。

阪本天山筆跡は、高遠藩学の祖と呼ばれた阪本天山が、高遠を離れ、大坂へ出発する際の心境を漢詩にし、邸内の稲荷社に奉納したものです。「束縛の時が過ぎたので、俗世のわずらわしさから逃れて、我が道を行くことにした」と詠まれています。

典籍の**蕗原拾葉**、**希月舎文庫**は、高遠藩に仕えた儒学者の中村元恒と元起父子が所蔵していたものです。**蕗原拾葉**は、全150巻に及ぶ郷土文献の集大成で、中村父子が各地で収集した文献を校訂し、再編集したものです。**希月舎文庫**は、阪本天山や中村父子らの自著や写本などで506冊を数えます。

田山花袋筆屏風
(伊那市立高遠町歴史博物館蔵)

⑥　古文書

古文書４件は、全て市の指定文化財です。**鉾持神社文書**は、戦国時代から江戸時代初期の領主が発給した８点の文書を１巻の巻子に仕立てたものです。その中にある永正８年(1511年)に高遠満継が鉾持祢宜所に出した文書は、市内で最も古い史料です。

同じく戦国時代から江戸時代初期に領主を務めた武田勝頼や織田信忠、勝斎、岩崎重次、保科正直などが建福寺に出した文書をまとめたものが、**建福寺文書**です。２巻に14点の古文書がまとめられています。

鉾持神社文書　高遠満継書状
(鉾持神社所蔵
伊那市立高遠町歴史博物館寄託)

⑦　考古資料

市内に９件ある考古資料は、２件が国指定の重要文化財、１件が県宝、６件が市の指定文化財です。いずれも上伊那地域、また伊那谷でも出土事例の少ない貴重な資料です。

国の重要文化財に指定されている石器、**神子柴遺跡出土品**は、旧石器時代から縄文時代に遷り変わる１万５千年前のものです。大型の木の葉形・柳葉形の神子柴型尖頭器と、大型で刃部が磨かれた神子柴型石斧は「神子柴系石器群」と呼ばれ、中部高地を中心に全国に広がっています。**顔面付釣手形土器**は、富県にある御殿場遺跡内で、縄文時代中期後葉の住居址の床面から完形の状態で見つかりました。女神の顔が付く釣手土器といった特別な造形は、長野県の中・南信地域を代表する祭祀に用いられた土器です。

県宝の考古資料は、**信州の特色ある土器**の１件で、10 点の土器が指定されています。縄文文化が栄えていた縄文時代中期中葉から後葉を代表する土器で、当時の優れた土器制作技術と世界観を物語る資料です。

市指定の考古資料は６件あります。伊那(竜西)西町の伊勢並古墳群の一つ、狐塚南古墳から出土した**杏葉**は、馬の飾りで、全体に金メッキが施されていたとみられ、権力者だけが持てるものでした。手良の下手良中原遺跡から出土した**和同開珎**は残存状況が良く、伊那谷では２例目の発見となる貴重なものです。**経筒及び和鏡**は、西春近の下牧で昭和 10 年代に出土した経筒１点、和鏡４点です。平安時代末から鎌倉時代初期のものとみられ、市域の経塚の様相を具体的に知ることができる資料となっています。

信州の特色ある土器
原遺跡出土 深鉢形土器
(伊那市立高遠町歴史博物館蔵)

⑧　歴史資料

指定等文化財の歴史資料は、市の指定文化財１件のみです。**高藩探勝**は、長さ約 10m の巻子３本で構成される絵巻物で、寛保３年(1743 年)に高遠藩主内藤頼郷の命で作られました。領内 52 か所の景勝地を描いており、当時の高遠領内の風景や人々の生活がうかがえる好資料です。

⑨　石造文化財

石造文化財が多い伊那市では、市の指定文化財に独自の類型として、石造文化財を設けており、12 件の指定文化財があります。そのうちの５件が、高遠石工の名工の作品です。長谷市野瀬の**円通寺の石仏二体**は守屋貞治の作品で、美篶の洞泉寺にある**宝篋印塔(洞泉寺)**と長谷杉島の**宇津木西国三十三観音**は、貞治の弟子の渋谷藤兵衛が手掛けた作品です。東春近下殿島の**石造双体道祖神**と東春近田原の**石造准胝観音菩薩**は、下殿島出身の小笠原政平が手掛けた作品で、顔の頬骨が張っているといった政平の作風の特徴がよく表れています。

12 件の石造文化財のうち、９件は長谷地域にあり、地域の有力者に関わる墓石や宝篋印塔が多くあります。市野瀬の**熊の森城主一瀬越前守直忠の墓碑**や**一瀬勘兵衛の母墓石**、非持の**非持領主上嶋氏の宝篋印塔**などがあります。

一瀬勘兵衛の母墓石
(長谷市野瀬 円通寺)

（2）無形文化財

無形文化財は、市の指定文化財１件です。**高遠ばやし**は、鉾持神社の祭礼の際に、神輿や屋台の巡行に合わせて演奏されたお囃子で、江戸時代から続いています。一説には高遠城下の商人が京都で習った囃子を持ち帰ったものと伝わり、横笛、三味線、鼓、大皮、太鼓、胡弓などが用いられます。城下の町内ごとに演奏する曲目が異なり、行きの行列では静かでゆっくりとした曲調の「本囃子」、帰りは賑やかでテンポの速い「帰り囃子」が演奏されます。

（3）民俗文化財

①　有形の民俗文化財

４件の有形の民俗文化財は、全て市の指定文化財で、信仰に伴うものです。

貴船社屋台(お船)は、**貴船社神輿**とともに伊那市高遠町藤澤の貴船社に伝わったもので、いずれも江戸時代末期に造られたものです。市指定の無形民俗文化財である**貴船神社子供騎馬行列**とともに、４月の祭礼行列に用いられ、行列の先頭に神輿、最後尾に２階建てのお船が曳かれました。屋台をお船の形にして曳き回すのは、長野県の南信地域では珍しい形式です。

貴船社屋台（お船）
（伊那市立高遠町歴史博物館蔵）

羽広の絵馬は、仲仙寺に奉納された絵馬で、馬の健康安全を願って参詣者が奉納したものです。文久２年(1862 年)に木曽の馬持ちである千村勘兵衛が奉納した「千匹絵馬」などの馬絵のほか、算額や武者絵など合計 13 点が市の指定文化財になっています。

②　無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は、県選択の無形民俗文化財が２件、市指定の無形民俗文化財が８件あります。

県選択の無形民俗文化財は、**山寺のやきもち踊りの習俗**と**木曽の朴葉巻・下伊那南部の朴葉餅**の２件です。**山寺のやきもち踊りの習俗**は、毎年４月に行われるユーモラスな行事で、羽織袴姿の氏子たちが、白山社八幡社合殿の境内で輪になって歌いながら踊り、踊りが終わる合図とともに、一斉に走り出し、鳥居の外へ逃げ出します。鳥居を出るのが最後になった人が、厄を引き受け、「役持ち（地域の世話役当番）」になります。

市指定の無形民俗文化財は８件あり、そのうち川と密接に関わる行事が２件あります。**サンヨリコヨリ**は、毎年８月７日に美篶の上川手下川手の天伯社と、三峰川対岸の富県桜井の天伯社で行われる行事です。美篶の天伯社に青竹の七夕飾りを持った子どもたちが集まり、円陣を組み「サンヨリコヨリ」と唱えながら円の中央にいる鬼役の周りを回ります。３回回り終えると、子どもたちは一斉に円の中央に向かって走り、鬼を七夕飾りで滅多打ちにします。鬼は慌てて円の外へ逃げ出すといった一連の流れを３度繰り返します。その後、神輿行列を組んで三峰川を渡り、富県桜井の天伯社でも同様のことを行います。類例のない珍しい行事です。**青島の千社参り**は、三峰川の氾濫に悩まされてきた美篶青島の人々が、地域の安全を願って始めた行事で、毎年７月 20 日前後の日曜

青島の千社参りで
奉納された千社札

日に、全戸が参加して行われます。隣組ごとにくじで担当地区を決め、「千社参り」と刷られた千枚のお札を市内各地の寺社や石造物に奉納します。

騎馬行列の指定物件は２件あり、**諏訪形の御柱祭と騎馬行列**は、西春近諏訪形の諏訪神社で寅と申の年に行われます。市内に諏訪神社は何か所もありますが、御柱祭を行うのは、この諏訪形の諏訪神社と富県南福地の諏訪神社の２か所のみです。この祭に合わせて奉納されるのが騎馬行列で、里曳きと建御柱に先立って地区内を練り歩きます。江戸時代初期から続く**貴船神社子供騎馬行列**は、高遠町藤澤の貴船神社の祭礼に伴う行列で、子どもだけで騎馬行列を構成する珍しいものです。

諏訪形の騎馬行列
（西春近諏訪形）

芝平山絵図干し行事は、毎年７月 15 日に行われます。江戸時代に起こった山の境界争いの判決内容が描かれた絵図、**芝平山絵図**（市指定の有形民俗文化財）を関係者が確認する行事で、６つの集落（高遠町上山田芝平、高遠町藤澤の御堂垣外、荒町、北原、高遠町長藤の栗田、四日市場）の総代が集まり、封印された木箱の中から大絵図と、芝平山の張子模型を取り出し、虫干しをします。山の利用権を守る大切な行事として伝えられてきたものです。

芝平山絵図干し行事
（高遠町上山田芝平･藤澤･長藤）

羽広の獅子舞は 400 年の伝統があると伝えられ、毎年１月 15 日に仲仙寺の本堂（観音堂）で舞われます。雄獅子と雌獅子の２頭による舞い合わせが最大の特徴で、雄雌が一緒に舞う獅子舞は、全国的にも珍しいものです。また、舞方、囃方（笛・太鼓）とも雄雌で異なり、それぞれ別のお囃子に合わせて舞う独特のものです。

また、長谷中尾に江戸時代から続く農村歌舞伎、**中尾歌舞伎**も市の指定無形民俗文化財です。

（４）記念物

①　遺跡

市内に 23 件ある遺跡は、国指定が１件、県指定が１件、市指定が 21 件あります。

国の史跡である**高遠城跡**は、三峰川と藤沢川の合流点に近い河岸段丘上に築かれた平山城で、本丸を囲むように二ノ丸、南曲輪、三ノ丸などの曲輪が配置され、空堀や土塁が遺ります。三ノ丸には、江戸時代の藩校進徳館の建物が遺されています。

県の史跡である**御殿場遺跡**は、国指定重要文化財の**顔面付釣手形土器**が出土した遺跡です。縄文時代の住居址は 16 軒見つかっていますが、調査された場所は遺跡の一角に過ぎず、その範囲は東側の山麓まで大きく広がっていると考えられています。市内最大級の縄文時代集落遺跡です。

市の史跡は伊那地域に７件、高遠町地域に５件、長谷地域に９件あり、縄文時代から江戸時代まで、様々な遺跡があります。

月見松遺跡は天竜川右岸を代表する縄文時代の大集落遺跡です。３回にわたる発掘調査で縄文時代の住居址 107 軒が見つかっており、県宝に指定されている**顔面把手付深鉢形土器**が出土しました。

長野県内の中世城館跡約 1,200 城のうち、95 城がある伊那市は、突出して山城、館跡の数が多い

地域といえます。それらの中でも、**藤沢城跡**、**山田城跡**、**蟻塚城跡**、**小出城跡**、**市野瀬古城址**などが市の史跡になっています。**藤沢城跡**は、諏訪と伊那を結ぶ杖突峠と金沢峠の道の分岐点にあり、**蟻塚城跡**は、伊那と高遠町を結ぶ俎板峠と山麓を通る古道が諏訪方面に続く場所にあります。古くからの交通の要衝であるため城館跡が多いといえます。

経塚原の経塚と舞台は、長谷杉島と岩入を結ぶ断崖上の道中にあり、難所を無事に通るための祈りの塚と考えられています。伊那(竜西)荒井にある**荒井富士塚**は、中世に始まった富士信仰のために造られた人工の山で、元禄３年(1690 年)にはすでにありました。伊那(竜西)山寺、坂下にある**坂下の辻**からは、伊那街道、杖突街道、権兵衛街道が延びており、はびろ道の起点にもなっています。西箕輪の仲仙寺まで 54 ある丁石の一丁目があり、これらは、かつての信仰を伝える遺跡です。

西春近にある**諏訪形の猪垣跡**は、イノシシやシカによる農作物等への被害を防ぐため、土塁と木柵を造ったものです。先人が生活を守るために自然とどのように闘ったのか伝える遺跡です。

山田城跡（高遠町下山田）

荒井富士塚（伊那(竜西)荒井）

② 名勝地

指定等文化財の名勝地は２件あり、２件とも市の指定文化財です。

遠照寺亀島庭園は枯山水の庭園で、中央に 34 個の石を組んで亀島が表現されています。本堂と庫裏の間の中庭にあり、四方から鑑賞できるように造られています。長谷溝口にある**南郷峠の松並木**は、樹齢 100 年を超える 30 本余りのアカマツ並木で、南郷集落の上方の峠の尾根筋にあります。峠で一休みする人々は皆、この美しい松並木の景観に感じ入ったといいます。

遠照寺亀島庭園
（高遠町山室　遠照寺）

③ 植物

指定等文化財の植物は、県の指定文化財が**高遠のコヒガンザクラ樹林**、**前平のサワラ**、**白沢のクリ**の３件、その他に市の指定文化財が 13 件あります。

高遠のコヒガンザクラ樹林は、高遠城址公園内にあります。指定地一帯には、タカトオコヒガンザクラが約 1,500 本植えられており、古いものでは明治時代に植えられた樹もあります。単一種で構成する樹林としては珍しく、春には小ぶりで赤みの強い花が一気に咲く姿は壮観です。

西箕輪吹上の吹上神社境内にある**前平のサワラ**は、推定樹齢約 1,000 年、目通りで直径約 2.5m の巨木で、サワラとしては長野県内で一番の大きさです。西春近白沢にある**白沢のクリ**は、白沢山崩れの扇状地の上に植えられたクリです。樹齢 300 年以上と言われ、通常の山栗より大きく艶のある実をつけます。

市の文化財に指定されている植物は多種に及びます。サクラは富県新山の**薬師堂のシダレザクラ**と、西町伊那部にある**伯先桜**で、いずれも樹齢 150 年以上の古木です。

新変種として他に例がなく、植物学上貴重なものが**タマサキフジ**と**トリアシカエデ**です。富県南福地にある**タマサキフジ**は、花は小型で球状に膨らみ、通常のフジの花のように開くことはありません。**トリアシカエデ**は高遠町藤澤水上の山中にあり、葉の裂け目が深く切れ込んでいて、鳥の足のように見えることからその名が付きました。

マツの指定木は、富県上新山にある**久保田のアカマツ**、長谷非持の**円座松**、長谷溝口の**カラカサマツ**の３件です。長谷非持の**円座松**は、非持の山中にしかない種類の古木のマツで、12 本が群生しています。

タマサキフジ（富県南福地）

（5）その他

伊那市の指定文化財の中には、２種類の類型で１件の文化財を構成するものがあります。

長谷市野瀬にある**市野瀬古城址・城山の松**は、記念物の遺跡と植物で構成されており、長谷溝口の**桑田薬師堂の枝垂桜・香時計**は、記念物の植物と有形文化財の工芸品で構成されています。

※これらの複合物件は、表「指定等文化財の類型別件数表」では、それぞれの類型に加えています（例えば、「市瀬古城址・城山の松」は、遺跡で１件、植物で１件としています）。

市野瀬古城址・城山の松
（長谷市野瀬）

３　未指定の歴史文化資源の状況

伊那市には、先ほど紹介した指定等文化財のほかにも、指定されていない歴史文化資源がたくさんあります。その数、指定等文化財の 700 倍もあります。どんな歴史文化資源があるのでしょうか。

未指定の歴史文化資源に関して、伊那市では令和６年(2024 年) ３月時点で 43,227 件、点数にして 119,453 点を把握(はあく)しています。伊那市教育委員会生涯学習課では一覧表を作成し、その一部は調査票として詳細をまとめ、リスト管理をしています。

これらの把握にあたっては、市内小中学校や博物館施設、図書館などの所蔵品のほか、今まで伊那市が取り組んできた調査の成果(第４章で後述)を取り入れました。

現時点では０件となっているものは、調査が進んでいないために正確な点数が把握できていないことを示しています。

類型別の点数を見て、「書跡・典籍」や「歴史資料」の点数が多い理由として、高遠藩校進徳館から受け継いだ漢籍(かんせき)や和書(わしょ)などの典籍が多数あること、伊那市創造館や伊那市立高遠町歴史博物館の収蔵資料に「書跡・典籍」や「歴史資料」が多いことが挙げられます。また、「絵画」が多いのは、信州高遠美術館の収蔵資料に「絵画」が多いためで、「民話・伝承」が多いのは、全市域で行った地名調査の際に調査が進んだことによるものです。

そのほかに点数が多い類型として、「古文書」や「石造物」、「動物・植物・地質鉱物」が挙げられますが、高遠藩に関わる古文書(特に武家文書(ぶけもんじょ))や高遠石工のふるさとに遺る石造物、戸台(とだい)の化石(かせき)など、地域の歴史的背景を踏まえてこれまでに取り組んできた調査収集の成果が、点数の多さにつながっています。

表　未指定の歴史文化資源の類型別件数・点数

(令和６年(2024 年) ３月時点)

歴史文化資源の種類			件数	点数
有形文化財	建造物		312	315
	美術工芸品	絵画	1,452	1,599
		彫刻	79	81
		工芸品	601	689
		書跡・典籍	2,130	28,103
		古文書	1,346	16,594
		考古資料	325	1,244
		歴史資料	9,197	25,325
		石造物	9,527	9,647
無形文化財			4	4
民俗文化財	有形の民俗文化財		7,613	13,275
	無形の民俗文化財	食文化	8	8
		生活文化	57	57
		民話・伝承	1,395	1,395
記念物	遺跡		64	130
	名勝地		0	0
	動物・植物・地質鉱物		253	12,123
文化的景観			1	1
伝統的建造物群			0	0
文化財の保存技術			0	0
埋蔵文化財			487	487
地域の特産品			0	0
自然景観			0	0
地名			8,376	8,376
屋号			0	0
合計			43,227	119,453

また、民俗資料として把握されている歴史文化資源が多数ありますが、これらは昭和 40 年代から 50 年代にかけて行われた民俗資料調査を経て、当時収集された資料が学校資料室や民俗資料館に受け継がれてきたものです。このように、過去の取組が現在の歴史文化資源の保存につながっている状況を踏まえ、今後も調査を継続し、歴史文化資源の把握に努めていきます。

４　未指定の歴史文化資源の特徴

（１）有形文化財

旧伊那市域の８地区を対象に民家調査や神社の建築調査を行っており、これらの調査で 312 件の建造物を把握しています。近世社寺建築は約 60 件あり、古いものでは寛文年間から延宝年間（1661 年～1681 年）頃の富県上新山の明神社本殿や、享保年間頃（1716 年～1736 年）の美篶下川手の御社宮司社本殿があります。伊那（竜西）横山の春日社にも古い社殿が複数あり、延宝年間（1673 年～1681 年）頃の本殿や、元禄年間（1688 年～1704 年）の天神社があります。

民家は江戸時代の農家建築があるほか、高遠町西高遠の旧中村家住宅のような町家建築や、武士住宅である読書楼などがあります。

読書楼（高遠町西高遠）

また、伊那（竜西）の荒井や坂下、伊那（竜東）中央には、昭和 20 年代から 30 年代に造られた看板建築の建物が複数あります。

1,452 件を超える絵画のうち、1,100 件余りが信州高遠美術館で所蔵する明治時代以降の近代絵画作品です。伊那市立高遠町歴史博物館が所蔵する絵画は、江戸時代から明治時代に描かれたものが多く、高遠藩主内藤清枚が描いた「鶉」や「竹にはしぶと」といった花鳥画や中村不折や池上秀畝の日本画、雁を好んで描いた長尾無墨の「江雁之絵」などが含まれます。

2,000 件を超える書跡・典籍のうち、藩校進徳館から受け継いだ漢籍や和書は、高遠藩進徳館蔵書本として１件で数えられていますが、その内訳点数は 6,350 点に及びます。同様に、岩崎家文庫や馬島家文庫といった高遠藩士の家に伝わった漢籍や和書も、１件の内訳点数が多くあります。伊那市立高遠町図書館や伊那市立高遠町歴史博物館で数多く所蔵する古文書は、江戸時代の大名家資料や高遠藩士に関わる武家文書が多く、高遠藩主内藤家の「内藤家資料」は特筆すべき資料です。

考古資料は 325 件、1,244 点あり、市で行った発掘調査の出土品もありますが、上伊那教育会が収集した資料、小中学校の資料室に展示してある資料なども把握しています。それらの中には大正時代に出版された著名な書籍にも掲載されている土器・石器・鉄器も含まれており、非常に貴重な資料が遺されています。

富県小学校資料室の考古資料

9,000 件を超える歴史資料の多くは、博物館施設の収蔵資料で、あらゆる分野のものが含まれています。写真資料も多くあり、明治時代や大正時代に撮影された市内の風景や人物、行事の様子をはじめ、昭和、平成に至るまでの数多くの写真が保存されています。

石造物は、全市的に悉皆調査を行ってきた分野です。道祖神や庚申塔といった路傍の石仏から、寺社の石灯籠、手水鉢に至るまで、あらゆる石造物を対象として、地域別に調査が行われた結果、約 9,500 件の石造物が確認されています。

（２）無形文化財

未指定の無形文化財は、民謡や舞踊です。長谷地域には、江戸時代から歌い継がれる民謡のざんざ節ときんにょんにょ（もしくはキンニョンニョ）があります。ざんざ節は、馬に荷物を乗せて運ぶ時に歌う馬子唄で、「ざんざ　ざんざと馬追いかけて　コラ　ザンザ…」と唄われます。

（3）民俗文化財

伊那市民俗資料館所蔵の
有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は約 7,600 件あります。伊那市民俗資料館には、市内から集められた有形の民俗資料が多数所蔵されており、お膳やお椀などの食膳具や、鍬や箕、田舟、田車、千歯扱き、唐箕といった稲作や畑作に関わる農具、養蚕や機織りに関わる道具、斧や大鋸などの山作業に使う道具など、あらゆる民具があります。高遠町西高遠の池上家で使われた秤や枡、醤油徳利、算盤、銭箱など、商家ならではの資料もあります。

約 1,300 件の無形の民俗文化財のうち、大多数を占めるのは、民話・伝承です。これは平成 24 年(2012 年)から平成 28 年(2016 年)まで行われた古い地名調査(第４章で詳述)の際に、地名に伴うものとして集められたものです。富県貝沼に伝わる鴛鴦の話「真菰が池伝説」のように全国各地に伝わる民話と似通った話や、手良中坪に伝わる飢きんや疫病に関する伝説「ワランベ山の伝説」など、地域特有の話があります。民話・伝承の主なものを資料編に掲載しています。

（4）記念物

遺跡は 64 件あり、旧陸軍伊那飛行場といった戦争遺跡があります。また、長野県内にある城館跡のうち、約 10%を市内の城館跡が占めます。そのほかに、道や霞堤といった遺跡があります。

動物・植物・地質鉱物は 253 件、12,123 点あります。地質鉱物では、アンモナイトなど 15 種類の化石、10,909 点が散逸せずに、長谷公民館に収蔵されています。植物には、寺社や各地区が大切にしている樹木があります。

（5）文化的景観

文化的景観は把握が進んでいない種類の歴史文化資源です。美篶川手から伊那(竜東)に続く三峰川の河岸段丘の段丘崖には、樹林帯が形成され、緑のベルトのような景観を見せています。この断層崖の斜面樹林は、かつては周辺に暮らす人々が生活資源を手に入れる場でもあり、伊那市の特徴的な景観です。

（6）埋蔵文化財

埋蔵文化財を包蔵する土地は 487 件あります。試掘調査によって発見した包蔵地や、新たな伊那市誌を編さんするために市内を踏査した結果、把握できた古墳、塚、城館跡などが、令和６年(2024 年) ３月に加わりました。

（7）地名

市内で 8,376 件を数える地名は、古い地名調査(第４章で詳述)によって把握されたものです。手良八ツ手の「鏡石」のように、巨石とその周辺を指す局所的な地名や、伊那(竜西)小沢の「小ナギ」や西春近表木の「大ナギ口」、高遠町西高遠の「五丁なぎ」、高遠町長藤の「ナギノ下」のように崩壊地を示す「なぎ」が入った地名、伊那(竜東)上新田の「六間割地」や「大割地」、「四間割地」のように、水害からの復興を示す地名など、市内には様々な背景を持った地名があります。

５　指定等文化財の管理方法

伊那市には 146 件の指定等文化財がありますが、それらは所有者や保存団体の方々によって大切に保存・管理・伝承されています。また、伊那市創造館や伊那市立高遠町歴史博物館など、指定文化財が展示・保存されている施設もあり、気軽に見学できます。

また、全ての指定等文化財は「文化財台帳」というデータベースで管理されています。「文化財台帳」には文化財の指定区分、指定年月日、所有者のほか、修理履歴などが記載されており、伊那市教育委員会生涯学習課の窓口で必要に応じて情報提供を行っています。

整理番号　第　国01　号　　**文　化　財　台　帳**　　伊那市

指　定 (指定番号)	国指定（00450）	区　分	重要文化財 - 美術工芸品
種　別	有形文化財	分　類	考古資料（縄文土器）
指定年月日	平成元年6月12日		
名　称	顔面付釣手形土器 ガンメンツキツリテガタドキ		
数　量 目　録	1点		
年　代	縄文時代中期中葉	作　者	不明
所在地 及び 保管場所	伊那市荒井3520番地 伊那市創造館		
所有者	伊那市	保　存 責任者	伊那市教育委員会（伊那市創造館）
性質 形状 構造 規模	正面 器高39.5cm、胴の直径16cm。 御殿場遺跡（伊那市富県　遺跡番号263）出土 側面 背面		

記録・記事

伊那路第十一巻一号別冊
『御殿場遺跡（富県北福地）概報』　（1967年1月、伊那市教育委員会）

伊那市文化財審議委員会　編
『伊那市の文化財〈第2版〉』　（1982年10月、伊那市教育委員会）

由来・伝統及び参考になる事項

◇出土状況：
昭和41年3月、土地改良事業着工に先立って「御殿場遺跡」の緊急発掘調査を実施したところ、第11号住居址と第12号住居址の切り合った部分から、顔面付釣手形土器が背中を上に向けて、伏った状態で出土した。

◇指定時の経過：
「顔面付釣手形土器」という名称は、平成元年6月21日付けで国の重要文化財に指定されたのを契機にして名付けられたもので、それ以前は「顔面彩色香炉形土器」と命名されていた。

◇土器の文様と特色：
本土器は縄文中期中葉の後半期に位置づけられており、編年学的にいえば、関東では勝坂式、信濃では、井戸尻式に該当すると思われる。褐色を帯び、良好な焼き方を成している。円筒形の深鉢の上に、三角形状の錐体を取り付けたものを骨格的とし、それに、平坦な人面が付いている。器高は、39.5cm、胴部の直径は16.0cmを測り、正面と背面の三方向に円形状の窓があけられている。上部は顔面を表現し、器体下部の両側には五指を揃じたような状態での文様が付けられている。この様相はあたかも人間がこの土器を抱きかかえているような様を意匠化した姿であろう。窓の周辺は同心円状に二本の沈線を施し、背面は太い粘土紐を用いてU字状と蛇行状の連続渦巻文を貼り付け、同時に、太い沈線を組み合わせて文様構成をしてあり、あたかも、人間の後頭部を表徴しているようである。正面にはかなりの油煙が付着し、ピカピカと黒光している。この土器は単なる照明器具だけではなくて、素朴で柔和な顔面は何か神秘感を漂わせ、火の精霊を強調しているようである。女性的な人面を呈し、何か、呪術的用途をもつものとみられ、火に対する敬度な願いが感受できるものであろう。

『伊那市の文化財〈第2版〉』より

図．伊那市文化財台帳の一例

6　埋蔵文化財包蔵地の状況

埋蔵文化財とは、地中に埋蔵されている文化財であり、埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地は「埋蔵文化財包蔵地」（遺跡）と呼ばれています。伊那市内の埋蔵文化財包蔵地は、令和６年（2024 年）４月時点で 496 か所が指定されています（包蔵地一覧は資料編に掲載）。特に天竜川や三峰川とその支流の段丘端部と山際に遺跡が多く見られ、水が得やすい場所を生活の場としていたことがうかがえます。

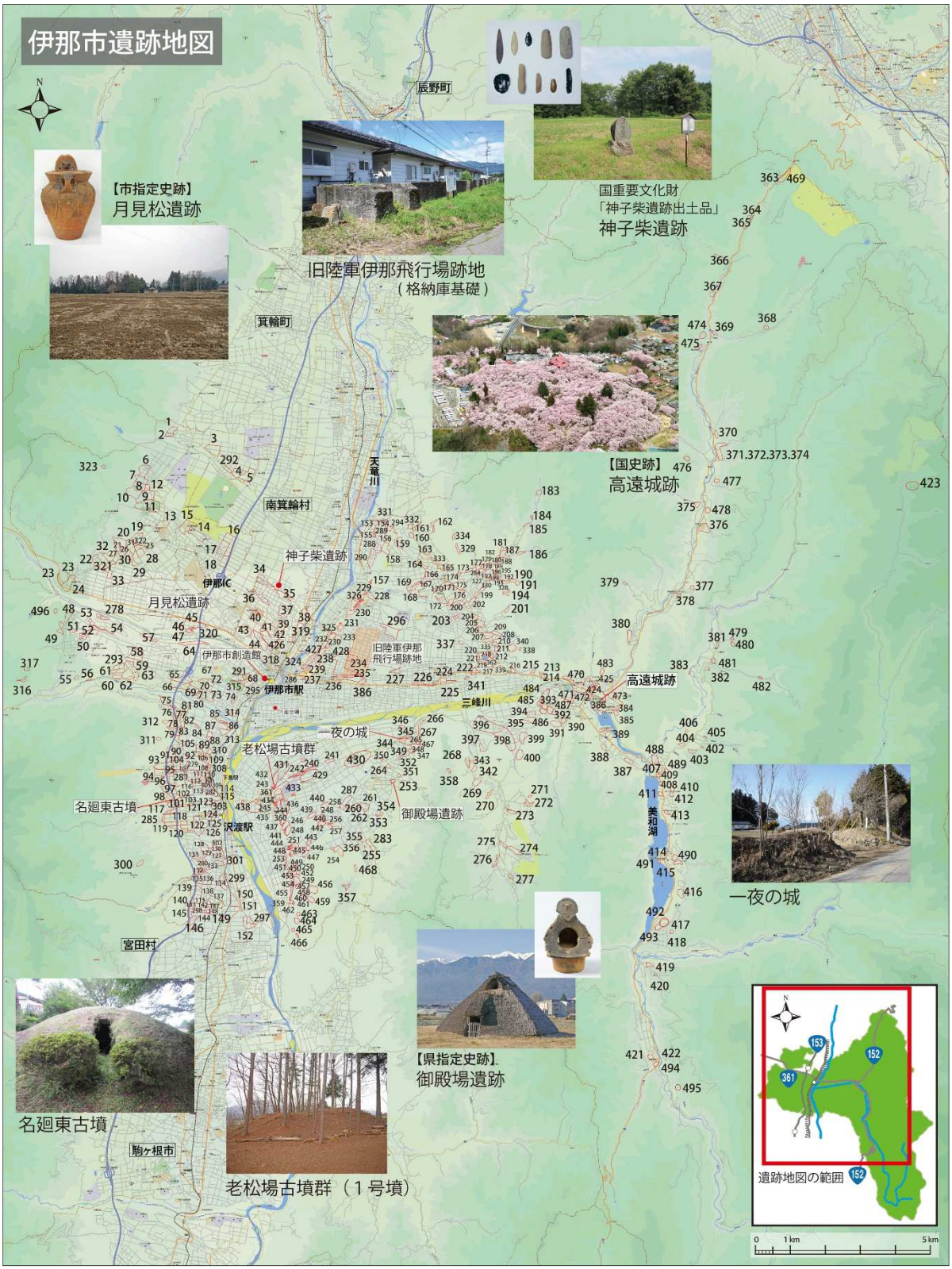


図. 埋蔵文化財包蔵地地図（伊那市遺跡地図）

図. 旧石器時代 遺跡分布図

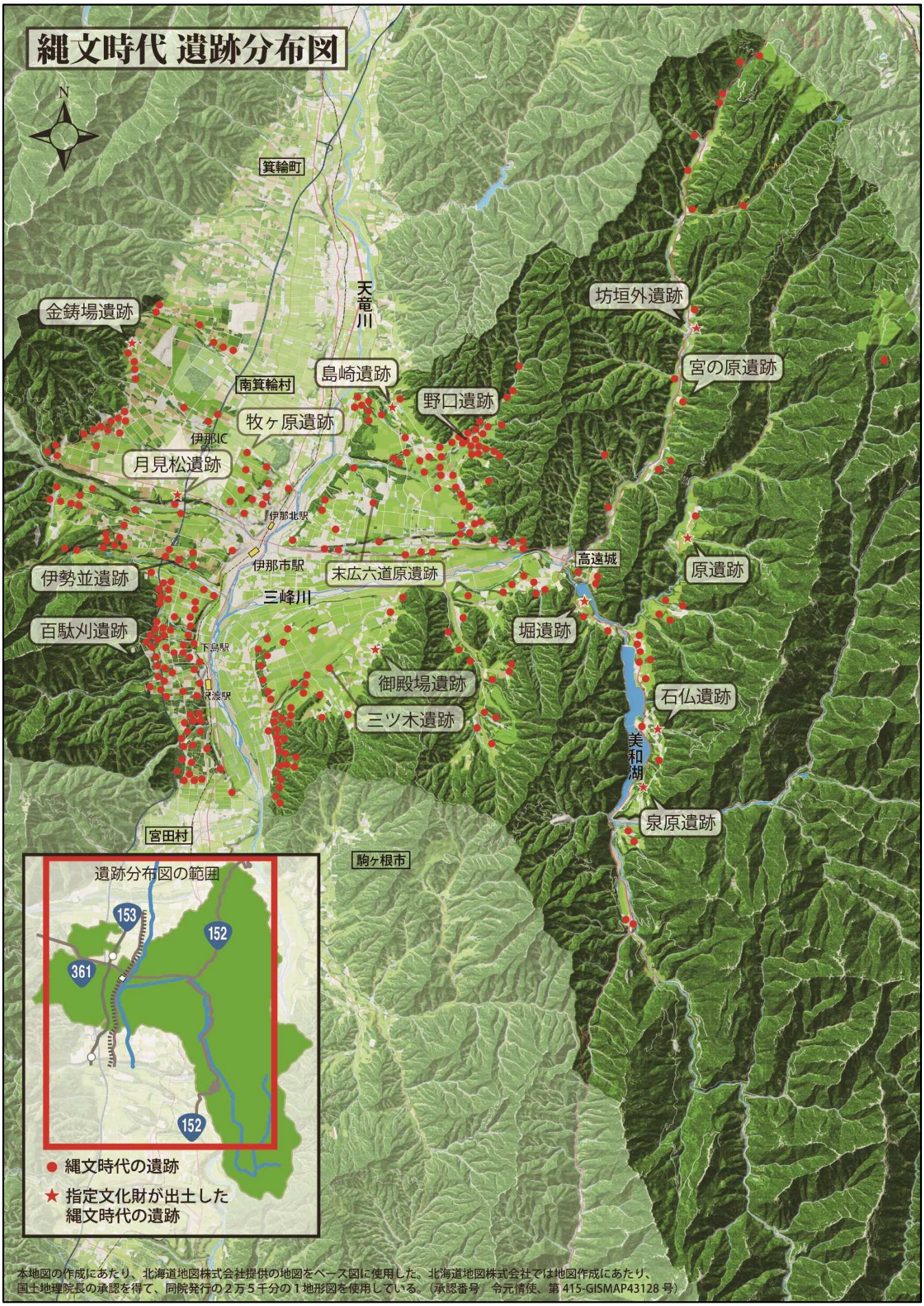

縄文時代 遺跡分布図
N
箕輪町
天竜川
金鋳場遺跡
南箕輪村
島崎遺跡
野口遺跡
牧ヶ原遺跡
伊那IC
月見松遺跡
伊那北駅
伊那市駅
伊勢並遺跡
末広六道原遺跡
三峰川
百駄刈遺跡
下島駅
沢渡駅
御殿場遺跡
三ツ木遺跡
宮田村
駒ヶ根市
坊垣外遺跡
宮の原遺跡
高遠城
原遺跡
堀遺跡
石仏遺跡
美和湖
泉原遺跡
遺跡分布図の範囲
153
152
361
152
縄文時代の遺跡
指定文化財が出土した縄文時代の遺跡
本地図の作成にあたり、北海道地図株式会社提供の地図をベース図に使用した。北海道地図株式会社では地図作成にあたり、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分の１地形図を使用している。（承認番号　令元情使、第 415-GISMAP43128 号）

図. 縄文時代　遺跡分布図

弥生時代 遺跡分布図
N
箕輪町
天竜川
南箕輪村
伊那IC
荒神遺跡
宮の平遺跡
伊那北駅
伊那市駅
高遠城
三峰川
下島駅
中村遺跡
沢渡駅
鳥井田遺跡
美和湖
宮田村
駒ヶ根市
153
152
361
152
遺跡分布図の範囲
弥生時代の遺跡
本地図の作成にあたり、北海道地図株式会社提供の地図をベース図に使用した。北海道地図株式会社では地図作成にあたり、
国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分の１地形図を使用している。（承認番号　令元情使、第 415-GISMAP43128 号）

図. 弥生時代 遺跡分布図

古墳時代 遺跡分布図
N
天竜川
箕輪町
松島大墓古墳
南箕輪村
福島古墳群
六ツ塚
野底古墳群
伊那IC
矢塚
山伏塚
砂場
笠原堂垣外
七日市場
上牧古墳群
芝垣外
伊那北駅
富士塚
天神山
伊勢並古墳群
古町
狐塚北
狐塚南
八人塚
伊那市駅
高遠城
三峰川
大塚
越道
荒神沢
狐塚
中非持
老松場古墳群
1号墳
白沢古墳群
殿島城跡
鎮護塚東
唐木
名迴東
名迴西
鎮護塚西
駒合
蚕玉
羽根原
洞
火沢
本城古墳群
駒ヶ原
阿原
福地古墳群
古寺上
寺坂上
如来堂
根木谷
宮ノ上
テマテ
丸塚
社宮司
男塚
菖蒲平
城南
入垣外
テマテトウセキ
富士塚
西春近南小
瀬戸
瀬戸山
大塚
美和湖
宮田村
駒ヶ根市
153
152
361
152
遺跡分布図の範囲
前方後円墳
円墳
方墳
古墳時代包蔵地
消滅
発掘調査
不明
【地図の色の濃い範囲が伊那市域】
本地図の作成にあたり、北海道地図株式会社提供の地図をベース図に使用した。北海道地図株式会社では地図作成にあたり、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分の１地形図を使用している。（承認番号　令元情使、第 415-GISMAP43128 号）

図. 古墳時代 遺跡分布図

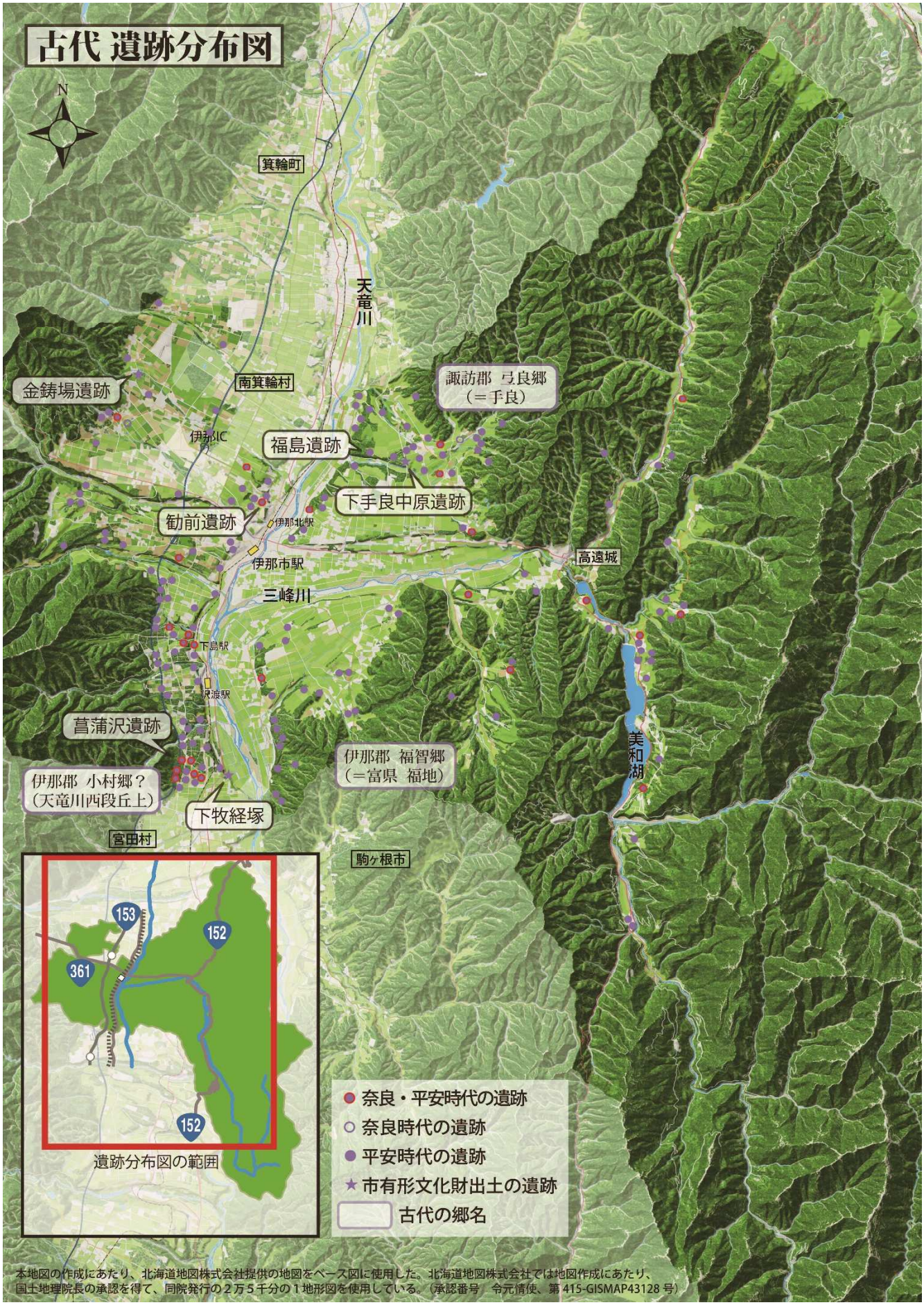

古代 遺跡分布図
N
箕輪町
天竜川
南箕輪村
金鋳場遺跡
伊那IC
福島遺跡
諏訪郡 弓良郷
（＝手良）
下手良中原遺跡
勧前遺跡
伊那北駅
伊那市駅
三峰川
高遠城
下島駅
沢渡駅
菖蒲沢遺跡
伊那郡 小村郷？
（天竜川西段丘上）
下牧経塚
宮田村
伊那郡 福智郷
（＝富県 福地）
美和湖
駒ヶ根市
153
152
361
152
遺跡分布図の範囲
奈良・平安時代の遺跡
奈良時代の遺跡
平安時代の遺跡
市有形文化財出土の遺跡
古代の郷名
本地図の作成にあたり、北海道地図株式会社提供の地図をベース図に使用した。北海道地図株式会社では地図作成にあたり、
国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分の１地形図を使用している。（承認番号　令元情使、第 415-GISMAP43128 号）

図. 古代 遺跡分布図

中世 遺跡分布図
N
箕輪町
藤沢城
天竜川
南箕輪村
伊那IC
蟻塚城
春日城
伊那北駅
伊那市駅
高遠城跡
白山
三峰川
一夜の城
物見ヤ城
蓮台場
小出城
下島駅
五郎山
富県の城館跡群
沢渡駅
物見や城
殿島城
美和湖
東春近の十三塚
八人塚
宮田村
駒ヶ根市
153
152
361
152
遺跡分布図の範囲
中世の遺跡
中世の城館跡
十三塚
本地図の作成にあたり、北海道地図株式会社提供の地図をベース図に使用した。北海道地図株式会社では地図作成にあたり、
国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分の１地形図を使用している。（承認番号　令元情使、第 415-GISMAP43128 号）

図. 中世　遺跡分布図

近世 遺跡分布図
N
箕輪町
天竜川
南箕輪村
伊那IC
伊那北駅
伊那市駅
伊那部宿
三峰川
高遠城跡
下島駅
沢渡駅
美和湖
宮田村
駒ヶ根市
遺跡分布図の範囲
153
152
361
152
近世の遺跡
本地図の作成にあたり、北海道地図株式会社提供の地図をベース図に使用した。北海道地図株式会社では地図作成にあたり、
国土地理院長の承認を得て、同院発行の２万５千分の１地形図を使用している。（承認番号　令元情使、第 415-GISMAP43128 号）

図. 近世　遺跡分布図

7　南アルプスユネスコエコパークの状況

ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的として、ユネスコが開始した事業です。地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取組です。

平成 26 年(2014 年) 6 月に、３県 10 市町村(長野県伊那市、飯田市、大鹿村、富士見町、山梨県北杜市、韮崎市、南アルプス市、早川町、静岡県静岡市、川根本町)にわたる南アルプス地域が、南アルプスユネスコエコパーク(南アルプス生物圏保存地域)に登録されました。日本のユネスコエコパークは、志賀高原(長野県、群馬県)、白山(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、甲武信(山梨県、埼玉県、長野県、東京都)など現在全国に 10 か所があり、その核心地域や緩衝地域の多くは、国立・国定公園や国有林の保護林として保全されています。

南アルプス一帯は、3,000m峰が連なる急峻な山岳地帯であり、かつ国内でも屈指の多雨多湿地帯です。厳しい自然環境の中にも多くの固有種の動植物が生息・生育するわが国を代表する地域です。また、富士川水系、大井川水系及び天竜川水系の流域ごとに古来より固有の文化圏が形成され、伝統的な習慣、食文化、民俗芸能などを現代に受け継いできた地域でもあります。

今まで南アルプスの山々によって交流を阻まれてきた関係市町村が、「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」という理念のもと、南アルプスユネスコエコパークとして結束し、南アルプスの自然環境と文化を共有の財産と位置づけるとともに、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な利活用に共同で取り組むことを通じて、地域間交流を拡大し、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを図ることを目指しています。

ユネスコエコパークは役割の異なった３つの地域で構成されています。

(１)核心地域(南アルプスユネスコエコパーク 24,970 ha)

原生的な自然環境、貴重な動植物の生息地であり、国立公園の特別保護地区など、自然環境を守らなければならない一番大切な地域。

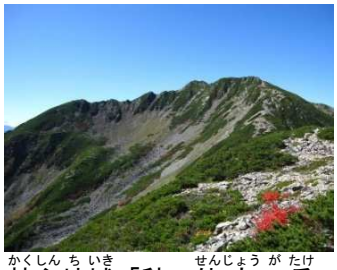
(２)緩衝地域(南アルプスユネスコエコパーク 72,389 ha)

環境教育、野外活動、調査研究活動や観光、レジャーに利用できる地域。

(３)移行地域(南アルプスユネスコエコパーク 205,115 ha)

自然環境と調和した農業や歴史、文化を活かしたエコツーリズムなどが行われている、人が暮らしを営んでいる地域。

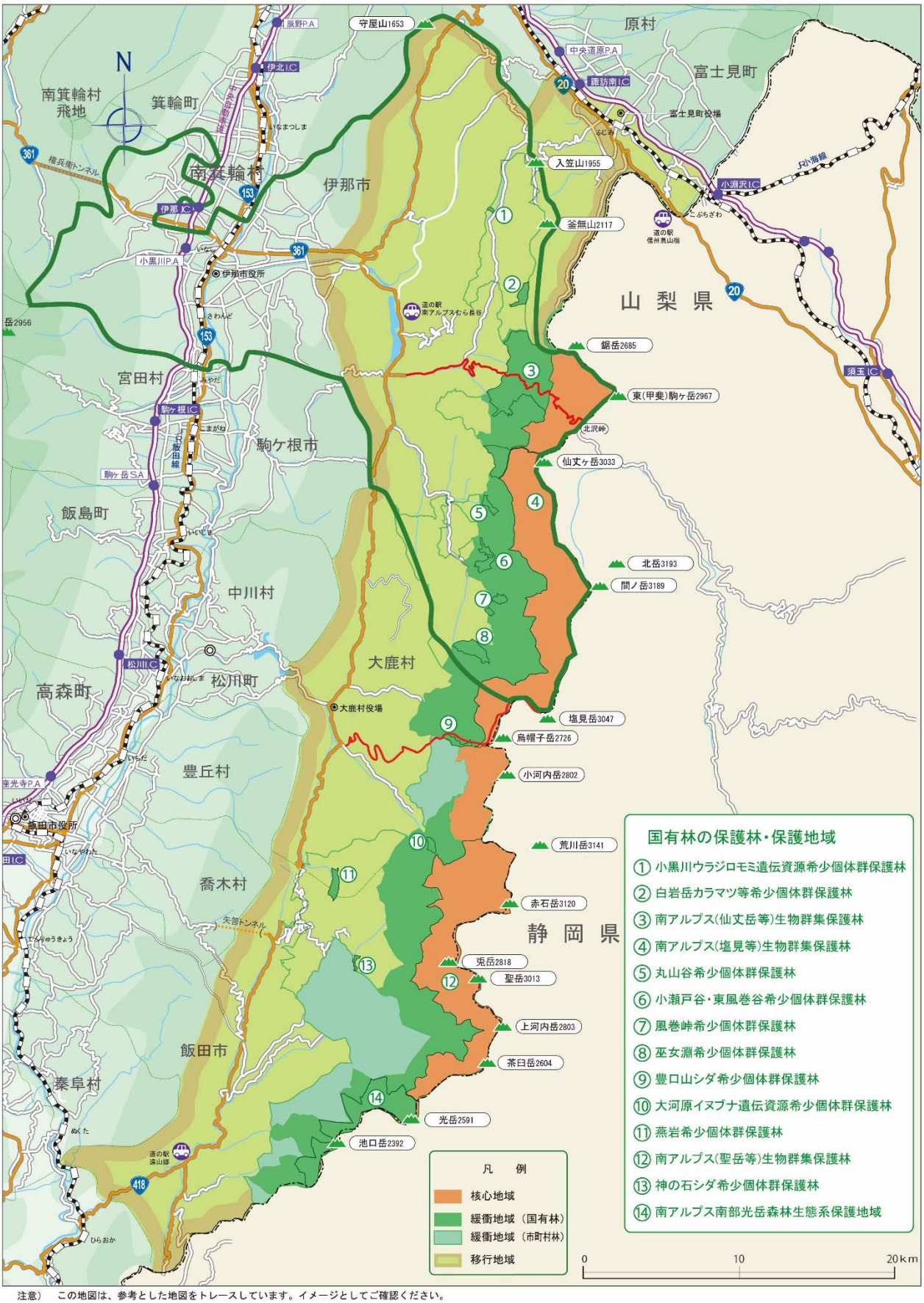
図. ユネスコエコパークの３つの機能と３つの地域
(参考：『伊那市環境基本計画(中間見直し版)』平成 27 年(2015 年))



核心地域「秋の仙丈ヶ岳」

緩衝地域「夏のテイ沢(入笠山)」

移行地域「春の高遠城址公園」



注意）　この地図は、参考とした地図をトレースしています。イメージとしてご確認ください。

図. 南アルプスユネスコエコパーク　長野県域ゾーネーション地図

８　南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの状況

平成 20 年(2008 年)12 月に南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの名で、日本最初の７か所の日本ジオパークの１つとして伊那市、飯田市、富士見町、大鹿村が認定されました(令和４年(2022 年)に富士見町が抜けて以降、３市町村になっています)。令和５年(2023 年)11 月現在、日本には、日本ジオパーク委員会が認定した「日本ジオパーク」が 46 地域あります。

ジオパークとは、ジオ(地球)に親しみ、ジオを学ぶ旅であるジオツーリズムを楽しむ場所とされています。山や川をよく見て、その成り立ちとしくみに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える場所です。また、足元の地面の下にある岩石から宇宙まで、数十億年の過去から未来まで、山と川と海と大気とそこに住む生物や、地球を丸ごと考えることができる場所です。

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークは、3,000m級の山を連ね、長さ南北 100km、東西 50km に及ぶ広大な南アルプスを擁(よう)しています。南アルプスの大部分を作っているのは、大昔の海底で作られた岩石です。軟(やわ)らかく削られやすいため、山麓付近は緩やかな傾斜地が多く、その地形を利用して人々が暮らす集落が広がっています。200 万年前頃から隆起(りゅうき)を始めた南アルプスは、年間４㎜という世界でも稀(まれ)にみる速さで今でも少しずつ高くなり、多量の雨に侵食(しんしょく)されて深い谷が刻まれています。

南アルプス(中央構造線)ジオパークには、南北方向にまっすぐな谷が走っています。この谷は、断層のずれ動きで砕かれたもろい岩石が川に削られてできたものです。長谷地域、高遠町地域には、関東から九州まで続く日本最大級の断層、「中央構造線」の露頭(ろとう)が観察できます。また、中央構造線に沿ってできたまっすぐな谷は歩きやすく、古来より多くの人が行き交う街道となり、独自の歴史や文化が生まれました。

分杭峠(ぶんぐいとうげ)から望む中央構造線の谷

中央構造線「溝口露頭(みぞぐちろとう)」

日本最大の石灰岩のかたまり「幕岩(まくいわ)」

南アルプス長谷ビジターセンター

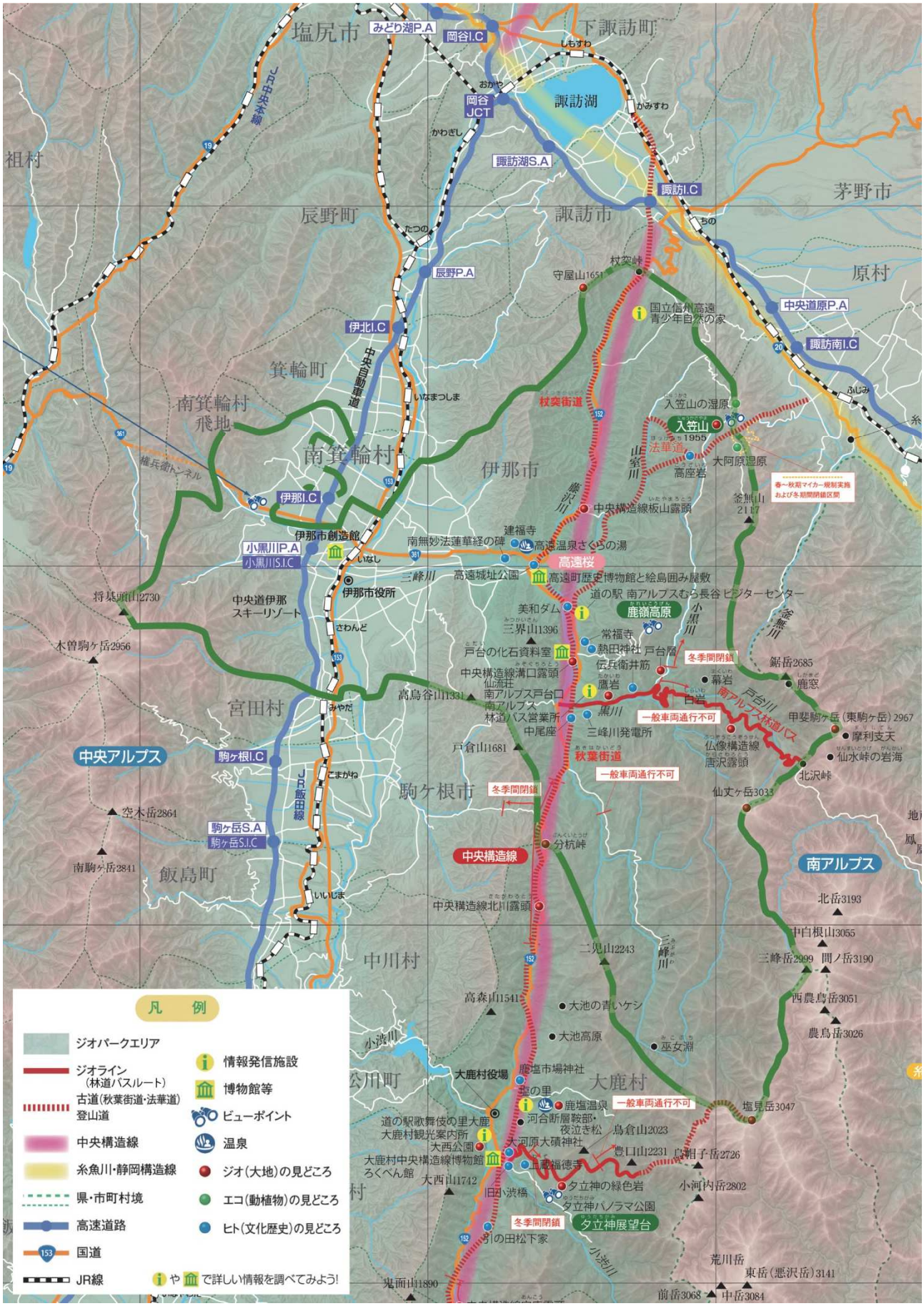


図. 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク伊那市域マップ

表. 伊那市内のジオサイトリスト

凡例		g:ｼﾞｵｻｲﾄ e:自然ｻｲﾄ c:文化ｻｲﾄ				
	サイト分類					
No.	g	e	c	名称	位置情報_行政区等	概要
1	*			守屋山	伊那市高遠守屋山一帯	新第三紀初期地層群、化石(有孔虫、貝類、植物)。
2	*			入笠山	伊那市入笠山一帯	秩父帯の地質、入笠山層群で緑色岩(変玄武岩類で塊状溶岩や枕状溶岩を含む)が頂上一帯を広くおおう、360度のパノラマ展望地。
3	*			甲斐駒ヶ岳	伊那市長谷	甲斐駒ヶ岳花崗岩質岩体、中期中新世前半の併入し急速冷却し隆起、周辺に熱変成作用。
4	*			仙丈ヶ岳の氷河地形	伊那市長谷	藪沢カールと三日月形モレーン、多重山稜が発達、小仙丈ヶ岳カールなど。
5	*			戸台層	伊那市長谷戸台大橋周辺	黒瀬川帯相当層で、三角貝やアンモナイトの化石を含む前期白亜紀層。
6	*			中央構造線溝口露頭	伊那市長谷溝口	走行は北ないし北北東、傾斜は垂直なし高角度の東傾斜、領家帯と三波川帯の岩石が著しく破砕。
7	*			中央構造線板山露頭	伊那市高遠町板山	領家帯非持トーナル岩由来のカタクレーサイト化したマイロナイトと三波川帯泥質片岩の接し、わずかな断層ガウジを伴う露頭。
8	*			鷹岩	伊那市長谷	三波川帯の御荷鉾緑色岩体の中央付近に分布する蛇紋岩体、この緑色岩体には青色片岩をはさみその中にローソン石も含む。
9	*			分杭峠	伊那市長谷	中央構造線のケルンコルが明瞭、北方へ栗沢川沿いにケルンコル、ケルンバットが顕著、中央構造線沿いの北方への断層地形の景観。
14	*			塩見岳の緑色岩	伊那市長谷	白亜紀付加体の緑色岩。
30	*			仏像構造線唐沢露頭	伊那市長谷	仏像構造線の唐沢における断層とその両側の秩父帯と四万十帯との地質を明らかにした。
e05		*		南アルプス林道沿いの石灰岩植物	伊那市長谷	石灰岩の露出する林道沿いに、シナノコザクラ、シライワシャジン、トダイハハコなどの希少植物が自生する。
c08			*	南無妙法蓮華経の碑	伊那市高遠町西高遠	鉾持桟道の大正14年の道路改修の際に、崖側の高遠花こう岩から発見された「お題目」。崖から取り出された後、現在の位置に設置された。
c09			*	建福寺	伊那市高遠町西高遠1824	臨済宗妙心寺派の寺院。慶長年間に創建。保科家の菩提寺で、武田勝頼(諏訪御料人)の母とされる墓もある。高遠産の青石(輝緑岩)に刻まれた西国三十三所観世音菩薩や願王地蔵尊は、高遠石工の名工守屋貞治の作品。
c10			*	美和ダム	伊那市高遠町勝間1673	仙丈ヶ岳を源に持ち河床勾配が急な三峰川は、洪水時に多量の土砂を伴って流れ下り、沿岸地域のみならず天竜川流域まで甚大な被害を及ぼしていた。そのため美和ダムには、洪水調節機能の他、多量の土砂を排出する湖内堆砂対策施設や土砂バイパストンネルが整備されている。

凡例	g:ｼﾞｵｻｲﾄ e:自然ｻｲﾄ c:文化ｻｲﾄ					
	サイト分類					
c11			*	熱田神社	伊那市 長谷溝口	創建は不明。三峰川や支流の氾濫を大蛇によるものと考え、大蛇退治の伝説のある日本武尊をしのんで尾張の熱田神宮の形影を迎えて祀ったのが始まりと伝えられている。現在の本殿は、宝暦９年～13年に改修された。大工棟梁「高見善八」と彫物師「関口文次郎」による、日光の流れを汲む特殊な建築手法と精巧な彫刻技術、色彩が素晴らしく「伊那日光」と言われている。
c12			*	三峰川発電所	伊那市 長谷黒河内 2895	南アルプスからの豊富な水源と流れを利用した水力発電所。三峰川の本流と、その支流12ヵ所の取水所より水を取り入れ、第一発電所およそ260m、第二発電所およそ330mの落差を利用し発電。
c13			*	お鷹岩井筋	伊那市 長谷溝口	河川勾配を利用した農業用水路。特に、災害の少ない段丘上へ水を引くため、江戸時代に伊東伝兵衛によって開発されたが、緑色岩の硬い岩盤(お鷹岩)を掘り抜くなどの難工事が続き、完成までに36年も要した。
c14			*	中尾座 (中尾歌舞伎)	伊那市 長谷中尾 363- 5	中央構造線の弱線に沿って浸食されてできた谷沿いの街道(秋葉街道)を通り、江戸時代の明和４年に伝わったとされる農村歌舞伎。以後、地域の人々によって伝承され、平成８年には伝統文化保存伝承施設として「中尾座」が落成した。
c15			*	高遠城跡	伊那市 高遠町東高遠	三峰川と藤沢川の合流点にある段丘先端部に築かれた平山城。河川敷上80m、南北の河川が惣堀の役割を果たす天然の要害地。
c16			*	御山の遺跡 (常福寺)	伊那市 長谷溝口869	常福寺の脇、御山と呼ばれる小高い丘の上に後醍醐天皇の皇子宗良親王の御墓とされる無縫塔が安置されている。宗良親王は南北朝時代の*興国5年に信濃大河原(現大鹿村)に入り、以後、中央構造線の谷を行き来しながら北朝軍との戦いを行った。
c17			*	秋葉街道 (中尾-市野瀬の古道)	伊那市 長谷中尾- 長谷市野瀬	中央構造線の弱線に沿って浸食された谷はいつしか人々が行き交う街道となり、江戸時代の後半には、静岡県浜松市にある火伏の神「秋葉神社」へ詣でるための信仰の道として賑わった。街道沿いには、現在でも道標や常夜灯、旅の安全を祈願する石仏等が数多く残っている。
c18			*	高座岩 (法華道)	伊那市 高遠町荊口	法華道は、富士見町若宮から入笠山麓、三義の赤坂を経て長谷非持に至る道(全長約22km)で、信濃への法華宗(日蓮宗)伝来を伝える歴史の道と言われている。御所平峠の南には、身延山第９世日朝上人が岩上で従者に法を説いたという高座岩(戸台層に属する礫岩)がある。

第３章　伊那市の歴史文化の特性

市内にある様々な歴史文化資源は、伊那市ならではの環境が生み出したものです。
２つのアルプスや天竜川水系の河川、古くからの道などとの関わりの上に育まれ、伊那市らしさを生み出していることがわかります。

１　歴史文化資源の分布状況

市内のどのような所に歴史文化資源があるのでしょうか。
古くからよく使われた道沿いや、大きな道が交わる場所にたくさんの歴史文化資源が集中しています。

伊那市の歴史文化資源の分布状況を見ると、高遠町地域の中心部である西高遠や東高遠や伊那市街地付近に特に集中しています。その理由として、それぞれ街道が交わる場所に位置していることが関係しています。高遠市街地は高遠城と城下町を含むエリアで、杖突街道（金沢街道）と秋葉街道が交わる場所、伊那市街地は伊那街道と権兵衛街道が交わる場所で、様々な人や文化が入りやすかったことが要因です。

また、高遠町地域では杖突街道沿いに多く歴史文化資源が分布しており、長谷地域では秋葉街道沿いに多く分布しています。これは、両地域とも平地が少ないという地形的な要因のほかに、街道を通して様々な人や文化が入ることにより、街道沿いが栄えていったためと考えられます。

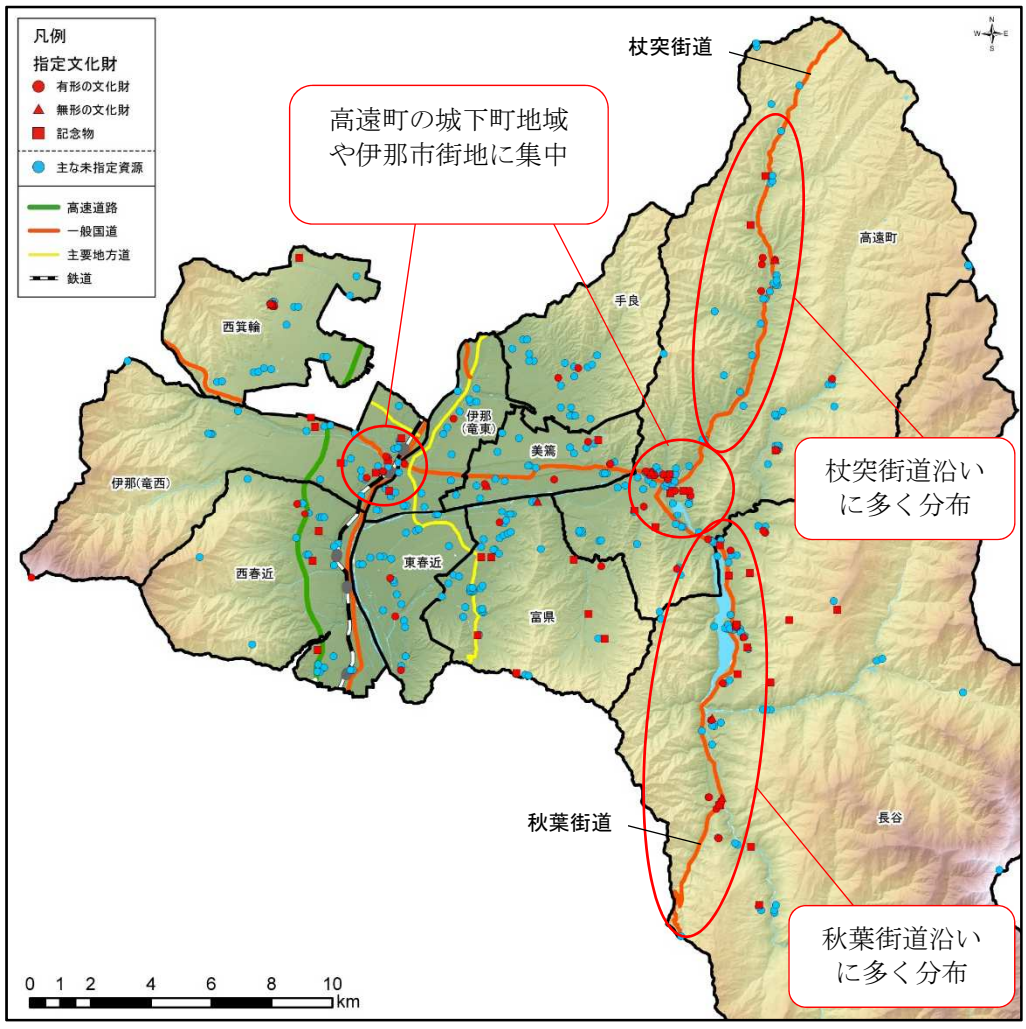


図. 歴史文化資源の位置

2　地域別の歴史文化の特性

かつて町や村だった市内 10 の地域には、その土地の歴史から生まれた文化や資源が遺っています。それぞれの地域にどんな特徴があるのかまとめてみました。

(1)伊那(竜西)地域

東に天竜川、西は西部山麓から中央アルプス山岳地域までを含む伊那(竜西)地域には、小沢川と小黒川が流れ、自然豊かな地域と交通の発展とともに栄えた市街地エリアがあります。

天竜川西の段丘上から西部山麓までは広大な台地が広がっており、かつて水が乏しかったこの地域では、長い間水をめぐる争いが絶えず、人々は年月をかけ、苦心して水田を拓いてきました。小沢川を中心に発達した井筋や横井戸を利用した艶三郎の井、西天竜幹線水路など、用水に関わる歴史文化資源が複数見られます。

段丘の東上端には戦国時代の城、春日城跡があり、その直下には古くからの街道である伊那街道が通っています。塩尻宿(現在の塩尻市)と飯田城下(現在の飯田市)のほぼ中間に位置する伊那部宿は、木曽へ通じる権兵衛街道や高遠へ向かう杖突街道(金沢街道)の分岐にも近く、江戸時代には非常に賑わった宿場でした。宿場の最南端には、当時の趣を今に伝える伊那部宿酒屋旧井澤家住宅も遺されています。

明治時代になると伊那街道の改修が行われ、当時物流の中継地として隆盛を極めていた天竜川通船の舟着き場や、明治 45 年(1912 年)に開業した伊那電気鉄道の駅を取り込む形で近代の市街地が形成されていきました。建ち並ぶ看板建築の町並みは、昭和 20 年代から 30 年代の最盛期の街の繁栄ぶりを今に伝えています。

昭和５年(1930 年)に開館した上伊那図書館は、上伊那に遺る最も古い鉄筋コンクリート建造物で、外壁には高遠焼のテラコッタが使われるなど、当時「壮麗完備天下に誇る」と言われ、多くの人に親しまれてきました。

このように伊那(竜西)地域は交通や地域の近代化に関わる歴史文化資源が多く遺る地域です。

【伊那(竜西)地域の主な歴史文化資源】

月見松遺跡
(市指定文化財)

小沢川の左岸段丘上にある縄文時代中期の大規模な遺跡です。ユニークな造形の顔面把手付大深鉢をはじめ、独特な文様や形の土器が多数出土しています。

山寺の白山社八幡社合殿のケヤキ
(市指定文化財)

樹齢 800 年とも言われる御神木で、高さ 22m、目通りの幹周が 9.8mの大木です。幹には大きなこぶがたくさんあり、風格を感じさせます。

常 円寺（じょうえんじ）

600 年の歴史を持つ古刹で、戦国時代の織田軍による高遠城攻めの際に寺に寄進された「雲板」や明治時代から大正時代に活躍した日本画家の小坂芝田の描いた「十六羅漢図」、「青緑楼閣山水画」といった市指定文化財があります。

天 竜 川舟着場（てんりゅうがわふなつきば）

天竜川通船は、江戸時代の文政年間から明治 30 年代まで約 80 年間にわたって行われました。廻船問屋が並び、舟着場のあった「入舟」という町名に通船の名残を留めています。

山寺のやきもち踊りの習俗（やまでらおどりしゅうぞく）（県選択無形文化財）

山寺の白山社八幡社合殿で、毎年 4 月に行われます。当屋祭、当屋引継式に続き行われる踊りでは、4 人の唄い手を中心に踊り手が円を組み、酒盛りを挟みながら 3 回踊ります。3 回目の踊りの後は、先を争って一目散に境内から逃げます。

旧 上伊那図書館（きゅうかみいなとしょかん）（市指定文化財）

昭和 5 年(1930 年)に開館した上伊那図書館(現在の伊那市創造館)は、製糸業で財を成した実業家の武井覚太郎の寄付によって建設された建物で、地域の教育や文化を支えた場所です。

※赤印の指定文化財、青印の未指定の資源は明確な場所が特定されていない場合があります。

図. 伊那（竜西）地域の主な歴史文化資源の位置

(2)伊那(竜東)地域

伊那(竜東)地域は２つの河川に挟まれた地域で、西に天竜川、南に三峰川が流れており、河川に関わる歴史文化資源が多くあります。

霞堤や柵立堤防といった治水施設の跡や、水害が起こらないように祈りをささげたと伝わる般若島、洪水に見舞われた土地を復旧するための測量基準となった見通し桜などが遺るほか、無形の資源としては、天竜川の氾濫に直面した人々の姿を詠んだ狂歌や、被災地を共有地にして復旧を分担する「割地」という制度も伝わっています。

天竜川と三峰川が形づくる河岸段丘の上には、各時代様々な遺跡があります。天竜川や周辺地域を見下ろすことができる上牧や福島の段丘端部には古墳群が見られるほか、上の原の広い平坦面を利用した旧陸軍伊那飛行場跡地といった戦争遺跡もあります。

近年は(都)環状南線や(主)伊那生田飯田線、(主)伊那辰野停車場線といった主要道路が整備されたこともあり、商業施設や工業団地が増え、新たな住宅地も増えています。一般国道 153 号伊那バイパスの延伸に併せて、埋蔵文化財の発掘調査が行われた地域でもありますが、近年は野底の荒神遺跡から新たに弥生時代前期の稲作の伝播を示す土器も見つかっており、今後さらに伊那市の歴史が明らかになる可能性を秘めた地域です。

※道路路線名の前にある「(都)」は都市計画道路、「(主)」は主要地方道を意味します。

【伊那(竜東)地域の主な歴史文化資源】

野底の柵立堤防

江戸時代中期、高遠藩の郡代、阪本天山がこの地に堤防を築きました。特殊な工法で大型の柵のようであったことから柵立堤防と呼ばれました。

見通し桜

狐島の天竜川沿いにあり、江戸時代から測量の基点になっていた桜です。延享元年(1744 年)の大洪水をきっかけに、狐島村と荒井村では村の境界を明確にした絵図を作りました。その後、何度も洪水に見舞われましたが、その都度、見通し桜など、絵図に書かれた基点を元に境界復元が行われました。

神明社荒神社合殿のケヤキ（市指定文化財）

神明社荒神社の境内には、樹齢 300 年と言われるケヤキが７本あります。直線的に配置された樹々は、時には風除けとなり、天竜川が氾濫した際には、荒れ狂う水を防いだと伝えられています。

木造阿弥陀如来坐像（市指定文化財）

阿弥陀寺の本尊で、室町時代前期の作とされます。高さ 112 ㎝の檜材一本造りで、木彫の上に布を貼り、漆を施してあります。地方での当時の仏像様式を知る上で、貴重な像です。

荒神遺跡

野底にある荒神遺跡は、縄文時代、弥生時代、平安時代といった複数の時代にまたがる複合遺跡です。国道 153 号伊那バイパス建設地であったため、工事前に発掘調査を行い、遺跡の記録を残しています。

蓮台場

戦国時代、武田信玄が伊那へ侵攻してきた際に、最後まで抵抗した 8 人の地侍が、捕らえられ処刑された場所だと伝わります。遺体(首)は、長谷黒河内に葬られ、八人塚として祀られています。

図. 伊那（竜東）地域の主な歴史文化資源の位置

（3）富県地域

高烏谷山の山麓にあり、北に三峰川が流れる富県地域には、縄文時代早期の土器が出土した三ツ木遺跡や縄文時代中期後葉の顔面付釣手形土器が出土した御殿場遺跡、馬の生産に関わった人々が築いた福地の古墳群などの遺跡があり、古くから連綿と人々の生活が営まれてきた地域です。

高烏谷山麓に生育する高烏谷のマツハダや久保田のアカマツ、信仰の場に生育する上新山宮下のサワラ、薬師堂のシダレザクラなど、他地域と比較して市の天然記念物に指定された樹木が多くあります。

この地域の特徴は、狭い範囲に中世の城館跡が数多く遺ることです。高遠城の戦いの際に織田信忠軍が陣を置いたと伝わる「一夜の城」をはじめ、桜井地区や貝沼地区には多くの城館跡がありますが、一夜の城の発掘調査では、深い堀に囲まれた城館跡の様子が明らかになっています。これらの城の多くは、中世に有力百姓が居住していた場所だとされ、彼らが江戸時代の豪農層に変化していったとみられています。このように遺跡を通して社会の変化をうかがい知ることができる地域です。

富県地域は段丘上であることから、古くから水利が問題となる地域でもありました。戦国時代の高遠城主、武田勝頼が富県の在地領主に発給した文書の中にも、井筋の管理に関わる記述が見られます。江戸時代後期、伊東伝兵衛が伝兵衛井筋（鞠ヶ鼻井筋）を完成させてからは、富県地域や下流の東春近地域には豊かな農地が広がるようになり、現在もこの用水が地域の農業を支えています。

【富県地域の主な歴史文化資源】

薬師堂のシダレザクラ（市指定文化財）

中新山今泉の薬師堂には、樹高 12m、幹周 5.5mのシダレザクラがあり、樹齢は 200 年を超えると言われます。樹肌はコブ状になっており、太枝が枯れてしまっているところもありますが、春には、見事に花を咲かせます。

高烏谷のマツハダ（市指定文化財）

常緑針葉樹のマツハダは、東北南部から中部地方に分布する希少種です。伊那市内では、南アルプス山麓に生育していますが、高烏谷山のような里山に見られるのは珍しく、幹周 1 m、樹高 30mで樹勢もよく、美しい樹形をしています。

一夜の城（いちや　じょう）

高遠城の戦いの際に、織田信忠軍が一夜にして築き、陣城としたという伝承が伝わる城です。現在も高さ 50 ㎝～ 3 m の土塁が、一辺約 50m の正方形の城を取り囲んでいます。

武田勝頼判物（たけだかつよりはんもつ）

高遠城主になった武田勝頼が在地領主の埋橋氏に対して発給した文書で、井筋の管理を命じています。

宮ノ花八幡神社の社叢（みやのはなはちまんじんじゃ　しゃそう）

宮ノ花八幡神社本殿（市指定文化財）（みやのはなはちまんじんじゃほんでん）

創建年代は不明ですが、スギやヒノキなど 300 本もの樹木が社叢を形成しており、古いたたずまいをもつ神社です。拝殿建物の奥にある、江戸時代前期(1670～1680 年頃)建築の本殿が、市の有形文化財に指定されています。

片倉天伯社（桜井天伯社）（かたくらてんぱくしゃ　さくらいてんぱくしゃ）

洪水で流された藤沢郷片倉の天伯社が、この地に一時漂着したことから、分神して祀られた神社です。水の神、瀬織津姫命を祭神としており、美篶川手の天伯社とともに、サンヨリコヨリが行われます。

図. 富県地域の主な歴史文化資源の位置

（4）美篶地域

美篶地域には、古くから高遠城下と伊那を結ぶ杖突街道（金沢街道）が通っており、人の往来が盛んな地域でした。

南に三峰川が流れ、川と接する範囲が広いことから度々洪水に見舞われてきた地域でもあります。「サンヨリコヨリ」など洪水伝承と深く関わる無形の民俗文化財が伝わるほか、伊那（竜東）地域と同様、治水施設である霞堤が随所に見られ、「割地」の風習も伝わっています。

段丘崖によって分けられた地域は、それぞれ異なる趣を見せており、段丘の最上段に広がる六道原は、三峰川と接する下段とは異なり、水利に恵まれない地域でした。平安時代には広大な平坦地を利用し、笠原に朝廷へ献上するための馬を飼育する御牧があったと伝えられます。現在のように水田が拓けたのは、江戸時代後期に高遠藩直営工事で六道の堤が造られ、水が得られるようになった後のことです。

江戸時代に始まり、地域の生活を支えた笠原紙や篶竹細工といった産業も、現在ではほとんど見られなくなりましたが、住民主体で運営されている美篶小学校資料館には、当時の道具が保存展示され、地域の方々の手によって子ども達に伝えられています。景観保全も含めて、地域ぐるみで歴史文化を伝承している地域です。

【美篶地域の主な歴史文化資源】

サンヨリコヨリ（市指定文化財）

三峰川の右岸と左岸にある２つの天伯社で行われる祭りです。笹竹の七夕飾りを持った子ども達が「さんよりこより」と唱えながら、鬼役の大人の周りをまわった後、一斉に笹竹で鬼を叩きます。美篶川手天伯社で行った後、祭神は神輿に担がれ、三峰川を渡り、富県桜井の天伯社でも同様の「サンヨリコヨリ」が行われます。洪水などの災厄を防ぎ、豊作や集落の安全を祈る意味が込められていると伝えられます。

六道の堤と桜

六道原を開田するために、江戸時代に高遠藩の直営工事として築かれた堤(貯水池)です。高遠町長藤の藤沢川から水を引くため、約 10 kmもの水路を建設し、嘉永４年(1851 年)に完成しました。現在は桜の名所にもなっています。

美篶小学校資料館と館内に展示された篶竹細工

美篶地域の人々が運営管理費を出し、保存活用している美篶小学校の資料館です。地域の歴史や文化に関わる展示があり、笠原紙や篶竹細工などの展示があります。運営委員の方々のサポートで美篶小学校の児童たちが様々な体験活動をしています。

蟻塚城　本丸の土塁（市指定文化財）

笠原氏の居城と伝えられる蟻塚城は、戦国時代まで使われた山城です。ひな壇式に７段の曲輪が連続し、最上段にある本丸は、1,500 ㎡の広さで、東側には高さ約５ｍの土塁が遺っています。

芦沢天満宮本殿（市指定文化財）

江戸時代の貞享年間から元禄年間(1684 年～1704 年)に建築された本殿は、柿葺きの一間社流造で、梅をモチーフとした彫刻や、全体に彩色が見られます。

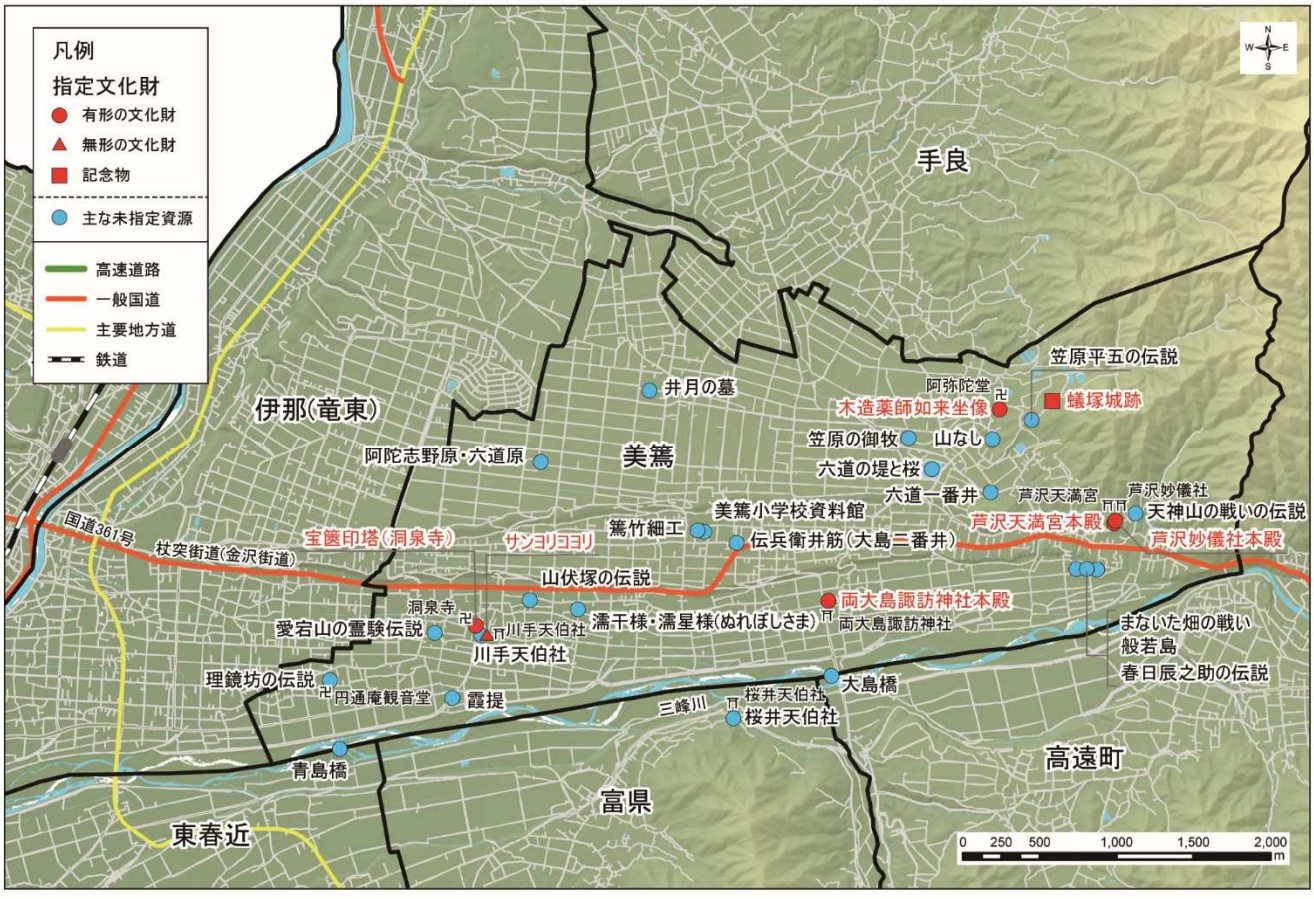


図. 美篶地域の主な歴史文化資源の位置

(5)手良地域

手良地域は、不動峰など東に連なる山々の山麓に集落が形成されており、里山資源が多く、湧水が豊富な地域でした。野口遺跡では、縄文時代晩期の再葬墓が見つかっており、古くから人々の生活が営まれていたことが分かっています。

地域の拠り所となる寺社も多く、十一面千手観音を本尊とする清水庵や江戸の有名力士、雷電為右衛門らが奉納相撲を行った若宮八幡社などがあります。江戸時代末期に建てられた野口八幡神社舞台は大規模な農村舞台で、かつて祭礼の際には、ここで地芝居などが行われていました。豊富な山林資源を背景に、豊かな暮らしがあったことが分かります。

江戸時代、この地域は幕府領でしたが、隣の高遠藩領の藤澤や長藤の谷とは山を越えて盛んに行き来がありました。今でこそ街道筋から最も遠いと感じられる蟹沢集落も、藤澤や長藤の谷へ向かう峠道の入口にあたり、好立地の集落でした。高遠藩領内だけでなく、手良地域内にも多くの石工がおり、こうした山道などを利用して全国各地へ旅稼ぎに出掛けていました。蟹沢の四国八十八か所霊場巡拝塔や百体庚申塔など、村人たちの信仰と結びついた石造文化財が数多く遺されていることもこの地域の特徴で、農村の古いたたずまいの中に、石仏のある風景が見られます。

【手良地域の主な歴史文化資源】

鳥の宮湧水

手良野口の中組にあるこの湧水は、かつては地域の生活用水として使われ、手良小学校の水道としても使われていました。弱酸性で適度にミネラルを含み、まろやかで美味しいと、今でも水を汲みに来る人が絶えません。

清水庵

かつては大福山養泰寺といい、現在より南の笠原小清水にあったと伝えられます。本尊の十一面千手観世音菩薩は、京都清水寺、播磨清水寺の本尊と同一の木から彫刻したものと伝わります。

わかみやはちまんしゃ
若宮八幡社

中坪集落のほぼ中心にある神社です。文化９年(1812年)９月に、当時の大関、雷電為右衛門や柏戸宗五郎ら総勢 75 名が訪れ、境内で勧進相撲を行ったと伝えられます。当時の番付額や相撲軍配などが大切に保管されています。

のぐちはちまんじんじゃぶたい
野口八幡神社舞台（市指定文化財）

江戸時代末期の建築で間口 14.6m、奥行 7.9m、左右に太夫座と下座がついています。市内最大規模で、長野県内でも代表的な舞台です。

しこくはちじゅうはちかしょれいじょうじゅんぱいとう
四国八十八か所霊場 巡拝塔

蟹沢にあるこの巡拝塔は、四国の八十八か所霊場から持ち帰った石を埋め、その上に各札所の本尊を刻んだ石仏を建てたものです。江戸時代末期に、野口や中坪、上牧、高遠など近隣の人々によって造られ、長い間信仰の対象となってきた場所です。

ひゃくたいこうしんとう
百体庚申塔

江戸時代中期の明和８年(1771年)のものをはじめ、約100体の庚申塔が並びます。上牧、野底、黒沢、木下など近隣の村々からの奉納も見られます。

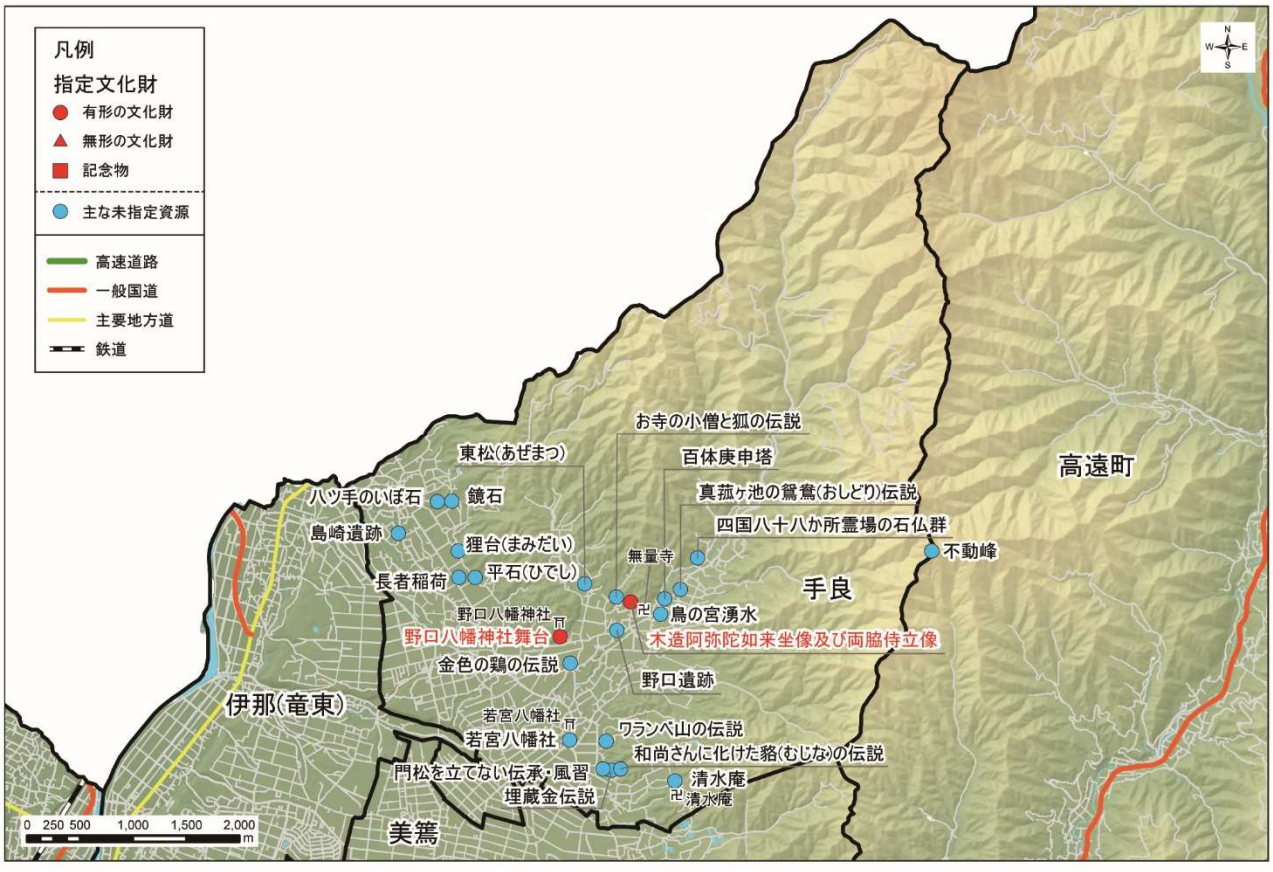


図. 手良地域の主な歴史文化資源の位置

（6）東春近地域

東春近地域は天竜川と三峰川の合流点の東に位置する地域です。西に天竜川、北に三峰川が流れており、その土地がら、河川に関わる歴史文化資源が多くあります。

伊那（竜東）地域や美篶地域と同様、治水施設である霞堤や経塚など災害伝承をもつ地名が残るほか、江戸時代に天竜川や三峰川で盛んに行われた筏下し（川の流れを利用して材木を運搬する方法）に関わる「木川」や「渡場」といった地名が残っています。

地域内には天竜川の浸食によって形成された段丘があり、他地域と同様に段丘上部は水が得にくい地域でした。江戸時代に伝兵衛井筋（鞠ヶ鼻井筋）が引かれて以降、新田開発が進み、現在も豊かな農地が広がっています。

東春近には、段丘下の地域を俯瞰しやすいという段丘地形のメリットをうまく利用した特徴的な遺跡や歴史文化資源が見られます。５世紀前半頃に造られた老松場古墳群や戦国時代に築かれた殿島城は、いずれも段丘端部に存在します。時の為政者が巧みに地形を利用しながら地域を守り、治めていたことが分かります。近年では昭和 33 年（1958 年）に、段丘崖の高低差を利用して水力発電を行う春近発電所が建設され、私たちの生活を支えています。

【東春近地域の主な歴史文化資源】

殿島城址

戦国時代の殿島大和守重国の城と伝えられます。重国は武田氏の侵攻に抵抗し、殺された８人の地侍のうちの一人と伝えられます。土塁に囲まれた本丸を中心に外側には何重にもめぐらされた空堀の跡が遺ります。

石造准胝観音菩薩
（市指定文化財）

田原薬師庵にある観音菩薩で、江戸時代に下殿島土蔵出身の石工、小笠原政平が造ったものとされます。頬骨が出ていて柔和な顔立ちが、政平の特徴をうかがわせる作品です。

石造双体道祖神（市指定文化財）

下殿島土蔵にあるこの道祖神は、江戸時代の天保９年(1838 年)に、地元の石工、小笠原政平によって造られました。男神に肩を抱かれた女神が、酒器を持って酒を注ぐ、祝言の場面が刻まれています。

春近社拝殿と覆殿

春近社本殿（市指定文化財）

創立当時は諏訪社、御射山明神、江戸時代には五社宮などといいましたが、明治 43 年(1910 年)に上・中・下殿島各集落の社を合併して、春近神社となりました。拝殿後ろの覆殿内にある本殿は、宝暦 10 年(1760 年)のに建築で、市の有形文化財に指定されています。

宮ノ上古墳群と十三塚

東春近地域の段丘の端には、非常に良い状態で遺る古墳群が複数あります。また、古墳の分布調査の際、中世の塚である十三塚が 70 基以上も発見されました。宮ノ上古墳群では、古墳群の前に、十三塚が一列に並ぶ様子が見られます。

春近発電所

三峰川総合開発事業の一環として建設された発電所で、昭和 33 年(1958 年)に運転が開始されました。県営としては最大の発電所で、高遠ダムから 10.6 ㎞をトンネルで導水し、２台の発電機で発電しています。

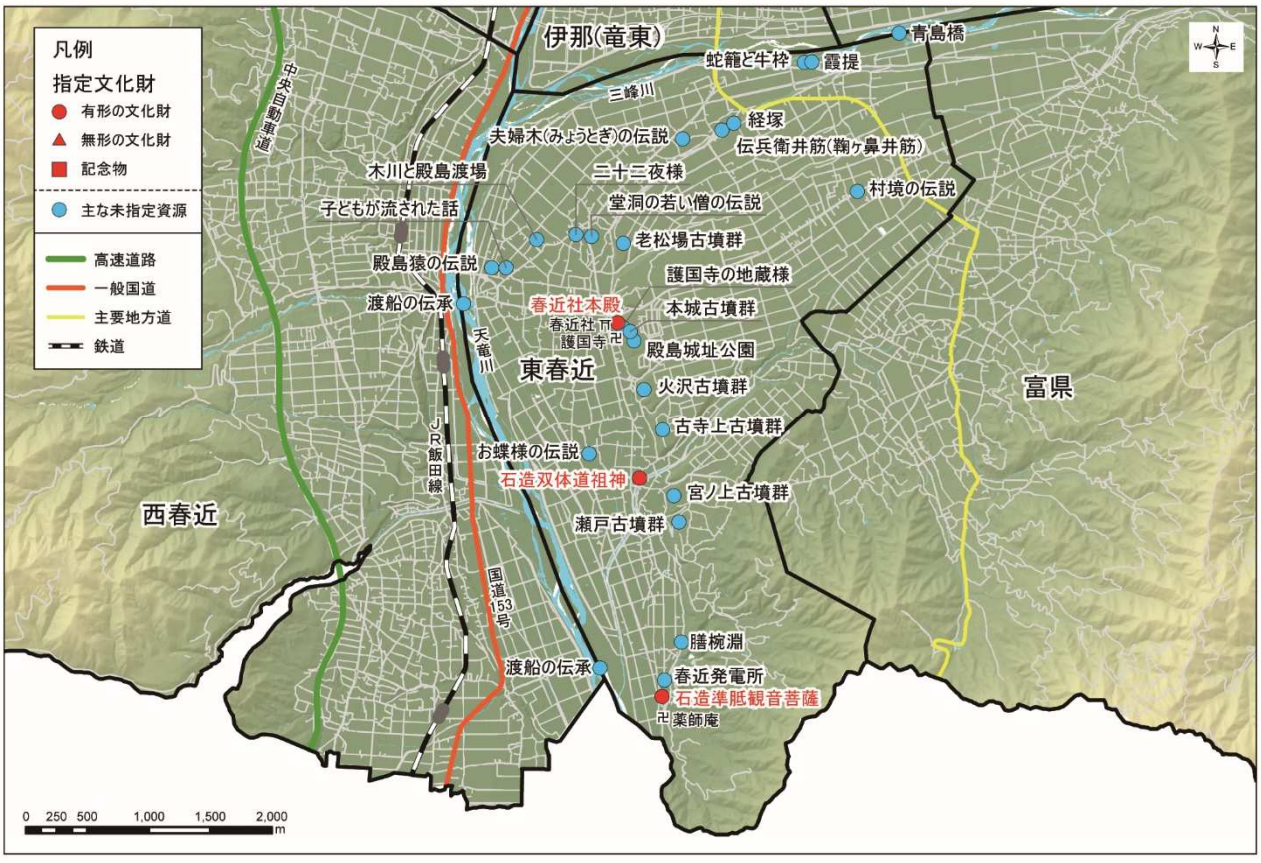


図. 東春近地域の主な歴史文化資源の位置

（7）西箕輪地域

中央アルプス経ヶ岳の東山麓に広がる西箕輪地域の中で、最も多くの歴史文化資源がある場所は羽広の仲仙寺周辺です。

仲仙寺は羽広観音とも言われ、平安時代の創建以降、多くの人の信仰を集めてきました。特に「馬の観音様」として知られ、馬の健康と安全を願うため、馬を連れての参詣が盛んでした。境内には数多くの馬の絵馬が奉納されています。坂下の辻から仲仙寺へ向かう「はびろ道」沿いには観音像が刻まれた丁石が立ち、本堂内には鎌倉時代の作と伝わる木造持国天・多聞天立像、山門内には室町時代の木造金剛力士立像（阿形像及び吽形像）があるほか、毎年正月には羽広の獅子舞も奉納されるなど、信仰に関わる様々な歴史文化資源があります。

また、西箕輪は伊那と木曽を結ぶ権兵衛峠の入口にあたる地域です。権兵衛峠は非常に険しい峠で、江戸時代初期までは人の背で荷が運ばれる程度の道だったといわれていますが、元禄９年（1696 年）に街道整備が行われた後は、伊那から木曽へ米などの物資が大量に運ばれ、木曽からは特産の曲げ物などが運ばれるようになりました。この道は伊那周辺の村々から木曽助郷（中山道の宿場において労役すること）のために人々が行き来した道でもあり、天竜川対岸の村々からも多くの人が辛い労働に出向いた道です。古くは「おんたけやま」と呼ばれた馬子唄である与地の伊那節や、木曽の馬主が仲仙寺に奉納した千匹絵馬、木曽の奈良井川上流の白川から水を引いた木曽山用水（上戸・中条井）など、木曽との関わりが深い歴史文化資源が多くあるのが、この地域の特徴です。

【西箕輪地域の主な歴史文化資源】

仲仙寺本堂

天台宗の古刹で、信濃三十三観音霊場の札所であり、古くから多くの参詣者を集めました。本堂軒下や近くの考古資料館には、千匹絵馬をはじめ、仲仙寺に奉納された多くの絵馬があります。

木造金剛力士立像（県宝）

仲仙寺仁王門内にあり、阿形像と吽形像で対になります。室町時代の文亀元年(1501 年)に京都七条仏所の仏師大蔵卿康忠が造立したと伝わります。ヒノキ材の寄木造りで、高さは 255 ㎝あり、今も彩色が遺っています。

羽広の獅子舞（はびろ　ししまい）
（市指定文化財）

江戸時代初期に仲仙寺の本堂(観音堂)の再興を祝って始められたと伝わり、寺の狛犬であるともいわれます。毎年１月15日前後に行われ、雄と雌２体の獅子が５つの舞(阿吽の舞)を舞い合わせます。

でえもんじ

道祖神の祭りと一体になった小正月の祭りで、願掛けの言葉や道祖神と書かれた文字、厄払いのための色紙袋などを大きな柱に飾り、1月 14 日から 20 日まで集落入口の辻にある道祖神の隣に立てます。

前平のサワラ（まえひら）
（県指定天然記念物）

吹上神社の御神木で樹齢1000 年とも言われる巨木です。サワラの巨木は珍しく、樹高 20 m、目通り周 7.5m、枝下６mで、下から上まであまり太さが変わらないサワラ特有の樹形をしています。

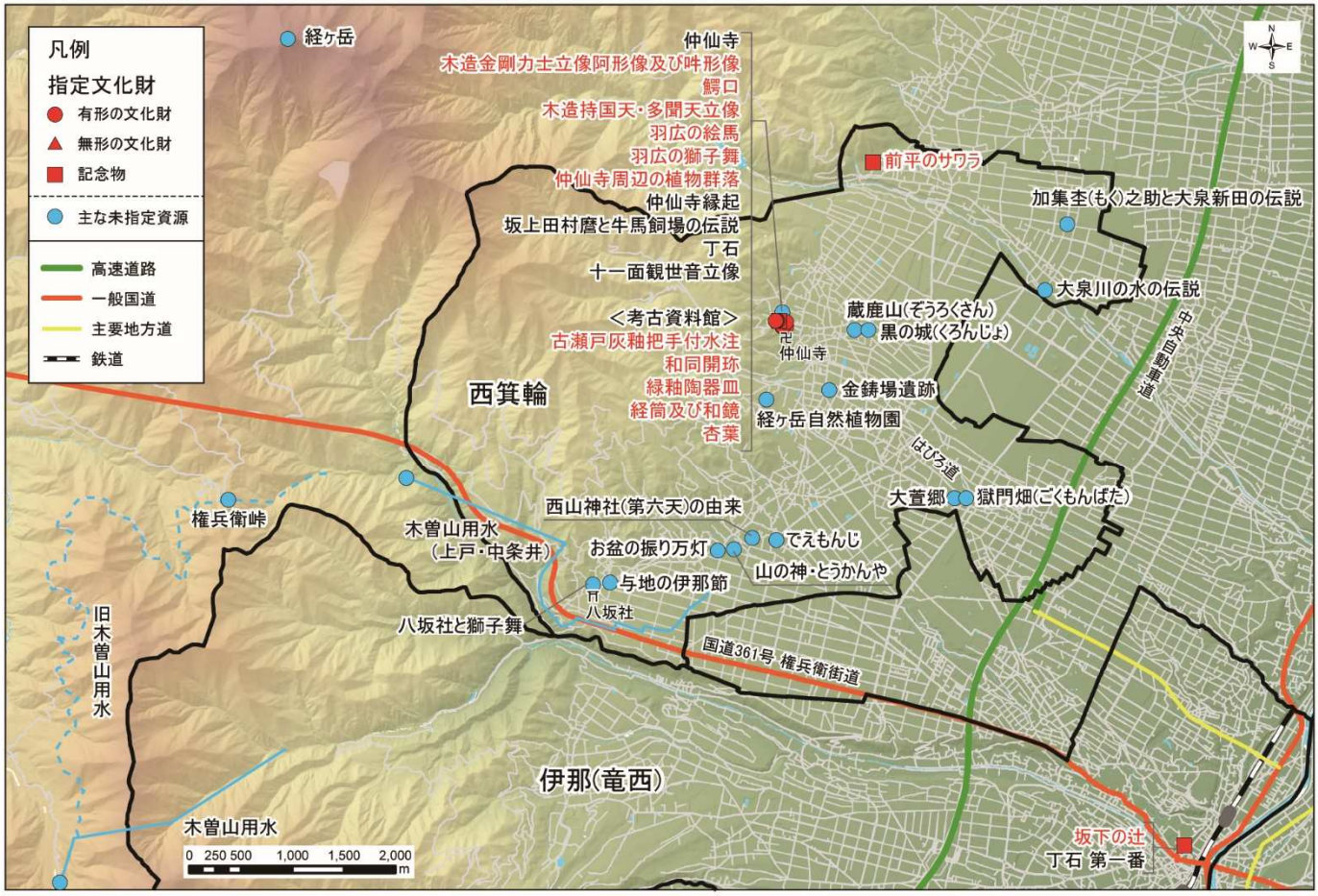


図. 西箕輪地域の主な歴史文化資源の位置

(8)西春近地域

西春近地域は天竜川の西に位置し、北側は小黒川を隔てて伊那(竜西)地域に接しています。南北に鉄道や複数の街道が通る地域で、これらの交通軸を元に発展した地域です。段丘上には江戸時代の伊那街道や春日街道、段丘下の天竜川沿いには明治時代に伊那街道の改修により付け替えられた三州街道が通っています。

段丘の上段には鎌倉時代から戦国時代頃まで活躍した小井弓氏の本拠地があったといわれ、小出城や犬房丸伝説など小井弓氏に関わる歴史文化資源が複数見られます。また、同じ頃から行われていると伝えられる諏訪形の諏訪神社の御柱祭は、寅と申の年に御柱の里引や騎馬行列、建御柱などが行われています。

地域の西側には中央アルプスの前山の権現山があり、山麓には野田山アヤメ園や、大量の刈敷や茅がとれた「百駄刈」という地名が残るほど自然豊かな地域ですが、豊富な里山資源と引き換えに、江戸時代から野生鳥獣の被害に苦しめられた地域でもありました。農地を守るため、延長約６㎞もの猪垣が元禄時代以前から造られてきたといい、現在もその一部が諏訪形に復元されています。他にも樹齢 300 年以上といわれる白沢のクリなど、自然と人の関わりを知ることができる歴史文化資源が遺されています。

【西春近地域の主な歴史文化資源】

小出城跡(市指定文化財)

天竜川右岸の第一河岸段丘上にあり、空堀で隔てられた複数の曲輪や土塁が遺されています。城域は東西 500m、南北 300mおよび、一説には小井弓氏惣領家の居館跡と伝えられます。

白山社覆殿

白山社本殿(市指定文化財)

白山社は治承２年(1178 年)の創立と伝えられます。覆殿内にある本殿は、市の有形文化財に指定されています。江戸時代の文久３年(1863 年)に立川和四郎富重によって建てられたもので、立派な彫刻が施されています。

小出諏訪神社拝殿と 覆 殿（こいですわじんじゃはいでんとおおいでん）

小出諏訪神社本殿（こいですわじんじゃほんでん）（市指定文化財）

諏訪形の御 柱 祭（すわがたおんばしらさい）（市指定文化財）

創立年代は不明ですが、鎌倉時代初期には小井弖工藤氏によって祭祀が行われていました。拝殿後ろの覆殿内にある本殿は、江戸時代に諏訪の宮大工、立川和四郎富昌が手掛けたもので、技巧的に優れているとして、市の有形文化財に指定されています。

諏訪形の諏訪神社では、寅と申の年に御柱祭が行われます。5月から 10 月にかけて、御柱の見立て、斧入れ、縄ない、山出し、里曳き、建御柱が行われ、建御柱の日に奉納される騎馬行列と合わせて、市の無形民俗文化財に指定されています。

諏訪形の猪垣跡（すわがたししがきあと）（市指定文化財）

江戸時代以前に、イノシシから農作物を守るために築かれたものです。現在は当時の記録を元に、一部分の約 40mが復元されており、高さ 1.5m の盛り土の上から、木杭を打ち込んでいます。

白沢のクリ（しらさわ）（県指定天然記念物）

樹齢 300 年以上と言われ、樹高 11m、胸高周囲は 5.5mを超えます。ヒガンクリという早生種で、植樹されたものと伝わります。

図. 西春近地域の主な歴史文化資源の位置

（9）高遠町地域

高遠町地域は長谷地域とともに、伊那市の東部に位置し、総面積の 85%を山林が占める山間の地域です。中央構造線に沿うように南北方向に２つの谷があり、藤沢川沿いの藤澤や長藤の谷には杖突街道（金沢街道）、山室川沿いの三義の谷には法華道が通っています。これらの街道に面して集落が形成されているほか、三峰川左岸の段丘上にもまとまった集落が形成されています。

藤澤の御堂垣外宿で杖突街道と分かれる金沢街道は、伊那と江戸を行き来する最短ルートで、高遠藩主の参勤交代にも使われた道でした。杖突街道（金沢街道）沿いには御堂垣外宿をはじめ、江戸時代の宿場の面影を残す風景が見られます。

戦国時代から江戸時代末まで続いた高遠城を中心に栄えたのが、現在の西高遠、東高遠の両地区で、城下町という特殊性から、歴史文化資源が集中している地域でもあります。その内容は多岐にわたり、戦国時代の領主である武田氏に関わる遺跡や古文書、伝承をはじめ、江戸時代の藩政や教育に関わる歴史文化資源が非常に多くあります。

江戸時代の高遠周辺には石材加工をする職人が多く、彼らは「高遠石工」と呼ばれていました。高遠藩の政策として出稼ぎが奨励されたこともあり、多くの石工が全国各地に出向き、優れた石造物を遺しました。地域内には彼らの高い技量を感じることができる石造物が数多く遺されています。

高遠は山間の城下町であるとともに、桜のまちでもあります。明治時代以降、高遠城跡に植えられたタカトオコヒガンザクラは 1,500 本を数え「天下第一の桜」として全国的に有名になりました。街道や城下町、高遠石工、桜をはじめ、高遠城の存在があったからこそ花開いた文化が多く、高遠城を中心として、過去から現在まで様々な歴史が紡がれてきた地域です。

【高遠町地域の主な歴史文化資源】

高遠城跡（国指定史跡）

三峰川と藤沢川の合流点に近い河岸段丘上に造られた平山城です。築城時期は不明ですが、戦国時代の天文 16 年(1547 年)に武田信玄が修築したと言われています。江戸時代には保科氏、鳥居氏、内藤氏の３大名が城主となりましたが、明治５年(1872 年)に廃城となり、建物は取り壊されました。現在も当時の曲輪配置がよく遺り、土塁や大きな堀からは近世城郭の姿が見てとれます。

相生町桝形

高遠城下の南側の入口、相生町にあります。桝形とは、外敵が一気に侵入することを防ぐために設けられた施設で、江戸時代の文久３年(1863 年)に、城下町が拡張された際に設けられました。当時は道路を挟んで南北約 20m、東西約 13.6mの空間でしたが、現在は北側の一部と石垣が遺っています。

旧 中村家 住 宅

高遠城下町の入口にほど近い、諸町にある大規模な町家建築です。２階が低く、屋根と１階の庇の間が狭いといった町家の特徴がよく表れています。江戸時代前期から中期、享保９年(1724 年)以前の建築とみられ、高遠城下町に遺る町家の中で最も古い建物です。

五聖像（市指定文化財）

儒学の祖、孔子とその教えを受け継いだ孟子、曽子、顔子、子思の姿を刻んだ木造の五聖像は、江戸時代末期に藩校進徳館内の聖廟に祀られました。高遠藩領内の村人たちが、献上したものです。

伊澤 修 二先生の生家（市指定文化財）

東京師範学校や東京音楽学校(現在の東京藝術大学)の校長を務め、教科書の編さんや発行に尽力するなど、近代の新たな教育の仕組を整えた伊澤修二は、高遠藩士の子として、東高遠で生まれ育ちました。下級士族の住宅としても貴重な遺構です。

仲町屋台（市指定文化財）

諏訪の名工、立川氏による豪華な彫刻に彩られたこの屋台は、文政５年(1822 年)に造られたものです。鉾持神社の祭礼に合わせて、高遠ばやしとともに町内を巡行しました。屋台の２階では、手踊り狂言が行われ、賑やかであったと伝えられます。

建福寺石仏群（市指定文化財）

守屋貞治は高遠石工の中でも稀代の名工と呼ばれた人物です。全国各地に数多くの石仏を遺していますが、最も多くの貞治仏を拝むことができるのが建福寺です。

絵嶋の墓（市指定文化財）

江戸時代中期、江戸城大奥で７代将軍徳川家継の生母に仕えた絵島は、墓参の帰りに芝居見物をし、門限を遅れたことを罪に問われ、高遠藩へお預けとなりました。28 年間囲み屋敷で過ごし、61歳で亡くなると日蓮宗の蓮華寺へ葬られました。

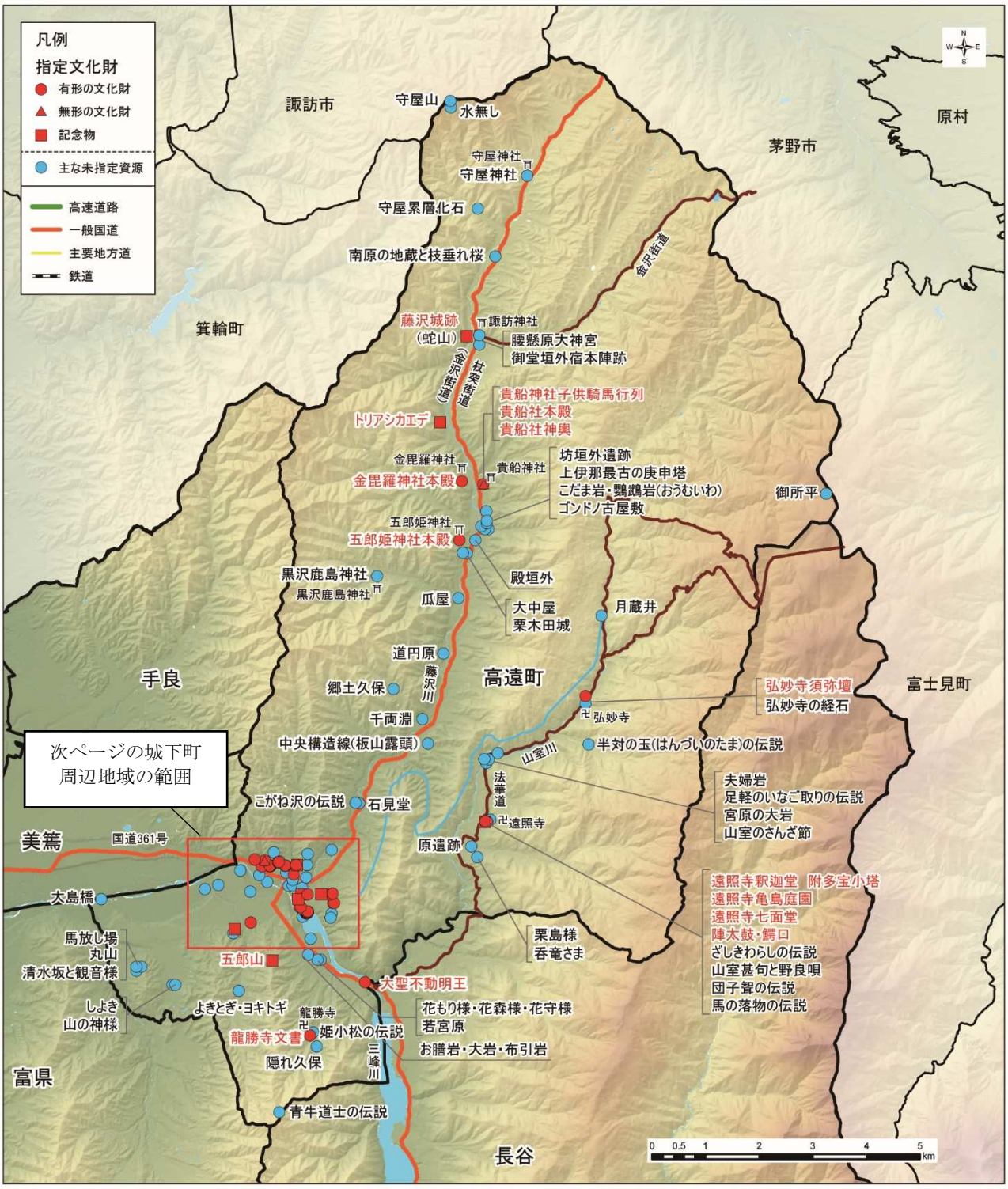


図. 高遠町地域の主な歴史文化資源の位置

御堂垣外宿は杖突街道と金沢街道の分岐点に位置する宿場で、本陣には高遠藩主や飯田藩主、旗本らが休泊しました。当時の座敷や資料などが現在も大切に伝えられています。

御堂垣外 宿 本陣（みどがいとじゅくほんじん）

遠照寺に伝わる陣太鼓と鰐口は、戦国時代に織田軍が、高遠城を攻めるために進軍した際に道中の寺社から奪い、打ち鳴らしてきたものです。戦に勝利した後にこの寺へ奉納されました。

陣太鼓（じんだいこ）・鰐口（わにぐち）（市指定文化財）

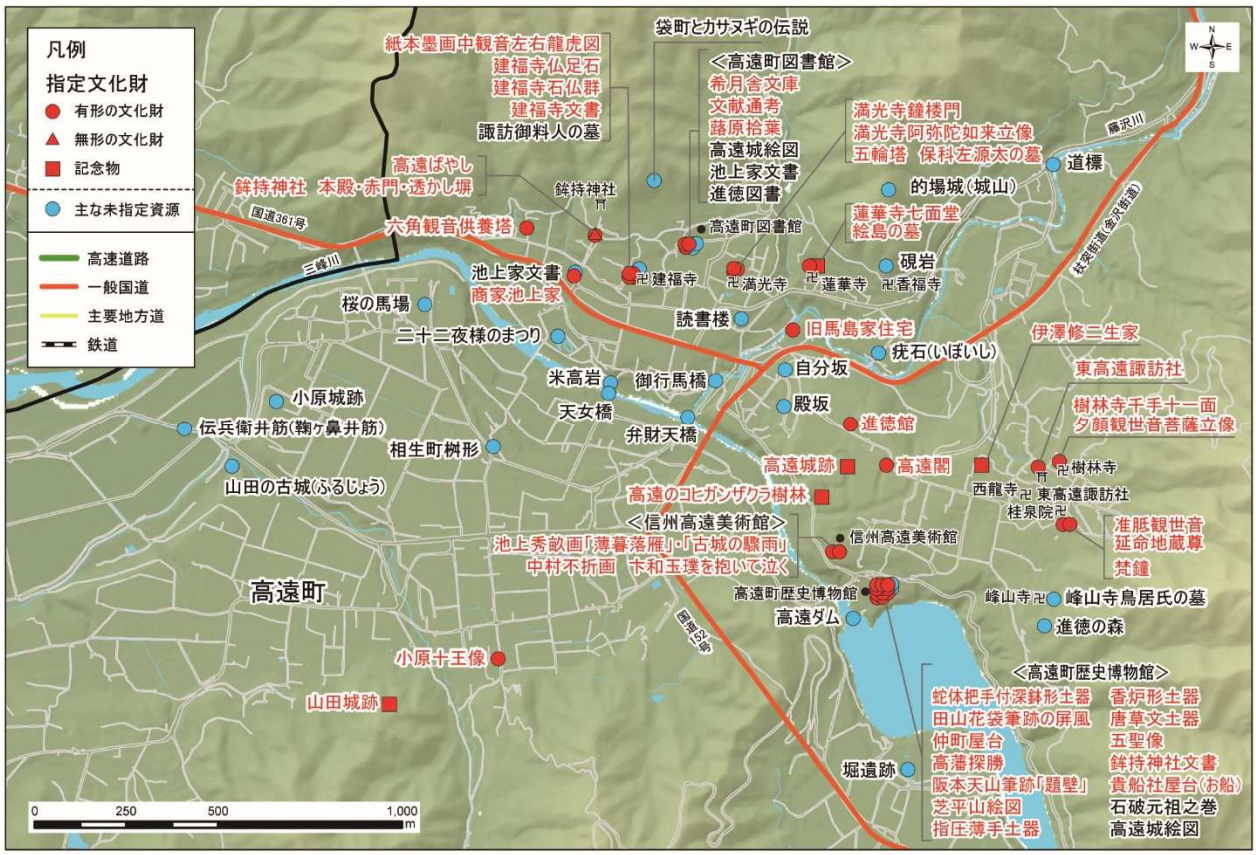


図. 城下町周辺地域の主な歴史文化資源の位置

紙本墨画 中 観音左右 竜 虎図
（しほんぼくがちゅうかんのんさゆうりゅうこず）
（国指定重要文化財）

建福寺所蔵の三幅対のこの墨画は、安土桃山時代から江戸時代初期に活躍した絵師、狩野興以によるものです。中央には慈愛に満ちた白衣観音、左右には勇猛な竜と虎を描いており、静動が調和した見ごたえのある作品です。

蕗原拾葉
（ふきはらしゅうよう）
（市指定文化財）

高遠藩に仕えた儒学者、中村元恒と元起父子が編さんした 150 巻に及ぶ書籍で、地域の歴史や伝承など様々なことがらをまとめた郷土文献の集大成です。

中村不折筆
（なかむらふせつ）
「卞和璞を抱いて泣く」
（べんかたま）
（市指定文化財）

高遠ゆかりの画家で書家の中村不折が、中国の故事を題材にして、大正３年(1914 年)に描いた作品です。不折が高遠町に寄付したものです。

樹林寺
（じゅりんじ）
千手 十 一面夕顔観世音菩薩 立 像
（せんじゅじゅういちめんゆうがおかんぜおんぼさつりゅうぞう）
（市指定文化財）

江戸時代初期の高遠城主、保科家の祈願所となった樹林寺の本尊で、保科氏から厚く信仰されました。下総国多胡(現在の千葉県多古町)の樹林寺の本尊を写して造られたと伝えられます。

（１０）長谷地域

南アルプスの雄大な山々の麓に位置する長谷地域は、総面積の 96％を森林と原野が占めており、山抜きには語れない地域です。地域内に遺る歴史文化資源を通して、地球の歴史と山に生きた人々の暮らしの両方を知ることができます。

戸台地籍から産出するアンモナイトや南アルプス周辺で多く見られる石灰岩は、この地域がかつて海の底であったことを示しており、長い間の地殻変動で隆起した土地であることが分かります。石灰岩地帯特有の希少植物が見られるなど、自然資源が多い地域です。

地域内には、大断層である中央構造線が南北に走っており、断層に沿って深いＶ字谷が形成されています。人々は断層東側の緩やかな斜面に集落を構え暮らしてきました。また、谷地形を利用して街道が発達し、古くは南北朝時代の宗良親王や、江戸時代には火伏の神である秋葉神社へ向かう参詣者らが往来しました。街道を通る人々が伝えた「ざんざ節」や、「きんにょんにょ」または「キンニョンニョ」は江戸時代の流行歌で、今も民謡として歌い踊り継がれています。このように長谷地域では中央構造線地帯特有の地形の上に、人々の暮らしと文化が成り立っています。

南アルプス山麓の深い森は、その６割が国有林です。古くから杣や木挽、木地師、猟師、炭焼きをはじめ、様々な人が山に入り、その資源を利用して生活していました。特に盛んだったのは林業で、戦前には森林鉄道も整備され、長谷の山から切り出した多くの材木や木炭が全国へ出荷されていきました。こうした山の恵みが地域の経済を支え、熱田神社や中尾歌舞伎など有形無形の文化財を育みました。昭和 34 年（1959 年）、昭和 36 年（1961 年）と度重なる災害によって山間部は大きな被害にあった上、時代の変化もあり、山と人との関わり方は大きく変化しましたが、地域に遺る歴史文化資源を通して、失われゆく豊かな山の暮らしを知ることができます。

【長谷地域の主な歴史文化資源】

中央構造線が造った地形
非持集落全景（昭和 22 年（1947 年））

美和ダム建設前、昭和 22 年(1947 年)の非持集落全景です(北から南を向いて撮影、向かって右側が西)。中央構造線の影響により形成された谷の様子がよく分かります。

御山の遺跡（市指定文化財）

溝口の常福寺境内の北にある「みやま」と呼ばれる小山の上に、後醍醐天皇の皇子、宗良親王の墓と伝えられる遺跡があります。宗良親王の子、尹良(ゆきよし)親王が建てたものと伝えられます。

うつぎさいごくさんじゅうさんかんのん
宇津木西国三十三観音（市指定文化財）

高遠町建福寺の心願により、入野谷郷に住む百数十人の寄進で建立されました。池上休柳が下絵を描き、岡村菊叟が巡礼歌を書いた上で、渋谷藤兵衛が石に彫刻し、弘化２年(1845 年)に開眼しました。

いなえいりんしょとだいじぎょうしょ
伊那営林署戸台事業所
（昭和 14 年（1939 年））

かつて山中には営林署の現地事務所、作業用の飯場などが建てられ、多くの人が生活していました。

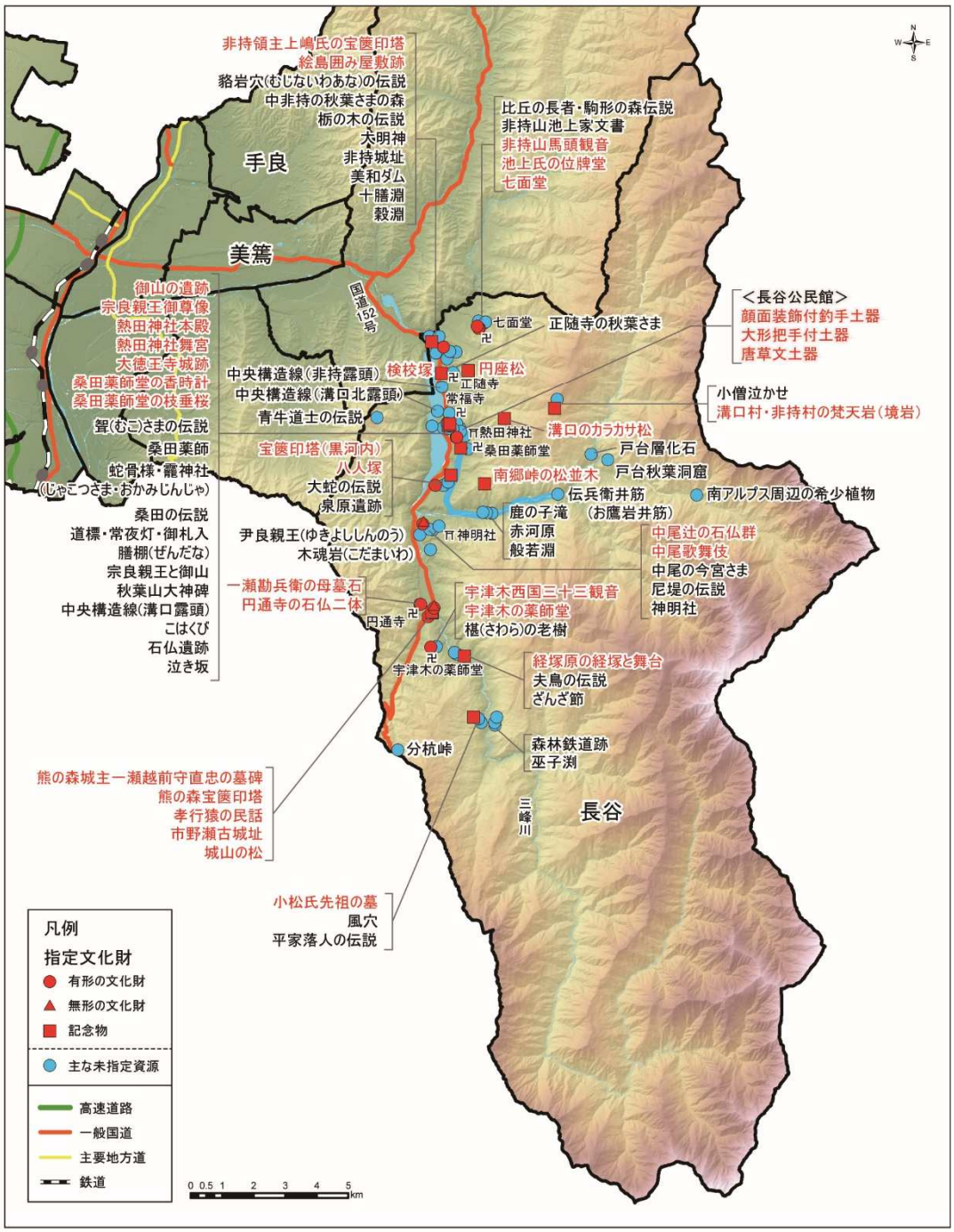


図. 長谷地域の主な歴史文化資源の位置

３　伊那市の歴史文化の特性

それぞれの地域を概観した上で、伊那市内の歴史文化を振り返ると、大きく分けて、「山」、「川」、「みち」の３つのキーワードで捉えることができます。それぞれに関わる概要は以下のとおりです。

（1）「山　－２つのアルプスと豊かな里山が育んだ歴史文化－」

私たちの身近には、常に山があります。日々見上げる 3,000m 級の山々は、高山特有の動植物や、特異な地質に適応した植物を育みました。麓の人々は、豊かな山の恵みを利用して生活を営み、山とは切っても切れない暮らしが連綿と続いてきました。

①　山岳地域の歴史文化

市域の東西には、南アルプス、中央アルプスという 3,000m級の山々が連なる山岳地域があります。

高い山への崇敬の念は山岳信仰を生み、東駒ヶ岳や西駒ヶ岳、経ヶ岳などへ向かう登山道や山頂には、人々の信仰心を示す石碑や石仏が数多く祀られています。新たな登山道が次々と開かれた近代以降、山岳地域を訪れる人も増え、西駒山荘石室といった山小屋が整備されるなど、山岳地域ならではの歴史文化が育まれました。

また、南アルプスには、世界的な生息域の南限に生息するライチョウや、石灰岩地帯に生育するシナノコザクラなど、高山特有の厳しい環境を生き抜いてきた地域特有の生物資源があります。周辺には、戸台のアンモナイトや中央構造線の露頭といった地球の歴史や大地の成り立ちを知ることができる自然資源もあり、近年はこれらの資源を活かした地域づくりが行われています。

②　山間地域の歴史文化

山岳地域の麓には深い森があり、その森林資源を利用した人々の暮らしや産業がありました。かつては木材の伐り出し、焼畑でのそば耕作、炭焼き、狩猟、木地椀づくりなどが盛んに行われており、山中や山間の地域には多くの人が暮らしていました。「生活に困ったら、金を借りるより山へ行け」という言葉が伝わるほど、山の恵みは豊かな暮らしをもたらし、豪華な彫刻に彩られた熱田神社本殿や中尾歌舞伎など、山林資源に恵まれた地域だからこそ生まれ、現在まで守り伝えられた歴史文化があります。

また、里山は「入会地」として人々の生活を支えた場所で、入会権を確認する「芝平山絵図干し行事」が現在に至るまで続けられるほど、大切な場所でした。

急激な社会変化により失われてしまった山村文化も多くありますが、伝統芸能や地名、遺構、食文化など、今に伝えられているものもあります。

（2）「川　－水量豊富な暴れ川が生み出した天竜川上流域の歴史文化－」

市域の山々から流れ出た水は、天竜川に注ぎます。私たちの暮らしは、標高差 2,000m 以上を一気に流れ下る支流河川と、天竜川が造った土地の上で営まれてきました。伊那市には、川が生み出した天竜川上流域ならではの歴史文化が見られます。

①　天竜川と三峰川に関わる歴史文化

市域には南北に天竜川、東西に三峰川という一級河川が流れており、この２つの河川は流域の暮らしに大きな影響を与えてきました。水の力を利用した水運が行われ、上流から供給される養分などが周辺の農地に恵みをもたらした半面、大規模な水害を引き起こすことも度々ありました。流域に暮らす人々が長年にわたり川と向きあってきた歴史とその思いが、災害伝承やサンヨリコヨリといった水難厄除けの行事、復旧復興に際した知恵など様々な文化を生み、現在に受け継がれています。

②　河岸段丘によって育まれた歴史文化

天竜川や三峰川とそれらの支流沿いには、断層と侵食の影響により、長い時間をかけて河岸段丘が形成されました。悠久の歴史の中で誕生した河岸段丘の景観は、伊那市の景観の特徴の１つでもあります。河岸段丘は階段状の地形であるため、段丘崖によって土地が隔てられます。隣り合う地域であっても段丘の上下では異なる歴史文化が育まれてきた一方で、離れた地域であっても似通った立地のところでは歴史文化に共通点が見られます。

段丘下の河川流域は、川の影響を受けやすく氾濫原となったため、災害伝承や治水文化が伝えられています。段丘上段では平坦地が広がる半面、水を得にくいことから、利水に関わる用水や堤（貯水池）が発達しました。段丘端部では、崖下の地域や河川を一望できるため、かつての支配者が築いた古墳群や城館跡が多く遺ります。

各地に遺る歴史文化資源からは、地形の利点をうまく使い、難点を克服しながら生きてきた人々の姿が浮かび上がります。

（3）「みち　ー伊那谷を交差する街道が織りなす歴史文化ー」

市域には幾筋もの街道や生活道があり、道沿いには往来者のために造られたものや、遠隔地から伝えられた芸能文化が遺ります。複数の街道が交差し、人や物が集中する場所には「町」が形成され、人や物の交流により多様な歴史文化が生まれました。

①　街道をめぐる多様な歴史文化

古くは東山道をはじめ、市域には複数の街道が東西南北に走り、様々な人が行き交いました。市域のほぼ中央を南北に走る「伊那街道（三州街道）」、竜西地域を東西に走る「はびろ道」や「権兵衛街道」、竜東地域から美篶地域を通り、高遠から諏訪、茅野方面へ抜ける「杖突街道」や「金沢街道」、長谷・高遠の中央構造線の谷を通る「秋葉街道」、「法華道」などがあります。これらの街道沿いには、行き交う人々のために整備された宿場、道標、石仏などが遺ります。また、荒神遺跡出土の遠賀川系土器が示す弥生文化をはじめ、日蓮宗の信仰、江戸時代の高遠ばやしや中尾歌舞伎のように、街道を通じて他地域からもたらされ、当地に根付いた文化もあります。当地で磨かれた技術を他地域へ伝えた高遠石工の活動なども、街道に関わる歴史文化であり、時代や内容も様々な歴史文化資源が組み合わさり、伊那市の歴史文化が成り立っています。

②　生活の道に関わる歴史文化

大きな街道以外にも、集落から田畑へ向かう道、年貢を納めるために役所へ向かう道など、人々が日々の暮らしの中で利用していた道があります。例えば入会地や御林などへ行く山道は、

現在は利用者が減り、失われつつある道の１つですが、山道の途中に祀られた「山の神」など、人々が遺したものを通して、かつての暮らしを感じることができます。

③　まちの発展とともに花開いた歴史文化

古くは門前町として発達した高遠は、戦国時代以降、高遠城の城下町として発展しました。江戸時代の城下町は宿場機能も兼ねており、多くの人や物、新たな文化が集まる地域経済の中心地でした。

明治初期、現在の長野県域における初の公園として、高遠城跡に誕生した高遠公園も、まちの発展と関わっており、人々が集い「群衆遊観ノ場所」となりえる社会的環境が整っていたことを示しています。公園に植えられたタカトオコヒガンザクラは多くの人に愛され、やがて「天下第一の桜」と呼ばれるほど美しい景観を生みました。市内各地にある他の桜の景観も含めて、地域に親しまれ大切にされています。明治時代になり、新たな交通手段が用いられるにつれて、人や物の流れが変わり、市街地は高遠町から伊那町へと移っていきました。現在の伊那市街地には、伊那町の時代を感じさせる近代建築や戦後に建てられた看板建築が遺ります。

江戸時代以前の歴史文化資源が多い高遠町地域、明治時代以降の近代化に関わる歴史文化資源が多い伊那地域、それぞれの「まち」の特徴から、地域社会の変化を感じることができます。

第４章　歴史文化資源に関するこれまでの取組

市内の歴史文化資源について、これまでに調べてきたことや行ってきたことがたくさんあります。どんなことをしてきたのかまとめました。また、市民の皆さんのご意見を聞く中で、これからさらにどんな事を調べればよいのか、何をしたらよいのか、第６章につながる目標と課題が見えてきました。

１　伊那市の歴史文化資源の把握

１－１　歴史文化資源に関わる諸調査

伊那市ではこれまでに、指定等文化財から未指定の文化財にいたるまで、歴史文化資源に関わる様々な調査を実施してきました。近年、特に力を入れて行ってきたのが、「古い地名調査」です。地域の方々と協働で行ってきたこれらの調査では、今まで見過ごされがちだった歴史文化資源にも光が当てられました。これらに関わる普及・公開活動を通して、地域では歴史文化を盛り立てる雰囲気も生まれています。

(１)伊那市(旧市町村含む)が実施した調査

表　総合調査(広域調査や単一物件での複合調査)など

調査名	調査対象地区	調査年代	調査実施主体
長野県民俗資料調査 伊那市の民家	旧伊那市域	昭和 38 年度(1963 年度)	長野県文化財専門委員会
神社調査	旧伊那市域	昭和 41～42 年度(1966～1967 年度)	伊那市文化財調査保護委員会
寺院調査	旧伊那市域	昭和 44～48 年度(1969～1973 年度)	伊那市文化財審議委員会
美術工芸品調査	高遠町地域	昭和 47 年度(1972 年度)	高遠町教育委員会
石仏調査	高遠町地域	昭和 49～50 年度(1974～1975 年度)	高遠町誌編纂委員会
石造文化財調査	旧伊那市域	昭和 50～56 年度(1975～1981 年度)	伊那市文化財審議委員会
石碑調査	高遠町地域	昭和 62～平成元年度(1987～1989 年度)	高遠町教育委員会
高遠城跡調査 (発掘調査・絵図資料調査)	高遠町地域ほか	昭和 62 年度(1987 年度)～継続	高遠町教育委員会 伊那市教育委員会
戸草ダム民俗等調査	長谷地域	平成４～５年度(1992～1993 年度)	長谷村
学校資料調査	旧伊那市域	平成７年度(1995 年度)	伊那市教育委員会
石造文化財調査	長谷地域	平成７～８年度(1995～1996 年度)	長谷村教育委員会
巨樹・老樹調査	旧伊那市域	平成７～８年度(1995～1996 年度)	伊那市教育委員会
民俗芸能調査記録作成	旧伊那市域	平成７～16 年度(1995～2004 年度)	伊那市教育委員会
神社総合調査	旧伊那市域	平成８～12 年度(1996～2000 年度)	伊那市教育委員会
伊那部宿総合調査	旧伊那市域	平成 10～11 年度(1998～1999 年度)	伊那市教育委員会
樹木調査	高遠町地域	平成 14～16 年度(2002～2004 年度)	高遠町教育委員会
絵馬調査	高遠町地域	平成 15 年度(2003 年度)	高遠町教育委員会
進徳館蔵書整理	高遠町地域	平成 15～16 年度(2003～2004 年度)	高遠町図書館
高遠小学校収蔵資料調査	高遠町地域	平成 17 年度(2005 年度)	高遠町教育委員会
内藤家奉納武具調査	伊那市内外	平成 20 年度(2008 年度)～継続	伊那市教育委員会
旧中村家調査 (収蔵資料・建築史)	高遠町地域	平成 23～30 年度(2011～2018 年度)	伊那市教育委員会
古い地名調査	伊那市全域	平成 24～30 年度(2012～2018 年度)	伊那市教育委員会
高遠石工の足跡調査	全国	平成 25 年度(2013 年度)～継続	伊那市立高遠町歴史博物館
島村利正関係資料整理	高遠町地域	平成 25 年度(2013 年度)～継続	伊那市立高遠町図書館
一夜の城発掘調査	富県	平成 23 年度(2011 年度),25 年度(2013 年度), 26 年度(2014 年度),29 年度(2017 年度)	伊那市教育委員会
埋蔵文化財再整理事業 (月見松遺跡)	伊那(竜西)	平成 26 年度(2014 年度)～継続	伊那市教育委員会
写真資料デジタル　アーカイブ化事業	伊那市全域	平成 27 年度(2015 年度)～継続	伊那市立高遠町歴史博物館
老松場古墳群発掘調査	東春近	平成 29 年度(2017 年度)～継続	伊那市教育委員会 関西大学文学部考古学研究室

表　個別調査

調査名	調査対象地区	調査年代	調査実施主体
開発に伴う埋蔵文化財発掘調査	伊那市全域	随時	伊那市教育委員会
個人所蔵資料調査	伊那市全域	随時	伊那市教育委員会
建造物建築史調査	伊那市全域	随時	伊那市教育委員会

※上記調査のほか、埋蔵文化財発掘調査の履歴は資料編の「伊那市内周知の埋蔵文化財包蔵地一覧」の表中に示しました。
そのほか、市内の博物館等施設、美術館、図書館などにおいて、寄贈、寄託、展示に関わる資料調査や整理作業を随時実施しています。

(2)長野県などが実施した調査

表　長野県全域を対象とした主な調査

調査名	調査年代	報告書･刊行物など(刊行年)	調査実施主体
長野県史編纂事業に伴う資料調査	昭和 4 ～平成 3 年度 (1929～1991 年度)	『信濃史料』1～28 巻、補遺上下巻、索引 (昭和 27～47 年(1952～1972 年))	信濃史料刊行会
		『新編信濃史料叢書』1 ～24 巻、目録 (昭和 45～55 年(1970～1980 年))	信濃史料刊行会
		『長野県史』全 73 冊 (昭和 48～平成 4 年(1973～1992 年))	長野県史刊行会
美術工芸品調査(第二次調査)	昭和 47 年度(1972 年度)		長野県教育委員会
歴史の道調査	昭和 53～平成 7 年度(1978～1995 年度)	『長野県歴史の道調査報告書』Ⅰ ～XXXXⅧ (昭和 54～平成 8 年(1979～1996 年))	長野県教育委員会
長野県方言緊急調査	昭和 53～55 年度 (1978～1980 年度)	『長野県方言緊急調査報告書』 (昭和 61 年(1986 年))	長野県教育委員会
中世城館跡分布調査	昭和 54～57 年度 (1979～1982 年度)	『長野県の中世城館跡－分布調査報告書－』 (昭和 58 年(1983 年))	長野県教育委員会
民謡緊急調査	昭和 57～58 年度 (1982～1983 年度)	『長野県の民謡 －民謡緊急調査報告書－』(昭和 59 年(1984 年))	長野県教育委員会
食文化の実態調査	昭和 58 年度(1983 年度)	『長野県選択無形民俗文化財調査報告 －味の文化財－』(昭和 58 年(1983 年))	長野県教育委員会
長野県近世社寺建築緊急調査(第一次)	昭和 58 年度(1983 年度)	『長野県の近世社寺建築 －長野県近世社寺建築緊急調査報告書－』(昭和 57 年(1982 年))	長野県教育委員会
石碑所在調査	昭和 61～63 年度 (1986～1988 年度)	『長野県石碑目録』(平成 2 年(1990 年))	長野県教育委員会
長野県諸職関係民俗文化財調査	昭和 63～平成元年度 (1988～1989 年度)	『長野県の諸職 －長野県諸職関係民俗文化財調査報告書－』(平成 2 年(1990 年))	長野県教育委員会
長野県近世社寺建築緊急調査(第二次)	平成 2 年度(1990 年度)	『長野県の近世社寺建築 －第二次調査報告書－』(平成 3 年(1991 年))	長野県教育委員会
長野県民俗芸能緊急調査	平成 5 ～ 6 年度 (1993～1994 年度)	『長野県の民俗芸能 －長野県民俗芸能緊急調査報告書－』(平成 7 年(1995 年))	長野県教育委員会
長野県近代化遺産(建造物等)総合調査	平成 19～20 年度 (2007～2008 年度)	『長野県の近代化遺産 －長野県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書－』 (平成 21 年(2009 年))	長野県教育委員会
長野県近代和風建築総合調査	平成 28～29 年度 (2016～2017 年度)	『長野県の近代和風 －長野県近代和風建築等調査報告書－』(平成 30 年(2018 年))	長野県教育委員会

(3)国が実施した調査

表　伊那谷を対象として国が実施した調査

調査名	調査年代	報告書･刊行物など(刊行年)	調査実施主体
変容の危機にある無形の文化財の記録作成の推進事業	平成 26 年度(2014 年度)	『平成 26 年度･変容の危機にある無形の文化財の記録作成の推進事業 伊那谷のコト八日行事』 (平成 27 年(2015 年))	文化庁文化財部 伝統文化課

（4）古い地名調査

伊那市では平成 24 年(2012 年)から平成 28 年(2016 年)まで、「古い地名調査」を実施しました。

地名はその土地と結びついた人々の生活(生産、言語、文化、信仰、民俗、政治、地理、歴史など)の中から生まれ、深く結びついているものですが、移り変わる時代の中で、少しずつ忘れ去られてしまうこともあります。今に残る地名や、かつて存在していた地名を調査し、そこから見えてくる人々の生活や歴史的背景を記録・保存し、後世へ伝えていくことを目的に調査を行いました。

①　調査内容

調査項目・・・地区名と公称地名(大字と小字)、特徴ある地名(通称地名、伝承地名など)の由来と変遷、地区として残しておきたい歴史など

調査組織・・・公民館分館の一活動として、各分館に「地名調査グループ」を編成

調 査 員・・・古い地名や歴史に興味ある人たちに集まってもらう、一般募集も募る

調査方法・・・「調査グループ」による「聞き集め」(オーラル・ヒストリー的な方法)と文献調査を行い、「調査グループ」ごとに各地区の地名調査報告書として冊子・データにまとめる

調査グループの文献調査

各地区の地名調査報告書

②　調査から見えてきたこと

伊那市には様々な地名がありますが、ここ 100 年の間に多くの地名が消滅してきています。暮らし方の変化によって人々と土地の関わり方が変わったことなど、その要因は数々ありますが、度重なる町村合併、行政区画整理事業、圃場整備事業などは、歴史的風土の中から生まれた地名を大きく変えてしまう契機となりました。

伊那市を流れる天竜川と三峰川は古くから暴れ川として氾濫を繰り返してきましたが、その名残ともいえる地名が市内各所に残っています。例えば、市街地を流れる天竜川沿いには「面田」や「窪田」などの小字名があり、高遠町地域には「荒沢」といった小字名があります。このように「田」や「沢」という漢字が使われている場所は、過去に洪水や土石流などの大規模な災害があった可能性があり、それを後世へ伝えている地名といえます。

地名の中には、地元の人々の間で語り継がれてきた民話や伝承に関係するものもあります。例えば、長谷地域には「十膳淵」や「膳棚淵」といった場所がありますが、いずれも「村で客寄りなどをする際に淵の精に必要な数だけ膳を頼んでおけば翌日必ず立派な膳が用意されたが、ある時、借りた分の膳を返さなかったことから、それ以後二度と貸してくれなくなった」という伝承があります。調査を通して、このような民話や伝承を数多く掘り起こすことができ、これらは後世に語り継ぎたい大切な歴史文化資源といえます。

③　後世へ記録・保存するために

各地区の地名調査報告書や、この報告書をまとめた「古い地名調査」報告書は、いつでも市民の皆さんが見られるように伊那市立図書館で公開しています。

また、「古い地名調査」で得られた史実・伝承などを後世へ記録・保存するために以下のような活動が行われています。

「古い地名調査」報告書

- **調査成果の普及・公開活動**
  - ・文化祭、集会などで報告会を開催
  - ・地区総会での報告会
- **各地区での発展的活動**
  - ・区誌づくり
  - ・古文書などの整理
  - ・古文書読み合わせ会
  - ・地区、地名ウォーキング
- **公民館活動と連携した活動**
  - ・「古い地名調査」の発表会
  - ・地区の歴史学習会
  - ・古文書講座開催
  - ・地名、歴史講座開催
- **学校教育と連携した活動**
  - ・夏休みの一研究で地名調査を取り上げる
  - ・教職員の研修会
  - ・授業での活用
- **その他**
  - ・長野県内外からの問い合わせへの回答や視察受入
  - ・他市町村との連携

※各グループや事務局がまとめた古い地名調査報告書の一覧は、資料編に掲載しています。

１－２　まほら伊那　いいとこ百選

「まほら伊那　いいとこ百選」は、身の回りにある「いいとこ」の再発見を通じて、市民が地域に親しみと誇りを感じ、住んでよかったと思える地域づくりにつながるよう、平成３年度(1991 年度)から平成４年度(1992 年度)にかけて伊那市の良いところを市民から公募し、百選として選定したものです。百選の百は「多くのもの」という意味で、百の数にこだわらず、多くの良いところが選ばれ、これらの中には歴史文化資源も多数見られます。平成 10 年度(1998 年度)には新たな「いいとこ」を含めた再選定作業が行われました。これらの成果は『まほら伊那　いいとこ百選』(伊那市商工観光課発行)にまとめられ、平成６年(1994 年)に初版、平成 11 年(1999 年)には改訂版が発行されています。

図.『まほら伊那　いいとこ百選』(改訂版)　平成 11 年(1999 年)の内容

(資料：『まほら伊那　いいとこ百選』平成 11 年(1999 年))

１－３　歴史文化資源に関わる刊行物

指定等文化財については、３市町村合併以前の旧伊那市、旧高遠町、旧長谷村それぞれが、その概要をまとめた書籍を発行しています。また、昭和 50 年代から平成９年まで、各市町村では市町村史(誌)の編さんが行われました。そのほかにも各市町村では、石造物や神社、樹木、まつりなど各種調査の成果を集成した書籍や、地域ゆかりの人物に関わる書籍、講演会やシンポジウムの記録集など、様々な歴史文化資源に関わる書籍を刊行してきました。また、市町村が刊行したものとは別に、各地域でも区誌や地誌、地域の見どころマップなどが刊行されています。

伊那市刊行の書籍

表　歴史文化資源に関わる主な刊行物リスト

地区	刊行物の名称	編者･編集者･監修者	刊行者	刊行年
伊那	伊那町誌	武田宗男	伊那町役場	昭和５年(1930 年)
伊那	村誌　伊那村全記	伊那町文化財保護調査委員会武田宗男	伊那町公民館	昭和 28 年(1953 年)
伊那	伊那市神社誌	伊那市文化財審議委員会	伊那市教育委員会	昭和 43 年(1968 年)
伊那	伊那市寺院誌	伊那市文化財審議委員会	伊那市教育委員会	昭和 48 年(1973 年)
伊那	山寺の焼もち踊の習俗	伊那市教育委員会	伊那市	昭和 50 年(1975 年)
伊那	伊那市の文化財	伊那市文化財審議委員会	伊那市教育委員会	昭和 50 年(1975 年)
伊那	伊那市考古資料館図録	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	昭和 55 年(1980 年)
伊那	伊那市史　自然編	伊那市史編纂委員会	伊那市史刊行会	昭和 56 年(1981 年)
伊那	伊那市史　現代編	伊那市史編纂委員会	伊那市史刊行会	昭和 57 年(1982 年)
伊那	伊那市史　歴史編	伊那市史編纂委員会	伊那市史刊行会	昭和 59 年(1984 年)
伊那	伊那市史　近世現代資料目録	伊那市史編纂委員会	伊那市史刊行会	昭和 60 年(1985 年)
伊那	伊那市史採録　古文書解読史料集	伊那市文化財審議委員会	伊那市教育委員会	平成９年(1997 年)
伊那	伊那市石造文化財	伊那市文化財審議委員会	伊那市教育委員会	昭和 57 年(1982 年)
伊那	権兵衛街道	長野県教育委員会	伊那市教育委員会	昭和 60 年(1985 年)
伊那	伊那市の小字名	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成元年(1989 年)
伊那	まほら伊那　いいとこ百選	伊那市役所商工観光課商工観光係	伊那市	平成６年(1994 年)
伊那	戦後五十年伊那市民史 ～あの場　あの時～	伊那市戦後五十年史編集委員会	伊那市	平成９年(1997 年)
伊那	伊那市ふるさと歳時記　くらしと行事	伊那市ふるさと歳時記編集委員会	伊那市	平成 11 年(1999 年)
伊那	伊那市歴史シンポジウム① 信濃の牧･春近領･宿場	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 11 年(1999 年)
伊那	伊那市歴史シンポジウム② 伊那の中世伝説、山岳信仰	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 14 年(2002 年)
伊那	伊那市歴史シンポジウム③ 伊那の歴史･地域性と先人の知恵	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 18 年(2006 年)

地区	刊行物の名称	編者・編集者・監修者	刊行者	刊行年
伊那	伊那市歴史シンポジウム④ 治水と築堤・高遠石工	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 21 年(2009 年)
伊那	伊那市の民俗芸能(無形文化財の記録) 第一集　伊那市のまつり	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 12 年(2000 年)
伊那	伊那市の民俗芸能(無形文化財の記録) 第二集　伊那市のまつり	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 17 年(2005 年)
伊那	伊那市の巨樹、老樹とその保護対策	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 13 年(2001 年)
伊那	増補改訂　伊那市神社誌(本編・資料編)	伊那市文化財審議 委員会	伊那市教育委員会	平成 13 年(2001 年)
伊那	新伊那市誕生までの歩み 伊那市・高遠・長谷村合併の記録	伊那市総務部まちづくり 対策室	伊那市	平成 18 年(2006 年)
伊那	伊那の井月さん	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 28 年(2016 年)
伊那	伊那市郷土学習読本 わたしたちのふるさと	伊那市郷土学習読本 編集委員会	伊那市教育委員会	平成 29 年(2017 年)
伊那	まほらいな　40 年間の歩み 伊那市制施行 40 周年記念・映像で語る 伊那市の 40 年(DVD)	アドコマーシャル	伊那市役所企画課	平成 7 年(1995 年)
伊那	伊那市制施行 50 周年記念誌 伊那市 50 年(DVD)	アドコマーシャル	伊那市役所企画課	平成 16 年(2004 年)
高遠	高遠城史考	高遠町文化財保護委員会	甲陽書房	昭和 31 年(1956 年)
高遠	高遠の古記録(第 1 巻～第 12 巻)	北原通男	高遠町文化財 保護委員会	昭和 33～41 年 (1958～1966 年)
高遠	高遠町誌	高遠町教育委員会	高遠町長　北原三平	昭和 49 年(1974 年)
高遠	高遠町誌　下巻　自然・現代・民俗	高遠町誌編纂委員会	高遠町誌刊行会	昭和 54 年(1979 年)
高遠	高遠町誌　上巻　歴史(一、二)	高遠町誌編纂委員会	高遠町誌刊行会	昭和 58 年(1983 年)
高遠	高遠町誌　人物篇	高遠町誌編纂委員会	高遠町誌刊行会	昭和 61 年(1986 年)
高遠	高遠の石仏　付　石造物	高遠町誌編纂委員会 (高遠町教育委員会)	高遠町誌刊行会	昭和 50 年(1975 年) (改訂平成 7 年(1995 年))
高遠	石佛師　守屋貞治	高遠町誌編纂委員会	小松総合印刷㈱出版部	昭和 52 年(1977 年)
高遠	信州高遠の史跡と文化財	高遠町教育委員会	高遠町教育委員会	昭和 58 年(1983 年)
高遠	高遠城	高遠町文化財保護委員会	高遠町教育委員会	昭和 61 年(1986 年)
高遠	高遠十景	高遠町図書館	高遠町	昭和 62 年(1987 年)
高遠	高遠十景　写真集	高遠町教育委員会	高遠町教育委員会	平成 15 年(2002 年)
高遠	高遠の小字名	高遠町教育委員会	高遠町教育委員会	昭和 63 年(1988 年)
高遠	信州高遠の碑	高遠町教育委員会	高遠町教育委員会	平成元年(1989 年)
高遠	高遠町図書館資料叢書 1 ～70	高遠町図書館	高遠町図書館	平成 3 ～26 年 (1991～2014 年)
高遠	高遠町小字マップ	高遠町教育委員会	高遠町教育委員会	平成 3 年(1991 年)
高遠	高遠のあゆみ　写真集	高遠町教育委員会	高遠町	平成 4 年(1992 年)
高遠	高遠のあゆみ　ポケット版	高遠のあゆみ編集委員会	高遠町教育委員会	平成 8 年(1996 年)
高遠	古文書資料目録 (高遠町図書館所蔵各家資料など)	高遠町図書館	高遠町図書館	平成 5 年(1993 年)～
高遠	高遠ふるさと叢書・人物篇① 阪本天山の生涯	高遠町図書館	高遠町	平成 7 年(1995 年)
高遠	高遠ふるさと叢書・人物篇②　中村不折	高遠町図書館	高遠町	平成 8 年(1996 年)
高遠	高遠ふるさと叢書・人物篇③　中村弥六物語	高遠町図書館	高遠町	平成 9 年(1997 年)

地区	刊行物の名称	編者・編集者・監修者	刊行者	刊行年
高遠	高遠ふるさと叢書・人物篇④ 書家　中村不折	高遠町図書館	高遠町	平成 11 年(1999 年)
高遠	信州高遠美術館　所蔵品目録	信州高遠美術館	高遠町教育委員会	平成 8 年(1996 年)
高遠	高遠案内	高遠町観光協会	高遠町観光協会	平成 8 年(1996 年)
高遠	高遠町歴史博物館資料叢書四号 高遠城の戦い	高遠町歴史博物館	高遠町歴史博物館	平成 10 年(1998 年)
高遠	高遠町歴史博物館資料叢書五号 高遠遠流の絵島	高遠町歴史博物館	高遠町歴史博物館	平成 11 年(1999 年)
高遠	高遠町歴史博物館資料叢書六号 名君保科正之公	春日太郎	高遠町歴史博物館	平成 13 年(2001 年)
高遠	信州高遠町文化財地図	高遠町教育委員会	高遠町教育委員会	平成 13 年(2001 年)
高遠	杖突街道(歩くための絵地図)	高遠町観光協会	高遠町観光協会	平成 13 年(2001 年)
高遠	高遠城跡ガイドブック －高遠城跡　この城をもっと知ろう－	高遠町教育委員会	高遠町教育委員会	平成 15 年(2003 年)
高遠	高遠藩進徳館蔵書本目録	高遠町図書館	高遠町図書館	平成 16 年(2004 年)
高遠	再発見！高遠石工	笹本正治　ほか	高遠町教育委員会	平成 17 年(2005 年)
高遠	高遠風土記	笹本正治	高遠町教育委員会	平成 17 年(2005 年)
高遠	住んでいたい町行ってみたい町 高遠町のあゆみ 町制施行 131 周年、 町村合併 50 年閉町記念誌	高遠町記念事業 実行委員会	高遠町記念事業 実行委員会	平成 18 年(2006 年)
高遠	明治文化の至宝　伊澤修二	森下正夫	伊那市教育委員会	平成 21 年(2009 年)
高遠	高遠囃子伝承(DVD)	高遠町	高遠町	平成 14 年(2002 年)
高遠	桜と歴史の城下町・高遠 －百三十一年の歩み－　高遠町(DVD)	高遠町	高遠町	平成 18 年(2006 年)
高遠	さくら物語(DVD)	高遠町	高遠町役場	平成 23 年(2011 年)
高遠	高遠石工の石仏 ～信州伊那谷の石仏の名所を訪ねて～ 高遠石工映像シリーズ Vol. 1 (DVD・Blu-ray)	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	平成 28 年(2016 年)
高遠	守屋貞治の石仏　傑作選 ～貞治仏の魅力を探る～ 高遠石工映像シリーズ Vol. 2 (DVD・Blu-ray)	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	平成 29 年(2017 年)
高遠	守屋貞治の石仏　伊那市編 ～守屋貞治の周辺の石工たち～ 高遠石工映像シリーズ Vol. 3 (DVD・Blu-ray)	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	平成 30 年(2018 年)
高遠	守屋貞治の石仏　伊南編 ～守屋貞治の周辺の石工たち～ 高遠石工映像シリーズ Vol. 4 (DVD・Blu-ray)	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	平成 31 年(2019 年)
高遠	守屋貞治の石仏　辰野町・箕輪町編 ～守屋貞治の周辺の石工たち～ 高遠石工映像シリーズ Vol. 5 (DVD・Blu-ray)	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	令和 3 年(2021 年)
高遠	守屋貞治の石仏　全国編 ～守屋貞治と高遠石工の足跡を訪ねて～ 高遠石工映像シリーズ Vol. 6 (DVD・Blu-ray)	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	伊那市文化遺産活用実行委員会、一般社団法人 高遠石工研究センター	令和 5 年(2023 年)

地区	刊行物の名称	編者・編集者・監修者	刊行者	刊行年
長谷	伊那谷長谷村の民俗	長谷村文化財専門委員会	長谷村文化財専門委員会	昭和 48 年(1973 年)
長谷	伊那谷長谷村の文化財	長谷村文化財専門委員会	長谷村文化財専門委員会	昭和 51 年(1976 年)
長谷	伊那谷長谷村の文化財«第二集»	長谷村文化財専門委員会	長谷村文化財専門委員会	平成 13 年(2001 年)
長谷	郷蔵文書目録第２集	長谷村文化財専門委員会	長谷村文化財専門委員会	昭和 52 年(1977 年)
長谷	古老が語る入野谷のくらし	長谷村	長谷村	昭和 57 年(1982 年)
長谷	長谷村のいしぶみ	長谷村文化財専門委員会	長谷村文化財専門委員会	昭和 61 年(1986 年)
長谷	入野谷講座公開記録 山村の生活と資源	信州大学農学部	長谷村	平成元年(1989 年)
長谷	入野谷講座公開記録　第３集 山村の生活を楽しむ　－山村を考える－	信州大学農学部	長谷村	平成３年(1991 年)
長谷	入野谷講座公開記録　第４集 山村の自然を活かして　－山村を考える－	信州大学農学部	長谷村	平成４年(1992 年)
長谷	入野谷講座公開記録　第５集 山村の村おこし　－山村を考える－	信州大学農学部	長谷村	平成５年(1993 年)
長谷	長谷村誌　第一巻　民俗篇、人物篇	長谷村誌刊行委員会	長谷村誌刊行委員会	平成５年(1993 年)
長谷	長谷村誌　第二巻　自然篇、現代社会篇	長谷村誌刊行委員会	長谷村誌刊行委員会	平成６年(1994 年)
長谷	長谷村誌　第三巻　歴史篇(上下)	長谷村誌刊行委員会	長谷村誌刊行委員会	平成９年(1997 年)
長谷	奥三峰の歴史と民俗	戸草ダム民俗等調査委員会	長谷村教育委員会	平成６年(1994 年)
長谷	館報長谷縮刷版	長谷村公民館	長谷村公民館	平成６年(1994 年)
長谷	長谷村の石造文化財	長谷村教育委員会	長谷村石造文化財 調査委員会	平成９年(1997 年)
長谷	長谷村公民館五十年の歩み	伊那市公民館運営委員会	伊那市教育委員会	平成９年(1997 年)
長谷	親孝行の賛歌応募作品集　第１集 平成 11 年度	長谷村教育委員会	長谷村	平成 12 年(2000 年)
長谷	親孝行の賛歌応募作品集　第２集 平成 12 年度	長谷村教育委員会	長谷村	平成 13 年(2001 年)
長谷	親孝行の賛歌応募作品集　第３集 平成 13 年度	長谷村教育委員会	長谷村	平成 14 年(2002 年)
長谷	親孝行の賛歌応募作品集　第４集 平成 14 年度	長谷村教育委員会	長谷村	平成 15 年(2003 年)
長谷	親孝行の賛歌応募作品集　第５集 平成 15 年度	長谷村教育委員会	長谷村	平成 16 年(2004 年)
長谷	親孝行の賛歌入選作品集１ 平成 24 年度	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 25 年(2013 年)
長谷	親孝行の賛歌入選作品集２ 平成 25 年度	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 26 年(2014 年)
長谷	親孝行の賛歌入選作品集３ 平成 26 年度	伊那市教育委員会	伊那市教育委員会	平成 27 年(2015 年)
長谷	伊那谷長谷村の方言集	長谷村文化財専門委員会	長谷村文化財専門委員会	平成 15 年(2003 年)
長谷	望郷の里　塩平・平瀬	長谷村	長谷村	平成 17 年(2005 年)
長谷	入野谷学習ノート　復刻版	長谷小学校開校 39 周年 記念事業実行委員会	長谷小学校開校 40 周年 記念事業実行委員会	平成 27 年(2015 年)
長谷	ふるさと長谷村　ビデオ・DVD で綴る 長谷村の歴史と文化	エスオーケイビジョン	長谷村	平成 18 年(2006 年)
全域	埋蔵文化財発掘調査報告書(各遺跡)	伊那市・高遠町・長谷村	伊那市・高遠町・長谷村	昭和 41 年(1966 年)～

※埋蔵文化財発掘調査報告書の一覧は、資料編に掲載しています。
個別の文化財調査報告書、文化財建造物の修理工事報告書、文化財保存管理計画書や整備計画書はこの一覧に含まれません。
掲載順は地区ごと、発行年順とし、シリーズ書籍は連続表記にしました。

１－４　歴史文化資源の把握調査状況

これまでに伊那市内で行われてきた歴史文化資源に関わる調査の状況を、表のとおり地区別に整理しました。

建造物の調査は、旧伊那市域の伊那（竜西）、伊那（竜東）、富県、美篶、手良、東春近、西箕輪、西春近の８地区で民家調査や神社の建築調査などが行われていますが、当時異なる自治体であった高遠町地域、長谷地域では同様の調査は行われておらず、民家や神社建築の全市的な把握には至っていません。近年評価が高まっている近現代建築に関しては、長野県が実施した「長野県近代化遺産（建造物等）総合調査」や「長野県近代和風建築総合調査」で概要把握が行われていますが、建物個別の詳細な調査については、指定や登録物件のみの限定的な調査に留まっています。

古文書、典籍、考古資料、歴史資料を含む美術工芸品については、昭和４年度（1915 年度）から平成３年度（1991 年度）にかけて、『長野県史』や旧３市町村の市町村誌の編さんに伴う調査が行われています。これらの調査で把握された資料のうち、一部は現在公共施設に収蔵されていますが、大部分は個人所有のままであり、調査から長年が経過しているため、現状を確認するための追跡調査をする必要があります。

長野県が実施した調査が、市内の歴史文化資源の把握につながった場合もいくつかあります。無形文化財では「民謡緊急調査」、無形の民俗文化財では「食文化の実態調査」や「民俗芸能緊急調査」によって、市内各地区の資源が把握されました。特に民俗芸能では、「民俗芸能緊急調査」の結果を元に、旧伊那市域の８地区で詳細な記録作成まで行われ、『伊那市のまつり』として書籍にまとめられています。

有形の民俗文化財については、昭和 40 年代から 50 年代にかけて、当時の市町村が中心となり、地域の特徴を示す主要なものが収集されました。これらは現在も市内の小学校資料室や伊那市民俗資料館等の博物館施設に収蔵されています。旧３市町村の市町村誌の編さん時にも民俗調査が行われていることから、おおむね把握は済んでいますが、調査から年数が経過しているため、現在の視点で追加調査が必要です。

動物・植物・地質鉱物については、昭和 37 年（1962 年）に上伊那教育会によって『上伊那誌自然篇』が刊行された後も、伊那市による「巨樹・老樹調査」や高遠町による「樹木調査」、上伊那教育会による『上伊那誌自然篇改訂増補版』（平成 30 年（2018 年））刊行のための実地踏査が行われており、おおむね把握が済んでいますが、今後も経過観察は必要です。

遺跡については、文化財指定に伴う調査や旧３市町村の市町村誌の編さんに伴う調査などで把握が進んでいるものもありますが、まだまだ全市的な調査が進んでおらず、さらに調査が必要な状況です。

埋蔵文化財については、埋蔵文化財包蔵地が地面の下に広がっているため、発掘調査を行わなければ、状況を確認することができません。今後も発掘調査の結果を踏まえ、随時、埋蔵文化財包蔵地の見直しを行っていかなければなりません。

上記以外の文化的景観や伝統的建造物群、保存技術のほか、文化財保護法に定義されていない類型の調査はあまり行われていませんが、地名調査のように全市的な調査が行われ、資源の把握につながった例もあります。

表　歴史文化資源の地区別把握調査実施状況

類型			伊那(竜西)	伊那(竜東)	富県	美篶	手良	東春近	西箕輪	西春近	高遠町	長谷
有形文化財	建造物		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	美術工芸品	絵画	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		彫刻	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		工芸品	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		書跡・典籍	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		古文書	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		考古資料	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		歴史資料	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		石造物	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
無形文化財			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
民俗	有形の民俗文化財		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	無形の民俗文化財		○	○	○	○	○	○	○	○	△	△
記念物	遺跡		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	名勝地		×	×	×	×	×	×	×	×	△	×
	動物・植物・地質鉱物		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文化的景観			×	△	△	△	×	×	×	×	△	△
伝統的建造物群			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
文化財の保存技術			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
埋蔵文化財			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
地域の特産品			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
自然景観			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
地名			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
屋号			×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

○：おおむね調査済み　△：さらに調査が必要　×：未調査

２　歴史文化資源の保存・活用の現状

２－１　アンケートによる歴史文化資源の現状把握

(1)指定文化財所有者アンケート(平成 30 年(2018 年)２月実施)

伊那市の指定等文化財の保存状況や管理状況、意見・要望などを把握するために、指定文化財の所有者や所有団体を対象にアンケート調査を実施しました。対象は、70 の区・寺社・団体・個人です。

「有形文化財・記念物の管理上の問題点」の有無を質問したところ、53.8%が問題ありと回答しました。同様に「無形文化財の活動上の問題点」の有無についても 54.5%が問題ありと回答しています。ともに、人口減少・高齢化が進み十分な管理ができない、文化財自体や説明看板の劣化が進んでいる、予算不足による施設管理や祭事の継続が負担になっている、という内容が主な問題点として挙げられました。しかし、「文化財の今後のあり方について」の調査項目では、77.1%が「文化財を積極的に発信して、地域の活性化につなげたい」と回答があり、「文化財を地域の活性化につなげる必要はない」の 5.7%を大きく上回っています。文化財を心の拠(よ)り所として長く管理していきたい、地域の活性化につながるようにパネルなどで歴史を展示したい、など今後のあり方に関する意見もあり、文化財所有者の文化財活用に関する意識が高い傾向がうかがえます。

また、今後「文化財になり得る資源」の有無を質問したところ、仏像や古文書などの様々な資源が挙げられており、指定文化財以外にも多くの歴史文化資源があることが分かりました。

(2)地域住民アンケート(令和３年(2021 年)12 月～令和４年(2022 年)３月実施)

伊那市民が市内の歴史文化資源をどのように捉(とら)えているのか、またどのような関わりを持っているのか、現状を把握するため、市内で開催したイベントなどの参加者(歴史シンポジウム参加者、各公民館講座参加者、納税申告相談来場者ほか)を対象にアンケート調査を実施しました。218 人から回答があり、回答者の８割が伊那市居住者でした。

「伊那市らしい」とイメージする歴史や文化は何か、という質問には、70.2%が「天下第一の桜」と称されるタカトオコヒガンザクラで知られる「高遠城跡(たかとおじょうせき)」、次いで 59.6%が「南アルプスや中央アルプスなどの山岳資源」と回答がありました。また、「石造文化財」、「食文化」、「天竜川や三峰川などの河川」も３割を超え、様々な歴史文化資源に加え、それをとりまく周辺環境にまで伊那市らしさを感じているという結果でした。

「どのような文化財に興味や関心があるか」という問いには、「城跡」が一番多く 43.1%、次いで「神社仏閣」が 37.2%という結果でしたが、「古いまちなみ」や「石造文化財」、「古墳などの遺跡」への関心も上位となっており、様々な分野への興味関心が高いことがうかがえました。

文化財に関する意見として、「若い人たちにも興味を持ってもらえるよう、発信方法を柔軟にしてほしい」、「文化財のデジタル化・アーカイブ化を進め、より広い人々が文化財を活用することができるようにすべき」、「文化財に興味を持ってもらうために、博物館などで体験型の講座を増やし、大人も子どもも楽しめるようにしてほしい」と歴史文化資源を知るため、活かすために情報発信を充実してほしいとの意見が多く見られました。

※指定文化財所有者アンケート・地域住民アンケート結果の詳細は、資料編に掲載しています。

２－２　歴史文化資源に関わる主な文化施設と公開活用事業

伊那市内には、歴史文化資源に関わる様々な施設があります。博物館施設においては、展示、講座、様々なイベントなどの機会を設けて、歴史文化資源の公開活用事業を実施しているほか、公民館活動の中でも、歴史文化資源を活用した講座が多く実施されています。

※近年の公開活用事業の状況は、資料編に掲載しています。

（1）文化施設

表　博物館等資料展示施設

伊那市創造館	伊那市荒井3520番地	平成22年(2010年)	伊那市
	神子柴遺跡出土石器、御殿場遺跡出土土器等の国指定重要文化財の展示。上伊那図書館の歴史、昭和の図書館、俳人・井上井月の展示など。		
信州高遠美術館	伊那市高遠町東高遠400番地	平成４年(1992年)	伊那市
	池上秀畝、中村不折、小坂芝田ら伊那市ゆかりの作家の作品や、原田コレクションの作品をテーマごとに展示する企画展を随時実施。		
伊那市立高遠町歴史博物館	伊那市高遠町東高遠457番地	平成８年(1996年)	伊那市
	先史時代から現代までの高遠城と城下町高遠の歴史、文化、人物、民俗などをテーマごとにスポットをあてた展示。絵島囲み屋敷復元建物も併設。		
伊那市民俗資料館 旧池上家 高遠なつかし館 旧馬島家住宅	旧池上家 伊那市高遠町西高遠1724番地の１ 高遠なつかし館・旧馬島家住宅 伊那市高遠町東高遠2074番地の１	平成15年(2003年)	伊那市
	旧池上家：酢や醤油の醸造販売も行いながら、代々町問屋、町名主を勤めた池上家の住宅。近世の典型的な商家として貴重な建造物。 高遠なつかし館：人々の生活で用いられた道具(民具)の展示や機織、縄ない機、蓄音機、足踏みミシンなどの体験。 旧馬島家住宅：江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅で、天保年間(1830～1843年)に建てられた建物		
伊那市考古資料館	伊那市西箕輪3054番地４	昭和51年(1976年)	伊那市
長谷公民館 （郷土資料室 戸台の化石資料館）	伊那市長谷溝口1188番地１	平成17年(2005年)	伊那市
	長谷の遺跡から出土した土器や石器、民俗資料、戸台の化石学習会で採取された化石の中から代表的な化石などを展示。		
孝行猿資料館	伊那市長谷市野瀬405番地１	平成22年(2010年)	伊那市

表　学校郷土資料館・資料室等（公開施設のみ）

伊那北小学校資料室	伊那市野底8380番地３	不明	伊那北小学校
伊那西小学校郷土資料館	伊那市ますみヶ丘6949番地	平成４年(1992年)	伊那西小学校 地区公民館
富県小学校考古室	伊那市富県7312番地	不明	富県小学校
美篶小学校資料館	伊那市美篶5350番地１	昭和40年代	美篶小学校 美篶地区住民
新山小学校郷土館	伊那市富県535番地２	昭和40年(1965年)	新山小学校
手良小学校郷土館	伊那市手良野口222番地	令和元年(2019年)	手良小学校 手良地区住民

表　図書館・図書室

施設名	位置	開館年	設置者
	常設展示･内容		
伊那市立伊那図書館	伊那市荒井3417番地２	平成６年(1994年)	伊那市
伊那市立高遠町図書館	伊那市高遠町西高遠810番地１	昭和61年(1986年)	伊那市
	郷土が生んだ作家・島村利正に関する展示、中村不折に関する展示をはじめ、古文書や古写真、昔の教科書などの所蔵資料を入れ替えで展示。高遠町地区に伝わる民話の「紙芝居」を作成し、民話の保存や伝承に取り組んでいる。		
春近郷ふれ愛館図書室	伊那市東春近1826番地	平成８年(1996年)	伊那市
富県ふるさと館図書室	伊那市富県6393番地１	平成11年(1999年)	伊那市
てらとぴあ図書室	伊那市手良野口260番地１	平成13年(2001年)	伊那市
長谷公民館図書室	伊那市長谷溝口1188番地１	平成19年(2007年)	伊那市
美篶きらめき館図書室	伊那市美篶4999番地１	平成20年(2008年)	伊那市
西箕輪ぬくもり館 図書交流スペース	伊那市西箕輪6700番地２	平成26年(2014年)	伊那市
西春近公民館図書室	伊那市西春近5146番地２	令和４年(2022年)	伊那市

表　公開されている文化財建造物

施設名	位置	開館年	設置者
	常設展示･内容		
高遠閣	伊那市高遠町東高遠2295番地	昭和11年(1936年)	伊那市
伊澤修二生家	伊那市高遠町東高遠2130番地１	昭和50年代	伊那市
進徳館	伊那市高遠町東高遠2007番地	昭和58年(1983年)	伊那市
商家旧池上家 (伊那市民俗資料館)	伊那市高遠町西高遠1724番地の１	昭和62年(1987年)	伊那市
旧馬島家住宅 (伊那市民俗資料館)	伊那市高遠町東高遠2074番地の１	平成15年(2003年)	伊那市
伊那部宿旧井澤家住宅	伊那市西町5597番地４	平成17年(2005年)	伊那市
	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建造物の公開。		
旧中村家住宅	伊那市高遠町西高遠184番地	平成30年(2018年)	伊那市

表　名所・旧跡を含む都市公園

施設名	位置	開館年	設置者
高遠城址公園	伊那市高遠町東高遠2300番地１	昭和57年(1982年)	伊那市
春日公園	伊那市西町5949番地１	昭和59年(1984年)	伊那市
伊那公園	伊那市中央5528番地１	昭和59年(1984年)	伊那市
殿島城址公園	伊那市東春近7369番地１	昭和59年(1984年)	伊那市
富士塚スポーツ公園	伊那市荒井4558番地１	昭和59年(1984年)	伊那市

表　その他

施設名	位置	開館年	設置者
西駒山荘	伊那市伊那7119番地１	昭和46年(1971年)	伊那市
長谷伝統文化等保存伝習施設 (中尾座)	伊那市長谷中尾363番地５	平成９年(1997年)	伊那市
南アルプス長谷ビジターセンター	伊那市長谷非持1400番地	平成25年(2013年)	伊那市

２－３　歴史文化資源の保存・活用・管理に関わる主な団体組織

伊那市内には、様々な形で歴史文化資源の保存や普及に関わる活動を行っている団体や組織があります。公共的な団体や地縁団体、市民団体、ＮＰＯなど様々な組織の形態があり、その活動内容も多岐にわたりますが、限られた地域内や単体の歴史文化資源を対象とした活動が多く、複数の歴史文化資源にまたがり、広域的に活動する団体が少ないのが現状です。

表　歴史文化資源の保存・活用・管理に関わる主な団体組織

団体等名称	主な活動内容	関係する歴史文化資源	活動地域
荒井獅子舞保存会	荒井獅子舞の保存伝承	荒井の獅子舞	伊那(竜西)
伊那部宿を考える会	伊那部宿周辺の保存・活用、旧井澤家住宅の保存管理	伊那部宿酒屋旧井澤家住宅	伊那(竜西)
春日神社神楽伝承会	西町春日神社の神楽保存伝承	春日神社の神楽	伊那(竜西)
駒ヶ岳御神楽保存会	内ノ萱駒ヶ岳神社里宮奉納神楽の保存伝承	内ノ萱駒ヶ岳神社里宮奉納神楽	伊那(竜西)
西駒こまくさ会	西駒山荘で使う薪をつくり、山へ運び上げる	西駒山荘	伊那(竜西)
山寺義士踊保存会	義士踊の保存伝承	山寺義士踊	伊那(竜西)
山寺やきもち踊り保存会	やきもち踊りの保存伝承	やきもち踊り	伊那(竜西)
横井清水水利組合	艶三郎の井の管理	艶三郎の井	伊那(竜西)
横山青年部	鳩吹山からの景観や鳩吹山城址の歴史案内、西駒登山道横山道の整備など	鳩吹山城址ほか横山地区の史跡、景観	伊那(竜西)
上の原区	上の原区誌の編纂事業	上の原区内の史跡など	伊那(竜東)
狐島史蹟保存会	狐島地区内の史跡の保存と伝承	蓮台	伊那(竜東)
若駒会	狐島地区の長持ち(踊りと唄)の保存と伝承	狐島の長持ち	伊那(竜東)
日影青友会	日影の獅子舞の保存伝承	日影の獅子舞	伊那(竜東)
NPO 法人　トンボ山	ムカシトンボ保護のための環境づくりほか	里山環境	富県
北福地獅子囃子方保存会	北福地の獅子舞の保存伝承	北福地の獅子舞	富県
南福地祭事会	南福地の獅子舞の保存伝承	南福地の獅子舞	富県
貝沼獅子舞保存会	貝沼の獅子舞の保存伝承	貝沼の獅子舞	富県
北福地の昔を訪ねる会	北福地の歴史遺産継承事業	北福地の歴史資料	富県
桜井区	歴史的価値のある松の保護対策 松くい虫の防除	観浄寺周辺の赤松	富県
富県区長会	地名調査成果の公開、普及	富県地域の地名	富県
新山区長会	松枯れ対策を行い、地域特産の松茸を守りながら、里山の将来像を描く	新山地区全域	富県
新山農家組合	新山郷土の歌を歌い継ぎ、地域の文化遺産を維持、伝承していく	新山郷土の歌	富県
歌舞劇団田楽座	民俗伝統芸能の伝承	民俗伝統芸能	富県・市内外
春富土地改良区	伝兵衛井の管理	伝兵衛井筋	富県・東春近
蟻塚城跡保存会	蟻塚城の整備	蟻塚城	美篶
笠原区	笠原区誌刊行事業	笠原区内の史跡など	美篶
上大島区	美篶地域の桜の木の保護、六道の堤周辺の環境保全	上大島区所有の樹木ほか	美篶
下県桜愛好会	下県桜トンネルの桜保存管理、ライトアップなど	下県桜トンネル	美篶
美篶区長会	三峰川の河川環境整備 (景観保持作業、災害予防)	美篶地域内三峰川	美篶
美篶小学校資料館運営委員会	美篶小学校資料館の運営、保存管理	美篶小学校資料館	美篶
美篶地区各種団体協議会	霞堤の桜並木などのライトアップ、 三峰川堤防の桜並木　ほか	地区内の桜並木	美篶
両川手六道地蔵尊老人クラブ	六道地蔵尊縁日祭りの実施	六道の森、六道地蔵尊	美篶
中坪の歩み研究委員会	手良中坪地区の歴史文化の伝承	手良中坪地区の史跡ほか	手良
浅間山登山道整備委員会	浅間山、富士信仰などの調査研究、登山道の整備	浅間山	手良
手良春日城跡保存会	春日城跡の保存整備	春日城跡	手良
手良郷土研究会	手良郷土館の充実、資料収集などの整備	手良郷土館	手良

団体等名称	主な活動内容	関係する歴史文化資源	活動地域
手良地区活性化促進会議	史跡周辺の整備、手良みどころマップ作製配布、浅間社狼煙台の活用など	手良地区の史跡、浅間社ほか	手良
手良伝統文化保存会	伝統文化の保存継承	手良太鼓ほか	手良
中組鳥の宮湧水を守る会	湧水取水施設の整備	鳥の宮湧水	手良
田原囃子保存会	田原の囃子方と獅子舞の保存伝承	田原の囃子方と獅子舞	東春近
土蔵獅子舞囃子方保存会	土蔵獅子舞の保存伝承	土蔵の獅子舞	東春近
原新田獅子舞保存会	原新田獅子神楽と囃子方の保存伝承	原新田獅子神楽	東春近
東春近財産区	野田山アヤメ園の調査研究、保存整備	野田山アヤメ園	東春近
東春近地区協議会	殿島橋歴史案内板修復	殿島橋	東春近
中殿島区	野田山アヤメ園の保存管理	野田山アヤメ園	東春近
老松場の丘・古墳公園整備委員会	老松場古墳の保存と周辺整備	老松場古墳群	東春近
大泉新田獅子舞保存会	大泉新田獅子舞の保存伝承	大泉新田獅子舞	西箕輪
大萱区	大萱の百万灯の保存伝承	百万灯	西箕輪
経ヶ岳自然植物園保全管理会	経ヶ岳自然植物園の保存整備	経ヶ岳自然植物園	西箕輪
羽広の獅子舞保存会	羽広の獅子舞保存伝承	羽広の獅子舞	西箕輪
吹上獅子舞保存会	吹上獅子舞の保存伝承	吹上の獅子舞	西箕輪
与地区	与地の獅子舞映像記録化	与地の獅子舞	西箕輪
与地獅子舞保存会	与地の獅子舞の保存伝承	与地の獅子舞	西箕輪
赤城区虚空蔵菩薩保存会	虚空蔵菩薩祭の継承	虚空蔵菩薩祭	西春近
小出一区	小出一区の地名、歴史、伝承の勉強会の実施	小出一区の文化財地名ほか	西春近
小出太鼓	小出太鼓の保存伝承	小出太鼓	西春近
小出連合	小出に伝わる内藤家奉納甲冑を展示と紹介パンフレットの作成	小出諏訪神社へ奉納された内藤家所有具足	西春近
沢渡区	沢渡区の歴史や現状を地域に伝えるための活動(パネル、冊子作製)	沢渡区内の文化財など	西春近
沢渡本町沢仁会	ホタルの保護育成 地域を象徴する桜の保護活用事業	地区内のホタル 地区内のサクラ	西春近
下牧区	下牧の歴史を守るための環境美化、整備事業の実施	モロタお練り街道ほか	西春近
下牧獅子舞保存会	下牧の獅子舞と囃子方の保存伝承	下牧の獅子舞	西春近
下牧歴史保存会	下牧地区の石造文化財などの保存管理	下牧地区の石造文化財など	西春近
西春近自治協議会	地域環境保全と権現山歩道整備	権現山	西春近
西春近北小学校同窓会会報編集委員会	歴史・文化・自然・風習などを盛り込んだ西春近カルタの作成	地域内の史跡など	西春近
山本地名調査委員会	山本地区内の歴史文化の継承	山本集落	西春近
荒町区子供騎馬行列保存会	貴船神社子供騎馬行列の伝承	貴船神社子供騎馬行列	高遠町
NPO ナカラ	旧中村家住宅「たまきや」の運営、地域の歴史文化の紹介展示	旧中村家住宅	高遠町
勝間桜を守る会	勝間のしだれ桜や集落内の桜の保護育成、散策遊歩道の整備	勝間のしだれ桜、勝間区内の桜	高遠町
孤軍高遠城伝承会	孤軍高遠城の保存伝承	舞踊孤軍高遠城	高遠町
史跡案内グループふきのとう	高遠町内の史跡、神社仏閣などの案内ガイド	高遠城跡ほか高遠町内の史跡など	高遠町
信州高遠藩鉄砲隊	古式銃の砲術演武の実施	砲術	高遠町
高遠郷土研究会	郷土研究、郷土誌「高遠」の発行、文化財環境整備	進徳館、樹林寺ほか	高遠町
高遠そばの会	高遠そばの振興	高遠そば	高遠町
高遠太鼓保存会	高遠太鼓の保存伝承	高遠太鼓	高遠町
高遠囃子伝承会桜奏会	高遠ばやしの保存伝承	高遠ばやし	高遠町
高遠囃子伝承会婦人部	高遠ばやしの保存伝承	高遠ばやし	高遠町
高遠をこよなく愛する会	民俗資料館周辺の環境整備、共催事業実施	旧馬島家住宅、旧池上家	高遠町
「日本で最も美しい村」推進委員会	日本で最も美しい村の事業実施	桜、石仏、農村景観	高遠町

団体等名称	主な活動内容	関係する歴史文化資源	活動地域
名君 保科正之公の 大河ドラマをつくる会	保科正之公の顕彰事業の実施	保科正之	高遠町
竜勝寺山の姫小松保存会	民謡舞踊竜勝寺山の姫小松の保存伝承	竜勝寺山の姫小松	高遠町
ジオパークガイド	南アルプスジオパークの案内ガイド	南アルプスジオパーク	長谷・高遠町
秋葉街道道普請隊	秋葉街道の整備、案内	秋葉街道	長谷
一般社団法人 南アルプス里山案内人協会	南アルプス周辺の保全活動やエコツアーなどの実施	南アルプス	長谷
入野谷そば振興会	入野谷在来そばの保存と栽培	入野谷在来そば	長谷
NPO 法人 南アルプス食と暮らしの研究舎	食を通じた山村活性化 伝統食としての雑穀栽培	雑穀	長谷
ざんざ節保存会	民謡ざんざ節、きんにょんにょ(キンニョンニョ)の保存伝承	ざんざ節 きんにょんにょ(キンニョンニョ)	長谷
戸台の化石保存会	戸台の化石の調査研究保存	戸台の化石	長谷
信州伊那中尾歌舞伎後援会	中尾歌舞伎の保存伝承	中尾歌舞伎	長谷
中尾歌舞伎保存会	中尾歌舞伎の保存伝承	中尾歌舞伎	長谷
長谷っ子応援隊	長谷小学校を核とした伝統文化の継承、地域間交流	孝行猿の民話、ざんざ節	長谷
溝口区	溝口区内の史跡などの保存整備	溝口区内の史跡	長谷
溝口郷づくり会	熱田社や周辺文化財を活かした地域づくり	熱田神社ほか溝口区内の文化財	長谷
南アルプスジオパーク　認定ガイド会	南アルプスジオパーク周辺の案内ガイド	南アルプス	長谷
NPO 法人　美和湖倶楽部	地域の河川で自然に親しみ、野外活動を行う学校の野外教育支援、長谷などの地形・地質を学ぶ	美和湖、南アルプスジオパーク	長谷
武田信玄狼煙会	西春近地区、手良地区、高遠町公民館などが参加し、高森町の事務局を中心に武田信玄ゆかりの地を狼煙でつなぐイベントを実施	市内各地の狼煙台、山城ほか	手良・東春近・西春近・富県・高遠町
一般社団法人井上井月顕彰会	井上井月の調査研究、顕彰事業	井上井月	市内全域
い～なガイドの会	史跡などの案内ガイド	市内の史跡など	市内全域
伊那市観光協会	市内観光施設の紹介、特産品の紹介、観光客の誘致、ガイドの育成など	市内の観光地	市内全域
伊那市桜守の会	桜の保護育成	市内の桜	市内全域
伊那市地蜂愛好会	蜂追い文化の伝承や蜂資源の増殖	地蜂	市内全域
伊那節保存会	民謡伊那節の伝承	伊那節	市内全域
伊那谷フィルムコミッション	映画、ドラマ、プロモーションビデオ、CMなどに関するロケ支援	市内の町並み、風景、建造物ほか	市内全域
NPO 法人　伊那芸術文化協会	芸術文化活動の実施、普及、振興	芸術文化活動	市内全域
NPO 法人　三風デザイン	景観保全活動	景観	市内全域
NPO 法人　森の座	森林資源と文化の保全	山村文化	市内全域
NPO 法人 伊那谷森と人を結ぶ協議会	豊かな森づくりに関する活動	タカトオコヒガンザクラ	市内全域
上伊那教育会	地域の自然、歴史、文化などの研究、普及活動	地域文化全般	市内全域
上伊那郷土研究会	地域文化の継承、郷土誌「伊那路」の発行	地域文化全般	市内全域
郷土芸能を語り継ぐ集い 実行委員会	無形文化財などの伝統芸能の交流、発表	無形民俗文化財の伝統芸能ほか	市内全域
信州そば発祥の地伊那そば振興会	そばの振興	そば	市内全域
高遠ぶらり制作委員会	古地図、古写真などを使った散策アプリケーション開発など	高遠城跡ほか	市内全域
ローメンズクラブ	ローメン文化の普及と味を守る	ローメン	市内全域
三峰川みらい会議	河川環境の保全と川づくり	三峰川	三峰川流域
NPO 法人　ふるさと芸能研究所	民俗芸能の調査、記録、指導	民俗芸能	市内外
一般社団法人 高遠石工研究センター	高遠石工の調査研究、情報発信	高遠石工の石造物	市内外
信州伊那谷ガレット協議会	地域の名産であるそばを利用した新たな食文化ガレットの普及	そば	市内外
特定非営利活動法人 信州伝統的建造物保存技術研究会	歴史的建造物の調査や伝統的技術の研究、研修などの実施	歴史的建造物	市内外

第５章　歴史文化資源の保存・活用に関する基本理念

伊那市の未来をつくるためには、伊那市ならではの歴史文化を、私たち自身が知り、守り、上手に利用することが大切です。
これから様々な取組を進める上で、全ての元となる考え方が、この基本理念です。

雄大な山々に抱かれた自然豊かな伊那市には、先史時代から現代までの様々な歴史文化資源があり、長い歴史の中で独自かつ多様な文化を築いてきました。

少子高齢化などによる社会情勢の変化に伴い、「地域の良さ」、「地域らしさ」を見つめ直す機運が全国的に高まり、地域の誇りとなる歴史文化をはじめとした様々な地域資源に注目が集まっています。

平成 28 年(2016 年) 3 月に伊那市が制定した伊那市民憲章の中にも「一、歴史と文化を大切にし、心豊かな人を育みます。」と謳われていますが、多くの歴史文化資源を有する伊那市は、その恵まれた環境を活かし、地域の宝である歴史文化資源に目を向け、その存在と価値を多くの人と共有することで、これまで以上に、地域に対する人々の愛着や誇りを高めていくことができます。

さらにこうした取組は、市民ばかりでなく市外に暮らす人々も含めて、行ってみたい、暮らしてみたい、暮らし続けたいと思える魅力的な伊那市をつくることにもつながります。

将来にわたり、持続可能で輝かしい伊那市の未来を築いていくため、伊那市の歴史文化資源の保存・活用の基本理念を次のとおりとします。

輝く未来を築くため、自然豊かな伊那市で育まれた歴史文化を
「知る」、「守る」、「活かす」

この基本理念のもと、誇りを持って魅力ある地域づくりを進めるため、過去から受け継いだ伊那市の歴史文化を「知る」ことに始まり、地域ぐるみで確実に「守り」将来へ受け継ぎながら、その価値や魅力を多くの人と共有するため、歴史文化資源を「活かす」取組をします。

第６章　歴史文化資源の保存・活用に関する基本目標と課題

ここまで、伊那市の現在の様子やそれぞれの地域の歴史をまとめ、歴史文化資源がどこに、どのような状態で残っているのかを見てきました。ここからは、これらの歴史文化資源を私たちがどのように守り、使っていったらよいのかを考えます。

１　歴史文化資源の保存・活用に関する基本目標

市内の歴史文化資源を守り、使っていくための、これからの目標を「知る」、「守る」、「活かす」の３つに決めました。それぞれ、どうすればこれらの目標を達成できるのか、ここで取組をまとめます。

伊那市では歴史文化資源の保存･活用を図るための基本目標として、以下の３項目を設定します。３つの基本目標は、それぞれの領域が重なり合って成り立つ３つの円で、相互に関わりを持たせながら様々な事業を行うことで、より大きな効果を上げることを目指します。

基本目標「知る」　―　歴史文化資源を知る　―

基本目標「守る」　―　歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり　―

基本目標「活かす」―　歴史文化資源を広め活用する　―

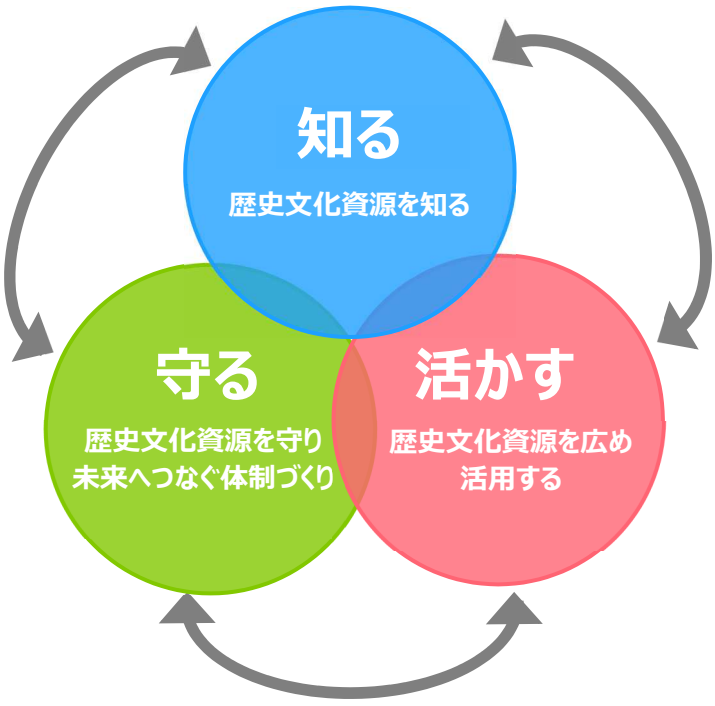
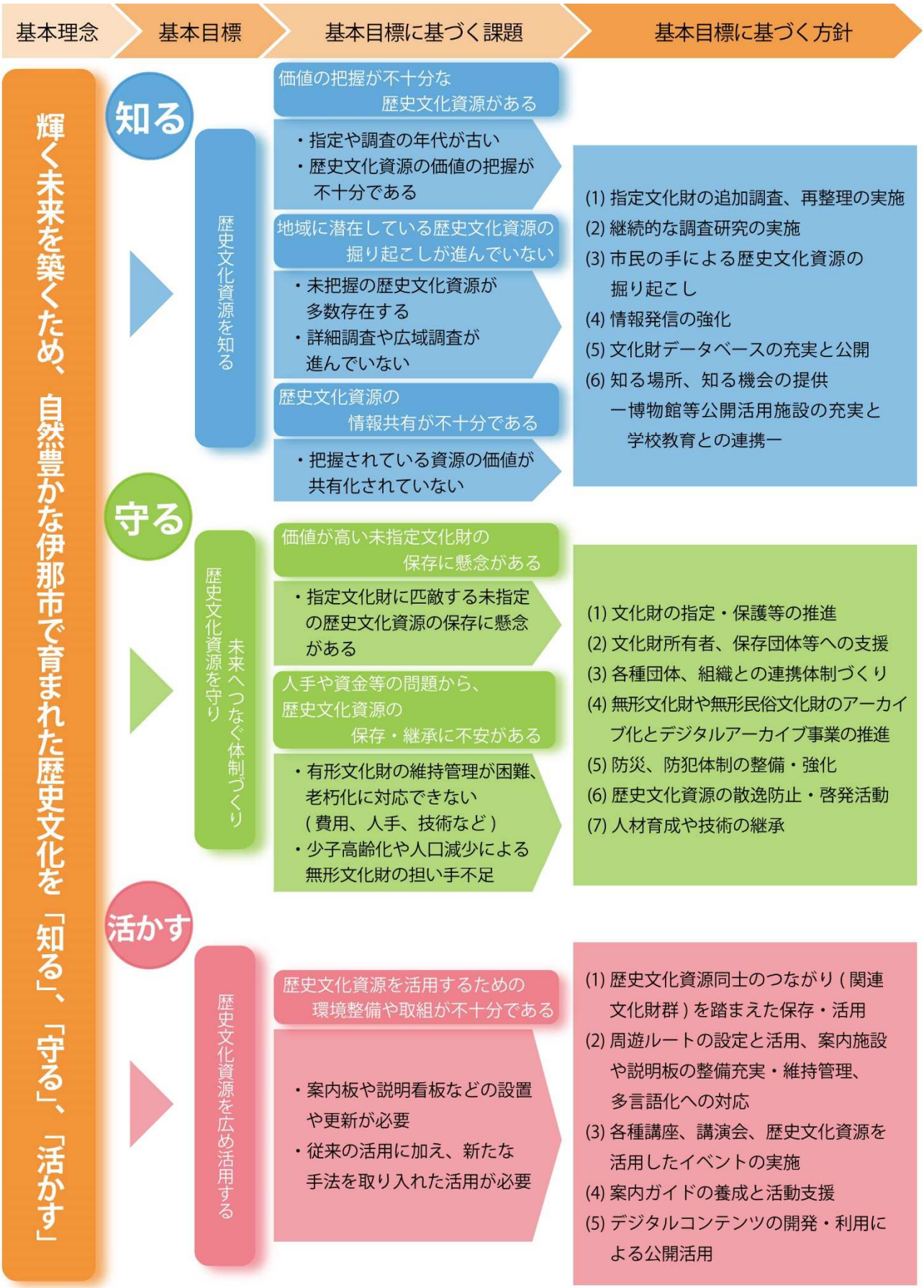


図. 歴史文化資源の保存・活用のイメージ


基本理念
基本目標
基本目標に基づく課題
基本目標に基づく方針
輝く未来を築くため、自然豊かな伊那市で育まれた歴史文化を「知る」、「守る」、「活かす」
知る
歴史文化資源を知る
価値の把握が不十分な歴史文化資源がある
・指定や調査の年代が古い
・歴史文化資源の価値の把握が不十分である
地域に潜在している歴史文化資源の掘り起こしが進んでいない
・未把握の歴史文化資源が多数存在する
・詳細調査や広域調査が進んでいない
歴史文化資源の情報共有が不十分である
・把握されている資源の価値が共有化されていない
(1) 指定文化財の追加調査、再整理の実施
(2) 継続的な調査研究の実施
(3) 市民の手による歴史文化資源の掘り起こし
(4) 情報発信の強化
(5) 文化財データベースの充実と公開
(6) 知る場所、知る機会の提供
ー博物館等公開活用施設の充実と学校教育との連携ー
守る
歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり
価値が高い未指定文化財の保存に懸念がある
・指定文化財に匹敵する未指定の歴史文化資源の保存に懸念がある
人手や資金等の問題から、歴史文化資源の保存・継承に不安がある
・有形文化財の維持管理が困難、老朽化に対応できない（費用、人手、技術など）
・少子高齢化や人口減少による無形文化財の担い手不足
(1) 文化財の指定・保護等の推進
(2) 文化財所有者、保存団体等への支援
(3) 各種団体、組織との連携体制づくり
(4) 無形文化財や無形民俗文化財のアーカイブ化とデジタルアーカイブ事業の推進
(5) 防災、防犯体制の整備・強化
(6) 歴史文化資源の散逸防止・啓発活動
(7) 人材育成や技術の継承
活かす
歴史文化資源を広め活用する
歴史文化資源を活用するための環境整備や取組が不十分である
・案内板や説明看板などの設置や更新が必要
・従来の活用に加え、新たな手法を取り入れた活用が必要
(1) 歴史文化資源同士のつながり（関連文化財群）を踏まえた保存・活用
(2) 周遊ルートの設定と活用、案内施設や説明板の整備充実・維持管理、多言語化への対応
(3) 各種講座、講演会、歴史文化資源を活用したイベントの実施
(4) 案内ガイドの養成と活動支援
(5) デジタルコンテンツの開発・利用による公開活用

２　基本目標に基づく課題

第１章から第４章にかけて、伊那市の歴史文化資源を取り巻く状況を整理してきましたが、保存・活用につながる前向きな取組が行われる一方で、様々な問題点が浮かび上がってきました。これらの問題点を基本目標に基づいて整理すると、以下のように整理することができます。

２－１　基本目標「知る」に基づく課題

価値の把握が不十分な歴史文化資源がある

指定年代が古い指定等文化財の中には、価値の把握が不十分なものがあります。また、過去に発掘調査が行われた重要な遺跡の中には、新たな知見を取り入れた再整理作業が必要なものがあります。

地域に潜在している歴史文化資源の掘り起こしが進んでいない

各種調査で、数多くの歴史文化資源が見出されていますが、地域にはまだ埋もれた歴史文化資源がたくさんあると考えられます。個々の資源の調査は必要に応じて行われていますが、簡易的な調査の場合が多く、詳細調査や類例を把握するような広域調査が進んでいないため、資源の数や保存状態の把握も十分ではありません。

高遠町地域や長谷地域では、建造物（民家や神社建築）や無形の民俗文化財の把握調査が進んでおらず、旧伊那市域８地区と比較して、資源の把握状況に差があります。また、有形文化財や有形の民俗文化財では、個人所有の歴史文化資源の把握が進んでいません。名勝地や伝統的建造物群、文化的景観、文化財の保存技術、自然景観、屋号などの分野においては、ほとんど把握がされていないのが現状です。

歴史文化資源の情報共有が不十分である

伊那市では、歴史文化資源に関する情報を、様々な形で市民に向けて発信していますが、十分に伝わっているとはいえません。地域住民に対するアンケートでも、情報発信の充実を望む声が多く聞かれ、すでに存在が明らかになっている歴史文化資源であっても、情報の共有化が不十分であること明らかになりました。

２－２　基本目標「守る」に基づく課題

価値が高い未指定文化財の保存に懸念がある

３市町村の合併から 18 年を経過していますが、文化財の指定状況に地域差があり、未指定文化財の中には、指定等文化財に匹敵するものでありながら、保存に懸念が生じているものも見受けられます。こうした歴史文化資源を確実に保存するため、調査成果に基づき文化財指定を進める必要があります。

人手や資金等の問題から、歴史文化資源の保存・継承に不安がある

所有者アンケートの意見にも見られるとおり、有形の歴史文化資源の中には、老朽化が進み修繕の必要がありながら、費用、人手、技術的な問題から修繕の見込みの立たないものが複数あるほか、伝統行事や祭礼などの無形の文化財も、少子高齢化や人口減少などによって維持が困難となっているものが数多くあります。音楽、舞踊、年中行事、祭事、民話については、近年、簡略化や担い手不足などにより、受け継がれてきた形が変わるばかりでなく、それ自体の存続も危惧されています。

歴史文化資源が将来にわたって保存・継承できるように、アーカイブ化や維持管理に関わる人々の負担を軽減する仕組(財源や担い手の確保)や、近年各地で頻発している気象災害への対応(防災の取組)など、地域全体で支え合う体制づくりなどが求められています。

２－３　基本目標「活かす」に基づく課題

歴史文化資源を活用するための環境整備や取組が不十分である

伊那市に数多く存在する歴史文化資源は、そこにあるだけでは地域の魅力を高めることになりません。その歴史文化資源が何であるか、歴史や価値、そこにある意味などを理解することで、はじめて地域の宝として認知され、地域活性化の種となります。

所有者アンケートの結果、多くの文化財所有者が地域の活性化に歴史文化資源を利用していきたいと考えており、地域住民アンケートでも積極的な公開や観光振興との連携を期待する声があります。一方で、現地に誘導するための案内板の設置や、理解を促す看板の更新を望む声が聞かれ、活用のための環境が十分に整っていないことが明らかとなりました。

また、歴史文化資源を観光資源として積極的に活用することや、デジタルコンテンツによって多くの人が手軽に活用できるように期待する声、体験型の講座を増やし、大人も子どもも楽しみながら歴史文化資源に興味を持ってもらえるような取組を期待する声も聞かれました。今まで行ってきた活用に加え、これまでの手法に留まらない活用を取り入れる必要があります。

３　基本目標に基づく方針

前節に挙げた課題を踏まえ、３つの基本目標に基づき歴史文化資源の保存･活用を進めるための方針は、それぞれ以下のとおりです。

３－１　基本目標「知る」の基本方針

指定等文化財や遺跡の学術的な価値を、今以上に把握するため、詳細な調査研究を進めます。また、広域的な調査や市民の皆さんと共に調査を進めることで、新たな歴史文化資源の把握や価値の掘り起こしを行います。加えて、市民に情報が届くような仕組づくりを進め、歴史文化資源の価値や魅力、関連文化財群の考え方(第８章で詳述)を共有します。

基本目標に基づく方針

(１)指定等文化財の追加調査、再整理の実施

指定年が古く、調査が十分でない文化財や調査成果があいまいな文化財は、必要に応じて追加調査や再調査をするほか、指定史跡の過去の調査資料(出土遺物・調査記録など)の再整理を実施し、文化財としての価値を再評価した上で、活用事業につなげます。

(２)継続的な調査研究の実施

伊那市に関わる歴史文化資源を新たに把握するため、詳細な調査を実施します。また、既存の資源に関してもその価値をより一層明らかにするため、調査・研究を継続的に実施します。

埋蔵文化財についても、保存を目的とした詳細調査の推進を図り、重要な遺跡の把握や保存に向けた資料の収集を図ります。

調査・研究は、指定、未指定に関わらず、幅広い分野を対象とし、それぞれの分野での類例調査や悉皆調査(余すことなく一点一点調べる調査)などを実施し、大学や研究機関、専門家などと連携した学術的な調査も行っていきます。今後はそれらの価値を横断的に明らかにしながら、地域住民や所有者と専門家や行政が連携して伊那市らしさを紐解いていくことができるようにします。

(３)市民の手による歴史文化資源の掘り起こし

全市的に行われた「古い地名調査」のように、地域での取組を今後も大切にし、歴史文化資源に興味関心がある市民とともに、様々な調査や整理作業を行ったり、市民参加のイベントやワークショップを行ったりしながら、地域に暮らす人々の目線に立ち、新たな歴史文化資源を発掘していきます。

また、歴史文化資源だけでなく、所有者や管理者などの資源に寄り添い守る「人」も併せて把握するよう努めます。

(４)情報発信の強化

市内に存在する歴史文化資源の価値や魅力を多くの人に知ってもらうため、歴史文化資源に関わる情報を市報や市のホームページ、ＳＮＳなどを通じて公開し、市内外に向けて発信します。多くの人の興味関心を引くための優れた情報、質の高い情報づくりを心がけます。

また、伊那市の変遷を顧み、市民の郷土に対する関心と愛情を深め、将来の伊那市の発展に資す

るため『伊那市誌』を編さんし、刊行します。

(5)文化財データベースの充実と公開

指定等文化財の保存・活用を円滑に行うため、さらなる情報収集を行い、文化財データベース(文化財台帳)を充実させるとともに、未指定の歴史文化資源のデータベース化に取り組みます。そして、多くの人が地域の歴史文化資源について知り、自ら調べることができるよう、これらのデータベースの公開を行います。

(6)知る場所、知る機会の提供　ー博物館等公開活用施設の充実と学校教育との連携ー

歴史文化資源の存在やその価値を多くの市民と共有するため、伊那市創造館、伊那市立高遠町歴史博物館、伊那市民俗資料館、信州高遠美術館等の博物館施設で展示や学習の機会を提供します。あわせて展示の充実や必要な設備の充実を図ります。

また、ふるさと伊那を知り、歴史文化資源に触れる機会を大切にするため、市内の小中学校、高等学校と連携しながら、子ども達に向けた展示見学や体験学習などの機会を提供します。

３－２　基本目標「守る」の基本方針

法律や条例に基づいて文化財の指定や保護施策を進め、指定等文化財に匹敵する価値が高い未指定文化財の保存を図ります。

私たちが受け継いだ歴史文化資源の中には、経年劣化や自然環境の変化のほか、後継者の不在や減少、担い手不足といった社会環境の変化により、存続が危ぶまれるものも少なくありません。また近年、国内外で火災や自然災害で文化財が被災するケースが相次いでいます。地域のアイデンティティーでもある歴史文化資源を維持し、将来にわたって確実に受け継いでいくためにも、行政内部の密接な連携の上、所有者や保存団体のほか、多くの主体がそれぞれの立場で保存・活用に関わり、様々な組織と連携を図りながら、地域ぐるみで歴史文化資源を保存・継承できるような体制づくりを進めます。

基本目標に基づく方針

（1）文化財の指定・保護等の推進

市内の歴史文化資源の指定等の状況を見ると、件数や内容に地域差があります。すでに認知されている歴史文化資源や、悉皆調査や類例調査などから見出された資源の中で、指定文化財に匹敵するものがある場合は、必要に応じて文化財指定を進めます。

文化財保護法や長野県文化財保護条例、伊那市文化財保護条例に基づく指定等文化財の保護推進はもちろんのこと、周辺環境を含めた一体的な保護を進めます。

また埋蔵文化財についても、開発事業に関連する遺跡は関係機関と調整を図り、現状保存が難しい遺跡は記録保存のための発掘調査を行うなど、文化財保護法に基づいた確実な保護施策を進めます。

（2）文化財所有者、保存団体等への支援

文化財所有者アンケートで明らかになった様々な課題（維持管理体制の充実、後継者確保、維持管理にかかる財源の確保など）（第４章及び資料編で詳述）に対応するため、所有者や保存団体を助言・支援するための制度や仕組づくりを検討します。

（3）各種団体、組織との連携体制づくり

地域全体で歴史文化を保存・活用する社会の実現を目指します。歴史文化資源に関わる組織や団体の活動をより充実させるため、所有者、保存団体、観光関係者、行政区などの組織や団体をネットワーク化し、現状や課題、解決策などを共有する機会を設けられるような体制づくりを行います。

また、南アルプスユネスコエコパーク・南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの認定登録エリア内にある歴史文化資源については、それぞれの理念に沿って、近隣自治体と連携しながら、保存・活用を進めます。

（4）無形文化財や無形の民俗文化財のアーカイブ化とデジタルアーカイブ事業の推進

簡略化や担い手不足などによって存続が危惧（きぐ）されている無形文化財や無形の民俗文化財について、今ある形を把握し、将来に受け継いでいくため、文字や写真、映像などにより一連の内容の記録化を進めます。

また、地域の歴史文化を理解する上で欠かせない地域資料や古い写真、映像のデジタル化に取り組み、貴重な資料や記録を保存するとともに、公開活用につなげます。

(5)防災、防犯体制の整備・強化

指定等文化財を対象とした防災訓練やパトロールなどを実施するほか、消防署、警察署などの関係機関と連携し、防犯・防災体制の確立に努めます。

歴史文化資源の所在地、所有者、管理者、連絡先など、現状を確認するための調査を行った上で情報を整理し、長野県教育委員会と連携しながら、有事の際に迅速(じんそく)な対応ができるように体制を整えます。

また、文化庁から示されている「国宝・重要文化財(建造物)等の防火対策ガイドライン」(令和２年(2020 年)12 月改訂)、「国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」(令和元年(2019 年) 9 月)と「世界遺産・国宝等における防火対策５箇年計画」(令和元年(2019 年)12 月)に基づいて、指定等文化財や収蔵施設の点検を行い、今後の防火対策に取り組みます。

(6)歴史文化資源の散逸防止・啓発活動

歴史文化資源の散逸を防ぐため、市教育委員会や博物館施設などに歴史文化資源に関わる相談窓口を設けます。

また、災害時に備え、歴史文化資源の所在地、所有者、管理者、連絡先など、現状を確認するための調査を行った上で、散逸の恐れがある資料は、市が必要に応じて収集や保存を行います。また、市の広報誌やホームページなどを使いながら、所有者や管理者はもちろんのこと、地域全体での見守りにつながるように、保護意識を高めるための啓発活動を行います。

(7)人材育成や技術の継承

担い手や生産者が高齢化し、減少傾向にある高遠ばやしなどの無形文化財、中尾歌舞伎(なかおかぶき)などの無形の民俗文化財、篶竹細工(すずたけざいく)などの伝統工芸について、文化や技術を途絶えさせることなく伝えていくため、将来地域の歴史文化を担う子ども達との関わりを大切にし、保存団体や小中学校のクラブ活動と連携しながら、子ども達が活動に参加し、技術や技能を受け継ぐ機会を設けます。また、子ども達の活動を通して、若い親世代の理解や関心につなげていきます。

３－３　基本目標「活かす」の基本方針

個々の歴史文化資源の価値や地域の魅力を高めるため、市内の歴史文化資源を総体的に捉(とら)え、つながりを意識した保存・活用を図るとともに、それに必要な環境を整えます。歴史文化資源を含む地域の魅力を、様々なイベントや記念行事、講座、講演会、デジタルコンテンツ、文化観光施策などを通して多くの人に広め、活用が保存・継承と両輪をなすような施策展開を進めます。

今まで以上に地域に愛着を持てるような取組を検討しながら、行政内部や地域住民、各種団体などと連携した上で活用事業を実施します。

基本目標に基づく方針

(1)歴史文化資源同士のつながり(関連文化財群)を踏まえた保存・活用

歴史文化資源の本来の価値を後世に伝えていくため、周辺環境や他の資源とのつながりを意識し、それらを一体的に保存・活用するための取組を進めます。市内に存在する歴史文化資源の中から、関連のある歴史文化資源同士をつなげて関連文化財群を設定し、歴史文化資源を総体的に捉えながら保存・活用を図ります。

(2)周遊ルートの設定と活用、案内施設や説明板の整備充実・維持管理、多言語化への対応

地域別の周遊ルートや関連文化財群を活かした周遊ルートを設定し、歴史文化資源を通して伊那市の魅力を内外に発信します。また、現地へ行きやすく、現地を訪れた人にその魅力が伝わるように、案内施設の内容充実や既存説明板などの適切な管理を行い、必要に応じて新たな案内板の整備を行います。近年増え続ける訪日外国人旅行者や外国人移住者に対しても、伊那市の魅力を伝え、歴史文化資源への理解が進むように、観光施策と連携しながら多言語による情報発信も併せて検討・実施します。

(3)各種講座、講演会、歴史文化資源を活用したイベントの実施

歴史文化資源をとりあげた様々なイベントや記念行事を実施し、歴史文化資源を通して、子どもから大人まで様々な世代に伊那市の魅力を感じてもらい、将来へ伝えていくために、関係者がそれぞれの立場で、多くの方が参加しやすいようなイベントや講座などを開催します。

また、行政以外が主催するイベントについては、地域振興や商工振興の観点も含めて、行政による支援を行います。

(4)案内ガイドの養成と活動支援

歴史文化資源の価値や魅力を正しく伝えながら、多くの人に地域の魅力を広めるため、観光協会や郷土研究会などと連携しながら、案内ガイドの養成や活動の支援を行います。

(5)デジタルコンテンツの開発・利用による公開活用

歴史文化資源の本質的価値を分かりやすく正確に伝えるため、デジタルコンテンツを利用した公開活用を進めます。例えば、看板の中にＱＲコードを設け、見学者が目的に応じて多くの情報を取得できるようにする、ＡＲ(拡張現実(かくちょうげんじつ))・ＶＲ(仮想現実(かそうげんじつ))技術を利用し、地域の歴史文化資源を体感できるようにするなど、世代を問わず参加しやすい公開活用を目指します。

４　地域ごとの保存・活用の考え方

「伊那地域」、「高遠町地域」、「長谷地域」には、それぞれに特徴的な歴史や文化、自然があります。地域ごとの歴史文化資源の守り方、使い方を考えます。そして地域の活動の中心となる施設を決めます。

４－１　地域区分の方針と考え方

基本目標に基づく方針に沿って取り組む具体的な事業（第７章以降に列挙）には、市内全域で取り組むものと、地域特性を踏まえ、特定の地域で重点的な取組を進めることで、より一層保存・活用につながるものがあります。

このことから、地域のつながりと歴史文化の関連性に基づいて、伊那市では、旧行政単位である３地域「伊那地域（旧伊那市）」、「高遠町地域（旧高遠町）」、「長谷地域（旧長谷村）」ごとに、歴史文化資源を保存・活用するための考え方を定め、拠点となる施設を中心に保存・活用を図ります。

地域の特性を活かした保存・活用の取組が、各拠点施設を中心として円滑に進むように、拠点施設の認知度を高めるための広報周知も積極的に行います。

４－２　地域ごとの保存・活用の考え方と拠点施設

伊那地域

・古墳群を周辺環境と一体的な景観として捉えて、段丘崖や山の自然環境と歴史的景観を総合的に保存・活用するとともに地域の魅力として発信して、地域全体の歴史の理解が深まるような現地公開に努めていきます。

・通り町の看板建築や中央区の商店街建物群などレトロな町並みを活かし、地域で活動する企業や団体などと連携しながら、この地域の食文化やまちの成り立ちを再認識してもらえるような取組を進めます。また地域に遺る近現代建築の調査を進め、その価値を周知していきます。

・伊那街道（三州街道）や権兵衛街道、「伊那部宿酒屋旧井澤家住宅」といった街道や歴史的な町並みを活用し、地域住民と一体となって未来へ伝えていけるような方法を検討します。

・指定文化財である「山寺のやきもち踊りの習俗」、「サンヨリコヨリ」、「諏訪形の御柱祭と騎馬行列」、「羽広の獅子舞」、「青島の千社参り」のほか、未指定の郷土芸能や年中行事の無形資源の記録化などを検討します。さらに後継者の育成・支援を検討します。

・戦争遺跡である「旧陸軍伊那飛行場跡地」を活用した歴史学習の機会を設けることを検討し、平和を考える機会を創出します。

・「野口八幡神社舞台」や「四国八十八か所巡礼塔」といった農村の娯楽や信仰に関わる資源を活用し、当時の農村での暮らしや信仰などの文化を周知する取組を検討します。

拠点施設〈伊那市創造館〉

伊那市創造館の機能を充実させ、幅広く歴史文化を発信する拠点施設や学習拠点として活用します。各公民館と連携してこれらの取組の広がりが持てるよう推進します。

高遠町地域

・文化財マップなどで歴史文化資源の位置や内容を明らかにし、ＡＲ（拡張現実）・ＶＲ（仮想現実）などのデジタル技術を積極的に取り入れながら、観光施策と連携した活用を図ります。
・高遠城跡の桜が全国的な知名度を誇り、全国から観光客が訪れていることを活かし、高遠城や高遠周辺の歴史を広く周知し、歴史文化資源と自然、観光を融合させた活用を検討します。
・寺社などは、老朽化や管理者の高齢化に伴い、維持管理が困難になっているという現状があり、継続的な維持管理や保存・活用方法などを検討します。
・高遠石工のふるさととして、高遠石工に関する情報を広く集め発信するとともに、所有者や地域住民との協働により、維持管理・継承ができる方法を検討します。
・高遠ばやしなどの無形文化財は、保存団体や地域の学校などと連携しながら保存・継承に努め、地域コミュニティの活性化を図ります。

拠点施設〈伊那市立高遠町歴史博物館〉

史跡高遠城跡を中心に、伊那市立高遠町歴史博物館、信州高遠美術館、伊那市民俗資料館の機能を充実させ、特に歴史文化の発信拠点や学習拠点施設として、伊那市立高遠町歴史博物館を活用します。

各施設の調査・研究活動、展示、講座などの情報発信や普及活動を充実させ、市民と一体となった活動や取組を支援します。

長谷地域

・「中尾歌舞伎」の再開や地元の中学生がファンクラブを作るなど、次世代を巻き込んだ活動が展開されています。平成 30 年（2018 年）には、信州伊那中尾歌舞伎後援会が設立されました。今後もこうした活動を継続させるため、中尾歌舞伎保存会や後援会とともに、後継者の育成を検討していきます。
・「中央構造線」、「戸台層と化石」などの自然資源や、里山の暮らしに根付いた「熱田神社」と芸能文化は、地域の歴史と生活を伝えるものであるため、継続的な調査研究を行い、市民参加の学習活動などを通して、地域づくりの資産として活用していきます。
・この地域は南アルプスユネスコエコパーク、南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークに登録されているため、構成市町村と連携しながらより広域的な保護と活用を行い、市民参加の学習活動などを通した取組を検討します。

拠点施設〈長谷公民館〉

長谷公民館（郷土資料室・戸台の化石資料室）を、歴史文化資源を発信する拠点施設や学習拠点として機能を充実させ、取組の広がりが持てるようにします。

図. 保存活用の地域区分と拠点施設

第７章　歴史文化資源の保存・活用に関する措置

第６章で決めた基本理念「知る」、「守る」、「活かす」という３つの基本目標を達成するために、私たちはこれから何をしていけばよいのか、いつ、誰が、何をするのか、細かく決めていきます。

第６章では、歴史文化資源の保存・活用に関する３つの基本目標を示し、それぞれの目標に基づく方針をまとめましたが、第５章で掲げた基本理念を実現するために、より具体的な措置(事業)を明らかにし、それらに取り組みます。

本計画の計画期間は、序章第２節で触れたとおり 10 年間です。前期、中期、後期それぞれの期間中に取り組む措置や実施主体を整理すると、以下のとおりです。

また、これらの措置を行うための財源は、市費や実施主体による負担のほか、文化庁の補助金(文化財補助金、文化芸術振興費補助金など)や 関係省庁の補助金や交付金(デジタル田園都市国家構想交付金など)、県費補助金、財団の助成金をはじめとする民間資金などを積極的に活用する予定です。

【措置の表の凡例】

計画期間

前　　期 … 令和 ７年度(2025 年度)から令和 10 年度(2028 年度)
中　　期 … 令和 11 年度(2029 年度)から令和 13 年度(2031 年度)
後　　期 … 令和 14 年度(2032 年度)から令和 16 年度(2034 年度)
網掛けのセルは、事業実施予定期間を表す。

取組主体

市民･所有者 … 伊那市民、市内各区、所有者
企業･団体 … 民間活動団体、各種団体、協議会、企業など
教育研究 … 大学、高等学校、小中学校など　各種学校
行　　政 … 伊那市、長野県、国
◎　は主として取り組む主体を表す。
○　は協力して取り組む主体を表す。

市の担当部署

教　　生 … 教育委員会事務局　生涯学習課
教　　市 … 教育委員会事務局　市誌編さん室
教　　学 … 教育委員会事務局　学校教育課
商　　観 … 商工観光部
企　　画 … 企画部
総　　務 … 総務部
教育委員会事務局内で担当する措置については、担当課までの表示とし、それ以外の部局で担当する措置は部局名の表示とする。

基本目標 「知る」 ー 歴史文化資源を知る ー

（１）指定文化財の追加調査、再整理の実施　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
					前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
1	埋蔵文化財再整理事業	過去に調査が行われた遺跡(市指定史跡月見松遺跡など)の出土遺物や記録類の再整理や、未報告の遺跡の出土遺物などの再整理を行い、遺跡の再評価及び活用事業につなげる。		継続	■	■	■				◎教生	国費 県費 市費
2	指定文化財再調査	指定年が古く調査が十分でない文化財について、文化財価値を高めるため、再調査を行う。		新規	■					○	◎教生	市費

基本目標 「知る」 ー 歴史文化資源を知る ー

（２）継続的な調査研究の実施　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
					前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
3	仏教文化財調査	市内に伝わる仏像などの仏教文化財のうち、さらなる価値評価が必要と考えられるものについて、仏教美術の専門家の協力を得ながら、詳細調査を実施する。		継続	■	■				○	◎教市	市費
4	民俗調査	市内各地区における民俗事例や方言、民俗資料の利用状況について、聞き取り調査を実施する。		継続	■	■		○		○	◎教市	市費
5	動植物の生息・生育調査	動植物の生息状況や生息環境の変化を確認するため、昆虫(トンボ)、爬虫類、魚類、鳥類などの生息調査を行うとともに、希少植物や古木・巨木などの現況調査を実施する。		継続	■	■				○	◎教市	市費
6	地質・鉱物・化石調査	戸台の化石保存会や南アルプスジオパーク関係団体等が中心となり、地質・鉱物・化石調査を継続的に実施する。		継続	■	■	■	○	◎	○	○教生	市費 団体等
7	建築調査	歴史的建造物の建築調査を行う。	伊那 (伊那(竜西)、伊那(竜東))	新規	■	■	■	○	○	○	◎教生	市費
8	古文書調査	市内各地に伝存する未調査資料の把握、既出資料の所在確認調査等を行う。		新規	■	■	■	○		○	◎教生	市費
9	高遠石工調査	市内外を問わず、高遠石工に関わる資料や石造物の把握を進める。	高遠町(高遠)	継続	■	■	■	○	○		◎教生	市費 団体費
10	史跡高遠城跡遺構確認調査	史跡高遠城跡の整備事業の一環として、遺構確認調査を実施する。	高遠町(高遠)	新規		■	■			○	◎教生	国費 県費 市費
11	戦争関連遺跡、資料の把握	太平洋戦争に関わる遺跡、遺構の保護に向けて、現況確認や関係者への聞き取りを通して、個人宅に存在する各種資料の把握を進める。		新規	■	■				○	◎教生	市費

基本目標 「知る」 ー 歴史文化資源を知る ー

（3）市民の手による歴史文化資源の掘り起こし　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民・所有者	取組主体 企業・団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
12	市民大学大学院生による調査活動	まほらいな市民大学大学院の学生が主体となり、調査研究活動(主に自然分野･歴史分野)を行う。		継続	■	■	■	◎		○	○教生	市費

基本目標 「知る」 ー 歴史文化資源を知る ー

（4）情報発信の強化　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民・所有者	取組主体 企業・団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
13	歴史文化情報の発信	市ホームページへの掲載や博物館サポーターのSNS投稿などにより伊那市の歴史文化の魅力や各区の取組、歴史文化イベントなどの情報の発信を行う。		継続	■	■	■	○	○	○	◎教生	市費
14	伊那市誌編さん事業	地域の変遷を顧み、郷土に対する関心と愛情を深め、市の発展に資するため、各種調査を実施しながら、市の自然、歴史、文化などをまとめた市誌の編さん、刊行を進める。		継続	■	■		○	○	○	◎教市	市費
15	史跡･遺跡などの映像記録作成と公開	主要な史跡･遺跡などの立地や景観をドローンで広範囲に撮影、記録し、データをWeb公開する現地看板などへのQRコード設置など)。		新規	■	■	■				◎教生	市費
16	無形の民俗文化財の公開中継	モバイル公民館による伝統芸能などのパブリックビューイングを実施し、遠隔地でも観覧ができるようにする。	長谷(中尾)	継続	■				◎		○教生	市費
17	文化財地図の整備、公開	歴史文化資源をまとめた文化財地図を整備し、公開につなげる。 文化財地図のダイジェスト版として、エリア別、分野別のパンフレットなどを作成配布する。		新規	■	■	■				◎教生	市費

基本目標 「知る」 ー 歴史文化資源を知る ー

（5）文化財データベースの充実と公開　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民・所有者	取組主体 企業・団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
18	文化財データベース(文化財台帳)による情報管理とWeb公開	既存の文化財台帳に最新の調査成果や修理情報などを追加し、充実を図るとともに、その他の歴史文化資源の基礎情報のデータベース化を進め、Web公開をする。		新規	■	■	■				◎教生	市費

基本目標 「知る」 ー 歴史文化資源を知る ー

（６）知る場所、知る機会の提供　ー博物館等公開活用施設の充実と学校教育との連携ー　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
					前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
19	特別展・企画展の開催	各博物館施設において、歴史文化資源に関わる展覧会を開催する。		継続	■	■	■			○	◎教生	市費
20	博物館施設の展示、体験プログラムの充実と周知	最新の調査成果を踏まえ展示の充実を図るほか、各年代層に向けた体験プログラムを整理し、博物館毎の情報が一目で分かるようなパンフレットを作成する。		新規	■						◎教生	市費
21	博物館サポーターの育成 資料館ボランティア、関係団体との連携	講座などを通して、博物館サポーターを育成するとともに、「高遠をこよなく愛する会」などのボランティア団体や「戸台の化石保存会」といった関係団体と協働でイベントや展示を実施する。		継続	■	■	■	○	○		◎教生	市費
22	博物館施設の収蔵型展示の充実と公開	可能な範囲で博物館施設において収蔵型展示を行い、収蔵庫見学の受け入れを行い、未公開の歴史文化資源に触れる機会を増やす。		継続	■	■	■				◎教生	市費
23	郷土学習読本『わたしたちのふるさと』の活用	郷土学習読本を市内小学生に配布し、学習に用いる。		継続	■	■	■			◎	◎教学	市費
24	学校資料室の再整備	学校保管の歴史資料(考古資料、文献史料、民俗資料など)の整理と活用を図る。		新規			■			◎	◎教生	市費
25	中学生、高校生の職場体験受け入れ	歴史文化資源や関係する活動を知り、理解を深めてもらう機会として、博物館施設での職場体験受け入れを積極的に行う。		継続	■	■	■			○	◎教生	市費

基本目標 「守る」 ー 歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり ー

（１）文化財の指定・保護等の推進　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
					前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
26	調査成果を踏まえた文化財指定	各種調査の成果を元に、文化財指定・登録を進める。		継続	■	■	■				◎教生	市費
27	史跡高遠城跡整備事業	保存活用計画の策定、藩校進徳館修理、公有地化の推進などを実施する。	高遠町(高遠)	継続	■	■	■				◎教生	国費 県費 市費
28	遺跡地図(埋蔵文化財包蔵地地図)の見直し	試掘調査などにより埋蔵文化財包蔵地の範囲確認を行い、既存地図を更新、公開することで、遺跡の保護に万全を期す。		継続	■	■	■			○	◎教生	国費 市費
29	埋蔵文化財の保護 (開発事業との調整及び記録保存)	遺跡内における開発事業と埋蔵文化財の保護を両立するため、事業者と十分な調整を行い、適切な遺跡の保存を図る。		継続	■	■	■	○	○		◎教生	国費 市費

基本目標 「守る」 ー 歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり ー

（2）文化財所有者、保存団体等への支援　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民・所有者	取組主体 企業・団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
30	文化財補助事業	計画的に実施される指定文化財の保存、修理などに対して、補助金を支給する。		継続							◎教生	国費 県費 市費
31	自治会･住民自治組織などによる活動への支援	区や住民自治組織などによる地域史誌編さん事業や、歴史文化資源に関わる活動に対して、支援を行う。		継続					○		◎企画	市費
32	保全団体などの表彰	歴史文化資源の保存･活用に長年関わってきた個人や組織を伊那市表彰規則に照らし合わせて表彰する。		継続							◎総務	市費

基本目標 「守る」 ー 歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり ー

（3）各種団体、組織との連携体制づくり　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民・所有者	取組主体 企業・団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
33	歴史文化資源関係団体懇談会の実施	歴史文化資源の保存･活用に関わる団体組織同士をつなぐ懇談会を開催する。		新規				○	◎	○	○教生	市費
34	研究機関などへのフィールド提供	大学研究室などの調査研究フィールドになるよう、市内の歴史文化資源の情報提供を行うなど、積極的な支援を行う。		継続							◎教生	市費

基本目標 「守る」 ー 歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり ー

（4）無形文化財や無形の民俗文化財のアーカイブ化とデジタルアーカイブ事業の推進　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民・所有者	取組主体 企業・団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
35	無形の文化財の映像化	無形の文化財の動画撮影を行い、デジタルアーカイブ化を図る。		新規					○	○	◎教生	国費 市費
36	無形の文化財アーカイブ公開活用の検討	無形の文化財のデジタルアーカイブの公開活用方法を検討する。		新規					○	○	◎教生	国費 市費

基本目標 「守る」 ― 歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり ―

（5）防災、防犯体制の整備・強化　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民・所有者	取組主体 企業・団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
37	文化財等パトロールの実施	現在実施している国・県指定文化財パトロールを、市指定文化財まで対象を広げ、定期確認を行う。		新規				○			◎教生	県費 市費
38	防火防災訓練の実施	文化財防火デーに合わせて、建造物を対象とした防火訓練を実施するほか、博物館施設などでも防災訓練を実施する。		継続				○			◎教生	市費
39	地名調査成果の活用	地名調査によって把握された災害地名などを防災計画や防災施策に反映する。		継続							◎総務	市費

基本目標 「守る」 ― 歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり ―

（6）歴史文化資源の散逸防止・啓発活動　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民・所有者	取組主体 企業・団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
40	文化財相談窓口	歴史資料の散逸を防ぐため、市報や市ホームページなどで呼びかけを行うとともに、市教委、各博物館などに歴史文化資源に関わる問い合わせ窓口を置く。		新規				○			◎教生	市費
41	歴史資料の所在調査	市史、町誌、村誌、県史編さん事業等古い年代に実施された調査によって把握された考古資料や古文書等の歴史資料について、現在の所在を確認するための所在調査を行う。		新規				○			◎教生	市費
42	文献史料、民俗文化財などの郷土資料の収集・公開	伊那市に関わる古文書や絵図などの文献史料や民俗資料などを収集し、整理目録作成を行った上で、公開する。		継続				○			◎教生	市費

基本目標 「守る」 ― 歴史文化資源を守り未来へつなぐ体制づくり ―

（7）人材育成や技術の継承　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民・所有者	取組主体 企業・団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
43	体験型講座と連携した無形の民俗文化財の公開	担い手増につなげるため、市民や観光客が興味をもって参加できるようなワークショップや体験講座等を行いながら、文化財の公開を進める。	長谷(中尾)	継続					◎		○教生	団体等
44	無形の民俗文化財への活動場所の提供	無形文化財や無形の民俗文化財保存団体が、活動において市の施設を利用する場合、使用料減免措置を講ずるなどの支援をする。		継続							◎教生	市費
45	学校と地域が連携した文化財の伝承	学校の授業やクラブ活動に取り入れながら、高遠ばやしや中尾歌舞伎といった無形文化財や無形の民俗文化財を伝承していく。	長谷(中尾)	継続					○	◎		市費 団体等
46	古文書教室の開催	古文書講座を実施し、新たな解読者を育てていく。	高遠町(高遠)	継続				○	○		◎教生	市費
47	小・中・高等学校における地域学習の実施と協力支援	歴史文化資源を活用した地域学習に対して、講師派遣や施設利用などの協力支援を行い、次世代の歴史文化資源への愛着心を育てる。		継続				○	○	◎	○教生	市費

基本目標 「活かす」 ー 歴史文化資源を広め活用する ー

（1）歴史文化資源同士のつながり（関連文化財群）を踏まえた保存･活用　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民･所有者	取組主体 企業･団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
48	歴史シンポジウムの開催	伊那市の歴史文化を捉えるシンポジウムを開催し、保存活用につなげる。		継続							◎教生	市費
49	関連文化財群の周遊ルートの設定と公開	関連文化財群を踏まえて、主な歴史文化資源をつなぐ周遊ルートを設定し、モデルコースなどを公開する。		新規				○	○	○	◎教生	市費

基本目標 「活かす」 ー 歴史文化資源を広め活用する ー

（2）周遊ルートの設定と活用、案内施設や説明板の整備充実･維持管理、多言語化への対応　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民･所有者	取組主体 企業･団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
50	案内板、説明板整備事業	既存の案内板･説明板の維持管理、更新のほか、必要な場所へ新規設置を行う。その場合、多言語化も視野に入れて内容検討を行う。	伊那(伊那(竜西)、伊那(竜東)、富県、東春近、西春近)	継続				○	○		◎教生	県費 市費

基本目標 「活かす」 ー 歴史文化資源を広め活用する ー

（3）各種講座、講演会、歴史文化資源を活用したイベントの実施　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間 前期 R7～10	計画期間 中期 R11～13	計画期間 後期 R14～16	取組主体 市民･所有者	取組主体 企業･団体	取組主体 教育研究	取組主体 行政	主な財源
51	学芸員など専門職員による出前講座の実施	学芸員や専門職員が地域や学校へ出向き、各種講座を実施する。		継続						○	◎教生	市費
52	地区公民館地域探訪ウォーキング	歴史文化資源を探訪しながら地域内をめぐるウォーキングを実施する。		継続				○	◎			団体等
53	グッズ製作と販売	ミュージアムグッズや歴史文化資源を使った魅力的なグッズを製作し、販売する。		継続					◎		○教生	市費 企業 団体等

基本目標 「活かす」 ー 歴史文化資源を広め活用する ー

（４）案内ガイドの養成と活動支援　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
					前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
54	各種案内ガイド養成講座の実施	歴史文化資源の案内ガイド(史跡案内ガイド、観光ガイド、石仏ガイド、ジオガイド等)を養成する講座を実施する。		継続					◎		○商観	団体等
55	各種案内ガイドの育成支援	資料提供などを行い最新調査成果を共有するとともに、養成講座への会場提供など、育成支援を行う。		継続					○	○	◎教生	市費

基本目標 「活かす」 ー 歴史文化資源を広め活用する ー

（５）デジタルコンテンツの開発・利用による公開活用　に関わる事業

番号	事業項目	事業内容	重点的に取り組む地域	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
					前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
56	古文書保存活用事業	古文書などの文献史料のデジタル化(撮影・書誌情報のデータベース化)を行い、AI解読ワークショップや古文書を題材に使ったイベントを行うなど活用を図る。	高遠町(高遠)	継続				○	○	○	◎教生	市費企業
57	写真資料デジタル化事業	写真資料のデジタルアーカイブ化を進める。		継続				○			◎教生	市費
58	デジタル機器の活用による記録作成	有形の歴史文化資源について、3Dスキャナーによる3Dデータ化や赤外線カメラを用いた撮影など、デジタル機器を利用し、アーカイブ化を進める。		新規					○		◎教生	市費
59	文化財デジタルアーカイブの構築と公開	デジタルアーカイブ閲覧システムを構築し、指定・未指定文化財や博物館収蔵資料などの公開を進める。		新規					○		◎教生	市費企業
60	デジタルコンテンツを用いた歴史文化資源の活用	デジタルコンテンツを用いた歴史文化資源の活用を進める。	高遠町(高遠)	継続				○	○		◎教生	市費

第８章　関連文化財群

市内には、たくさんの歴史文化資源が散らばっています。それぞれを時代や自然環境と合わせて考えてみると、つながっていて、５つのストーリーに基づいて整理することができます。これから、その５つを紹介し、保存・活用のために何をしていけばよいのか考えます。

１　関連文化財群に関する事項

１－１　関連文化財群について

伊那市にある歴史文化資源は、一見すると無関係に散らばっているように見えますが、個々の資源の持つ要素や時代背景を整理すると、共通の要素やつながりがあることが分かります。有形・無形、指定・未指定に関わらず、地域にある様々な歴史文化資源を歴史的・地域的な関連性(ストーリー)に基づき、一定のまとまり(群)として捉えたものが「関連文化財群」です。複数の歴史文化資源を一体的に捉えることで、今まで明らかでなかった新たな価値を見出すことができ、ストーリーとして語ることにより、伊那市の歴史文化への理解が進み、より身近なもの、魅力的なものとして感じることができます。そこで、伊那市の歴史文化の特性を踏まえ、次のような基本的な考え方のもとに関連文化財群を設定します。なお、関連文化財群や構成する歴史文化資源は、本計画作成時点のものであり、今後の調査・研究の状況に応じて、必要により見直しを行います。

１－２　関連文化財群の設定の考え方

伊那市の関連文化財群の設定や群を構成する歴史文化資源の抽出は、以下の点を踏まえて行いました。

(1)関連文化財群の設定に関わること

- 伊那市を語る上で欠かせない特徴的な自然環境と、その環境下で育まれた歴史文化資源を、類型にとらわれず取り上げ、伊那市らしさを表すストーリーとします。
- 地域特性に応じた５つの関連文化財群を大テーマとし、今後の具体的な調査・保存・活用を進めやすくするためテーマの細分化を行い、中テーマ、小テーマを設定します。
- それぞれのテーマの中心となる歴史文化資源を「主人公」、歴史文化資源が存在する地域を「ストーリーの舞台」として一覧表に整理します。

(2)関連文化財群を構成する歴史文化資源に関わること

- それぞれの群を理解する上で、つながりが分かりやすく、魅力的で共通理解が得やすいものを取り上げます。
- 市民に親しまれてきた歴史文化資源の中で、特に保存・活用が必要なもの(現在、保存・活用の取組がなされているもの)や今後の調査・研究が期待されるものを取り上げます。
- 市民ばかりでなく、伊那市を訪れる多くの人に親しまれてきた市の花「さくら」に関わる資源を、可能な範囲でそれぞれの関連文化財群の中に位置付け、日本一の桜の里「伊那市」を感じることができるようにします。

１－３　伊那市の関連文化財群

前項で述べた関連文化財群の設定条件に基づき、伊那市の歴史文化の特性（第３章第３節を参照）を踏まえ、５つの関連文化財群を設定します。

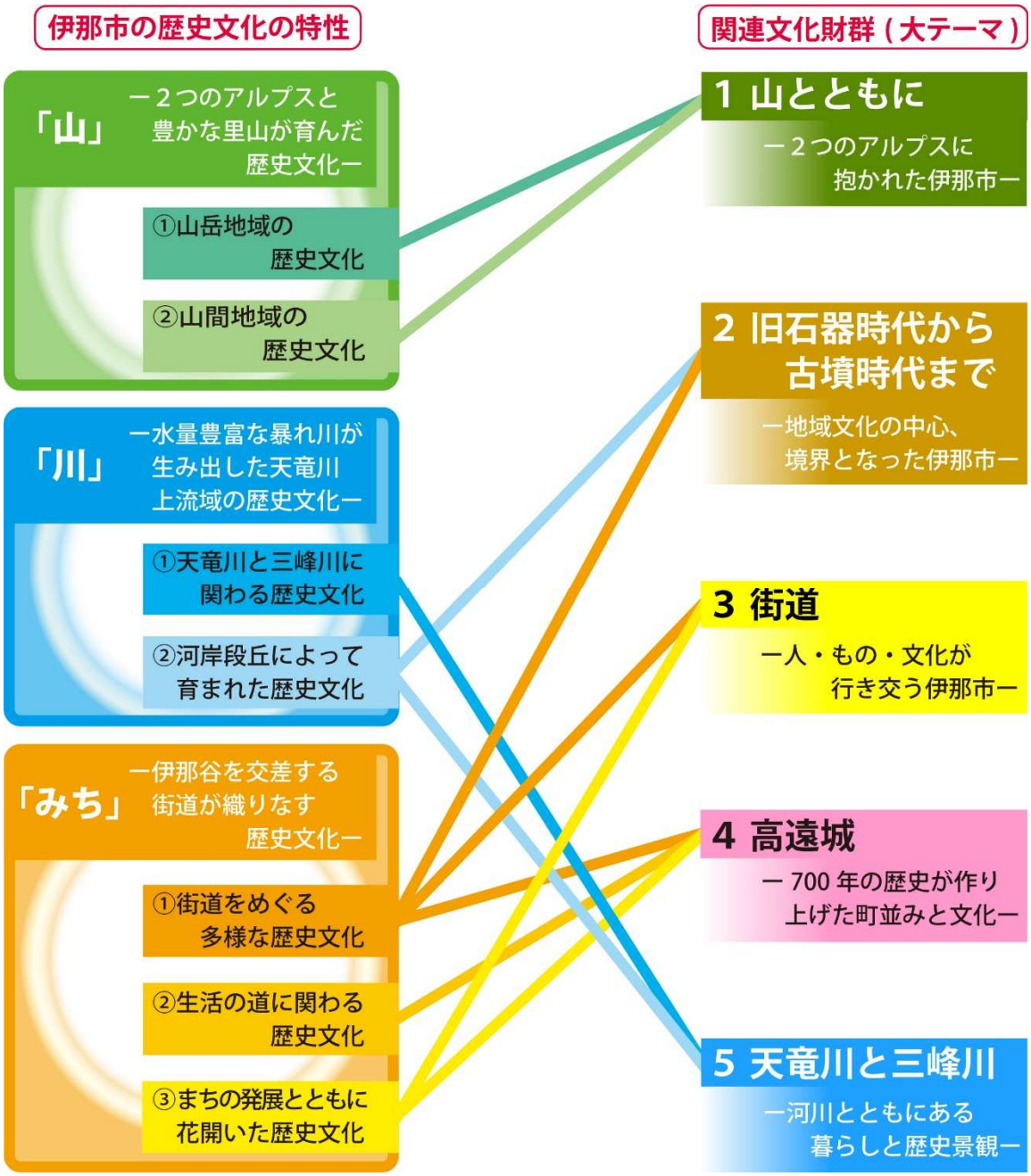


図. 伊那市の歴史文化の特性と関連文化財群の関係

次ページ以降に、各関連文化財群のストーリー概要や構成する歴史文化資源を記載します。構成する歴史文化資源は、現時点までに把握された主な資源を載せていますが、今後、把握調査の進展に伴い、新たな資源が見出された場合には、追加し充実させていきます。

それぞれの関連文化財群の保存・活用の課題、方針、措置は後述のとおりですが、関連文化財群全体に関わるものとして、前章で掲げた措置のうち、事業番号 48「歴史シンポジウムの開催」や 49「関連文化財群の周遊ルートの設定と公開」に取り組み、その考え方を一般に広く周知していきます。

２　関連文化財群１

２－１　ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群１　山とともに　－２つのアルプスに抱かれた伊那市－

ストーリー

東西にそびえる南アルプスと中央アルプスの山なみは、ダイナミックな地球の活動により形づくられました。海底の堆積物が急速に隆起して出来上がった南アルプスの周辺は、海の記憶を留める地域です。海由来の岩石・石灰岩の岩脈が走り、石灰岩地帯特有の希少な植物が生育するほか、水に溶け出した成分がミネラル満点の作物を生み出しました。海洋生物の化石も出土しています。

南アルプス山麓の長谷地域には、日本最大級の断層である中央構造線をはじめ、複数の断層が走っています。浸食作用で生まれた山深い谷を舞台に、政権を追われた平氏一族や南朝の皇子らが勢力回復をねらって活動を繰り広げたこともありました。

古代より信仰の対象であった山は、人々の祈りに関わる様々な歴史文化を生み、雄大な山岳景観は、私たちにとって畏敬の念を抱いて望む心の風景でもあります。

明治時代以降、レクリエーションとしての登山が始まると、より登りやすく、より安全に山を楽しむための施設づくりが進められました。中央アルプスでは大正時代の学校登山での遭難事故を契機とし、将棋頭山の直下に頑丈な小屋が整備され、南アルプスでは竹澤長衛が多くの登山道を開拓し、山小屋の建設にも尽力しました。これらは現在の山岳エリアの発展に欠かせない歴史です。

私たちの祖先は長い間、豊かな山の恵みを活かしながら、山と共に生きてきました。山とは切っても切れない関係です。時には深山に入り山林資源を手に入れ、一方で農地を荒らす獣と闘い、山とのつながりが地域の経済を支え、私たちの足元にある歴史文化を育んできたのです。

テーマの説明

中テーマ　１　南アルプスを形づくる大地の物語

南アルプス周辺では、ダイナミックな地球の活動により、複雑で特徴的な地質構造が生み出されました。ここに生きる人々や動植物は、この土地ならではの地質構造や地形をうまく活かしながら歴史文化を紡いできました。

〈小テーマ〉

- 中央構造線

  市内には、日本最大級の断層である中央構造線を間近で観察できる場所や、中央構造線の影響で生まれた深い谷があります。古くからこの谷筋を行き来する人々が遺した歴史文化資源があります。

- 戸台層と化石

  一億年以上昔の地層である戸台層からは、中生代白亜紀の海洋生物の化石が出土し、大地の成り立ちを知ることができます。

- 守屋累層

  守屋山周辺の守屋累層からは貝の化石などが出土し、海底火山の隆起でこの地域の大地が造られたことが分かります。

・シナノコザクラと南アルプスの貴重な動植物

南アルプス周辺は、標高が高い上に、様々な種類の岩石が帯状に分布しています。寒冷な気候やそれぞれの地質に適した動植物が生息しています。

・隆起と侵食を物語る地名

南アルプス周辺には、大地の隆起と侵食の結果を示す地形が多く見られ、こうした地形や地質の特徴を表した地名が遺ります。

・ジオのめぐみ

南アルプス特有の地質の恩恵を受けて、私たちは暮らしてきました。地域の特産品として知られるものも、実は地球の活動の結果から生み出されたものです。

中テーマ ２　中央アルプスと人々との関わり

中央アルプス周辺には、多くの歴史文化資源があります。里山から高山帯まで、多種多様な植物が生育しているほか、山頂付近や山麓に遺る歴史文化資源を通して、山と人との関わりを知ることができます。

〈小テーマ〉

・山域の植物と人との関わり

山腹の高山帯や山麓の寺社有地などには、手が入りにくい環境だったからこそ遺された希少植物や植物の群落があります。

・信仰の山から学校登山まで

山は、古くは信仰の対象で、経ヶ岳（きょうがたけ）の山麓に建つ寺院には、信仰にまつわる多くの歴史文化資源が伝わります。近代に入ってからの山は、信仰を離れ、登ること自体を楽しむ場になりました。山頂付近には、大正時代に整備された建物遺構もあり、山と人との関わりの変化を知ることができます。

中テーマ ３　豊かな山のめぐみと里山の暮らし

里山周辺には、豊かな山の恵みによって成り立ってきた暮らしがありました。山の権利を守り、山から得た資源を利用しながら生きてきた人々の暮らしは、今の私たちの暮らしにつながっています。

〈小テーマ〉

・山持ちが支えた寺社と芸能文化

山の資源は地域経済を支え、麓の集落には多くの人が暮らしました。高い経済力を背景に、集落の寺社には立派な彫刻を持つ建物や、優れた石造物が造られました。農村歌舞伎や舞台からは、山間の地域で花開いた芸能文化の一端をうかがうことができます。

・入会権を守る

里山の入会地は、肥料や飼料に使う草や、薪（たきぎ）などを得るために人々が共同利用していた場所でした。生活を守るために入会地の資源は欠かせず、他所の入会権を侵すことは許されないことでした。

・広大な国有林や林業

南アルプスの西麓は、江戸時代は高遠藩の藩有地、明治時代以降は国有地になっており、厳しい統制を受けながらも林業が盛んに行われてきました。周辺にはその様子をうかがい知ることができる歴史文化資源が遺ります。

・狩猟・鳥獣対策

山に暮らす生き物と人々の関わりも、地域の歴史文化を語る上で欠かせません。人々はクマ、イノシシ、シカ、ヤマドリなどの野生鳥獣を狩り、毛皮や肉、内臓を余すことなく使ってきました。また、人里に下りた獣から農地を守るための施設を造りました。

・そば

かつて、稲作に向かない山間地の主食は、雑穀が中心でした。中でも焼畑で作られるソバは、日常的には焼き餅やけえもち(そば粉をお湯で練ったもの)として、ハレの日にはそばきりとして食べられてきました。特産品として徳川将軍への献上品に用いられることもありました。

・山と人との関わりを知る地名

山中に遺る地名の中には、かつての産業を示す地名があります。山の資源を利用してきた人々の生活がしのばれます。

・昆虫食の文化

豊かな里山の資源を背景に、地域独特の昆虫食の文化が生まれました。昆虫は、身近でとれる栄養価が高いタンパク源であり、古くから食べられてきましたが、現在では食材を採る過程を楽しむ人も多くいます。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「　」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
南アルプスを 形づくる 大地の物語	中央構造線	**溝口露頭** 〈記念物・地質鉱物〉	長谷溝口	中央構造線の地質境界に沿って珪長質岩脈が貫入している様子が観察できる。
		板山露頭 〈記念物・地質鉱物〉	高遠町長藤	中央構造線の地質境界が観察でき、左横ずれ断層運動の様子が分かる。
		分杭峠 〈記念物・地質鉱物〉	長谷市野瀬	V 字に切れ込んだ中央構造線の谷を利用した峠。
		【市】御山の遺跡 〈記念物・史跡〉	長谷溝口	断層活動によってできた谷は、直線的で交通に便利な上、山深いことから、政権を追われた人々が盛んに利用した。沿線には足利尊氏に敗れた南朝方の後醍醐天皇の皇子、宗良親王の墓や姿を刻んだ像など、南朝ゆかりのものが多く伝わる。
		【市】宗良親王御尊像 〈有形・美術工芸品・彫刻〉	長谷溝口	
		【市】小松氏先祖の墓 〈記念物・史跡〉	長谷浦	平家の落人が住み着いたとされる浦集落には、平家の末裔の小松氏先祖の墓があり、赤い旗を立てた先祖祭が行われている。
	戸台層と化石	**アンモナイト・三角貝** 〈記念物・地質鉱物〉	長谷黒河内	山中の戸台層からは中生代・白亜紀の海洋生物の化石が出土する。かつて海底であった場所が隆起したことを表している。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
南アルプスを 形づくる 大地の物語	守屋累層	**カキなどの貝の化石** 〈記念物・地質鉱物〉	高遠町藤澤	守屋山の新生代第三紀層の守屋累層からは貝の化石が出土する。海底火山の隆起により形作られた日本列島の成り立ちが分かる。
	シナノコザクラと 南アルプスの 希少な動植物	**シナノコザクラ** 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	石灰岩の岩場に生える南アルプス特産のサクラソウ科の植物で、長野県特別指定希少野生種に指定されている。
		トダイアカバナ 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	河原や石灰岩地に生育する絶滅危惧種で、戸台にちなんだ名前がつけられている。
		チチブリンドウ 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	他地域ではほとんど見られないリンドウ科の植物。
		ヒメマツハダ 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	八ヶ岳と南アルプス北部だけに分布するトウヒの仲間で、絶滅危惧種に指定されている希少植物。
		ヒメバラモミ 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	八ヶ岳と南アルプス北部だけに分布する日本固有種で、絶滅危惧種に指定されている希少植物。
		【国】ライチョウ 〈記念物・動物〉	長谷南アルプス山域	高山帯に生息し、南アルプスは世界の生息域の南限にあたる。
		【国】ニホンカモシカ 〈記念物・動物〉	全域	山岳地帯に生息する特別天然記念物で、近年は里山でも見られる。
	隆起と浸食を 物語る地名	**「白崩岳(白崩山)」** 〈地名〉	長谷南アルプス山域	東駒ヶ岳(甲斐駒ヶ岳)の別称。マグマが地下で固まった花崗岩が隆起した山であり、白く見える上に崩れやすい。
		「赤河原」 〈地名〉	長谷黒河内	赤く酸化した花崗岩の岩石が広がる河原。
		「幕岩」 〈地名〉	長谷黒河内	中央構造線に沿って南北に走る日本最大の石灰岩地帯の岩盤が現れた場所で、白い幕のように見えることからついた地名。
		なぎ地名 〈地名〉	長谷・高遠　ほか	崩れやすい急峻な斜面の周辺につけられている地名で、「あかなぎ」、「なぎさわ」、「おおなぎ」などがある。
	ジオのめぐみ	**川下り米** 〈地域の特産品〉	三峰川流域の 伊那地区	南アルプスの石灰岩質から染み出したミネラル分を多く含む水で育った米で、美味しいと評判のブランド米。
中央アルプスと 人々との関わり	山域の植物と 人との関わり	**マツハダ** 〈記念物・植物〉	中央アルプス山域	亜高山帯に見られる常緑針葉樹で、希少種。
		【市】仲仙寺周辺の植物群落 〈記念物・植物〉	西箕輪羽広	フユノハナワラビ、カタクリの大群落をはじめ、限られた範囲内に 300 種近くの植物が見られる。
		経ヶ岳自然植物園 〈記念物・植物〉	西箕輪羽広	入会地の草刈場として利用されていた所を再整備した場所で、豊富な植物や経ヶ岳山麓一体の森林を代表する樹木が自然林の名残りとして見られる。
	信仰の山から 学校登山まで	**仲仙寺と十一面観世音立像** 〈有形・美術工芸品・彫刻〉	西箕輪羽広	経ヶ岳信仰と一体となった仲仙寺には、慈覚大師が霊木から刻んだという観音像が伝えられている。
		【国登録】西駒山荘石室 〈有形・建造物〉	伊那(竜西) 中央アルプス山域	大正時代の学校登山での遭難事故を契機につくられた山小屋。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源「主人公」〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が存在する地域「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や関連文化財群との関連性
豊かな山のめぐみと里山の暮らし	山持ちが支えた寺社と芸能文化	**【国】熱田神社本殿**〈有形・建造物〉	長谷溝口	山林資源に恵まれた溝口村の人々が協力し、江戸時代中期に建てられた建築。色彩豊かで豪華な彫刻が施されている。
		【市】熱田神社舞宮〈有形・建造物〉	長谷溝口	熱田神社境内にあり、奉納神楽や芝居が行われた建物。
		【市】中尾歌舞伎〈民俗・無形の民俗文化財〉	長谷中尾	江戸時代、旅芸人が伝えた歌舞伎を真似て、村人たちが行うようになった農村歌舞伎。
		【市】経塚原の経塚と舞台〈記念物・遺跡〉	長谷杉島	杉島と岩入を結ぶ山中に、峠の難所の無事を祈り大般若経を納めた経塚があり、近くの秋葉神社境内には、地芝居の舞台がある。
		【市】宇津木の薬師堂〈有形・建造物〉	長谷杉島	鎌倉時代から続く薬師堂で、現在の建物は宝暦４年(1754 年)の建築。戸倉薬師とも呼ばれている。
		【市】宇津木西国三十三観音〈有形・石造文化財〉	長谷杉島	江戸時代後期の文化人(池上休柳、岡村菊叟、渋谷藤兵衛)が製作に関わり、入野谷に住む百数十名の寄付で造られた。
		【市】桑田薬師堂の枝垂桜・香時計〈記念物・植物〉〈有形・工芸品〉	長谷溝口	分杭峠を望む地にある薬師堂には、樹齢数百年という枝垂桜があり、昔は高貴な人の花見が行われたという。
	入会権を守る	**【市】芝平山絵図と絵図干し行事**〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町上山田芝平・藤澤・長藤ほか	入会権をめぐり、高遠領の村々と高島領の村々が争った際に作られた絵図で、現在も絵図の確認行事が続けられている。
		「草刈り平」、「くさかりば」〈地名〉	長谷溝口・市野瀬・黒河内ほか	水田の肥料である刈敷を刈ったり、馬の餌となる草を刈ったと伝わる地名。
		「百駄刈」〈地名〉	西春近小出	馬の背に乗せる草や茅が百駄も刈ることができたと伝わる地名。
	広大な国有林や林業	**森林鉄道跡**〈記念物・遺跡〉	長谷黒河内・浦	国有林から伐り出した木材を運搬したほか、住民の足としても使われた鉄道の跡。
		【市】南郷峠の松並木〈記念物・名勝地〉	長谷溝口	南郷集落最寄りの峠で、山仕事に行くための道が通っていた。現在は徒歩でしか行くことができない。
		「よきとぎ」〈地名〉	高遠町小原・長谷非持・西箕輪上戸	山作業で使う斧や鉈を沢の水辺で刃研ぎをしたり、休憩をした場所の地名。
	狩猟・鳥獣対策	**【市】孝行猿の民話**〈民俗・無形の民俗文化財〉	長谷柏木	鉄砲猟師と母猿を撃たれた子猿の物語。
		【市】諏訪形の猪垣跡〈記念物・遺跡〉	西春近諏訪形	イノシシの食害から農地を守るために造られた土手垣。江戸時代にはすでに作られていた。
		「鳥矢場」〈地名〉	長谷中尾	狩猟の場所と伝えられる地名。
		ジビエ料理〈地域の特産品〉	全域	クマ、イノシシ、シカなど野生の鳥獣の肉を利用した料理。
	そば	**「オソバの平」**〈地名〉	長谷非持	山の中腹を３段に開拓して焼畑を行い、そばを収穫したという地名。
		「殿畑」〈地名〉	長谷非持	高遠藩の殿様に献上するそばを収穫したと伝わる地名。
	山と人との関わりを知る地名	**「炭鎌(すんがま)」 など**〈地名〉	美篶芦沢	炭窯があったとされる場所の地名。
	昆虫食の文化	**すがれ追い(地蜂とり)と蜂の子**〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	すがれ(地蜂)の足に目印をつけて追い、地中の巣を見つけて掘り出した後、巣の中の蜂の子を取って佃煮などにして食べる。
		イナゴ〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	豊かな里山資源を背景に広がった水田でとれたイナゴは、人々の貴重なタンパク源となった。

テーマを構成する歴史文化資源

芝平山絵図（市指定文化財）

ライチョウ
（国指定特別天然記念物）

トダイアカバナ

幕岩

図. 構成資源の位置

シナノコザクラ

戸台層出土アンモナイト

西駒山荘石室（国登録有形文化財）

長谷森林鉄道跡

諏訪形の猪垣跡（市指定文化財）

中尾歌舞伎（市指定文化財）

中央構造線（溝口露頭）

小松氏先祖の墓（市指定文化財）

熱田神社本殿（国指定重要文化財）

桑田薬師堂・枝垂桜
（市指定文化財）

２－２　関連文化財群１の保存・活用に関する課題

・地形・地質や植物など自然に関わる資源が多いため、気象や自然環境の変化による影響を受けやすい側面があります。
・社会構造の変化により、かつては豊かであった山村地域が、現在は過疎と高齢化が進む地域となっており、歴史文化資源を維持管理する担い手が不在、もしくは不足するなど、保存・継承に不安があります。

２－３　関連文化財群１の保存・活用に関する方針

・周辺環境や歴史文化資源そのものの変化に、早期に気づき対応できるように、南アルプスユネスコエコパーク、南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの取組や戸台の化石保存会等と連携しながら、多くの市民が歴史文化資源に触れ親しむ機会を提供し、見守ることができる人々を増やします。
・地域の代表的な無形の民俗文化財である中尾歌舞伎について、保存団体や後援会、学校等と連携しながら保存・継承に取り組みます。

２－４　関連文化財群１の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
群１-１ (措置６ 再掲)	地質・鉱物・化石調査	戸台の化石保存会や南アルプスジオパーク関係団体等が中心となり、地質・鉱物・化石調査を継続的に実施する。	継続	■	■	■	○	◎	○	○教生	市費 団体等
群１-２	南アルプス長谷ビジターセンターの充実	南アルプスユネスコエコパーク、南アルプスジオパークの紹介や展示内容を充実させ、山岳観光や周遊ルートの活用につなげる。	継続	■	■	■		○		◎商観	市費
群１-３	ジオサイト見学会	ジオガイド養成講座などと連携し、中央構造線などの断層の露頭の見学会や地震資料の勉強会などを行い、地域の成り立ちを知る機会を提供する。	継続	■			○	○	○	◎商観	市費 団体等
群１-４	ジオガイド養成講座の実施	南アルプスジオパークのジオサイトの魅力を伝えるガイドの養成を行い、ジオツーリズムの担い手を養成する。	継続	■	■			○	○	◎商観	市費 団体等

３　関連文化財群２

３－１　ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群２ 旧石器時代から古墳時代まで －地域文化の中心、境界となった伊那市－

ストーリー

天竜川と三峰川の合流地点にあり、広い段丘面と扇状地によって構成される伊那の地は、谷筋や河川を通じて様々な物や文化が集まり、交わる場所でした。古くは旧石器時代、日本で最も美しいといわれる神子柴遺跡出土の尖頭器や石斧などの石器は、人々の移動に伴い伊那へと集められたものでした。縄文時代には顔面付釣手形土器を始め、日本を代表するような素晴らしい縄文芸術が生み出され、縄文時代後期・晩期の寒冷化を何とか乗り越えようとした人々の生活の跡も遺跡には遺っています。そして弥生時代の初めには、天竜川をさかのぼり稲作が伝わった事も最近の発掘調査で確かめられました。やがて定着した弥生文化は、その後の古墳時代の礎となり、ヤマト王権と深いつながりがある人物の墓であった前方後円墳が南信地方で最も早く造られることとなりました。市内に遺る多くの遺跡や出土資料は、旧石器時代から古墳時代にいたるまで、この地の先人達が、時には地域の中心となり豊かな文化を育んできたことを物語ってくれます。

テーマの説明

中テーマ １　旧石器時代から見られる人々の暮らし

旧石器時代の人々の暮らしの痕跡が、市内全域で見られます。段丘端部や山麓、山頂付近にも遺跡があり、当時の人々が送っていた移動生活の一端がうかがえます。

〈小テーマ〉

- 戸台秋葉洞窟

　戸台秋葉洞窟は、人里離れた山中の、切り立った崖の中腹にある鍾乳洞です。その中から旧石器人が食べた大型動物バイソンの骨や、イノシシ、カモシカ、アナグマの骨など約70点が出土しています。旧石器人の暮らしの一端を知ることができる洞窟です。

- 神子柴遺跡

　日本で最も美しいと称される神子柴型の尖頭器と石斧が出土した遺跡です。全国各地で神子柴型の石器は出土しますが、神子柴遺跡のように尖頭器と石斧が一緒にたくさん出土した事例はなく、なぜこのように石器が遺されたのか、今も研究対象とされている遺跡です。

中テーマ ２　縄文文化が花開いた集落の繁栄と衰退

縄文時代中期、森の恵みが豊かな伊那谷を含む中部高地では、人口も増え、当時の社会の繁栄を表すような美しく迫力のある模様をつけた縄文土器が作られました。しかし、その後、寒冷化が進んだことで、厳しい環境の中で暮らさなければならなくなります。市内の遺跡や出土品の状況から縄文時代の繁栄と衰退が見えてきます。

〈小テーマ〉

- 三ツ木遺跡

　三ツ木遺跡では、縄文時代早期の小規模な竪穴建物２軒と、その周辺に石組み炉２基と

30 基を超える焼けた集石が出土したことから、キャンプサイトの遺跡と考えられています。遺跡内で見つかった完形の縄文時代早期の押型文土器も、全国的に注目されました。

・御殿場遺跡

国指定の重要文化財、顔面付釣手型土器が出土した御殿場遺跡は、県指定の史跡になっています。発掘調査では 22 軒の竪穴建物が確認され、天竜川左岸の市内最大規模の縄文時代中期の集落遺跡です。

・月見松遺跡

市指定の史跡月見松遺跡では、３度の発掘調査で合わせて 107 軒の縄文時代中期の竪穴建物が見つかっています。天竜川右岸の市内最大規模の縄文時代中期の集落遺跡です。

・島崎遺跡・原遺跡・石仏遺跡　ほか

県指定の有形文化財、信州の特色ある縄文土器が出土した遺跡です。縄文時代中期中葉から後葉の、最も縄文文化が栄えた頃の遺跡で、華やかな唐草模様が付けられた土器が数多く出土しています。

・百駄刈遺跡

縄文時代後期、寒冷化が進み、厳しい生活を送っていた人々が、祈りの場として、石を敷き、その中に６本の石棒を立てた遺跡です。祈りの場を取り囲むように５軒の竪穴建物が見つかっていて、この時期の伊那谷を代表する遺跡となっています。

・野口遺跡

縄文時代晩期の再葬墓で、長方形の石室の中に、31 人分の人骨が、７か所にまとめられた状態で見つかりました。また、それらの人骨の多くに犬歯を抜く抜歯が見られました。当時の習俗や葬送儀礼が分かる、貴重な遺跡です。

中テーマ ３　稲作文化の伝播とその後の発展

中国大陸から伝わった稲作の文化は、天竜川沿いに北上し、この伊那市にも弥生時代前期の終わり頃に入って来たことが発掘調査によってわかりました。その後、弥生時代後期には市内各地に集落が営まれるようになりました。

〈小テーマ〉

・荒神遺跡

道路建設工事に先立つ発掘調査で、新たに発見された弥生時代の遺跡です。これまで市内では見つかっていなかった、弥生時代前期末から中期初頭の遺構が検出され、土坑の中からは、この地に稲作を伝えた人々の持ち物だったと考えられる、遠賀川系の壺が出土しました。

・西春近の弥生時代遺跡

西春近地域では、弥生時代後期から集落遺跡が数多く見られます。弥生文化が定着したこの頃になると、集落や財産を守るための堀を巡らせた、環濠集落が作られるようになりました。

中テーマ ４　上伊那で最も古墳が多い伊那市

伊那市は、上伊那で最も古墳が多く、古墳時代の中心的な場所であった事がわかります。近年、老松場古墳群で新たに発見された前方後円墳の発掘調査が行われ、市域の古墳分布の再調査も行われたことから、伊那市の古墳時代の様相が新たに見えてきました。

〈小テーマ〉

- 老松場古墳群

８基の古墳からなる古墳群。地域の人々と地元の小学生が一緒に公園整備を進める中で、古墳群の中に前方後円墳が含まれることを新たに発見しました。その後、発掘調査も行われ、長野県の古墳時代研究を前進させる大きな成果を残しました。

- 天竜川左岸段丘上の古墳群

伊那(竜東)地域、東春近地域の段丘上には、南北に 80 基以上の古墳があります。伊那の地に特徴的な低い墳丘の円墳が多く、これらの古墳群がいつどのように成立し、どのような物が副葬されているのか、まだほとんど分かっていません。

- 伊勢並古墳群

３基の古墳からなる古墳群で、その中の一つ、狐塚南古墳から市の指定文化財となっている金メッキが施された馬の飾り(杏葉)が出土しています。この古墳群に葬られた人物の権威を象徴する副葬品です。

- 福地古墳群

富県地域の北福地には、上伊那地域唯一の方墳２基が遺されています。また、南福地の古墳群は、１基を残して壊されてしまいましたが、南信地方でも最古級の馬具(轡)が出土するなど、馬の生産に関わったとみられる人々の古墳がありました。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「 」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源「主人公」〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が存在する地域「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や関連文化財群との関連性
旧石器時代から見られる人々の暮らし	戸台秋葉洞窟	**旧石器時代の生活痕**〈記念物・遺跡〉	長谷黒河内	旧石器人が食べた大型哺乳類の骨が 70 点以上も出土した洞窟。
	神子柴遺跡	**【国】神子柴遺跡出土品**〈有形・考古資料〉	(南箕輪村)	神子柴型石器と遺跡の名前が付けられた、日本で最も美しいと称される 66 点の石器。伊那市創造館で見学することができる。
縄文文化が花開いた集落の繁栄と衰退	三ツ木遺跡	**縄文時代早期の集落遺跡**〈記念物・遺跡〉	富県南福地	全国でもほとんど出土例がない、完形の押型文土器が出土。
	御殿場遺跡	**【国】顔面付釣手形土器**〈有形・考古資料〉	富県北福地	県指定の史跡で縄文時代中期を代表する集落遺跡、御殿場遺跡から出土した。
	月見松遺跡	**【県】顔面把手付深鉢形土器**〈有形・考古資料〉	伊那(竜西)小沢	縄文時代の大集落遺跡から出土した、日本を代表する出産土器。
	島崎遺跡 原遺跡　ほか 石仏遺跡	**【県】信州の特色ある縄文土器 10 点**〈有形・考古資料〉	伊那・高遠町・長谷	縄文時代中期後葉に作られた、ダイナミックな唐草模様を装飾する地元ならではの素晴らしい縄文土器。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
縄文文化が花開いた集落の繁栄と衰退	百駄刈遺跡	**縄文時代後期の配石祭祀遺跡** 〈記念物・遺跡〉	西春近小出三区	寒冷化が進み、厳しい生活を送っていた、縄文時代後期の人々の祈りの場。
	野口遺跡	**縄文時代晩期の再葬墓** 〈記念物・遺跡〉	手良野口	習俗や葬送儀礼がよく分かる人類学的にも貴重な大量の人骨が出土。
稲作文化の伝播とその後の発展	荒神遺跡	**弥生時代前期末の土坑群** 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)野底	稲作文化を伝えた壺、遠賀川系土器を発見。市唯一の弥生時代前期の遺構。
	西春近の弥生時代遺跡	**弥生文化後期の環濠集落** 〈記念物・遺跡〉	西春近	弥生前期から中期の土器片と、伊那の地に弥生文化が定着した後期の環濠集落。
上伊那で最も古墳が多い伊那市	老松場古墳群	**前方後円墳を含む８基の古墳** 〈記念物・遺跡〉	東春近中組	長野県の古墳時代に新たな１ページを加えた、新発見の前方後円墳を含む古墳群。
	天竜川左岸段丘上の古墳群	**低墳丘の円墳群** 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)・東春近	伊那の地に特徴的な低い墳丘を持つ、80 基以上の円墳群。
	伊勢並古墳群	**【市】杏葉** 〈有形・考古資料〉	伊那(竜西)西町	狐塚南古墳出土、金メッキされた素晴らしい馬具(馬の装飾品)。
	福地古墳群	**古墳時代前期～後期までの円墳・方墳**〈記念物・遺跡〉	富県北福地・南福地	上伊那唯一の方墳や、馬の生産に関わった人々の古墳群。

テーマを構成する歴史文化資源

荒神遺跡の遠賀川系土器

神子柴遺跡出土品
（国指定重要文化財）

信州の特色ある土器
「坊垣外遺跡」香炉形土器
（長野県宝）

信州の特色ある土器
「原遺跡」唐草文土器
（長野県宝）

戸台秋葉洞窟

信州の特色ある土器
「石仏遺跡」大形把手付土器
（長野県宝）

信州の特色ある土器
「月見松遺跡」
顔面把手付深鉢形土器
（長野県宝）

「御殿場遺跡」
顔面付釣手形土器
（国指定重要文化財）

図. 構成資源の位置

老松場１号墳

上伊那で２基しかない方墳
駒合古墳

百駄刈遺跡配石遺構

弥生時代後期の環濠集落
中村遺跡

狐塚南古墳出土品
（市指定文化財）

３－２　関連文化財群２の保存・活用に関する課題

・伊那市内の遺跡調査は、開発工事に伴う調査が中心であるため、これまでに調査対象となった遺跡に時代的偏りがあり、伊那市の歴史を通史的に概観できるような調査研究が進んでいません。

・既存の埋蔵文化財包蔵地の周知が不足しているため、損壊の恐れがあります。

３－３　関連文化財群２の保存・活用に関する方針

・これまでの発掘調査の成果と遺跡の分布調査の成果を踏まえて、埋蔵文化財包蔵地の見直しを行い、各時代の遺跡の広がりを把握します。

・大学研究室などと連携し、開発工事に伴う調査以外にも必要に応じて学術調査を行っていきます。

・埋蔵文化財の周知を徹底し、文化財を知ってもらうための取組をします。

３－４　関連文化財群２の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
群２-１ (措置１ 再掲)	埋蔵文化財再整理事業	過去に調査が行われた遺跡(市指定史跡月見松遺跡など)の出土遺物や記録類の再整理や、未報告の遺跡の出土遺物などの再整理を行い、遺跡の再評価及び活用事業につなげる。	継続	■	■	■				◎教生	国費 県費 市費
群２-２	発掘調査現場公開	発掘調査現場を積極的に公開し、身近な遺跡を知り、理解を深める機会を提供する。	継続	■	■	■				◎教生	市費
群２-３ (措置15 再掲)	史跡・遺跡などの 映像記録作成と公開	主要な史跡・遺跡などの立地や景観をドローンで広範囲に撮影、記録し、データをWeb公開する現地看板などへのQRコード設置など)。	新規	■	■	■				◎教生	市費
群２-４	発掘調査成果パネル展示の開催	伊那市創造館等において、最新の発掘調査の成果などのパネル展示を開催する。	継続	■	■	■			○	◎教生	市費
群２-５ (措置28 再掲)	遺跡地図(埋蔵文化財包蔵地)の見直し	試掘調査などにより埋蔵文化財包蔵地の範囲確認を行い、既存地図を更新、公開することで、遺跡の保護に万全を期す。	継続	■	■	■			○	◎教生	国費 市費
群２-６ (措置29 再掲)	埋蔵文化財の保護 (開発事業との調整及び記録保存)	遺跡内における開発事業と埋蔵文化財の保護を両立するため、事業者と十分な調整を行い、適切な遺跡の保存を図る。	継続	■	■	■	○	○		◎教生	国費 市費

（本表は、第７章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第７章の措置番号とともに整理しています。）

４　関連文化財群３

４－１　ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群３　街道　ー人・もの・文化が行き交う伊那市ー

ストーリー

伊那市は本州の中央部に位置し、中央構造線をはじめとする断層や天竜川の影響を受けてできた南北に細長く伸びる谷あいの地にあります。3,000m級の山々を有する南アルプスと中央アルプスに挟まれた伊那谷は、地形・地勢上の条件により、古くから南北方向に街道が発達しました。また、周辺地域と行き来するためには、東西方向の街道も欠かせず、時代に応じて様々な街道が東西南北に走っていました。天台宗や日蓮宗布教の道である「法華道」、火伏の神を祀る秋葉神社へ通じる「秋葉街道」、仲仙寺に通じる「はびろ道」、戦場に向かう武士が駆け抜けた「杖突街道」、参勤交代のため殿様が行き来した「金沢街道」、物資輸送が盛んに行われた「伊那街道」や「権兵衛街道」。これらの街道は時代も性格もそれぞれ異なりますが、大きく分けると「信仰のみち」、「軍事・政治のみち」、「経済のみち」に分けることができ、様々な目的を持った人が盛んに往来し、街道沿いには多彩な文化が育まれました。

民間信仰と結びついて、石造物の需要が高まった江戸時代には、石材加工を専門に行う職人である高遠石工が生まれました。彼らは街道を使い、全国各地と故郷を行き来していましたが、高い技術が評判をよび、石造物だけでなく、江戸城や品川台場砲台の石垣も手掛けたと伝えられています。

街道の交差点は人や物の集まるところです。東西南北の街道が交差する坂下周辺は、近代以降賑わいを増し、伊那町へと発展を遂げました。元々地域の産業であった養蚕製糸も、近代製糸業に発展し、地域に大きな経済効果をもたらしました。長年にわたり水害や渇水に苦しめられてきた人々の悲願であった、三峰川上流の２つのダム建設もまた、伊那町の経済を支え、現在の中心市街地の発展へとつながっていきました。

図. 伊那市周辺の街道

テーマの説明

中テーマ　1　信仰のみち

「法華道」、「秋葉街道」、「はびろ道」はその名からわかるように、信仰の道として古くから人々の往来がありました。それぞれの道沿いには、その道に関係する石造物や寺院、お堂などの歴史文化資源がたくさん遺されています。

〈小テーマ〉

・法華道

長谷非持から高遠町芝平を通って、入笠山東斜面を登り、諏訪郡富士見町の若宮で甲州街道に合流する道です。天台宗や日蓮宗の高僧達が、山梨県から伊那谷への布教に使い、法華経を伝えた道であったことから法華道と呼ばれました。道沿いには、今も多くの由緒ある日蓮宗の寺院が遺されています。

・秋葉街道

高遠町長藤的場から長谷を経て、中央構造線の谷を通り、静岡県浜松市にある秋葉神社まで続く道が秋葉街道です。縄文時代から利用されていたと考えられる古い道で、江戸時代に火伏の神を祀る秋葉信仰が関東、東海、北陸一帯に広まると、秋葉神社への参詣の道として盛んに利用されました。

・はびろ道

伊那市の中心市街地に、市指定の史跡になっている「坂下の辻」があります。この辻から南北に伊那街道が延び、東は高遠へ向かう杖突街道（金沢街道）、西は権兵衛街道と西箕輪の仲仙寺へ向かうはびろ道が延びています。馬が農耕と交通の主役であった時代、馬の安全祈願のために、人と馬がともに仲仙寺へ参拝する信仰の道でした。

中テーマ　2　軍事・政治のみち

伊那谷と諏訪地域を結ぶ主要道が「杖突街道」、「金沢街道」です。どちらの街道も戦国時代には軍用道路として使われました。「金沢街道」は江戸時代に入ってから、高遠藩主や飯田藩主が参勤交代で江戸と国許を往復するために使いました。まさに、軍事と政治に使われた街道でした。

〈小テーマ〉

・杖突街道・金沢街道

高遠城下から杖突峠を越えて諏訪へ抜ける「杖突街道」は、軍事上重要視された街道で、街道沿いの要衝には多くの山城、城館跡が見られます。金沢峠を越えて甲州道中の金沢宿（現在の茅野市金沢）へ抜ける「金沢街道」は、江戸時代には参勤交代に使われ、杖突街道との分岐点となる御堂垣外宿には本陣が遺り、門や座敷が当時の様子を伝えています。

中テーマ ３　経済のみち

市内には複数の街道が東西南北に走っていますが、南北方向の道は谷筋を通る大きな街道として発達し、東西の道は主要道や峠を越えて谷と谷を結ぶ街道として発達しました。網の目のような街道は物資輸送の道、「経済のみち」として、各地を結びました。

〈小テーマ〉

・伊那街道(三州街道)

別名三州街道とも呼ばれる伊那街道は、中山道の塩尻宿(現在の塩尻市)から分岐して伊那谷を南下し、愛知県岡崎市で東海道に合流する街道です。江戸時代には、伊那地方の農民が農閑期の副業として物資を運んだことに始まる、「中馬」と呼ばれる民間運送業の道として、盛んに使われました。

・春日街道

江戸時代の初め、飯田城主の小笠原秀政が春日淡路守に命じ、飯田と松本を結ぶ軍用道路として整備された街道です。春日淡路守の名をとって春日街道と呼ばれました。この春日街道とほぼ同じルートを、かつての東山道が通っていたという説もあります。

・権兵衛街道

権兵衛街道は坂下の辻を起点とし、権兵衛峠を越え、木曽で中山道と合流する街道です。江戸時代中期に新たに開通したこの道により、伊那の米が米穀の乏しい木曽に大量に運ばれ、木曽からは特産の漆器や曲げ物が運ばれました。また、この街道の開通は、伊那から木曽への助郷(中山道の宿場における労役)が始まるきっかけともなりました。

・中馬街道ならではの食文化

馬による物資輸送が盛んで、馬の飼育頭数が多かった伊那では、馬刺しやおたぐり、さくら鍋といった馬肉を食べる食文化が根付いています。馬の腸を煮込んだ「おたぐり」は、25mもある腸をたぐりながら洗うところから名づけられました。

中テーマ ４　街道が運んだ技術と文化　ー高遠石工ー

江戸時代、信州高遠を拠点に全国で活躍したのが高遠石工です。北は青森県、南は山口県の18都府県、全国各地に出向いて石仏、石鳥居、供養塔など多くの優れた石造物を造りました。高遠石工は、伊那から東西南北に延びる街道を使い、全国各地と行き来したのです。

〈小テーマ〉

・稀代の名工・守屋貞治

守屋貞治は、高遠石工の中でも特に優れた腕を持ち「稀代の名工」と称されました。貞治は数多くの彫像を手掛け、生涯で350体に及ぶ作品を遺しました。柔らかく滑らかな曲線で、豊かな表情や繊細な衣装を石に表現しており、高い技術が各作品から見てとれます。

・全国に名をとどろかせた高遠石工

江戸時代、現在判明しているだけで、1,300人もの石工が全国で活躍していました。高い技術を持つ「高遠石工」の名は一大ブランドとなり、彼らが納める営業税(運上金)は藩の財政を支えたため、藩は石工の旅稼ぎを奨励し、益々多くの石工が全国へ出向いていきました。市内には、彼らの足跡を知ることができる多くの古文書が遺されています。

・高い技術を物語る石造文化財

高遠石工の作品は、市内にも数多く遺り、守屋貞治の作品以外にも優品とされる５点の石造文化財が市の指定文化財になっています。

・村を守り、人々に寄り添う石仏

市内に 9,000 点余りある石造物は、道祖神、庚申塔、馬頭観音、蚕玉神など、その種類は多岐にわたります。一点一点それぞれの思いが込められてその場に建てられ、大切にされて来ました。信仰や祈願の対象になり、毎年例祭が執り行われている石仏もあります。

中テーマ ５　街道の交差点　伊那町の発展

明治時代、新しい三州街道が開通し、伊那電気鉄道が開業すると、東西南北の街道が交わる伊那町坂下の一帯は、上伊那の流通、経済、政治の中心地として発展していきました。戦前、戦中、戦後、それぞれの時代の面影を遺す建物や町並みが、現在も遺っています。

〈小テーマ〉

・流通・製糸・ダム建設が支えたまち

明治 45 年(1912 年)の伊那電気鉄道の開通は、大量の物資輸送を可能にしました。鉄道が通ったことで伊那町駅を中心に商店、銀行、旅館、劇場などが次々と開業し、まちはさらに発展しました。戦前から戦中にかけて製糸業の機械化が進み、大きな工場がまちの中にも周辺にも建ち並びました。戦後は三峰川総合開発事業により美和ダムと高遠ダムの建設が始まると、工事関係者やその家族で伊那町は大変賑わいました。近、現代を通して伊那町は様相を変えながらも発展を続けたのです。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「 」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
信仰のみち	法華道	**【国】遠照寺釈迦堂附多宝小塔** 〈有形・建造物〉	高遠町山室	法華道沿いの日蓮宗寺院で、室町時代後期に建立された釈迦堂内には、大工・池上氏一族が建てた多宝小塔がある。
		【市】遠照寺七面堂 〈有形・建造物〉	高遠町山室	日蓮宗の七面信仰を物語るお堂で、江戸時代中期の建築。色彩豊かな天井絵がある。
		【市】七面堂 〈有形・建造物〉	長谷非持山	七面信仰を物語るお堂で、日蓮宗玄立寺の守護神を安置している。現在の建物は江戸時代中期に再建された建物。
		【市】弘妙寺須弥壇 〈有形・建造物〉	高遠町荊口	法華道沿いの日蓮宗弘妙寺本堂内にある朱塗の須弥壇。文政５年(1822)白鳥弥四郎の作で龍の彫刻が刻まれている。
	秋葉街道	**道標・常夜灯・秋葉山大神碑** 〈有形・石造物〉	高遠町長藤・ 長谷溝口ほか	秋葉神社へ向かう道を示す道しるべや街道を照らす常夜灯、秋葉様を祀る碑などの石造物。
		秋葉講・御札入 〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町・長谷ほか	集落ごとに講があり、12 月の秋葉神社の本祭に当番が交代で参詣した。秋葉山のお札を入れる「御札入」も集落内に見られる。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
信仰のみち	はびろ道	**仲仙寺** 〈有形・建造物〉	西箕輪羽広	天台宗の古刹。信濃三十三観音霊場の札所であり、多くの参詣者を集めた。仲仙寺へ通じる道がはびろ道。
		【市】羽広の絵馬 〈民俗・有形の民俗文化財〉	西箕輪羽広	馬の観音様、仲仙寺に奉納された絵馬。江戸時代から明治時代に奉納されたものが数多くあり、多数の馬を描いた千匹絵馬がある。
		【市】木造持国天 多聞天立像 〈有形・彫刻〉	西箕輪羽広	仲仙寺本堂に安置されている鎌倉時代の作とみられる仏像。
		【市】鰐口 〈有形・工芸品〉	西箕輪羽広	仲仙寺に伝わり、大永４年(1524 年)の銘を持つ鰐口。
		【県】木造金剛力士立像 **(阿形像及び吽形像)** 〈有形・彫刻〉	西箕輪羽広	文亀元年(1501 年)、七条大蔵康忠の作で、仲仙寺の仁王門内に立つ。寄木造の朱彩色で、室町時代の作品として貴重な彫刻。
		【市】羽広の獅子舞 〈民俗・無形の民俗文化財〉	西箕輪羽広	江戸時代初期、仲仙寺観音堂の再興を祝い始められた獅子舞で、観世音の狛犬とされる。
		丁石 〈有形・石造物〉	伊那(竜西)・ 西箕輪	はびろ道に１丁(約 109m)ごとに置かれた石造物で、地域の人々が願主となり奉納された。
		【市】坂下の辻 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)山寺	はびろ道の起点である辻で、「右ぜんかうじ　左はびろ　道」と書かれた道標がある。
軍事・政治のみち	杖突街道・ 金沢街道	**【市】藤沢城跡** 〈記念物・遺跡〉	高遠町藤澤	杖突街道を押さえる地にある山城で、藤澤の領主が築いたとされる。主郭、二の郭、三の郭、堀、土塁などが遺っている。
		御堂垣外宿本陣 〈有形・建造物〉	高遠町藤澤	金沢街道は参勤交代の道として使われた。高遠藩主や飯田藩主らが休憩、宿泊した御堂垣外宿本陣には門や当時の座敷が遺る。
		【市】貴船社子供騎馬行列 〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町藤澤	江戸時代初期の高遠藩主、保科正之が高遠から山形領へ移封する際、貴船社に奉納したとされる騎馬行列。
経済のみち	伊那街道 (三州街道)	**【市】伊那部宿酒屋旧井澤家住宅** 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)西町	伊那部宿で代々造り酒屋を営んでいた豪農の井澤家の住宅で、宿場内で唯一の破風屋であり、 建坪も最大だった。
		常円寺 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)山寺	伊那街道沿いの古刹で、多くの参拝者が訪れた。寺の前には旧道の面影を残す。
経済のみち	春日街道	**春日街道跡碑** 〈有形・石造物〉	伊那(竜西)荒井	飯田を起点に松本まで結ぶ街道として計画され、江戸時代初期に整備された。伊那街道と並行している。
	権兵衛街道	**【市】坂下の辻** 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)山寺	権兵衛街道の起点でもある辻で、木曽宮ノ越まで通じていた。
		【市】羽広の絵馬 〈民俗・有形の民俗文化財〉	西箕輪羽広	仲仙寺の絵馬の中には、木曽の馬持ちが繁栄を願って奉納した千匹絵馬があり、木曽との交流を知ることができる。
		伊那節 〈無形文化財〉	西箕輪	権兵衛街道は伊那から木曽へ助郷人足や米を運んだ道で、「木曽へ木曽へとつけ出すコメは伊那や高遠のお蔵米」と唄われた。
	中馬街道 ならではの 食文化	**馬刺し、おたぐり** 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	馬が身近だった伊那では、馬刺しや馬のもつ(腸)を煮込んだおたぐりが食べられており、馬刺しは赤身が好まれる。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
街道が運んだ技術と文化 －高遠石工－	稀代の名工・守屋貞治	**【市】建福寺石仏群** 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	江戸時代中期に活躍した石工、守屋貞治が刻んだ石仏で、建福寺には最高傑作の願王地蔵や西国三十三所観音などがある。
		【市】大聖不動明王 〈有形・彫刻〉	高遠町勝間	守屋貞治作。勝間の集落境にあり、三峰川の水を鎮め、災厄が村へ入って来ないよう祈ったもの。
		【市】准胎観世音　延命地蔵尊 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	桂泉院の参道両脇にある守屋貞治作の石仏。
		【市】円通寺の石仏二体 〈有形・石造文化財〉	長谷市野瀬	円通寺の参道石段の上にある守屋貞治作の石仏。
	全国に名をとどろかせた高遠石工	**石破元祖之巻** 〈有形・古文書〉	高遠町東高遠	高遠石工の職業由来を記した免許状で、源頼朝に認められたと語られている。高遠石工はこの由来書を示しながら活動していた。
		石工関係文書 〈有形・古文書〉	全域	高遠藩では石切目付という役職を置き、領内の石工たちを統率していた。石工たちが藩へ提出した文書が多く遺されている。
	高い技術を物語る石造文化財	**【市】石造双体道祖神** 〈有形・石造文化財〉	東春近下殿島	江戸時代後期に活躍した小笠原政平作の道祖神。男女 2 人を彫った祝言像で、夫婦円満、子孫繁栄を祈ったもの。
		【市】宝篋印塔(洞泉寺) 〈有形・石造文化財〉	美篶下川手	守屋貞治の弟子で名工、渋谷藤兵衛作の宝篋印塔で、天保 9 年(1838 年)に造られた。
		【市】石造准胝観音菩薩 〈有形・石造文化財〉	東春近田原	江戸時代後期に活躍した小笠原政平作の観音菩薩像で万延元年(1860 年)に造られた。
		【市】六角観音供養塔 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	旧相頓寺の境内にある六観音の名号塔。延享 4 年(1747 年)に水上村久左衛門の作。
		【市】建福寺仏足跡 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	お釈迦様の足裏の形を刻んだもので、天保 6 年(1835 年)に伊勢国金剛證寺のものを写し建てられた。
	村を守り、人々に寄り添う石仏	**【市】中尾辻の石仏群** 〈有形・石造文化財〉	長谷中尾	道祖神や庚申塔など約 30 基の石造物が集中している。馬頭観音や丸石道祖神、蚕玉神、佐倉宗五郎霊神などもある信仰の場。
		【市】非持山馬頭観音 〈有形・石造文化財〉	長谷非持山	元禄 2 年(1689 年)のものをはじめ、約 50 体の馬頭観音が集められている。馬頭観音は馬の安全息災や供養のために建てられた。
		四国八十八か所霊場巡拝塔 〈有形・石造物〉	手良野口	江戸時代末期に造られたが、作者は不明。野口区の寄進者が最も多く、「お四国様」などと呼ばれ地域に親しまれている。
		南原の地蔵と枝垂れ桜 〈有形・石造物／記念物・植物〉	高遠町藤澤	枝垂れ桜の下に、地蔵尊に見立てられた大きな自然石が祀られている。
		二十二夜様のまつり 〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町西高遠	西高遠島畑にある二十二夜様と呼ばれる石仏群は、江戸時代から月待信仰の対象となっており、今でも旧暦 7 月 22 日の夜にお祭りが行われている。
		でえもんじ 〈民俗・無形の民俗文化財〉	西箕輪上戸	道祖神の祭りと一体となった小正月の祭りで、厄払いの色紙袋などを大きな柱に飾り、1 月 14～20 日まで集落入口の辻の道祖神の隣に建てられる。
		庚申塔 〈有形・石造物〉	全域	民間信仰の 1 つ、庚申信仰に関わるもので、庚申の年に石塔を建て、村の安全を祈った。各集落の村境や辻に建てられている。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
街道の交差点 伊那まちの 発展	流通・製糸・ダム 建設が支えたまち	**伊那電気鉄道(飯田線)** 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)・ 西春近	明治時代以降の伊那町の発展を支えた鉄道で、昭和 18 年(1943 年)に飯田線となり、現在は JR 飯田線になっている。
		【市】旧上伊那図書館 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井	製糸業で富を築いた武井覚太郎の寄付で、昭和 5 年(1930 年)に建てられた建物。鉄筋コンクリートを用いた近代建築。
		レトロな町並みを構成する建物 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井ほか	通り町などには、洋風の外観を持ち、近代に流行した看板建築の名残を感じられる建物が遺っている。
		ローメン 〈民俗・食文化〉	全域	昭和 30 年(1955 年)頃に生まれた蒸し麺と羊肉、野菜を炒めた食べ物で、市民に愛されるご当地グルメ。
		ソースかつ丼 〈民俗・食文化〉	全域	ご飯の上にソースがしみこんだ豚カツとキャベツがのったかつ丼は、戦後、伊那町の飲食店で親しまれ、地域の名物になっている。

テーマを構成する歴史文化資源

羽広の絵馬・千匹絵馬
（市指定文化財）

貴船神社子供騎馬行列
（市指定文化財）

馬刺し

杖突街道（金沢街道）

図. 構成資源の位置

丁石（４丁目）

秋葉街道

藤沢城跡（蛇山）
（市指定文化財）

弘妙寺須弥壇
（市指定文化財）

坂下の辻（市指定文化財）

春日街道碑

円通寺延命地蔵菩薩
（市指定文化財）

秋葉山の御札入
（溝口郵便局前）

通り町の看板建築

二十二夜様

４－２　関連文化財群３の保存・活用に関する課題

・街道沿いには多くの石造文化財がありますが、あまり認知されておらず、活用が十分ではありません。多くの市民の興味関心が高まるような取組が必要です。

・街道沿いの旧家や蔵など、歴史的建造物の取り壊しが増えており、それぞれの資源やストーリーに関わる古文書などの資料が散逸（さんいつ）の危機に瀕（ひん）しています。

４－３　関連文化財群３の保存・活用に関する方針

・街道に関わる歴史的建造物や石造物、古文書といった歴史文化資源を把握し、楽しみながら歴史文化資源に触れる取組を行います。

・個人や愛好者などが街道歩きや石造物巡りを楽しめるよう、資源の位置を明確にしたマップやパンフレットなどを作成、公開します。

・歴史資料の散逸を防ぐため、積極的な啓発活動などを行います。

４－４　関連文化財群３の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
群３-１ (措置９ 再掲)	高遠石工調査	市内外を問わず、高遠石工に関わる資料や石造物の把握を進める。	継続	■	■	■	○	○		◎教生	市費 団体費
群３-２ (措置40 再掲)	文化財相談窓口	歴史資料の散逸を防ぐため、市報や市ホームページなどで呼びかけを行うとともに、市教委、各博物館などに歴史文化資源に関わる問い合わせ窓口を置く。	新規	■	■	■	○			◎教生	市費
群３-３	石仏探訪マップの作成	石造文化財巡りを楽しめるように、見どころや周遊ルートを紹介したマップを作成し、Web公開や市内施設で配布する。	継続	■	■	■		○		◎商観	市費
群３-４	石工、石仏関連イベントの実施	高遠石工のふるさとを体感してもらうため、地域の石造文化財を対象としたイベントを実施する。	継続	■				◎	○	○商観	企業 団体等
群３-５	石仏フィギュアの製作と 石仏ガチャの設置	3Dスキャン技術を活かして小型カプセルトイ(石仏フィギア)を製作し販売する。	継続	■	■			◎		○商観	企業 団体等
群３-６	石仏案内ガイドの育成支援	市内各地の石造物を対象とした案内ガイドの育成や、育成支援を行う。	継続	■	■	■		◎		○商観	団体等

（本表は、第７章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第７章の措置番号とともに整理しています。）

５　関連文化財群４

５－１　ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群４　高遠城　－700 年の歴史が作り上げた町並みと文化－

ストーリー

700 年といわれる高遠城の歴史は、時代ごとに様々な影響を地域に与えてきました。

高遠城が築かれた室町時代は、多くの小領主が台頭した時代で、その頃の城館跡が今でも市内に多数遺されています。

戦国時代の伊那を語る上で欠かせないのが、隣国の甲斐(現在の山梨県)から侵攻し、この地域を押さえた武田氏です。高遠城主から武田家当主となった武田勝頼、織田軍との壮絶な戦いが今でも語り継がれる仁科五郎盛信(信盛)など、武田家ゆかりの人々がこの地を治め、伊那周辺の多くの商人、職人が武田家を支えていました。

江戸時代には高遠城を中心に城下町が形成され、高遠は政治、経済、文化の中心地として栄えました。市域には高遠藩のほか、幕府領もあり、人々はそれぞれの帰属意識を持ちながら暮らしていました。伊那谷の学問の中心地もまた高遠で、江戸や大坂で最新の学問を学んだ人々が、藩校進徳館や私塾で教壇に立ち、地域に学問を広めていきました。

明治時代になると、廃城となった高遠城の跡地にタカトオコヒガンザクラが植えられ、多くの人々が憩う公園となりました。城跡の桜は「天下第一の桜」となり、現在は全国に知られる一大観光地となりました。長い間地域の中心として存在した高遠城と、城が育んだ歴史文化は、今でも私たちの誇りとなっています。

テーマの説明

中テーマ １　地域領主の群雄割拠

室町時代、伊那市周辺には地域を束ねる幾人もの小領主が存在しました。市内には彼らが築いた城館跡が多く遺ります。甲斐の戦国大名、武田氏が伊那に侵攻してきた際、彼らは手を組み大きな抵抗勢力となりましたが、最終的には武田氏配下に取り込まれていきました。

〈小テーマ〉

- 城館跡や山城

  小領主たちが暮らす館は、戦いに備え、堀や土塁などで囲まれていました。山中には防衛力の高い山城を築き、戦が起こるとそこを拠点に戦いました。数多く遺る城館跡や山城は、緊張感と隣り合わせの時代を物語ります。

- 伝承と地名

  市内には、戦国時代に由来する地名や伝承がいくつか伝わっています。これらは群雄割拠の時代を考える手がかりとなります。

中テーマ ２　戦国大名武田氏を支えた地、伊那

戦国大名武田信玄は、信濃支配の一拠点として、伊那を重要視しました。勝頼や盛信といった信玄の息子が高遠城主になり、地域を治めました。長谷非持には武田氏に仕えた腕の良い番匠（大工）や勝頼の祖母がおり、武田家との関係の深さを物語る資源が伝えられています。

〈小テーマ〉

- 信玄三河出兵の道

  上洛を目指す信玄が、徳川家康と対峙するために三河（現在の愛知県東部）へ出兵した際に開通したという伝承を持つ道が遺ります。

- 諏訪勝頼から武田勝頼へ

  諏訪氏の跡目を継ぐ形で高遠城主に就いた信玄四男の勝頼は、やがて武田家を継ぐことになりました。地域に遺る資源からは、勝頼のルーツにあたる諏訪氏との関わりや、武田氏を継いだ後の勝頼と伊那との関わりが見えてきます。

中テーマ ３　高遠城の戦い

織田信長の勢力拡大に伴い、高遠城は武田軍と織田軍の壮絶な戦いの場になりました。地域に遺る資源からは、武田氏一族として負けることができない仁科盛信と、各地で勝利を収め、勢いづく織田軍の様子、戦いから逃れようとする人々、三者三様の姿が浮かび上がります。

〈小テーマ〉

- 武田軍と織田軍の激戦を物語る品や遺跡

  織田軍が進軍時に打ち鳴らし、戦後、地域の寺社に奉納された鳴り物のほか、高遠城攻めを控えた織田軍が築いた陣城と伝わる遺跡、戦から逃れようとする人々に関わる地名が伝えられています。

中テーマ ４　近世城郭高遠城と城下町の繁栄

高遠城は、明治５年（1872 年）に城内の建物が取り壊されるまで、高遠藩主の居城であり、政庁であり、地域の中心でした。城の東には武家屋敷、西には宿場機能を併せ持つ城下町が整備され、多くの人と物で賑わいました。

〈小テーマ〉

- 高遠城跡

  現在の高遠城跡で見ることができるのは、江戸時代の遺構です。本丸を中心に曲輪が配置され、曲輪を隔てる大きく深い堀など、戦国時代とは異なる江戸時代の大名の権力の大きさを感じることができます。

- 広い藩領

  高遠領は石高が３万３千石で、領内には 86 の村がありました。領域の境に遺る大きな石製の分杭や領域内各地の風景を描いた絵巻、地名などから、領内の風景やそこに暮らす人々の様子をうかがい知ることができます。

・武士の暮らしを伝える

高遠城周辺には、現在も何軒かの武士住宅が遺ります。上級、中級、下級それぞれの格式に応じた家の姿を見ることができ、武士の暮らしの一端を知ることができます。

・城下町と町家

高遠城下には十町の町があり、間口が狭く奥行が長い町家が建ち並んでいました。現在もいくつかの町家建築が遺り、商家に伝えられた古文書と合わせて、かつての町の様子を知ることができます。

・神仏に守られた城下町

高遠城下町の外郭には、町を取り囲むように８軒の寺院と２軒の神社があり、歴代藩主らの信仰を集めました。藩主縁の品々が現在も伝えられ、神仏の霊力で町を守ろうとするばかりでなく、防衛のための戦略的な意図をもって町が造られたことが分かります。

・絵島遠流（えしまおんる）の地、高遠

江戸時代中期、江戸城大奥老中の絵島が罪人として高遠へお預けになりました。絵島に関わる遺跡や資料、絵島を偲（しの）んで訪れた明治時代以降の文人たちが遺した資料が、市内には多く遺されています。

・城下に花開いた文化

城下町の繁栄に伴い、高遠には全国各地から多くの人が訪れ、多種多様な文化がもたらされました。城下町ならではの芸能文化や食文化が多く遺されています。

中テーマ ５　進徳館の学び、信州教育源流の地

高遠は信州教育源流の地です。高遠藩校進徳館で学んだ藩士の中には、明治時代以降、新たな教育の仕組みを整えた者や、教壇に立った者も多く、長野県内各地で教育現場を支えました。進徳館の学びが、新たな時代の人づくりにつながっていきました。

〈小テーマ〉

・高遠の学

藩校進徳館の創設に関わった人々の様子や、進徳館で使われた教科書、村の教育者を讃える碑などを通して、学問に励んだ江戸時代の人々の様子や、次世代を創った教育の中身を知ることができます。

中テーマ ６　城跡とさくらの物語

高遠公園（現在の高遠城址公園）は、長野県下でいち早く造られた公園で、草創期には、人々が集い楽しむことができるように、桜を中心とした花樹が植えられました。春、桜一色に染まる城跡の景色は、やがて地域のシンボルになっていきました。

〈小テーマ〉

・公園化した城跡

公園開設当時から植えられ続けたタカトオコヒガンザクラの樹林や、公園の桜のルーツを示す場所、園内に遺る公園施設など、近代公園の成り立ちを知ることができる資源が、遺されています。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「 」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
地域領主の群雄割拠	城館跡や山城	**【国】高遠城跡** 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	戦国時代の平山城で、高遠氏の城を武田信玄が改修した。江戸時代以降は高遠藩主の居城となった。
		富県の城館跡群 〈記念物・遺跡〉	富県	山城、のろし台、館跡など 17 の城館跡がある。館跡の多くは戦国時代の地域の有力百姓の居館と考えられている。
		【市】蟻塚城跡 〈記念物・遺跡〉	美篶笠原	中世の山城で、斜面に空堀を掘り、7 段の平坦地に郭が造成されている。城主は笠原氏とも伝えられる。
		【市】小出城跡 〈記念物・遺跡〉	西春近小出一区	天竜川右岸の第一河岸段丘上に築かれた城で小井弖氏惣領家の居館跡とも伝えられる。
		【市】藤沢城跡 〈記念物・遺跡〉	高遠町藤澤	杖突街道を押さえる地にある山城で、藤澤の領主が築いたとされる。主郭、二の郭、三の郭、堀、土塁などが遺っている。
		【市】市野瀬古城址・城山の松 〈記念物・遺跡/植物〉	長谷市野瀬	天文年間(1532 年～1555 年)に築かれた城で、武田氏が高遠へ侵攻してきた際に抵抗した市野瀬氏の城といわれる。
		殿島城跡 〈記念物・遺跡〉	東春近中殿島・暁野	武田氏の侵攻に抵抗した殿島大和守重国の城と伝えられ土塁や空堀の跡が遺されている。
		春日城跡 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)西町	武田氏の侵攻に抵抗した春日氏(伊那部氏)の城と伝えられる。段丘地形を巧みに利用した城で、土塁や大規模な空堀が遺されている。
	伝承と地名	**【市】八人塚と蓮台場** 〈記念物・遺跡〉〈記念物・遺跡〉	長谷黒河内 伊那(竜東)狐島	武田晴信(信玄)の侵攻に抵抗した 8 人の地侍が処刑された場所が蓮台場で、8 人の遺骸を長谷黒河内へ移し祀った場所が八人塚。
		「火打平(ひょうじだいら)」 〈地名〉	長谷非持	近くにある非持の城に関係するのろし台と伝えられる地名。情報伝達を考える上で重要な地名。
戦国大名武田氏を支えた地、伊那	信玄三河出兵の道	**「市坂」** 〈地名〉	東春近車屋	元亀 3 年(1572 年)に武田信玄が三方ヶ原へ出兵した際に開通したと伝えられる道に遺る地名。
		「中輪亭の坂」 〈地名〉	東春近車屋	
		「六軒屋坂」 〈地名〉	東春近車屋	
	諏訪勝頼から武田勝頼へ	**諏訪御料人の墓** 〈記念物・遺跡〉	高遠町西高遠	武田晴信(信玄)の側室となって勝頼を産んだ諏訪氏の姫の墓。高遠城主時代の勝頼が法要を行ったと伝えられる。
		武田勝頼判物 〈有形・古文書〉	富県貝沼 (伊那市立高遠町歴史博物館で保管)	高遠城主の武田勝頼が在地領主の埋橋氏に対して出した文書で、井筋の管理について言及している。
		【市】建福寺文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠	武田勝頼が発給した複数の文書が伝えられており、寺に関わる課役や周辺に住む人々の課役などについて記されている。
		非持山池上家文書 〈有形・古文書〉	長谷非持山	非持山の池上家では、武田勝頼の母方の祖母の面倒をみていた。勝頼が発給した文書や勝頼祖母の書状などが伝わっている。
		円福寺文書 〈有形・古文書〉	伊那(竜西)荒井	武田家を継いだ勝頼が発給した文書で、知行安堵や寺の勤めを怠ることがないよう命じたもの。
		【市】龍勝寺文書 〈有形・古文書〉	高遠町勝間	武田勝頼が発給した文書で、寺領の安堵や寺に関わる権利、禁止事項などが書かれている。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源「主人公」〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が存在する地域「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や関連文化財群との関連性
高遠城の戦い	武田軍と織田軍の激戦を物語る品や遺跡	**【県】梵鐘**〈有形・工芸品〉	高遠町東高遠	織田信忠の軍が高遠城を攻めるために進軍してきた際、飯田の開善寺から奪い、引きずってきた鐘。桂泉院に伝わる。
		【市】陣太鼓・鰐口〈有形・工芸品〉	高遠町山室	織田信忠配下の森長可が高遠城を攻めた際、遠照寺に寄進したもので、美濃国土岐の神社の銘がある。
		【市】雲板〈有形・工芸品〉	伊那(竜西)山寺	織田信忠の軍が高遠城を攻めた際、遠江国竜安禅寺から持ち運ばれ、常円寺に寄進されたと伝えられる。
		一夜の城〈記念物・遺跡〉	富県桜井・貝沼	織田信忠の軍が高遠城攻めの際に陣を置いた場所と伝えられる。すでにあった居館跡を利用し、一夜の陣を張ったとみられる。
		物見ヤ城〈記念物・遺跡〉	富県貝沼	仁科盛信(信盛)が名付けたと伝わる城で、狼煙台として使われたいう。
		「駒ヶ窪」〈地名〉	高遠町東高遠	月蔵山後ろの山中にあり、高遠城の戦いの際に、地域の人々が逃げ隠れた場所と伝えられる。
		孤軍高遠城〈無形文化財〉	高遠町	戦後、高遠城落城の思いを伝えたいという高遠町の人々の願いにより作られた曲で、舞踊として親しまれている。
近世城郭高遠城と城下町の繁栄	高遠城跡	**【国】高遠城跡の城郭遺構**〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	高遠藩主の居城で、江戸時代の曲輪配置がほぼそのまま遺っているほか、堀や土塁など、近世城郭の遺構も遺されている。
		高遠城絵図〈有形・歴史資料〉	高遠町ほか	近世の高遠城や周辺の武家屋敷を描いた絵図が、写しも含めて 100 点以上伝わっている。
	広い藩領	**【市】高藩探勝**〈有形・歴史資料〉	高遠町東高遠	高遠藩主に献上するため、寛保 3 年(1743 年)に作られた絵巻で、領内 52 か所の名所やそこに暮らす人々の生活風景が描かれている。
		【市】高遠領分杭〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西) 小沢・山寺 長谷市野瀬	高遠領と他領との境界に建てられた石碑で、「是より(方角)高遠領」と刻まれている。市内には復元も合わせて、複数の分杭がある。
		「高遠道」〈地名〉	東春近渡場・車屋・中組 西春近諏訪形・表木ほか	各地から高遠へ向かう道で、領内の村々から年貢を納めに行く際に使った道とも伝えられる。
		「籠立場」〈地名〉	西春近沢渡 高遠町上山田	殿様や武士が駕籠を置いて休憩した場所と伝えられる地名。
	武士の暮らしを伝える	**【県】旧馬島家住宅**〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	藩に仕えた眼科医の馬島氏の住宅で江戸時代後期の建築とされる。高遠藩の上位 30 人に入るクラスの武士住宅。
		読書楼〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	天保期(1830 年～1843 年)以前の江戸後期に建てられた中級武士住宅で、明治時代には私塾としても使われた。
	城下町と町家	**相生町枡形**〈有形・遺跡〉	高遠町西高遠	城下町の南の出入口。三峰川左岸に多町、相生町の 2 町が建設された幕末に設けられた。
		【市】商家池上家〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下で醤油や酢の醸造販売、小間物販売などを行い、町役人も務めた池上家の住宅。2 階建、切妻造りの町家建築。
		池上家文書〈有形・古文書〉	高遠町西高遠	商家池上家に伝わった江戸時代の文書群で、高遠藩の城下町政策や町方の状況が分かる好資料。高遠町図書館に収蔵されている。
		旧中村家住宅〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下町の西の入口付近にある町家で、江戸時代中期頃に建てられたものとみられる。建物内に沢水が引き込まれている。
		町方十町の地名〈地名〉	高遠町西高遠	城下には町方十町と呼ばれる 10 の町があり、幕末に 2 つの町が増えてからは 12 町となった。各町名は現在もそのまま使われている。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
近世城郭高遠城と城下町の繁栄	神仏に守られた城下町	**【市】東高遠諏訪社** 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	高遠藩家中と板町村の氏神。元は城の鎮守として高遠城内にあり、17 世紀前半の保科氏の頃に現在地へ移された。
		【市】樹林寺千手十一面夕顔観世音菩薩立像 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	江戸時代初期に保科氏が下総国から移した樹林寺は、城の鬼門に置かれ保科家の祈願所となった。本尊は夕顔観音と呼ばれている。
		峰山寺鳥居氏の墓 〈有形・遺跡〉	高遠町東高遠	高遠藩主鳥居氏の時代に再興された峰山寺は、高遠城を見下ろす位置にあり、境内墓地には藩主鳥居忠春と、忠春の母の墓がある。
		【市】満光寺鐘楼門 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	高遠藩主内藤家の菩提寺・満光寺には江戸時代中期に建てられた鐘楼門があり、本尊の阿弥陀如来は鎌倉時代の作と伝えられる。
		【市】満光寺阿弥陀如来立像 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	
		【市】鉾持神社本殿・赤門・透かし塀 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下の入口付近にあり、高遠城の守護神として代々領主の篤い信仰を受けた。本殿は江戸時代中期に建てられたもの。
	絵島遠流の地、高遠	**【市】絵島囲み屋敷跡** 〈記念物・遺跡〉	長谷非持	正徳４年(1714 年)、江戸城大奥の老中であった絵島は、風紀を乱したとして罪に問われ、高遠藩内藤家の預かりとなった。当初は城から離れた非持に囲われていたが、後年城の近くへ移された。非持には当初の屋敷跡があり、東高遠には図面を元に復元した建物がある。
		絵島囲み屋敷 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	
		【市】絵島の墓 〈記念物・遺跡〉	高遠町長藤	61 歳で亡くなった絵島は、遺言により、蓮華寺に葬られた。
		【市】田山花袋筆屏風 〈有形・書跡〉	高遠町東高遠	大正時代、絵島の墓を探すために田山花袋が高遠を訪れているが、その道中に詠んだ歌が書かれている。
	城下に花開いた文化	**【市】高遠ばやし** 〈無形文化財〉	高遠町西高遠	鉾持神社の祭礼の際、町内を巡行するお囃子で、江戸時代から受け継がれている。
		【市】仲町屋台 〈民俗・有形の民俗文化財〉	高遠町西高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館で保管)	鉾持神社の祭礼の際、町を練り歩く山車で、文政５年(1822 年)に造られた。立川流の彫刻が施されている。
		高遠そば 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	高遠町	江戸時代、毎年将軍に献上された高遠そばは、辛味大根のおろし汁と焼味噌で食べるのが高遠流。保科正之が会津にも伝えた。
進徳館の学び、信州教育源流の地	高遠の学	**【国】進徳館** 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	城内三ノ丸に設けられた高遠藩校の建物遺構で、江戸時代の建物のうち、半分の規模が遺されている。
		進徳図書 〈有形・典籍〉	高遠町東高遠	藩校進徳館で利用していた書籍、約 6,300 冊が高遠町図書館に収蔵されている。
		【市】文献通考 〈有形・典籍〉	高遠町東高遠	古代から宋時代までの中国の法律や官制、経済、学校制度などを解説した書で、明から清時代に中国から輸入された漢籍。
		【市】五聖像 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	進徳館には、儒学の祖である孔子と４名の弟子を祀る聖廟があり、領内の村人が献上した五聖像が祀られていた。
		【市】阪本天山の筆跡 〈有形・書跡〉	高遠町東高遠	儒学者であり砲術家で、高遠藩学を興した阪本天山が、高遠を離れる際に書いた詩。
		【市】蕗原拾葉〈有形・典籍〉 **【市】希月舎文庫**〈有形・典籍〉	高遠町東高遠	高遠藩の儒学者を務めた中村元恒、中村元起父子が所蔵していた郷土資料や中村父子が編纂した地誌。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
進徳館の学び、信州教育 源流の地	高遠の学	**【市】伊澤修二生家** 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	進徳館で学んだ後、東京やアメリカで学び、音楽教育をはじめとする近代教育の基礎を作った伊澤修二の生家。
		進徳の森 〈記念物・植物〉	高遠町東高遠	進徳館で学び、ドイツへ留学して林学を極めた中村弥六が、外国産の樹を峰山寺墓地の裏山に植え、森を造った。林業遺産に認定されている。
		筆塚や寺子屋師匠らの頌徳碑 〈有形・石造物〉	全域	手習いの師匠の徳を称え、弟子が建立した筆塚や学問の師を称える頌徳碑が市内各地に存在する。
城跡とさくらの物語	公園化した城跡	**【県】高遠のコヒガンザクラ樹林** 〈記念物・植物〉	高遠町東高遠	タカトオコヒガンザクラという同一種が高遠城の跡地に約 1,500 本の樹林を形成している。
		桜の馬場 〈記念物・遺跡〉	高遠町小原	江戸時代の高遠十景にも選ばれた桜の名所で、この地の桜が明治９年(1876 年)頃に高遠城跡へ植えられ、現在の樹林の元になった。
		【国登録】高遠閣 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	昭和 11 年(1936 年)、集会や休憩、宴会のための施設として、高遠城跡内に建てられた和風建築。

テーマを構成する歴史文化資源

高遠 領 分杭（市指定文化財）

鉾持神社赤門・透かし塀
（市指定文化財）

高遠ばやし（市指定文化財）

桂泉院の梵鐘（県宝）

図. 構成資源の位置

進徳館より受け継いだ進徳図書

満光寺 鐘楼門
（市指定文化財）

武田勝頼朱印状／建福寺文書
（市指定文化財）

旧馬島家住宅（県宝）

商家旧池上家（市指定文化財）

高遠のコヒザンザクラ樹林
（県指定天然記念物）

高遠閣（国登録有形文化財）

高遠そば

進徳の森

高遠城大手門石垣（国指定史跡）

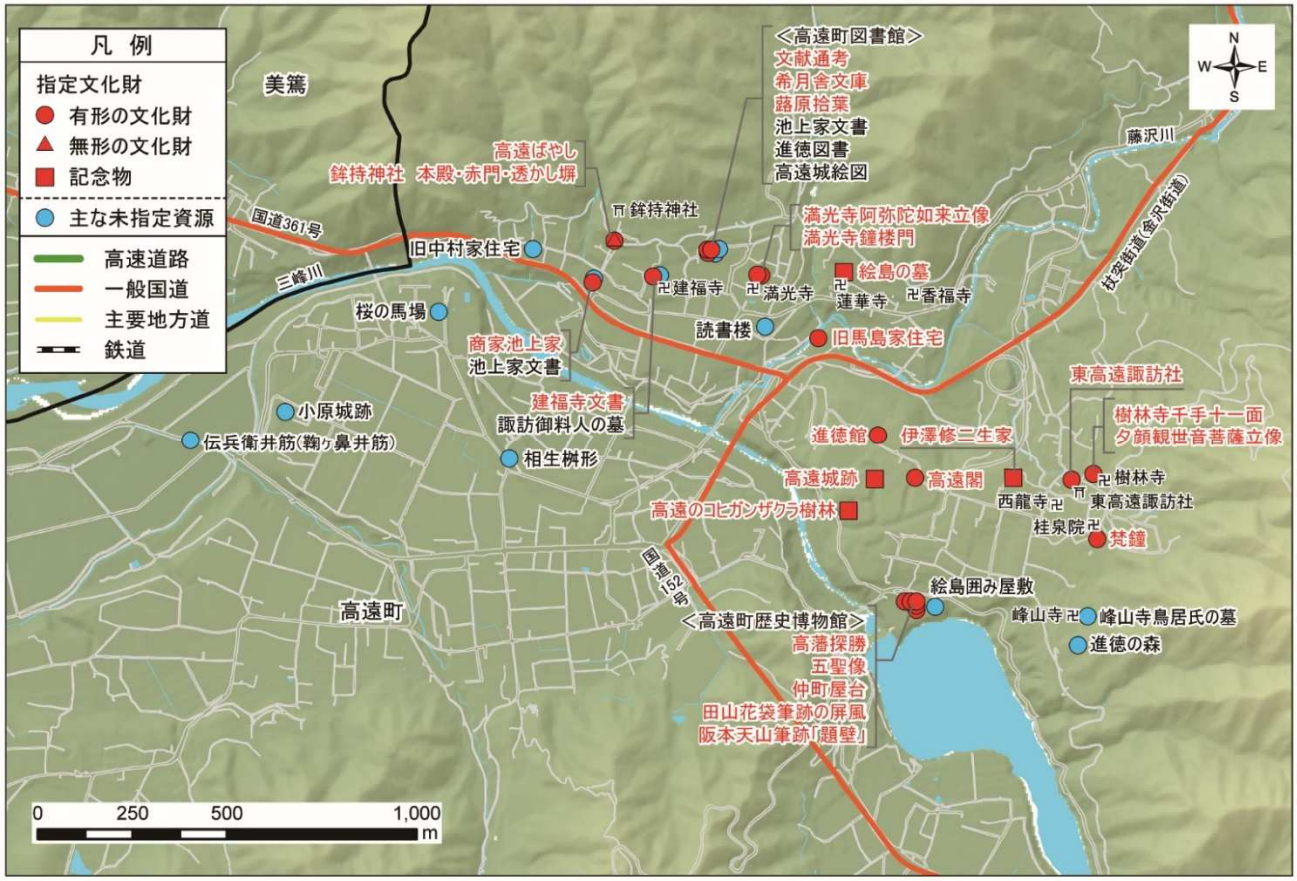


図. 構成資源の位置（城下町周辺地域）

５－２　関連文化財群４の保存・活用に関する課題

・ストーリーの核となる史跡高遠城跡は、桜の名所としての公園整備が進む一方で、城郭として分かりやすい史跡整備が進んでいません。城郭遺構の保存・活用・整備を進める必要があります。
・城下町周辺に多くの歴史文化資源が集中していますが、個人や法人所有のほか、博物館施設などで保存管理をしているものが多くあります。地域の歴史景観を保全しながら、博物館施設を中心に歴史文化資源の更なる活用を進める必要があります。
・観桜期を中心に、高遠城跡にある高遠のコヒガンザクラ樹林を活かした観光が行われていますが、豊富な歴史文化資源を活かした通年観光が望まれています。
・山城などの中世城館跡は、調査が十分ではなく不明な点が多くあります。戦国時代の地域社会を考え、高遠城と一体となった活用が進むように、調査が必要です。

５－３　関連文化財群４の保存・活用に関する方針

・高遠町地域のうち、特に歴史文化資源が集中する高遠地区（西高遠・東高遠）を、重点的に保存・活用を進める地域に設定します。
・史跡高遠城跡の計画的な保存・活用・整備を進め、確実に後世へ伝えるとともに、史跡高遠城跡を中核においた地域内の歴史文化資源の保存・活用を進めます。
・歴史文化資源の公開活用の拠点となる博物館施設の機能を充実させながら、歴史文化資源の保存や公開活用に努めます。また、博物館施設等において、地域に数多くある歴史文化資源の調査研究を進め、研究成果の公開を通して、地域の魅力アップにつなげます。

・デジタルコンテンツのほか、歴史文化資源を利用した魅力的なグッズの開発販売を取り入れるなど、観光施策と連携しながら、通年観光を目指し、より広い層に向けた歴史文化資源の公開活用を進めます。
・中世城館跡の歴史的価値を明らかにできるよう、縄張(なわば)り調査などを行います。

５－４　関連文化財群４の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
群４-１	城館跡調査	市内の中世城館跡の縄張り調査を実施する。	継続	■	■				○	◎教市	市費
群４-２	奉納武具調査	高遠藩主が領内の神社に奉納した武具について、伝存状況や関連史料の調査を実施する。	継続	■	■	■	○		○	◎教生	市費
群４-３ (措置27 再掲)	史跡高遠城跡整備事業	保存活用計画の策定、藩校進徳館修理、公有地化の推進などを実施する。	継続	■	■	■				◎教生	国費 県費 市費
群４-４	山城遊歩道整備	山城を見学するための遊歩道の整備や維持管理、誘導路の看板整備、城の全体図などの案内板を設置する。	継続	■	■	■	○	◎		○教生	県費 市費 団体等
群４-５	御城印の製作販売	市内城館跡の「御城印」を製作し、城館跡の周知と合わせて販売する。	継続	■	■			◎		○教生	企業

（本表は、第７章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第７章の措置番号とともに整理しています。）

６　関連文化財群５

６－１　ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群５　天竜川と三峰川　ー河川とともにある暮らしと歴史景観ー

ストーリー

伊那谷といえば段丘地形ですが、市内には河岸段丘の地形をうまく利用した遺跡があります。広い地域を一望できる段丘端部は、古墳や城館にうってつけの地です。広い段丘面には広大な土地を利用して、牧や飛行場が造られたこともありました。段丘面や広い扇状地の扇央では水を得にくく、稲作には不向きでしたが、苦心して井筋や用水が引かれた後は新田が広がりました。先人の遺した井筋は現在も私たちの生活を支えています。

「暴れ天竜」の異名を持つ天竜川ですが、その天竜川に注ぐ最大の支流が三峰川です。「三峰川を制する者は天竜川を制する」と言われるように、三峰川も昔から氾濫を繰り返してきた暴れ川です。水の力を使った水運が盛んな一方、ひとたび氾濫すると流域では大きな被害が生じるため、人々は水害が起こらないように祈りを捧げながら、常に水害と向き合って暮らしてきました。江戸時代以降、土木技術を駆使して堤防が築かれ、昭和に入ってからは三峰川流域に２つのダムが建設されました。川の水量をコントロールし、灌漑や発電用水として利用する三峰川総合開発事業が現在も続けられています。

川が造った土地に生き、川を利用しながらも、常に水害と隣り合わせにあった人々の歴史は、悲しい出来事を繰り返さないためにも、後世に語り継ぎ、守っていきたい歴史文化です。

テーマの説明

中テーマ　１　河岸段丘の景観

西春近地域の山の中腹から市域を遠望すると、三峰川が浸食と隆起を繰り返して出来上がった、河岸段丘の美しい風景を見ることができます。伊那に暮らす人々は、こうした段丘地形の特徴をうまく活かした土地利用をしてきました。

〈小テーマ〉

- 段丘端部

  眼下を一望できる段丘端部は、時の領主にとって重要な場所でした。自らの権威を示す古墳、軍事上の要所に築かれた城館跡などからは、領域支配のために地形を上手に利用した人々の姿が浮かび上がります。

- 段丘崖

  ２段、３段と形成された河岸段丘の段丘崖には、斜面の崩落防止や防風などのために樹々が植えられ、樹林帯が形成されました。緑のベルトのような特徴的な景観を生み出しています。

- 段丘面

  段丘の最上段にある広大な段丘面は、古代から近代まで、広く平らな土地を必要とする場面で利用されました。

中テーマ ２　川を渡る

天竜川や多くの支流河川が流れる伊那では、暮らしの中で川を渡ることが多く、その方法もいくつかありました。私たちが普段意識せずに利用している橋にも、それぞれの歴史文化があります。

〈小テーマ〉

- かつての生活利用の足(渡船(とせん)と橋)

  生活のために人々は川を渡り、頻繁に対岸と行き来をしていました。増水ごとに流される可能性が高い場所には簡素な橋が架けられ、川幅が広い天竜川は渡船があったと伝わります。

- 橋のある風景

  市街地付近を流れる川には、大小様々な橋が架けられています。高遠市街地には江戸時代から架け替えられ続けてきた橋があり、また小沢川の下流に集中する橋の風景は、伊那市街地ならではの風景です。

中テーマ ３　水の力を利用して(水運)

かつて、水量豊富な天竜川や三峰川では、水の力を利用した水運が行われていました。水運は、人や物を運ぶための主要な交通手段の１つで、地域の生業と町の発展を支えてきました。

〈小テーマ〉

- 天竜川通船(てんりゅうがわつうせん)

  天竜川では、人やたくさんの物資を一度に運ぶために舟運(しゅううん)が発達しました。往時の舟運を物語る資源が遺されています。

- 筏下し(いかだくだし)

  林業が盛んな伊那では、山の奥地で切り出した材木を効率よく運ぶために、水の力を利用していました。主要産業を支え、明治時代まで行われた伝統的な流送(りゅうそう)の名残を留める地名が各地に遺ります。

中テーマ ４　水との闘い

天竜川や三峰川は昔から「暴れ川」と呼ばれてきました。上流で大雨が降ると、水量は一気に増え、周辺は度々洪水被害に見舞われました。流域に遺る資源からは、「暴れ川」の被害を少しでも減らそうと、水と闘ってきた人々の姿が垣間見えます。

〈小テーマ〉

- 知恵と技術で水を制する(治水土木)

  川の決壊を防ぐための堤防や、決壊後に、溢(あふ)れ出た水をスムーズに本流へ戻すための堤防など、川の特性や立地に応じて、知恵と技術を駆使した堤防が築かれました。

- 三峰川総合開発事業

  三峰川では、防災・減災のために水量を調節しながら、水を私たちの暮らしに役立てようとする取組が、昭和 20 年代から続けられてきました。私たちの暮らしに直結するこれらの取組は、今後も続けられていきます。

・祈る

人々は、人間の意思ではどうすることもできない自然の脅威を、神仏の力を借りて鎮めようと考えました。懸命な祈りの姿を伝える歴史文化が、市内各地に遺されています。

・復興・復旧・伝える

頻繁に洪水に見舞われた地域では、洪水によって村境が分からなくなることも多くあったため、速やかに復興が進むような知恵が伝わっています。

中テーマ　５　水を求めて(利水)

水が乏(とぼ)しい段丘上の地域では、暮らしを豊かにするために、人々は水を引くことに命懸けで取り組みました。苦心の末に造られた井筋は大地を潤し、現在も私たちの生活を支えています。

〈小テーマ〉

・井筋(いすじ)開発と堤(つつみ)

市内には、江戸時代から明治時代にかけて造られた多くの水利遺産があります。高い土木技術を用い、莫大な経費と人手をかけて、水を得る努力を続けてきたことが分かります。

中テーマ　６　水と川が育んだ食文化

伊那市には、水と川が育んだ大地に根付く、地域ならではの食文化があります。段丘崖に生育する植物を使った生活道具が作られるなど、川に由来する多様な文化を見て取れます。

〈小テーマ〉

・食と食を支えた道具

伊那市には、井筋が潤した水田地帯の米を使って作るハレの日のご馳走(ちそう)や、川で採れる虫を美味しく食べる「ざざむし」などの郷土食があります。食材の収穫や調理に欠かせない、ざるやびくなどの道具は、段丘崖に生育する篶竹(すずたけ)を使って編まれました。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「　」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源「主人公」〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が存在する地域「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や関連文化財群との関連性
河岸段丘景観	段丘端部	**古墳群**〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)・東春近	天竜川左岸の段丘先端には、古墳が多数造られた。眼下を一望できる段丘上は、支配者の墓地にふさわしい場所である。
		城館跡〈記念物・遺跡〉	市内全域	遠くまで見通せる段丘端部は、河川や街道を押さえる上で都合がよく、城館跡が築かれた。段丘崖は防御性を高めるのに適していた。
	段丘崖	**段丘崖及び断層崖の斜面樹林**〈文化的景観〉	伊那(竜東)美篶・	天竜川とその支流沿いに連なる段丘崖には、緑の木々が帯状に連続し、特徴的な景観をつくっている。
	段丘面	**笠原の御牧**〈民俗・無形の民俗文化財・伝承〉	美篶笠原	平安時代、朝廷に献上する馬を飼育する牧が笠原にあったと伝えられる。段丘面の広大な平野が牧に適していた。
		旧陸軍伊那飛行場跡地〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)上の原	天竜川と三峰川がつくった広大な段丘面を利用し、戦時中に造られた飛行場の跡地には、弾薬庫や格納庫の跡が遺っている。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
川を渡る	かつての生活利用の足 (渡船と橋)	**渡船の伝承** 〈民俗・無形の民俗文化財・伝承〉	東春近渡場・西春近沢渡・東春近田原・西春近下牧	殿島と沢渡間には鎌倉時代には渡船があり、橋ができた後も洪水で流される度に使われていた。田原にも対岸の下牧とを行き来するため渡船があった。
		大島橋・青島橋 〈民俗・無形の民俗文化財・伝承〉	美篶上大島・高遠町上山田・美篶青島・東春近榛原	かつて三峰川には、丸太木を２本渡した上に砂利を敷いた簡素な橋が架けられていた。美篶から川向うの耕地や入会地に通うために欠かせない橋だった。
	橋のある風景	**伊那大橋** 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)坂下・伊那(竜東)中央	昭和８年(1933 年)に竣工した市内で最も古いコンクリート橋。木曽と高遠を結ぶ交通の要衝にあるため江戸時代から木造の橋が架けられていた。
		小沢川下流の橋 (小沢川鉄橋・伊那橋・ 明十橋・室渡場橋ほか) 〈有形・建造物〉	伊那(竜西) 荒井・坂下	小沢川下流部は中心市街地であり、古くから多くの橋があった。天竜川との合流点から800m 足らずの区間に 10 もの橋がある。
		御行馬橋・弁財天橋・天女橋 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	高遠城下にある代表的な橋で、三峰川や藤沢川に架けられている。江戸時代から何度も架け替えられながら、現在も身近な橋として使われている。
水の力を利用して (水運)	天竜川通船	**天竜川舟着場** 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)坂下	杖突街道と伊那街道を結ぶ天竜川の渡河地点には舟着場があり、舟で運んだ人や物資を荷揚げして、さらに陸送した。
		「入舟」 〈地名〉	伊那(竜西)坂下	通船が全盛期となった明治時代以降につけられた地名で、船の発着地「出舟」、「入舟」にちなんだ地名。
	筏下し	**「木川」** 〈地名〉	東春近車屋・中組・渡場	長谷の山から切り出され、三峰川を川下しで運ばれた材木を流した川が流れていた場所。
		「茱萸島(ぐみじま)」 〈地名〉	東春近渡場	長谷の山から切り出され、三峰川を川下しで運ばれた材木を一時保管する木挺場があった場所。
		「渡場」 〈地名〉	東春近渡場	天竜川と三峰川の合流点で、木挺場に上げておいた材木を天竜川に入れる「渡入れ」をした場所。材木の集積地の地名。
水との闘い	知恵と技術で水を制する (治水土木)	**霞堤** 〈有形・建造物〉	伊那(竜東)・美篶・富県・東春近・高遠町	決壊を防ぎ、洪水調節をする機能をもつ堤防で、本堤防の一部を切り、水を田畑の方へ逃がすように造られている。
		柵立堤防 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)野底	２つの支流が天竜川に合流し、洪水が頻発していた野底に造られた堤防で、江戸時代中期に阪本天山が築いた。
	三峰川総合開発事業	**美和ダム** 〈有形・建造物〉	長谷非持・溝口・黒河内	洪水調節、灌漑事業、発電事業のために三峰川に造られたコンクリートダムで、昭和 34 年(1959 年)に完成した。
		高遠ダム 〈有形・建造物〉	高遠町勝間	洪水調節、灌漑事業、発電事業のために美和ダム下流に造られたコンクリートダムで、昭和 33 年(1958 年)に完成した。
		春近発電所 〈有形・建造物〉	東春近田原	10 キロ離れた高遠ダムから導水管で水を送り、発電を行っている発電所。
	祈る	**【市】大聖不動明王** 〈有形・彫刻〉	高遠町勝間	洪水が起こらないように、三峰川を鎮める祈りが込められた石仏。守屋貞治が刻んだもので、別名波切不動とも呼ばれる。
		【市】サンヨリコヨリ 〈民俗・無形の民俗文化財〉	美篶下川手・上川手・富県桜井	三峰川の右岸と左岸にある２つの天伯社で行われる祭りで、水難や災厄を防ぎ、豊作と集落の安全を祈る行事。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源「主人公」〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が存在する地域「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や関連文化財群との関連性
水との闘い	祈る	**【市】青島の千社参り** 〈民俗・無形の民俗文化財〉	美篶青島	集落の水害よけや豊作などを祈るため、諏訪神社に祈願した後、市内各所の社や石仏に御札を貼る千社参りの行事。
		経塚 〈記念物・遺跡〉	東春近車屋	水害よけの祈願として、経文を埋めたと伝えられる場所。
		「般若島」 〈地名〉	美篶芦沢・高遠町下山田・伊那(竜東)下新田	水害よけを祈願するため、般若心経を唱えたり、大般若経を転読して埋めたりした場所と伝えられる地名。
	復興・復旧・伝える	**【市】伯先桜と見通し桜** 〈記念物・植物〉、 〈記念物・植物〉	伊那(竜西)西町 伊那(竜東)狐島	洪水で狐島村と西町村と荒井村の村境が分からなくなった際に、伯先桜と見通し桜を基準に測量を行ったと伝えられる。
		天竜川氾濫の狂歌 〈民俗・無形の民俗文化財・生活文化〉	伊那(竜東・竜西)	天竜川を挟んで古町村、狐島村、山寺村、荒井村、西町村の５か村が堤防づくりや洪水の原因を争う様子を詠んだ狂歌。
		割地 〈民俗・無形の民俗文化財・生活文化〉	三峰川流域	水害にあった農地を村全体で共有し、助け合いながら復旧に取り組む制度で、古くから行われていたと伝えられる。
水を求めて(利水)	井筋開発と堤	**伝兵衛井筋(伝兵衛五井)** 〈記念物・遺跡〉	長谷・高遠町・美篶・富県・東春近	伊東伝兵衛が築いた５つの用水のうち「鞠ヶ鼻井筋」、「お鷹岩井筋」、「大島二番井」、「小原井筋」の４つが市内にある。
		月蔵井筋 〈記念物・遺跡〉	高遠町荊口・山室・東高遠	山室川から取水し、月蔵山の中腹を通って東高遠まで引かれた井筋。江戸時代に武家屋敷の飲用水や新田開発のため開削された。
		六道一番井と六道の堤と桜 〈記念物・遺跡〉 〈記念物・植物〉	美篶笠原	六道原を開田するため、江戸時代に高遠藩の直営事業として引かれた井筋と堤(貯水池)で、堤は現在桜の名所になっている。
		木曽山用水(上戸・中条井) 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)・西箕輪	木曽の奈良井川上流の白川から引いた水を小沢川の上流に落とし、小沢川から同量の水を西箕輪の上戸、中条地域へ引いた用水。
		艶三郎の井 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)荒井	横井戸を通じて多くの地下水を集め、一気に水を湧き上がらせる井戸で、御子柴艶三郎が造った。
水と川が育んだ食文化	食と食を支えた道具	**五平餅** 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	炊いた米を半分ほどつぶし、丸く形を整えたものを串に刺して焼き、クルミ味噌や山椒などのタレをつけて食べる伝統食。
		ざざむし 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	天竜川流域	天竜川の浅瀬に棲むカワゲラやトビケラなどの幼虫は、貴重なタンパク源として昔から佃煮や揚げ物などにして食べられてきた。
		篶竹細工 〈民俗・無形の民俗文化財・生活文化〉	美篶上川手・下川手・青島	古くは段丘崖に生育するすず竹を原料として始められた竹細工で、ざるやびくなど、食生活や農作業を支える様々な製品が作られた。

テーマを構成する歴史文化資源

艶三郎の井

伯先桜
（市指定文化財）

旧陸軍伊那飛行場格納庫跡

笠原の御牧推定地

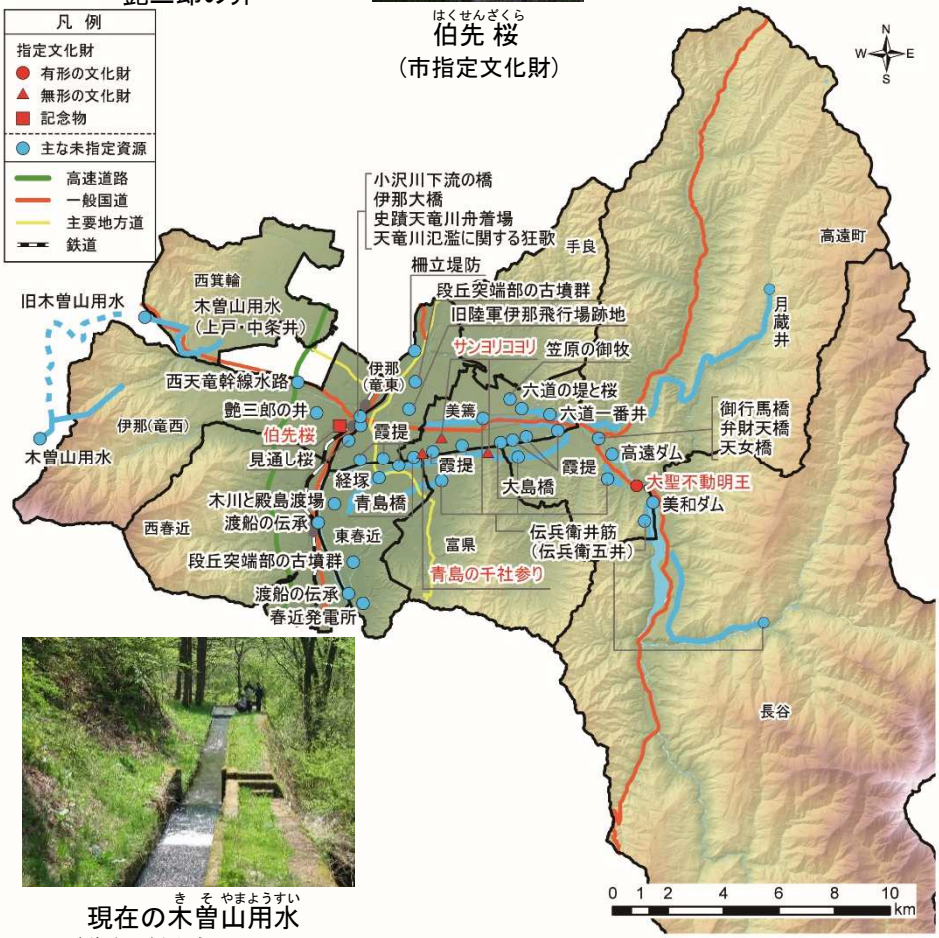


図. 構成資源の位置

美篶の段丘林

大聖不動明王（勝間常盤橋）
（市指定文化財）

現在の木曽山用水
（上戸・中条井）の水路

霞堤

見通し桜

木川跡

車屋の経塚

ざざ虫取り

西春近より河岸段丘を望む

伝兵衛井筋

６－２　関連文化財群５の保存・活用に関する課題

・河川に密接に関わる資源が多いほか、維持管理の主体が国、県、企業や団体など、多岐にわたります。各種団体と連携しながら保存・活用を進めることが求められます。
・災害に関わる地名、伝承、民俗文化財などが多くありますが、過去の教訓を活かし、市民が安心安全な暮らしを続けるためには、これらの歴史文化資源を確実に伝えていく必要があります。
・開発行為などにより、段丘上にある戦争関連遺跡や遺構の破壊が懸念（けねん）されます。

６－３　関連文化財群５の保存・活用に関する方針

・一体となった保存・活用が進むように、各種団体や組織との連携体制の構築を目指します。
・災害に関わる歴史文化資源は、防災施策に反映させるなど、過去の教訓を未来に活かす取組を進めます。
・戦争関連遺跡などの保存・活用に向けて、残存遺構のほか、戦争資料を把握する取組を進めます。

６－４　関連文化財群５の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
群５-１	旧陸軍伊那飛行場跡地の保護	旧陸軍伊那飛行場跡地を戦争遺跡として保護し、発掘調査を行う。	新規	■	■		○	○	○	◎教生	市費
群５-２ (措置33 再掲)	歴史文化資源関係団体懇談会の実施	歴史文化資源の保存・活用に関わる団体組織同士をつなぐ懇談会を開催する。	新規	■	■	■	○	◎	○	○教生	市費
群５-３ (措置39 再掲)	地名調査成果の活用	地名調査によって把握された災害地名などを防災計画や防災施策に反映する。	継続	■						◎総務	市費

（本表は、第７章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第７章の措置番号とともに整理しています。）

第９章　地域区分と保存活用重点区域の設定と方針

市内には、全国から注目される歴史文化資源や、特定のエリアに歴史文化資源が集まっている場所があります。こうした場所の中から、特に力を入れて取り組む所を決めて「保存活用重点区域」とします。

１　保存活用重点区域の設定と保存・活用の方針

それぞれのエリアをなぜ「保存活用重点区域」とするのか、区域内の歴史文化資源の様子と、守り、使っていくためには、どのような問題があるのかを整理しました。そして、問題を解決するために何をしたらよいのかを考えます。

第６章第４節において歴史文化資源を保存・活用するための地域区分を「伊那地域（旧伊那市）」、「高遠町地域（旧高遠町）」、「長谷地域（旧長谷村）」の３地域に分けましたが、３地域の中には、それぞれに重要な歴史文化資源が集中する区域があります。保存・活用事業を効果的に進めるため、これらの区域を「保存活用重点区域」として保存・活用を重点的に進めていく区域とします。ここで設定する保存活用重点区域は、文化庁が示す「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」（令和５年３月）における「文化財保存活用区域」にあたるものです。

保存活用重点区域の設定に際しては、以下の観点を考慮しました。

① 特定の歴史文化資源が集中し、市民による歴史文化資源の保存・活用が進んでいる区域。また、保存・活用が進むことが期待される区域。
② 指定等文化財が集中していることに加えて、中心となる歴史文化資源を核として、広く文化的な空間を創出できる環境がある区域。
③ 市民が地域の伝統的な活動や行事・祭礼などを執り行うだけでなく、地域学習や観光振興などの目的で利活用することを想定した区域。
④ 保存のための取組が、早急に必要とされる歴史文化資源が集中的に存在している区域。

２　伊那地域の保存活用重点区域

２－１　伊那地域の重点区域１

伊那(竜西)・伊那(竜東)・富県・東春近・西春近地域の古墳群

(1)区域の概要

かつて、伊那市域には、上伊那の古墳の６割が集中していました。しかしその後、戦後の開発などで古墳の破壊が進んでしまいました。それでも現在伊那市には約 90 基の古墳が遺っています。

その中でも、伊那(竜東)・東春近地域の天竜川左岸段丘上には、70 基以上の古墳が南北にわたり良好な保存状態で分布し、築造当初の様子をそのままに伝えています。数々の古墳が段丘上の眺めの良い場所に並ぶ姿は、壮観な景色です。また、市内でこれまで発掘調査された古墳が数少ない中、伊那(竜西)地域・富県地域には、古墳時代の出土資料が豊富に遺っています。

平成 27 年(2015 年)には、地元小学校の児童達が東春近地域にある老松場古墳群の中で前方後円墳を発見し、その後の大学研究室の調査により南信地方では最古級、長野県内でも比較的古い前方後円墳であることが判明しました。また、この老松場古墳群の中の円墳の発掘調査によって、これまで古墳時代後期以降の築造とされていた古墳が、古墳時代中期に造られたものと分かりました。

多くの古墳が存在する伊那市域でしたが、戦後に発掘調査された古墳は４基のみで、これまでの資料だけでは、伊那市の古墳時代を通史的に述べることはできませんでした。しかし、近年の調査によって、少しずつ市域の古墳時代解明の材料がそろいつつあり、また市域の古墳築造年代の見直しの必要性も出てきました。

(2)区域内の歴史文化資源

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が存在する地域	歴史文化資源の概要
伊勢並古墳群 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)西町	３基の古墳からなる古墳群。狐塚南古墳からは市指定有形文化財の、金メッキされた馬の装飾品(杏葉)が出土。八人塚古墳では、２か所に側室を持つ横穴式石室がみつかった。
【市】杏葉 〈有形・考古資料〉	伊那(竜西)西町	狐塚南古墳出土、金メッキされた素晴らしい馬具(馬の装飾品)。
福島・野底・上牧・古町古墳群 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)	伊那(竜東)地域、天竜川左岸段丘上に所在する古墳群。帆立貝形古墳、大型の円墳、低墳丘の円墳で構成される。上牧古墳群を見上げる段丘の下に、古墳時代の住居址２軒がみつかった柴垣外遺跡があり、古墳群下に集落が広がっていたことがわかる。
福地古墳群と出土品 〈記念物・遺跡〉	富県北福地・南福地	上伊那唯一の方墳や、馬の生産に関わった人々の古墳群。現在は壊されてなくなってしまった如来堂古墳からは、長野県内で最古級の馬具(轡)が出土しており、伊那・飯田に県内で最も早く、馬の文化が入ってきたことがわかる。

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域	歴史文化資源の概要
天神山古墳 〈記念物・遺跡〉	美篶笠原	明治 32 年(1899 年)、美篶村の人々が石を取るために掘削した際に、偶然に発見された古墳。石室の中には被葬者の骨のほか、直刀、鉄鏃、メノウの勾玉、須恵器、土師器などが出土した。地元住民により毎年５月に、供養が行われている。
手良の古墳群と十三塚 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)手良	手良地域には、すでに破壊されてしまった古墳も多いが、新たに確認できた古墳(塚)２基と、林の中に 10 基からなる十三塚がある。
老松場古墳群 〈記念物・遺跡〉	東春近中組	８基の古墳からなる古墳群。地元有志が公園整備をする中で、東春近小学校児童達が前方後円墳を新たに発見した。長野県の古墳時代に新たな１ページを加えた。
東春近の古墳群 〈記念物・遺跡〉	東春近	天竜川左岸の段丘先端には、古墳が多数造られた。眼下を一望できる段丘上は、支配者の墓地にふさわしい場所である。未だ発見されていない古墳時代の集落が、段丘下で発見される可能性が高い。
東春近の十三塚 〈記念物・遺跡〉	東春近	昭和 47 年(1972 年)刊行の『東春近村誌』に載っていたが、その後、忘れさられていた遺跡。72 基の塚を再確認した。用途不明の十三塚の貴重な事例が増えたことで、今後の研究に期待できる。
西春近の古墳群 〈記念物・遺跡〉	西春近	白沢古墳群では東西に４基の古墳が並ぶ。そのうち２基は大正時代に調査され、１基は中央自動車道の工事の際に調査がされた。発掘調査の事例が少ない市内古墳の中で、唯一、その全貌がわかる古墳群。
白沢古墳群出土品 〈有形・考古資料〉	西春近	大正 14 年(1925 年)に発掘調査された鎮護塚東古墳からは、長大な鉄刀、碧玉製の勾玉や管玉、水晶製の勾玉が出土している。昭和 47 年(1972 年)に発掘調査された名廻東古墳からは、鉄刀、鉄鏃、金環、須恵器、土師器、紡錘車が出土している。古墳時代の資料が少ない伊那市における、貴重な出土品。

(3)保存・活用の課題

この区域では、近年の古墳分布調査により新発見された古墳や、中世の遺構(いこう)である十三塚(じゅうさんづか)(旗塚(はたづか))が新たに 70 基以上、存在することが確認できました。しかし、これらの歴史文化資源が集中する地域として、その全体像や価値が、地元を含め市民には周知されていません。また、周知がなされていないことから、損壊(そんかい)の危険があります。

宮ノ上古墳群(みやのうえこふんぐん) 分布調査の様子

(4)保存・活用の方針

・古墳群の周知

古墳の破壊を防ぐため、分布調査や測量調査を行い、その結果を文化財地図やパンフレットにまとめて公表したり、古墳群ごとに説明看板を設置したりするなど周知に努めます。

また、これまで埋蔵文化財包蔵地となっていなかった十三塚も、調査・研究を行い、成果を周知していきます。

・展示による情報公開、発信

伊那市創造館や公民館に、古墳時代の展示スペースを設け、最新の調査成果や情報の公開、発信に努めていきます。

伊那市創造館で行われた
古墳の特別展示

・現地公開

古墳群を周辺環境と一体的な景観として捉えて、段丘崖や山の自然環境と歴史景観を総合的に保存・活用するとともに、地域の魅力として発信して、地域全体の歴史の理解が深まるような現地公開を進めていきます。

老松場古墳群　現地説明会の様子

(5)区域内の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
伊那1-1	古墳分布調査	市内古墳の分布調査、測量調査を実施する。	継続	■					○	◎教生	市費
伊那1-2	古墳群の映像記録作成と公開	古墳群の立地や景観をドローンで広範囲に撮影、記録し、データをWeb公開する。	新規	■	■	■				◎教生	市費
伊那1-3	古墳紹介マップの作成	点在する古墳群の一体的な活用を進めるため、概要や見どころや周遊ルートを紹介したマップなどを作成し、Web公開や市内施設で配布する。	新規		■	■		○		◎教生	市費
伊那1-4	古墳群への案内板、説明板設置	古墳群の内容や古墳の位置を記した案内板や説明板を設置する。	継続	■	■	■	○	○		◎教生	市費

２－２　伊那地域の重点区域２

伊那(竜西)・伊那(竜東)地域の近現代の文化財群

(１)区域の概要

伊那市域には、近代以降に発展を遂げ、かつての伊那町の中心となった伊那(竜西)地域の坂下区入舟、荒井区通り町や、江戸時代からの街道筋として近代以降も発展を続けた伊那(竜東)地域の中央区本通り(古町)一帯には、近現代の町の発展に伴う歴史文化資源が数多く存在します。

天竜川と並行して通る街道・鉄道沿いに形成された南北 2.5 kmの中心市街地の中央に位置する荒井区にある商店街「通り町」には、昭和 24 年(1949 年)の大火を契機に建てられた看板建築が建ち並びます。文化の中心としても栄えたこの区域には、看板建築の町並みの周辺に、大正２年(1913 年)に建てられた映画館の旭座や、昭和５年(1930 年)に建てられた旧上伊那図書館など、町の発展とともに歩んできた近代建築が良好な状態で遺っています。また、中央区本通り(古町)一帯にも昭和 30 年代に建てられた看板建築が遺っており、市街地再開発によって失われた近代建築が多い中、この区域の町並みは貴重な存在です。

社会環境の変化に伴って客離れが進み、現在は商店街の活性化が地域の課題となっていますが、通り町ではレトロな町並みを活かしたまちづくりの取組が、地域を挙げて行われています。

この区域には昭和 25 年(1950 年)以降変わらない商店街の懐かしい町並みを中心に、伊那電気鉄道入舟駅遺構や天竜川舟着場など、近現代の歴史文化資源が多数遺っています。また、街の発展とともに人々の胃袋を満たしたローメン、ソースカツ丼、馬刺し、おたぐり、昆虫食を提供する店舗も多く、伊那市の特色ある食文化を伝える場所にもなっています。

通り町の王冠ネオン
(平成元年(1989 年))

道路拡幅後の中央区古町の看板建築(昭和 30 年(1955 年))

(2)区域内の歴史文化資源

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域	歴史文化資源の概要
入舟の看板建築 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)坂下区	明治 45 年(1912 年)、伊那電気鉄道の伊那北、入舟、伊那町駅の開業で、町の繁華街は入舟に移動した。市内で最も古い、昭和 9 年(1934 年)に建てられた看板建築が遺る。
天竜川舟着場跡 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)坂下区	天竜川では江戸時代文政年間から明治時代末まで、諏訪から浜松の掛塚まで 210km を結ぶ通船が活躍した。その舟着場の跡が遺されている。
伊那電気鉄道(飯田線) 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)・ 西春近	明治時代以降の伊那町の発展を支えた鉄道で、昭和 18 年(1943 年)に飯田線となり、現在は JR 飯田線になっている。
伊那電気鉄道入舟駅遺構 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)坂下区	伊那市駅から伊那北駅の中間に、昭和 18 年(1943 年)まであった入舟駅のホームや階段の跡が遺されている。
通り町の看板建築 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井区	昭和 18 年(1943 年)の入舟駅廃止とともに、町の中心地は伊那町駅に近い通り町に移る。昭和 24 年(1949 年)の大火の後、火災に強い看板建築に通り町商店街は建て替えられた。現在も昭和 25 年から 27 年(1950 年から 1962 年)の看板建築が遺る。
【市】旧上伊那図書館 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井	製糸業で富を築いた武井覚太郎の寄付で、昭和 5 年(1930 年)に建てられた建物。鉄筋コンクリートを用いた近代建築。上伊那の教育文化の中心地となった。
古町の看板建築 〈有形・建造物〉	伊那(竜東)中央区	古町(中央区の本通り)は、昭和 32 年から 37 年(1957 年から 1962 年)にかけて行われた、都市計画事業により道路が広げられ、商店の建て替えの際に、その多くが看板建築となった。現在も銅板葺きの看板建築が遺っている。
伊那旭座 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井区	大正 2 年(1913 年)竣工の木造建築であり、全国でも 9 軒しかない希少な木造映画館の一つ。昭和初期まで芝居興行も行っていたため、その名残のステージと 2 階の観覧席が遺る。
ローメン 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	昭和 30 年(1955 年)頃に生まれた蒸し麺と羊肉、野菜を炒めた食べ物で、市民に愛されるご当地グルメ。
ソースかつ丼 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	ご飯の上に、ソースがしみこんだ豚カツとキャベツがのったかつ丼は、戦後、伊那町の飲食店で親しまれ、地域の名物になっている。
馬刺し、おたぐり 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	馬が身近だった伊那では、馬刺しや馬のもつ(腸)を煮込んだおたぐりが食べられており、馬刺しは赤身が好まれる。
昆虫食 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	蜂の子、イナゴ、ザザムシなど、貴重な珍味として食する。伊那市の特色ある食文化となっている。

(3)保存・活用の課題

この区域では、建物自体の老朽化に加え、利用客の減少、経営者の高齢化、後継者の不在といった商店街が抱える課題が、建物の保存に大きな影響をもたらします。近年、店舗の閉店に伴い、商店街の中心的存在であった建物が取り壊されるなど、個別建物の保存ばかりでなく、連続する町並みの保存も難しくなってきています。建物の保存と商店街の活性化は両輪であることから、商店街関係者と連携した保存・活用を進める必要があります。

区域内の建物の文化財価値を共有した上で保存・活用を進めるには、価値の把握(はあく)が必要ですが、区域内では建築調査がほとんど行われていません。保存・活用につなげるためにも、区域内にある建物の調査を進める必要があります。

(4)保存・活用の方針

・看板建築の周知

長野県内で唯一残る貴重な銅板葺(どうばんぶ)きの看板建築２軒をはじめ、町並みの成り立ちや看板建築という特色ある建物の存在を、多くの人に知ってもらうための周知を行います。

伊那市創造館で行われた
伊那まちの今昔を紹介する

・近現代建築の調査・研究の実施と成果の共有

看板建築やその他の特徴的な近現代建築の調査・研究を進め、得られた成果を市民の皆さんで共有します。

・商店街や構成する看板建築の利活用

看板建築が建ち並ぶ商店街の景観や建物を利用して行われる、まちおこしのイベントを積極的に支援します。また、町並みやその歴史見学会などを開催します。

バラで彩られた
通り町商店街の様子

・文化施設の連携

看板建築の町並み周辺には、伊那市創造館(旧上伊那図書館)、伊那市立伊那図書館、生涯学習センターいなっせ、長野県伊那文化会館といった文化施設が集中しています。これらの施設と連携して文化活動を行い、多くの人が行き交う町並みを目指します。

(5)区域内の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
伊那２-１	近現代建築調査	所有者の協力を得ながら、間取り図等の作成、外観・内部の記録調査を行う。	新規				○	○	○	◎教生	市費
伊那２-２	近現代建築に関する展示の実施	多くの人と町並みや建築の価値を共有するため、近代建築をとりあげた展示を実施する。	新規				○	○	○	◎教生	市費 団体等 個人
伊那２-３	まちおこしイベントへの支援	看板建築が建ち並ぶ商店街の景観や建物、特色ある食文化を利用して行われるまちおこしイベントを支援する。	継続					◎		◎商観	市費 企業 団体等
伊那２-４	町並みの歴史見学会の実施	商店街や構成する看板建築の利活用につなげるため、看板建築や周辺の近現代文化財群を巡る見学会を開催する。	継続				○	○		◎教生	市費

３　高遠町地域の保存活用重点区域

高遠地区(高遠城と城下町周辺)

(1)区域の概要

高遠町地域は、平成の市町村合併以前の旧高遠町の町域で、地域内は５つの行政区に分かれています。そのうちの高遠地域(西高遠・東高遠)は高遠城とその城下町を基盤として発展した地域です。中世以来の門前町に始まり、戦国時代以降は高遠城を中心としたまちづくりが行われました。物資や文化の集積・中継地となった城下町を拠点に各地に向かう街道が走り、街道筋(かいどうすじ)にも多くの歴史文化資源が見られます。近代以降は旧城下町を中心に市街地が形成され、近年には城下町の周辺部に配置された寺社や街道筋の石造文化財を活かした観光施策のほか、城下の面影を活かした街路整備(がいろせいび)事業が進められるなど、城下町ならではの地域特性を活かしたまちづくりが進められてきた地域です。

また、明治初期に誕生した高遠公園(高遠城址公園)は、長い歴史の中で桜の名所として多くの市民や観光客に親しまれてきました。桜もまた、高遠町地域にはじまり、伊那市全域にわたり、地域づくりの核となった歴史文化資源です。

(2)区域内の歴史文化資源

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	**歴史文化資源が存在する地域**	**歴史文化資源の概要**
【市】鉾持神社本殿・赤門・透かし塀 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下の入口付近にあり、高遠城の守護神として代々領主の篤い信仰を受けた。拝殿内にある本殿は、江戸時代中期に建てられたもの。
【市】商家池上家 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下で醤油や酢の醸造販売、小間物販売などを行い、町役人も務めた池上家の住宅。2 階建、切妻造りの町家建築。伊那市民俗資料館として公開されている。
旧中村家住宅 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下町の西の入口付近にある町家で、江戸時代中期頃に建てられたものとみられる。建物内に沢水が引き込まれている。
御行馬橋・弁財天橋・天女橋 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	高遠城下にある代表的な橋で、三峰川や藤沢川に架けられている。江戸時代から何度も架け替えられながら、現在も身近な橋として使われている。
読書楼 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	天保期(1830 年～1843 年)以前の江戸後期に建てられた中級武士住宅で、明治時代には私塾としても使われた。
【市】満光寺鐘楼門 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	高遠藩主内藤家の菩提寺・満光寺の山門で、上層には梵鐘が吊るされている。江戸時代中期に三河の大工、菅沼定次が手掛けた。
【市】満光寺阿弥陀如来立像 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	満光寺の本尊は阿弥陀如来で、鎌倉時代の慶派の仏師による作と伝えられる。像高 78 ㎝で、江戸時代に京都の仏師の手により、修復されたと伝わる。
【市】五輪塔　保科左源太の墓石 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	寛永４年(1627 年)に亡くなった高遠藩主保科正光の養子、保科左源太の墓が満光寺墓地にある。笠が小さく、水輪は大きく太鼓型で、江戸時代初期の形式を伝えている。

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が存在する地域	歴史文化資源の概要
【国】紙本墨画中観音左右竜虎図 〈有形・絵画〉	高遠町西高遠	建福寺に伝わる三幅対の大幅で、江戸時代の絵師、狩野興以が描いた墨絵。中央に観音菩薩、左右に竜図、虎図を配する。
【市】建福寺石仏群 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	江戸時代中期に活躍した石工、守屋貞治が刻んだ石仏で、建福寺には最高傑作の願王地蔵や西国三十三所観音などがある。
【市】建福寺仏足跡 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	お釈迦様の足裏の形を刻んだもので、天保６年(1835 年)に伊勢国金剛證寺のものを写し建てられた。
【市】建福寺文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠	戦国時代から江戸時代初期の古文書 14 点が、２巻にまとめられている。武田勝頼が発給した文書には、寺の課役や周辺に住む人々の課役について記されている。
諏訪御料人の墓 〈記念物・遺跡〉	高遠町西高遠	武田晴信(信玄)の側室となって勝頼を産んだ諏訪氏の姫の墓。建福寺にあり、高遠城主時代の勝頼が法要を行ったと伝えられる。
【市】六角観音供養塔 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	旧相頓寺の境内にある六観音の名号塔。延享４年(1747 年)に水上村久左衛門が造った。
【市】蕗原拾葉 〈有形・典籍〉	高遠町西高遠 (かつては東高遠)	高遠藩の儒学者であった中村元恒、元起父子が編纂した地誌など、全 150 巻に及ぶ郷土文献の集大成で、高遠町図書館に所蔵されている。
【市】希月舎文庫 〈有形・典籍〉	高遠町西高遠 (かつては東高遠)	阪本天山や中村元恒、中村元起父子の自著や写本などで、506 冊を数える。現在は高遠町図書館に所蔵されている。
【市】文献通考 〈有形・典籍〉	高遠町西高遠 (かつては東高遠)	古代から宋時代までの中国の法律や官制、経済、学校制度などを解説した書で、明から清時代に中国から輸入された漢籍。高遠町図書館に所蔵されている。
進徳図書 〈有形・典籍〉	高遠町西高遠 (かつては東高遠)	藩校進徳館で利用していた漢籍や和書、約 6,300 冊が高遠町図書館に収蔵されている。
池上家文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠	商家池上家に伝わった江戸時代の文書群で、高遠藩の城下町政策や町方の状況が分かる好資料。高遠町図書館に収蔵されている。
内藤家文書等の武家文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠 東高遠	内藤家文書は、高遠藩主内藤家に伝わった大名家文書で、高遠町図書館に収蔵されている。岩崎家資料や馬島家資料等の武家文書が高遠町図書館や高遠町歴史博物館に収蔵されているほか、地域にも多数の文書が伝わっている。
石工関係文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠 東高遠	高遠町図書館所蔵の北原平蔵家資料の中には、石工たちが藩へ提出した文書が多く遺されている。また、高遠町歴史博物館では、守屋貞治が記した『石仏菩薩細工』や、『旅日記』を所蔵しており、高遠石工研究に利用されている。
【市】高遠ばやし 〈無形文化財・音楽〉	高遠町西高遠	鉾持神社の祭礼の際、町内を巡行するお囃子で、江戸時代から受け継がれている。町内ごとに演奏する曲目が異なる。
【市】仲町屋台 〈民俗・有形の民俗文化財〉	高遠町東高遠 (かつては西高遠)	鉾持神社の祭礼の際、町を練り歩く山車で、文政５年(1822 年)に造られた。立川流の彫刻が施されている。現在は高遠町歴史博物館に展示されている。
二十二夜様のまつり 〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町西高遠	島畑にある二十二夜様と呼ばれる石仏群は、江戸時代から月待信仰の対象となっており、今でも旧暦７月 22 日の夜にお祭りが行われている。
相生町枡形 〈記念物・遺跡〉	高遠町西高遠	城下町の南の出入口で、江戸時代末期に三峰川左岸に多町、相生町の２町が建設された際に設けられた。
町方十町の地名 〈地名〉	高遠町西高遠	城下には町方十町と呼ばれる 10 の町があり、江戸時代末期に２つの町が増えてからは 12 町となった。各町名は現在もそのまま使われている。
【国】高遠城跡 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	戦国時代の平山城で、高遠氏の城を武田信玄が改修した。江戸時代以降は高遠藩主の居城となった。
【県】高遠のコヒガンザクラ樹林 〈記念物・植物〉	高遠町東高遠	高遠城跡内に、タカトオコヒガンザクラという同一種が、約 1,500 本の樹林を形成している。明治時代から植樹を繰り返し、現在の景観を生み出した。
【国】進徳館 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	城内三ノ丸に設けられた高遠藩校の建物遺構で、江戸時代の建物のうち、半分の規模が遺されている。
【国登録】高遠閣 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	昭和 11 年(1936 年)、集会や休憩、宴会のための施設として、高遠城跡内に建てられた和風建築。

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が存在する地域	歴史文化資源の概要
【県】旧馬島家住宅 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	藩に仕えた眼科医の馬島氏の住宅で江戸時代後期の建築とされる。高遠藩の上位 30 人に入るクラスの武士住宅。伊那市民俗資料館として公開されている。
【市】東高遠諏訪社 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	一間社流造で、向拝と本殿の側面には、精巧な彫刻のある蟇股が桁を支えている。桃山時代後期から江戸時代初期の建築様式を残している。
【市】中村不折筆 **「卞和璞を抱いて泣く」** 〈有形・絵画〉	高遠町東高遠	江戸で生まれ、両親の郷里で育った中村不折が、中国の故事を題材として描いた洋画の大作。信州高遠美術館に収蔵されている。
【市】池上秀畝 **「薄暮落雁」・「古城驟雨」** 〈有形・絵画〉	高遠町東高遠	池上秀畝の作品で信州高遠美術館に収蔵されている。「薄暮落雁」には暮れゆく芦辺と雁の風景が描かれ、「古城の驟雨」には周囲が白くなるほど強く打ち付ける雨の中に、青々とした樹々の合間を縫って飛ぶ白鷺が描かれている。
【市】樹林寺千手十一面夕顔 **観世音菩薩立像** 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	樹林寺の本尊で、江戸時代初期の高遠藩主、保科正光の命を受けて造られた。夕顔の茎の上に立つ姿が特徴的。
【県】梵鐘 〈有形・工芸品〉	高遠町東高遠	織田信忠の軍が高遠城を攻めるために進軍してきた際、飯田の開善寺から奪い、引きずってきた鐘。桂泉院に伝わる。
【市】准胎観世音 延命地蔵尊 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	桂泉院の参道両脇にある守屋貞治作の石仏。文政 3 年(1820 年)に造られた。山門から境内に向かって右が准胎観世音、左が延命地蔵尊。
【市】五聖像 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	進徳館には、儒学の祖である孔子と 4 名の弟子を祀る聖廟があり、領内の村人が献上した五聖像が祀られていた。現在は高遠町歴史博物館に展示されている。
【市】阪本天山の筆跡 〈有形・書跡〉	高遠町東高遠	高遠藩学の祖といわれる儒学者であり砲術家の阪本天山が、高遠を離れる際に書いた詩。高遠町歴史博物館に所蔵されている。
【市】田山花袋筆屏風 〈有形・書跡〉	高遠町東高遠	大正時代、絵島の墓を探すために高遠を訪れた田山花袋が、道中で読んだ歌が書かれている。高遠町歴史博物館に所蔵されている。
石破元祖之巻 〈有形・古文書〉	高遠町東高遠	高遠石工の職業由来を記した免許状で、源頼朝に認められたと語られている。高遠石工はこの由来書を示しながら活動していた。
【市】高藩探勝 〈有形・歴史資料〉	高遠町東高遠	高遠藩主に献上するため、寛保 3 年(1743 年)に作られた絵巻で、領内 52 か所の名所や人々の生活風景が描かれている。高遠町歴史博物館の所蔵資料。
高遠城絵図 〈有形・歴史資料〉	高遠町東高遠　ほか	江戸時代の高遠城や周辺の武家屋敷を描いた絵図は、写しも含めて 100 点以上伝わっている。高遠町歴史博物館では、複数の高遠城図を展示公開している。
絵島囲み屋敷 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	江戸城大奥の老中で、風紀を乱したとして罪に問われ、高遠藩内藤家の預かりとなった絵島が囲われていた建物を、絵図を元に復元したもの。
【市】伊澤修二生家 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	進徳館で学んだ後、東京やアメリカで学び、音楽教育をはじめとする近代教育の基礎を作った伊澤修二の生家。下級武士の住宅の間取りをよく示している。
峰山寺鳥居氏の墓 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	高遠城を見下ろす位置にある峰山寺の境内墓地には、江戸時代初期の高遠藩主鳥居忠春と、忠春の母の墓である大型の五輪塔がある。
進徳の森 〈記念物・植物〉	高遠町東高遠	進徳館で学び、ドイツへ留学して林学を極めた中村弥六が、外国産の樹を峰山寺墓地の裏山に植え、森を造った。林業遺産に認定されている。
「駒ヶ窪」 〈地名〉	高遠町東高遠	月蔵山の後ろの山にあり、高遠城の戦いの際に、地域の人たちが逃げ隠れた場所と伝えられる。
孤軍高遠城 〈無形文化財〉	高遠町西高遠 東高遠	昭和 41 年(1966 年)、高遠城落城の思いを伝えたいという高遠町の人々の願いにより作られた曲で、舞踊として親しまれている。
高遠そば 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	高遠町西高遠 東高遠　ほか	江戸時代、毎年将軍に献上された高遠そばは、辛味大根のおろし汁と焼味噌で食べるのが高遠流。江戸時代初期の高遠藩主保科正之が会津にも伝えた。
庚申塔 〈有形・石造文化財〉	高遠町西高遠 東高遠　ほか	民間信仰の１つ、庚申信仰に関わるもので、庚申の年に石塔を建て、村の安全を祈った。各集落の村境や辻に建てられている。

(3)保存・活用の課題

高遠城跡二ノ丸の土塁と堀

高遠町地域は過疎地域に指定されており、年少人口と生産年齢人口が減少する一方で、老齢人口が増加しており、地域内に数多く存在する歴史文化資源の保存や将来への継承が課題となっています。

区域内の中心的な文化財である高遠城跡は、国史跡指定から50年を経過しましたが、指定範囲内に長野県天然記念物「高遠のコヒガンザクラ樹林」が存在しており、城郭として分かりやすい遺構整備が進んでいません。遺構の保護とともに、市民や訪れた人が高遠城跡の文化財価値を理解できるような取組が求められています。

伊那市立高遠町図書館や伊那市立高遠町歴史博物館などの施設に大量に収蔵されている古文書の活用を望む声がありますが、解読できる人が少なく、難しいというイメージが強いため、愛好者など一部の人々による活用に留まっています。市民全体の財産として、裾野の広い活用が求められています。

また、桜の名所として、かつては４月の観桜期に約 40 万人が訪れた高遠城跡も、近年の入園者は約 10～15 万人で推移しており、桜による誘客は頭打ちになっています。史跡指定地の保存は言うまでもなく、周辺地域の歴史環境も一体的に保存し、地域内に立地する伊那市立高遠町歴史博物館や信州高遠美術館、伊那市民俗資料館などを中心に、歴史的背景を活かした新たな地域資源の発信や観光振興にも取り組む必要があります。

(4)保存・活用の方針

ボランティアガイドによる
史跡案内の様子

・高遠城跡の計画的な整備・活用

地域形成の中核となった国史跡高遠城跡の保存活用計画、整備計画を策定し、計画的な整備と保存・活用を進めます。

・歴史文化発信拠点施設の充実・市民と一体となった取組

歴史文化を発信する施設として、博物館施設(伊那市立高遠町歴史博物館、信州高遠美術館、伊那市民俗資料館)の機能を充実させ、特に伊那市立高遠町歴史博物館を拠点施設として活用します。

講座などを通して育成した博物館サポーターやボランティア団体と連携しながら、歴史文化資源の公開展示、普及活動に取り組みます。

高遠城跡内堀から見る
満開の桜

・自然や観光と融合した歴史文化資源の活用

高遠城跡内の県天然記念物「高遠のコヒガンザクラ樹林」の全国的な知名度を活かし、積極的な広報周知や魅力的な誘導策を展開することで、より多くの人が地域内の歴史文化に触れる機会を創出します。

・デジタル技術を取り入れた保存と活用

文化財地図などで歴史文化資源の位置や内容を明らかにし、ＡＲ(拡張現実)・ＶＲ(仮想現実)などのデジタル技術を積極的に取り入れながら、観光施策と連携した活用を図ります。

地域内の歴史文化資源の保存・活用を進めるため、デジタルアーカイブ化事業を進めます。

・高遠石工や石造文化財に関わる調査・活用・保存

高遠石工のふるさととして、高遠石工に関する情報を広く集めて発信するとともに、所有者や地域住民との協働により、維持管理・継承ができるよう努めます。

・寺社や無形文化財の保存・継承とコミュニティの活性化

寺社の継続的な維持管理や保存・活用の方法を検討するとともに、寺社の祭礼に伴う「高遠ばやし」などの無形文化財を、保存団体や地域の学校と連携しながら保存・継承に努め、地域コミュニティの活性化を図ります。

・公共施設での古文書の保存と活用

地域に伝わる古文書を収集し、多くの人が古文書を活用しやすい環境を整えるため、伊那市立高遠町図書館や伊那市立高遠町歴史博物館に収蔵されている古文書の整理やデジタル化、解読を進めます。また史料を題材にした魅力的な事業を企画実施するなど、活用につなげます。

ボランティアによる
古文書整理の様子

(5)区域内の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
高遠１ (措置９ 再掲)	高遠石工調査	市内外を問わず、高遠石工に関わる資料や石造物の把握を進める。	継続	■	■	■	○	○		◎教生	市費 団体費
高遠２ (措置10 再掲)	史跡高遠城跡遺構確認調査	史跡高遠城跡の整備事業の一環として、遺構確認調査を実施する。	新規		■	■			○	◎教生	国費 県費 市費
高遠３	古文書整理ボランティア活動	ボランティアにより、伊那市立高遠町図書館及び伊那市立高遠町歴史博物館収蔵の古文書の整理作業を進める。	継続	■	■	■	◎			○教生	団体等
高遠４ (措置27 再掲)	史跡高遠城跡整備事業	保存活用計画の策定、藩校進徳館修理、公有地化の推進などを実施する。	継続	■	■	■				◎教生	国費 県費 市費
高遠５	東高遠武家屋敷地区の歴史景観の保全	武家屋敷エリアを埋蔵文化財包蔵地に指定し、遺跡として保護を図る。	新規	■			○			◎教生	市費
高遠６	初級古文書教室の開催	伊那市立高遠町歴史博物館や伊那市立高遠町図書館において、古文書を読んでみたい入門者を対象とした講座を実施し、新たな解読者を育てていく。	継続	■	■	■	○	○		◎教生	市費

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
高遠７	高遠さくら祭り、もみじまつり	国史跡高遠城跡及び県指定天然記念物高遠のコヒガンザクラ樹林を活かした季節的イベントを実施し、地域への誘客促進を図る。	継続				○	○		◎商観	市費 個人
高遠８	史跡案内ガイド、 観光ガイドの活動支援	史跡案内ガイド「ふきのとう」や観光案内ガイド「いーなガイドの会」の活動に必要な資料や、場所の提供を行う。	継続					○		◎教生	市費
高遠９ (措置56 再掲)	古文書保存活用事業	古文書などの文献史料のデジタル化(撮影・書誌情報のデータベース化)を行い、AI解読ワークショップや古文書を題材に使ったイベントを行うなど活用を図る。	継続				○	○	○	◎教生	企業 市費
高遠10	ＶＲ高遠城の戦いの公開	ＶＲ(仮想現実)を用いて戦国時代の高遠城の戦いを追体験できるようにする。	継続				○			◎教生	市費
高遠11	スマホ・タブレット用アプリ 「高遠ぶらり」の活用	古地図と現在地をリンクさせたスマホ、タブレット用アプリ「高遠ぶらり」利用し、多くの人に高遠城や周辺の歴史散策を楽しんでもらえるようにする。	継続				○	◎		○教生	団体等

（本表は、第７章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第７章の措置番号とともに整理しています。）

４　長谷地域の保存活用重点区域

中尾地区

(1)区域の概要

総面積の 96%が森林と原野を占める長谷地域には、九州と本州を大きく二分する大断層、中央構造線が南北に通っています。南アルプス一帯は、かつての海底が隆起し山脈となったことで、貴重な地層や地形が見られ、そこで生まれた歴史や独自の文化が評価され、「南アルプスユネスコエコパーク」、「南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク」に認定されていますが、その中央構造線の谷が、古くから人々の行き交う道となり、後に東海地方と諏訪を結ぶ「秋葉街道」となりました。縄文時代、塩や黒曜石が行き来したこの道沿いには大規模な集落が営まれ、発掘調査により「大形把手付土器」など長野県宝３点を含む縄文土器が出土しています。また、江戸時代になると秋葉参りの人々で街道沿いは賑わい、多くの歴史文化資源が育まれました。

この長谷地域の「秋葉街道」沿いにある中尾地区には、農村歌舞伎である「中尾歌舞伎」が伝わっています。明和４年(1767 年)、旅役者の一座が上中尾の山の神様を祀ってある神社の前宮で演じたのが始まりと言われ、その歌舞伎を真似て村人たちが行うようになりました。農村での娯楽として受け継がれてきた中尾歌舞伎ですが、太平洋戦争を機に公演を中断します。それから約 40 年後の昭和 61 年(1986 年)、中尾地区の青年たちが地元のお年寄りから指導を受けて復活させ、中尾歌舞伎保存会としての活動が始まり、現在に至ります。

(2)区域内の歴史文化資源

歴史文化資源 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が存在する地域	歴史文化資源の概要
【市】中尾歌舞伎 〈民俗・無形の民俗文化財〉	長谷中尾	江戸時代、旅芸人が伝えた歌舞伎を真似て、村人たちが行うようになった農村歌舞伎。
六歌仙の引き幕 〈民俗・有形の民俗文化財〉	長谷中尾	中尾歌舞伎に現存する、江戸時代の慶応元年(1865 年)から伝わる六歌仙の引き幕。
【市】中尾辻の石仏群 〈有形・石造文化財〉	長谷中尾	道祖神や庚申塔など約 30 基の石造物が集中している。馬頭観音や丸石道祖神、蚕玉神、佐倉宗五郎霊神などもある信仰の場。
中尾の神明社 〈有形・建造物〉	長谷中尾	長谷の他の地区では諏訪社を祀っているが、中尾地区だけは伊勢の神明宮より鎮守に移し、勧請した神明社を祀っている。
秋葉街道 〈記念物・遺跡〉	長谷中尾	古来より、様々な文化が運ばれてきた街道。中尾歌舞伎は、この秋葉街道を通った旅役者が歌舞伎を演じたことから始まった。

(3)保存・活用の課題

長谷地域も過疎地域に指定されており、高齢化や人口減に伴う担い手不足から、地域内に数多く存在する歴史文化資源の保存や将来への継承が課題となっています。

昭和 61 年に復活した中尾歌舞伎ですが、平成 28 年(2016 年) 2 月から平成 30 年(2018 年) 4 月までの 1 年半、保存会の人手不足などの理由で再び活動を休止した経過があります。

中尾歌舞伎に
参加する小学生

(4)保存・活用の方針

・活動継続のための取組

「中尾歌舞伎」の再開や地元の中学生がファンクラブを作るなど、次世代を巻き込んだ活動が展開されています。平成 30 年(2018 年) 7 月に、保存会の活動を支援する信州伊那中尾歌舞伎後援会が設立されました。今後もこの活動を継続させるため、後継者の育成について、保存会や後援会とともに検討していきます。

・情報発信

長谷公民館や南アルプス長谷ビジターセンターなどを利用してパネル展示を行い、市内外に広く情報を発信します。

中尾歌舞伎
化粧体験講座の様子

・公演のインターネット配信

道の駅南アルプスむら長谷、公民館などでのライブビューイング、YouTube など動画共有プラットフォームによる配信など、会場以外でも積極的に公開し、ファンを増やしていきます。

・関連する歴史文化資源や道具の活用

中尾歌舞伎に現存する江戸時代の慶応元年(1865 年)から伝わる六歌仙の引き幕や衣装、楽器、化粧道具などを展示・体験ツアーなどに積極的に活用していきます。また、周辺の歴史文化資源なども組み込んで、歌舞伎とその周辺も活用の場としていきます。

・農村歌舞伎を通じた他市町村との連携

他市町村の農村歌舞伎団体と交流を図ることで、情報交換や情報発信を行い、活動の一助としてもらいます。

中尾に伝わる六歌仙の引き幕

(5)区域内の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7～10	中期 R11～13	後期 R14～16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
長谷１	中尾歌舞伎の公開中継	中尾歌舞伎について、モバイル公民館によるパブリックビューイングを実施し、遠隔地でも観覧ができるようにする。	継続	■				◎		○ 教生	市費
長谷２	中尾歌舞伎のパネル展示実施	南アルプス長谷ビジターセンターや長谷公民館において、中尾歌舞伎のパネル展示を行い、多くの人にその魅力を伝える。	新規	■				○		◎ 教生	市費
長谷３	中尾歌舞伎定期公演の開催	地元の子ども達が興味を持って参加できる企画を取り入れながら、中尾座等を活用して定期的な公演を行い、確実に後世へ伝えていく。	継続	■	■	■	○	◎			団体等
長谷４	中尾歌舞伎体験講座の開催	中尾歌舞伎の魅力や公演を支える技を多くの人に伝えるため、歌舞伎の化粧体験などを開催し、観光ツアーに組み込む。	継続	■			○	◎		○ 教生	国費 市費 団体等
長谷５	中尾歌舞伎定期公演への中学生参加	長谷中学校生徒たちが、演者や会場運営のサポーターとして、中尾歌舞伎定期公演の開催に参加する。	継続	■	■	■		○	◎		市費

第１０章　歴史文化資源の保存・活用の推進体制

歴史文化資源を上手に使いながら、未来へ伝えていくために、伊那市が中心となり、地域の皆さんや企業、学校などと協力し合いながら、この計画を進めていきます。計画を進める上で、それぞれが受け持つ役割を説明します。

１　保存・活用に関わる主体とその役割

歴史文化資源を取り巻く環境は、社会環境の変化に伴い大きく変化しており、適切な保存・活用を図り、将来に伝えていくためには、地域社会全体での取組が必要となります。伊那市が中心となり、外部の行政機関、所有者、保存・活用に関わる各種団体や自治会、市民、地元企業、教育機関(小学校・中学校・高等学校・大学など)など、多様な関係者が連携し、それぞれの役割を果たしながら本計画を推進することが求められます。

(1)市の役割

伊那市において、歴史文化資源の保存・活用を主管するのは伊那市教育委員会生涯学習課（以下、「主管課」と表記）です。主管課が中心となり、外部の行政機関や所有者、各種団体や市民、地元企業、教育機関などと連携を図り、必要に応じて支援をしながら、本計画を推進します。そのために、本計画の作成にあたって立ち上げた「伊那市文化財保存活用地域計画作成協議会」を「伊那市文化財保存活用地域計画協議会」に移行し、協議会において関係者間で情報共有を行いながら、進捗の管理、計画変更、円滑な事業の実施に向けた調整を行います。

また、歴史文化資源の適切な保存・活用を進めるため、主管課や関係する博物館施設に学芸員資格を有し専門知識を持つ職員を配置し、人員体制の充実を図ります。

一方、主管課単独で歴史文化資源の保存・活用が推進できるものではありません。庁内関係部局と連携しながら、施策の調整と効率的な事業の推進を図ります。

(2) 市民の役割

市民一人ひとりが地域の歴史文化に関心を持つことが、歴史文化資源の保存・活用を進めるための第一歩です。様々な所で企画されるイベントや活動などに積極的に参加し、地域の歴史文化を知り、未来を考え、身近な歴史文化資源の保存・活用・継承に協力することが求められます。

(3) 所有者の役割

歴史文化資源の所有者の大半は、市内の個人や法人、区や自治会です。所有者は、行政や市民、各種団体、有識者・研究機関・教育機関などと関わりながら、今まで同様に適切な保存・管理、公開を行います。

(4)有識者・研究機関・教育機関の役割

歴史文化資源の調査・研究を行い、これらの成果を情報発信することで、市民の知的好奇心を支えるとともに、歴史文化資源のさらなる保存・活用につなげます。また、所有者や保存団体などに対して保存・活用、修理などに関する指導や助言を行うなど、関係者へのサポートが期待されます。

また、学校教育において、地域の歴史文化を学ぶ機会を設け、保存・活用に関わる人材の育成につなげます。

(5)各種団体・地元企業の役割

歴史文化資源を活かしたイベントの企画・運営など、歴史文化資源の保存・活用を通した地域活性化に取り組みます。また、他者が行う歴史文化資源の保存・活用に関わる取組に対する支援や協力が期待されます。

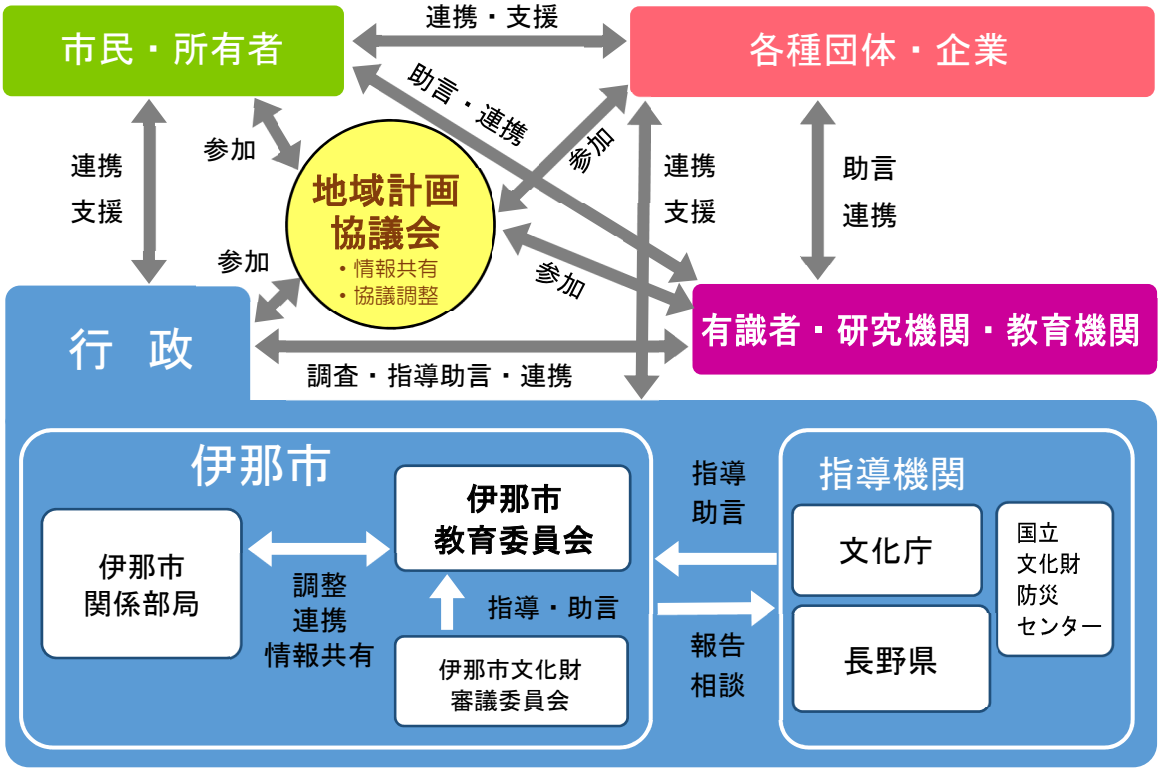


図. 歴史文化資源の保存・活用の推進体制

２　計画の推進体制

伊那市が主体となって行う取組は、主管課を中心に、庁内関連部局と連携しながら進めていきます。伊那市の組織体制、関係機関、主な関係団体は次のとおりです。

表　　歴史文化資源の保存・活用に関する伊那市の推進体制

伊那市　　令和6年4月1日時点

文化財保護主管係

組　織		文化財の保存・活用に関連する主な業務内容 （伊那市組織規則・伊那市教育委員会事務局組織規則より）	構 成
教育委員会			
生涯学習課	文化財係	文化財審議委員会 文化財の調査、保護、活用 文化財施設（旧井澤家住宅、伊澤修二生家、進徳館）の管理運営 史跡高遠城跡整備	職員７名 正規職員３名 うち学芸員資格を有し、文化財を専門とする職員２名（文献史学専門１名、考古学専門１名、） 会計年度任用職員４名
生涯学習課	高遠教育振興係	高遠町地域内の文化財の保護、活用　ほか	職員４名 正規職員４名 うち１名は文化財係との兼務 うち１名は公民館係との兼務
生涯学習課	長谷教育振興係	長谷地域内の文化財の保護、活用 収蔵展示施設の管理運営　　ほか	職員２名 正規職員１名 会計年度任用職員１名

庁内関連部局

組　織		文化財の保存・活用に関連する主な業務内容 （伊那市組織規則・伊那市教育委員会事務局組織規則より）	構 成
教育委員会			
学校教育課	学務係	学校の学級編成及び教育課程 教材、副読本、各種学習帳等の承認　ほか	職員５名 正規職員４名 うち１名は教育総務係との兼務 会計年度任用職員１名
学校教育課	教育総務係	学校の運営管理　ほか	職員７名 正規職員３名 会計年度任用職員４名
生涯学習課	生涯学習係	生涯学習の推進 まほら伊那市民大学 まほら伊那市民大学大学院　ほか	職員４名 正規職員２名 会計年度任用職員２名
生涯学習課	文化施設係	創造館、図書館、美術館、歴史博物館、民俗資料館の管理運営及び施設間の連絡調整 博物館協議会、図書館協議会、美術館協議会 講演会、講座、研究会等の開催 資料の収集、保管及び展示 調査、研究、統計及び報告　　ほか	職員48名 正規職員６名 会計年度任用職員43名
生涯学習課	公民館係	公民館の管理運営 生涯学習推進のために必要な設備、機材、資料の提供　　ほか	職員20名 正規職員10名 会計年度任用職員10名
市誌編さん室		伊那市誌の編さん 資料の収集、保管及び研究	職員11名 正規職員５名 うち２名は文化財係との兼務 うち２名は文化施設係との兼務 会計年度任用職員６名
総務部			
危機管理課	防災係	地域防災計画の管理 防災対策の企画調整 災害発生時の応急対応 自主防災組織の育成 防犯対策の企画調整　　ほか	職員４名 正規職員３名 会計年度任用職員１名

企画部			
企画政策課	企画政策係	市行政の総合企画、連絡調整 協働の推進 土地政策 広域行政　　ほか	職員６名 正規職員４名 会計年度任用職員２名
地域創造課	地域振興係	地域振興 過疎対策の推進　　ほか	職員14名 正規職員８名 会計年度任用職員６名
文化スポーツ部			
文化交流課	文化交流係	文化振興 友好都市との交流 生涯学習センター、防災コミュニティセンターの管理運営　ほか	職員14名 正規職員７名 うち２名は高遠教育振興係との兼務 うち１名は長谷教育振興係との兼務 会計年度任用職員７名
市民生活部			
生活環境課	環境政策係	環境基本計画 自然保護 環境教育　　ほか	職員２名 正規職員２名 うち１名は自然エネルギー推進係との兼務
農林部			
農政課	農地整備係	農道、用排水路、ため池の維持管理 農地、農業用施設の防災及び災害復旧 環境保全事業　　ほか	職員５名 正規職員４名 会計年度任用職員１名
50年の森林推進課	50年の森林推進係	保安林、治山及び治水 鳥獣保護、狩猟、有害鳥獣対策 地域材の利活用　ほか	職員９名 正規職員８名 うち１名は地域ブランド推進係との兼務 会計年度任用職員１名
商工観光部			
観光課	観光政策係	観光計画、施策の企画 観光の振興 広域観光の推進 観光情報の発信、収集 観光総務、統計、調査 伊那市観光協会との連携 観光資源の調査、保護、開発、美化 各種観光イベント開催、協力 他産業、他分野との連携 地域ブランドの推進　　ほか	職員２名 正規職員２名
観光課	観光施設係	観光施設の管理 観光施設の整備　　ほか	職員２名 正規職員２名
高遠商工観光課	高遠商工観光係	地場産業、伝統産業育成 観光の振興 観光資源の調査、保護、開発、美化 観光施設の整備計画 観光施設の管理 各種観光イベント開催、協力 観光情報の発信、収集 「日本で最も美しい村」連合 広域観光の推進　　ほか	職員４名 正規職員３名 会計年度任用職員１名
南アルプス課	エコパーク・ジオパーク推進係	エコパーク、ジオパークの推進 南アルプス世界自然遺産登録情報の収集	職員３名 正規職員１名 会計年度任用職員２名
南アルプス課	山岳環境係	観光の振興 観光資源の調査、保護、開発、美化 観光施設の整備計画 観光施設の管理 各種観光イベント開催、協力 観光情報の発信、収集 広域観光の推進　　ほか	職員４名 正規職員３名 会計年度任用職員１名
商工振興課	商業労政係	商業振興の企画及び調整 商店街活性化対策 その他商工業、労働雇用行政　　ほか	職員５名 正規職員４名 会計年度任用職員１名
建設部			
建設課	土木係	道路、河川、橋りょうの新設、改良 災害復旧　　ほか	職員４名 正規職員４名
建設課	維持係	道路、河川、橋りょうの維持修繕 道路河川の環境整備　　ほか	職員16名 正規職員３名 会計年度任用職員13名

建設部			
都市整備課	計画係	都市計画の調査及び策定 公園緑地の整備、維持管理 開発行為の調整、指導、助言 屋外広告物の表示、設置許可、取締り 景観行政団体に係る事務 景観形成の調査、企画、調整及び推進　　ほか	職員６名 正規職員４名 会計年度任用職員２名

伊那市管轄の関係機関

博物館等資料展示施設		
施設名	**業務内容**	**運営体制**
伊那市創造館	歴史、文化、民俗、自然科学、教育等に関する事業の実施 講演会、講座、観察会、研究会等の開催 実物、標本、模型、文献、写真等の資料収集、保管、展示 資料に関する専門的、技術的な調査研究及び教育普及活動 他の博物館や研究機関、学校等との連携　など	職員８名 正規職員２名 うち専門職員１名 会計年度任用職員６名 うち専門職員１名
伊那市立高遠町歴史博物館	市の歴史と文化に関する資料を収集し、保管し、展示する 資料の活用を通じ広く情報の発信と文化交流を図る	職員５名 正規職員１名（専門職員） 会計年度任用職員４名 うち専門職員１名
信州高遠美術館	美術に関する資料の収集、保管及び展示を行い、その教養、調査研究等に資する	職員５名 正規職員１名 会計年度任用職員４名 うち専門職員２名
伊那市民俗資料館 （旧池上家・旧馬島家・高遠なつかし館）	市にちなむ建物及び民俗資料を保存・活用し、一般に公開する	職員２名（会計年度任用職員） うち１名は高遠町歴史博物館長と兼務
伊那部宿旧井澤家住宅	旧井澤家住宅及び伊那部宿に係る資料等の保管、展示、調査、研究及び情報提供　など	指定管理者による管理運営
伊那市考古資料館	市内から出土した考古資料の展示、収蔵	予約による開館
長谷公民館（郷土資料室・戸台の化石資料室）	市内から出土した考古資料や化石等の収蔵および展示	長谷公民館による管理運営
南アルプス長谷ビジターセンター	南アルプスジオパークを始めとする長谷地域に関する展示や、山岳観光情報等を発信	伊那市による運営（観光案内）

条例・要綱・規則に基づく委員会・組織

名　称	**主な審議事項等**	**構　成**
文化財審議委員会	文化財の指定、保存及び活用又は指定の解除に関し、教育委員会の諮問に応じ、意見を述べる 文化財の指定、保存及び活用又は指定の解除のために必要な調査研究を行う	10名 歴史学1名、考古学3名、 地域文化2名、天然記念物2名、 民俗学1名、建築史1名
伊那市高遠城跡整備委員会	史跡高遠城跡の保存整備及び活用に関する事項 史跡高遠城跡に係る計画に関する事項 その他史跡高遠城跡に関し必要な事項	７名 日本中近世史１名、考古学２名、 造林学１名、造園１名、 建築史１名、郷土史１名

関係団体等

行政機関	
機関名	**主な連携内容**
文化庁	地域計画に関する指導・助言 国指定文化財の保存・活用に関する指導・助言
独立行政法人　国立文化財機構　文化財防災センター	文化財防災に関すること
長野県県民文化部　文化振興課	国指定、県指定の文化財の保存・活用に関する指導・助言 文化財パトロール、文化財防災、レスキューに関すること
長野県　上伊那地域振興局	歴史文化資源を活かした地域振興に関すること
長野県　伊那建設事務所	上伊那地域内における国県道や河川等の整備・管理に関すること
国土交通省　中部地方整備局　天竜川上流河川事務所	天竜川および三峰川の整備・管理に関すること
上伊那広域連合	歴史文化資源を活かした地域振興や観光振興に関すること

市内の関連機関	
一般社団法人　長野伊那谷観光局	歴史文化資源を活かした市内の観光案内、観光イベント、体験プログラム等の企画、調整、営業による旅行者の誘致
一般社団法人　伊那市観光協会	歴史文化資源を活かした市内の観光案内、観光イベント、体験プログラム等の企画、調整、営業による旅行者の誘致
伊那商工会議所	市内の商工業の振興、地域づくりに関すること
伊那市商工会	市内の商工業の振興、地域づくりに関すること
大学	
信州大学	地域産業の振興、地域資源の保全･活用、地域医療の振興、教育及び人材育成、自然学習･環境保全、地域文化の振興、安全･安心の地域づくり等の様々な分野で相互に協力
東京藝術大学	文化芸術を担う人材の育成や文化芸術活動を活かしたまちづくり･地域の活性化
関西大学	老松場古墳の調査、研究に関すること
関係団体	
南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会	ジオパーク資源の保全、活用に関すること
市内の歴史文化資源の保存・活用・管理に関わる各団体　（117～119ページ、表）	

３　歴史文化資源の防犯・防災に関する方針

歴史文化資源の所有者または管理者が、伊那市と十分な意思疎通を図り、警察や消防などの指導・助言を得て、防犯・防災に努めることを基本とします。

伊那市や所有者は、文化庁から示されている「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」（令和２年（2020 年）12 月改訂）、「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」（令和元年（2019 年）９月）と「世界遺産・国宝等における防火対策５箇年計画」（令和元年（2019 年）12 月）に基づき、指定等文化財や収蔵施設の点検を行い、必要な措置を講じます。

所有者は日常的な点検のほか、必要に応じて地域の支援を得ながら防災訓練を実施し、伊那市や長野県においても定期的に文化財パトロールなどの機会を設けて、見守りを行います。

災害発生時には、「伊那市地域防災計画」に基づき迅速（じんそく）な被害状況報告を行い、長野県や文化庁に指示を仰ぐとともに、必要に応じて独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターなどの専門機関や長野県文化財レスキューネットの協力や支援を受けながら、応急措置、復旧などに取り組みます。

また、災害発生後の迅速な対応に備え「長野県文化財レスキューガイドライン」に沿って、長野県によるレスキュー資材の備蓄に協力するほか、歴史文化資源の損失を回避するために、把握（はあく）を進めます。

伊那市文化財保存活用地域計画

令和６年(2024 年) 7 月 19 日認定

編集・発行　　伊那市教育委員会

〒396-8617　長野県伊那市下新田 3050 番地
電　話：0265-78-4111(代)
e-mail：sgs@inacity.jp